

婦人関係一般資料 No.55

第11回 全国婦人会議

社会的良心と婦人の役わりについて

労働省婦人少年局

目次

はしがき	2
全国婦人会議の組織	3
全国婦人会議次第	4
記念講演 東京大学名誉教授 我妻栄	5
部会	
第一部会	11
第二部会	69
第三部会	162
第四部会	205

は し が き

労働省では、昭和三十八年四月十日から一週間「婦人が、社会的良心を生かし育てて、明るい社会生活を築くより努力する」を目標として、第十五回婦人週間を全国的に展開しましたが、この週間の中央行事として、第十一回全国婦人会議を四月十日から四日間、東京において、日本放送協会と共催いたしました。

会議には、全国からの応募者二、六一〇名の中から、中央選考委員会の書類選考によつて選ばれた六〇名の婦人と旧会議員四名が参加しました。会議は四部会にわかれ、「社会的良心と婦人の役わりについて」をテーマとして、リーダーの助言のもとに第一日第二日の二日間話し合いが行なわれました。第三日は都内において移動会議を実施し、各種福祉施設ならびに善意銀行を訪門し、見学した後、懇談しました。なお、全国に組織をもつ婦人団体や労働組合婦人部等から推せんされた方々や青年の方々に、特別オブザーバーとして各部会に参加していただき、話しあひの傍聴と、意見発表をお願いして会議を援助していただきました。最終日の総会では、会議員および部会リーダーによる部会報告ならびに一般傍聴者との質疑応答が行なわれ、ひきつづいて第十五回婦人週間の特別来賓として来日された、西独保婦大臣シュグアルツハツト女史による講演が行なわれました。

ここに会議の速記を集録いたしますが、婦人問題に関心を持たれる方々のご参考になれば幸いと存じます。なお紙数の都合で割愛した部分があることをお断りいたします。

昭和三十八年十二月

労働省婦人少年局

全国婦人会議の組織

名称 全国婦人会議

主 催 社会的良心と婦人の役わりについて

期 日 昭和三十八年四月十日～十三日

場 所 東京（産経会館・発明会館・NHKホール）

会 議 員 六十四名（全国からの応募者の中から中央選考委員会
が決定）

会議の構成 総会、部会、移動会議により構成

部 会

- 第一部会 都市・農村・職場などに分けず、すべて混成の部会とした。
- 第二部会
- 第三部会
- 第四部会

近代化にともない、ますます複雑化してきている今日の日本社会において、人間の尊重を基調とする市民的連帯感に支えられた、明るい社会生活が営まれるよう、婦人が、それぞれの立場で、社会的良心を生かし育てていくために、どうあるべきかを討議。

移動会議

- 第一班 養老施設を訪問
- 第二班 児童養護施設を訪問
- 第三班 宿舍提供施設を訪問
- 第四班 善意銀行を訪問

中央選考委員

東京大学名誉教授

評論家

東京農工大学教授

学習院大学教授

弁護士

日本放送協会教育局長

日本放送協会ラジオ教養部長

労働省婦人少年局長

労働大臣官房長

部会リーダー

第一部会

第二部会

第三部会

第四部会

特別オブザーバー

全国組織の婦人・青年団体役員

全国組織労働組合役員

事務局

労働省婦人少年局婦人課

日本放送協会教育局

我妻 栄	伊藤 昇	大谷 三	小松 夫	渡辺 子	伊藤 藤	大谷 省	小松 茂	渡辺 道	長浜 夫	青木 治	谷野 幸	松永 正	伊藤 男	大谷 三	小松 夫	渡辺 子
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

十名
二名

全国婦人会議 次第

四月十日(水)

開会式 一〇・三〇〜二・三〇

合唱「世界の花」

開会のことば

労働省婦人少年局長

労働大臣

日本放送協会会長

来賓祝辞

ドイツ連邦共和国 連邦保健大臣

ドクター・エリザベト・シュヴァルツハウプト女史

会議員・部会リーダー紹介

記念講演

東京大学名誉教授

我妻 栄

外国からのメッセージ

部会 一三・三〇〜一七・〇〇

四月十一日(木)

部会 一〇・〇〇〜一七・〇〇

四月十二日(金)

移動会議(見学と懇談) 東京都内

第一班 愛隣会 白寿荘(養老施設)

第二班 立派寺治生学園(児童養護施設)

第三班 第二淀橋寮(宿舍提供施設)

第四班 善意銀行

四月十三日(土)

総会 一〇・三〇〜二・三〇

合唱「世界の花」

第一部

あいさつ

日本放送協会教育局長 長 浜 道 夫

経過報告 労働省婦人少年局長 藤 展 子

全体の話し合い 部会リーダー・会議員・傍聴者

司 会 松 田 ふみ子

第二部

特別講演 ドイツ連邦共和国 連邦保健大臣

ドクター・E・シュヴァルツハウプト女史

演題「変動する社会における婦人の役わり」

アトラクション

歌

芦 野 宏

演奏

吉村英世クインテット

閉会のことば

労働省婦人少年局長

谷 野 せ っ

記念講演

「社会的良心とわが家精神」

東京大学名誉教授

全国婦人会議選考委員会委員長

我 妻

栄

みなさん、こしもまた桜の花の季節がやってきました。大勢の人達が公園や樹光地に押しかけておられます。この花見の時期になりますと、私はいつでも感じるのですが、われわれ日本人は、お花見にどうしてこういうばか騒ぎをするのだろうか。大勢集まって酒を飲んで、物を食べて踊りを踊って、そして溪の木の下の紙くずでいっぱい。必ず一人か二人、枝を折って自慢げに持つて歩く者があります。で、われわれ日本人は、花を愛する国民だといつて、うぬぼれております。しかしながら、長堤の緑側にも可憐な草花の鉢が並べてある。便所の中にも切り花をさしている。世界に比類のない、花を愛する国民だと自慢しております。それなのに、そのお花をながめるのに、どうして花の下を、木の下をきたなくしたり、あるいは枝を折つたりするのであります。あるいは枝を折つたりするのであります。

私は、これをどういうふうに解釈しているのでしょうか。それは、われわれ日本人は、大勢いつしに桜の花をながめたのではながめた気がしない。一本の枝でもいいから折って、自分の家に持つて帰って、わが家の花としてながめたいと、どうもながめた気がしない。ですから、桜の花を持つて帰るといふことは、花を愛すればこそその行動だと思ふのであります。そうだとしますと、この愛し方、愛する方法が問題だといふことになりませんが、花にとつても、よその人にとつても、迷惑至極なことだといふことに気がつかないで、もつぱらわが家本位に考えている。その愛し方が、まさに問題とされなければならないと思います。

なるほど、考えてみますと、われわれは、少なくとも私どもの年配の者は、常にかわが家本位に育てられてまいりました。家風がありやうにということ、第一に教えられたことであります。家業を

じめ、家産をおこせ、立派な行ないをいたしますと、家の名譽だといつて喜ばれまして、不都合なことをいたしますと、わが家の恥だといつて叱られます。かようにして育てられた者が、知らず知らずのうちに、社会を忘れて、わが家本位の行ないをするようになるというのには、ある程度まで自然の勢いだといわなければなりません。

ところが、世の中が進んでまいりますと、われわれの生活態度が変わりますので、こうしたわが家本位の教育は、事実、不可能になります。早い話が、団地の生活を見てみましよう。あそこの子ども達は、隣り近所の者、みんないっしょになつて学校に行きます。そのうして、いっしょになつて帰つてきます。いっしょになつて遊んであります。隣り近所の子どもたちや、その親たちといっしょに長い時間のはうが、自分の父親や母親といっしょに長い時間よりも長いかもしれません。そうした生活の中にあつて、自分の子どもだけを特別にしつてよいとしたとしても、事実、不可能であります。いわゆる、あの子もこの子も自分の子といつた態度でなければ、自分の子どもさえ教育することができなくなつております。しかも、これは団地だけではないと思います。農村にまいりましても、程度の差はありましても、多かれ少なかれ、われわれの社会生活はひじょうに緊密なものになつておりまして、わが家だけが特別そのことをやるうと思つても、不可能になつております。ことに、わが家の大事を主婦が、段々に職場をもつて、家をよそにしなければならぬといふような事情にありますときは、この要請は、ますます強くなります。そういったしますと、子どもをどのようにしつけるかといふ、子どもの教育のやり方、教育の内容も、また、おのずから変わつてこなければなりません。

うことは、みなさんの行動の中に、すでにその一歩を踏み出してゐるのであります。

次に、みなさんの作文の中で大きな比重を占めたものは、共同作業としての清掃、台所のゴミをきれいにするものであります。ゴミ箱を備えよう、ゴミ捨て場を作ろう、あき地や川にゴミを捨てる不心得者を警告しよう。今日の生活では、もはや、わが家だけをきれいにしようといふことは不可能でありますので、みなさんの行動は、おのずから社会的共同作業になつてゐる、がんらい清掃事業といふものは、市町村の行政でなければなりません。それを怠つてゐるのは、わが国の市町村行政は、文明国の中で恥づかしいものであります。

しかし、このことが、たまたま社会的の協同といふことをみなさんに感じさせる動機になつたとすれば、この行政の怠慢は、ケガの功名であつたといつて、ほめるべきかもしれません。しかも、みなさんのこうした協同作業は、あたかもわが家だけを清潔にしてもだめだ、往來をきれいしなければならぬ。川を清潔にしなければならぬ。公園をきれいしなければならぬといふ精神を養ふことになりました。そして、小さいときからこうした精神に育てられた子どもが、やがて大きくなりましたときに、花見にまいりましても、公園の桜の木の下を紙くずでいつぱいにしなくなると思ひます。私はその日を待とうと思つてゐるのであります。

さて、かように見てまいりますと、昨今の新聞に大きく取上げられてゐるお花見の際の公德心の養成といふことは、わが家精神の発展の解消として、すでにみなさんの行動の中に現れてゐるのであります。誠にたのもしく感じます。

従来の教育方針であつたわが家の家風というものは、どこに家にも通用するよきな、普遍性のあるものになければなりません。私は、これをわが家精神の発展の解消と呼んでゐるのであります。わが家精神の発展の解消、なにに向つての発展でありましようか。なにの中への解消でありましようか。社会精神に向つての発展でありましようか。社会的良心の中への解消でありましようか。この子どもを育てることについていいますと、わが家の家だけで離しんで、わが家を一歩外に出ると、あらゆる教養を忘れ、酒を飲み、規律を乱し、他人の迷惑になることを少しも気にかけないよきな教育をしないといふこととあります。

もつと端的に申しますと、桜の花をながめるとき、枝を折らなくとも、みんなといっしょに楽しめるよきな大人を育てるということとあります。

このたびの婦人会議参加希望者のたぐさんの作文を拝見しますと、その中で、母親が手を携えて協力して子どもを教育のために尽す能児所、保育所、あるいは学校外の集団、教育などといふことについて、いろいろ苦勞しておいでになるという報告が、圧倒的に多数であります。誠に遺憾深いことといわねばなりません。しかも、考えて見ますと、これは当然のことだと思われまう。なぜかと申しますと、親どりの、母親の子どもを思ひ心、わが子を立派な者に育てなければならぬといふ気持ちには、本能的なものであります。この母親の本能が、社会生活の変化に當面いたしましたときに、教育のやり方を要えねばならぬといふことに気がつくことは、誠に自然な成り行きであるからであります。

それはともかくといひましても、わが家精神の発展の解消とい

しかし、みなさん、わが家精神の発展の解消と申しましても、それが、次第にその実行の範囲を広げてまいりますと、いろいろの問題にぶつかることが予想されます。その前途は、決して手ばなしの楽観を許すものではありません。と申しますのは、みなさんの現在実行しておられることは、その目的はもとよりのこと、そのやり方についても、なに人も異論のない程度のこととあります。社会的良心を生かし、育て、明るい社会生活を築くように努力するといふこと、卒直にいつて、最小限度のこととあります。しかも、最小限度実行に移されてゐることが、うまく成功をおさめましたときに、さらにこれを拡張していこうといふ機運が、みなさんの中に、おのずからわきあふてくると思ひます。いや、わきあふていたかかなければなりません。社会的良心実現のための婦人の役割りといふのは、それほど高く、大きいものであります。ところがそうなりますと、話がなかなかむずかしくなります。子どもを正しく教育する、あるいは生活環境を清潔にするという、もつともわれわれの身近な問題についてさえ、話がむずかしくなるだらうと思われまう。たとへば、新しい時代に適合した民主的な精神をもつた子どもを育てあげようという機運が、みなさんのグループの中におきていたといひますと、なにが民主的精神なのか、どうすれば実現するのか、意見は容易に一致するとは考えられまへせん。また、清掃という問題にしましても、それを清潔にするには塵芥焼却場が必要だとか、あるいは川の改修が必要だといふことになつたといひましよう。どこに向つて討論すべきなのか、町や村の政治行政に關連してまいります。困難な問題になるだらうと思われまう。

また、みなさんの作文の中に、電車に乗るときに、割り込みをす

る者、あるいは汽車の中で乱暴をする者、そうした社会の小さな暴力をなくさなければならぬということを主張したものが、すいぶんたくさんありました。しかしこのことも、小さな悪事を見のがさないで、これをたしなめるだけの勇気をもつて、いわば、警察的な申し合わせをしている範囲ならば、文句はないだろうと思います。

しかし、婦人が協力して、これを実行に移すということになつたら、いろいろの障害、困難がおきてくるだろうということも、決して想像にかたくないのであります。要するに、みなさんが今日実行して、立派に成績をあげておられるでしより、その目的を拡張するに従つて、その方法がますますむずかしくなり、参加者の中に意見の相違を生ずることは、とうてい避けられないだろうと思われまふ。不心得者がいるからではありません。すべての人が善悪をもつて考え、信念をもつて主張することに食い違いを生ずるのであります。これは、見方によつては、個人的良心と、社会的良心の衝突であります。そうして、そのときみなさんは、あらためて社会的良心とはなんぞやという問題に直面されることだろうと思われまふ。そうして、参加者の大多数が承認するようない目的と手段が見い出されないかぎり、脱落者を生ずるであらうでしょう。協同作業は挫折するであらうでしょう。そうなると、前進しないだけではありません。なに人も、異議なく行なわれた最初の第一歩さえ、そのコースがだめになる運命に陥ることさえ、決して少なくないだろうと考えられます。それなら、大多数の人の承認する、いや、承認しなければならぬ社会的良心とはなにか。どうしたらそれを発見することができようでありましょうか。おそらく、なに人も答えることができないだろうと思ひます。なぜなら、具体的内容は、その地方によつて異なる

らないということでありまふ。

もう一つは、各自それぞれの私生活を尊重する心がけが大切だということでありまふ。

まず第一の独善に陥つてはならないということでありまふが、協同意識というものは、誰れか指導者がいなければ盛り上がりがないものであります。協同事業というものは、誰れかが指導者の役割をつとめなければうまくいかないものであります。ところが、そういうことをやる指導者は、ともすると自分の考えがいちばん正しく、それに反対する者は、社会的良心のない者だと思ひ込みやすいものであります。指導者は、熱心になれば熱心になるほど、実行力を持てば持つほどその傾向があるものであります。われわれの家庭生活をひき合ひに出しましょう。

われわれの家庭生活は、従来のところでは指導者によつて導かれる生活でありました。夫婦の間でも夫唱婦隨と申しまして、一家の中に御先祖様の霊を体現する、御先祖様の霊の象徴ともいふべき家長が家風をしめして、その家長の命ずるところにすべてのものが易々諾々として従つて、そしてこれが最上の道徳と考えられておりました。こうした環境の中に育つたわけでありまふでしょう。

今日、社会的協同作業をするときにも、家長的な存在がないと、一致団結の成立することは、まことにむずかしいと私は考えられるのであります。もつと言葉を強めて申しますと、今日わが国の婦人の間で行なわれている地域的な協同作業、社会的良心の実行の多くの場合は、こうした家長的な指導者の努力によつて行なわれているのではないかと、私は考えられるのであります。そして、そのこと自体は決して悪いことではありません。いや、こうした家長

べきものと思ひます。その地方では、政治行政、経済などの社会的事情はもとよりのこと、そこに住む人びとの思想、知識、教養の程度、そして、おそらく自然的な現象にさえ影響されて、甲の村で適切であつたことも、そのまゝ乙の村で適切であるとはいひきれないものがあるからであります。社会的良心といへば、古今東西を通じて、誤りない、万古不易の真理のように解されています。抽象的な理念としては、おそらくそうでありまふでしょう。しかし、具体的な内容と、実現の方法に至つては、千差万別であります。おそらく、正しいか正しくないかと、何う判断はできない。せいぜい、その地方で適切か適切でないかを判定することができのうがせいぜいだと思ひます。考えるのであります。そうだとしますと、これは、その地区の人びとが研究し、お互いに隔意なく討論して定めるよりほかはないということになります。むろんそのためには、その人びとが勉強しなければなりません。他人の経験を聞くことも必要であります。幸いみなさんは各地の代表者として、これから四日間お互いに経験をもち合つて、尊い機会をもたれるわけでありまふが、どうぞ、できるだけ豊富な知識を修められて、それをもち帰つて、地区の人びとを啓蒙するともにそれらの人との間の、活発な討論によつて、その地域によつて、なにが社会的良心であるかということの具体的なものを発見することにとめていただきたいと思ひます。

さてそこで、これから四日間、みなさんが尊い経験をおもちよりになつて、話し合ひ、批判しあひ、そして討論なさるわけでありまふが、私はそれについて、二つのことを御参考供したいて思ひます。

その第一は、指導的地位にあるものは、決して独善に陥つてはな

ないと思ひます。その地方では、政治行政、経済などの社会的事情はもとよりのこと、そこに住む人びとの思想、知識、教養の程度、そして、おそらく自然的な現象にさえ影響されて、甲の村で適切であつたことも、そのまゝ乙の村で適切であるとはいひきれないものがあるからであります。社会的良心といへば、古今東西を通じて、誤りない、万古不易の真理のように解されています。抽象的な理念としては、おそらくそうでありまふでしょう。しかし、具体的な内容と、実現の方法に至つては、千差万別であります。おそらく、その地方で適切か適切でないかを判定することができのうがせいぜいだと思ひます。考えるのであります。そうだとしますと、これは、その地区の人びとが研究し、お互いに隔意なく討論して定めるよりほかはないということになります。むろんそのためには、その人びとが勉強しなければなりません。他人の経験を聞くことも必要であります。幸いみなさんは各地の代表者として、これから四日間お互いに経験をもち合つて、尊い機会をもたれるわけでありまふが、どうぞ、できるだけ豊富な知識を修められて、それをもち帰つて、地区の人びとを啓蒙するともにそれらの人との間の、活発な討論によつて、その地域によつて、なにが社会的良心であるかということの具体的なものを発見することにとめていただきたいと思ひます。

しかし、このことは実際問題としてなかなかむずかしいことでありまふ。親の立場として、いかにむずかしいかは、みなさんも経験しておられることだろうと思ひます。社会的な団体的行動については、それがなかなか認識されないであります。しかし、指導者がこれをはつきり認識して寛容の態度に切りかえることを心がけな

ければ、指導者の独善を通じて、協同的な行動は必ずそこで行きつまるだろうと思われまゝ。

今日お集りの方々は、各地の指導的地位にあるお方と存じますので、卒直に警告をいたしたいと思つてあります。

次に、第二の団体行動にあつては、各自それぞれの私生活を尊重することが大切だといつたことについて申し上げます。

われわれの家庭生活は、その中の人びとがそれぞれ別々な気持ち、思想、感情、信念というようなものをもつことを許さない傾向があります。はやり言葉で申しますと、プライバシーです。しかし、プライバシーというのは、秘密という消極的なものではなく、個人の心の中にある思想、感情、精神という、いわば超個人的なものであります。ところが、わが國の家庭生活では、いやしくも親子である以上、いやしくも夫婦である以上、その思想も感情も信念も、すべて同じでなければならぬと考へやすいのであります。心の底からの同質者でなければ緊密な結合が生まれないと考へられやすいのであります。そうして、多少でも異質の分子を含め者があつたら、赤の他人、無縁の人としてこれを排斥するという傾向があります。しかし、親子といへどもその個性は決して同じではありません。各自のもつ個性、最後のプライバシーをお互いに尊重し合つた上で、しかも緊密な結合を作るといふことは、われわれには誠に不得手でありまゝ。そのもつとも顯著な例は、嫁と姑の關係であります。あらためて申し上げるまでもあります。社会的な団体的行動について同じことがいえます。一から十まで同じ考へで、同じに行動をしないものは、仲間ではないと思ひやすいのであります。その結果、ともすると各自のもつプライバシーに無遠慮に侵入いたします。少

第一部会

会議員

岩手	後藤	フミ	(無職)
宮城	大村	トモ	(無職)
秋田	田口	ヨシユ	(無職)
栃木	永浜	治子	(学習塾教師)
東京	淵脇	免子	(無職)
山梨	芦沢	公子	(大学生)
静岡	萩野	初子	(離乳養育手伝)
滋賀	猪飼	愛子	(無職)
奈良	森田	尚子	(無職第四回出席者)
鳥取	島村	美沙子	(無職)
山口	河村	チヨノ	(無職)
徳島	庄野	いと	(無職)
長崎	福岡	チヲ	(無職)
宮崎	木原	朝子	(無職)
鹿児島	藤井	リク子	(無職)

リーダー 伊藤 昇 (評論家)

特別オブザーバー

岩崎 美智子 (日本婦人有権者同盟)
大矢 恒子 (日本子どもを守る会)
大野 はる (日本労働組合総評議会婦人対策部)

しても異質の分子をもつものは仲間はずれにします。そうして悲劇を生じ、仲間はずれになります。社会的な協力作業というものは各自のプライバシーをおかすものではなく、互いに尊重し合つて、その上での団体的結合でなければならぬといふことが、十分意識されていまいと思われまゝ。 独自性を尊重した上での

全体としての結合というむずかしい問題にぶつかるとあります。もつとも、この問題も、全体のために規制されなければならぬこの属性は、どこまで、全体のためにもおかしことのできない個の本体はどこまでか、個と全体の境界線をどこに引くべきか、個の良心とは何ぞやといふことは、非常にむずかしい問題だと先ほどの申しましたが、個と全の境界線をひくといふことも、まさにそのうち合せとなつてゐるむずかしい問題なのであります。

しかし、議論はともかくとして、皆さんが当面されようとしてゐる具体的問題について、その方法を定めることは、それ程困難ではないかもしれせん。ただ、その時大事な事は、協同作業をするという事も緊密な結合を作るといふ事も、それは各自のプライバシーを尊重した上でされる事であつて、また、やらなければならぬ事を、そうでなければ、決して緊密な結合はできないといふ事を、しつかり意識してゐるという事だろふと思ひます。

最後に一言申し上げます。皆様は全國からの選ばれた方でありまゝ。皆さんの後には、一人一人の後継、それぞれの地域の教知れな多い多くの婦人達が待ちかまえております。現に、このラジオやテレビを見たりしながら、皆さんに期待のまなこをかかかしてゐる事だろふと思ひます。どうぞ四日間の討論を十分意識あるものとして多くの人の期待にそむかない様に、たくさんのお土産をみなさんの心の中に獲得されるように希望いたします。

第一日目 四月十日 十三・三〇一十七・〇〇

伊藤(リーダー) 人間の善意とか、良心とかいふことになる、当然のことですけれど、非常に私的なこと、自分中心といふ問題に深く入りがちだと思ひます。そこでその問題をいつても社会といふものと結びつけて、その社会が非常なスピードで変りつづつある。その中で自分のもつてゐる問題をどういふふうに関係させて考へてゆくか、その背景をひとつ是非根源のところから掘りあてて頂きたい。きょうは、主として子どもをめぐる家庭と学校と、そして社会と、そういった関連をお持ちになつてゐるかたから活潑に實際自分がやつて來られたことを出して頂いてそれに対して、それぞれのお話し合いを願ひたいと思ひます。

木原 現在の子どもの達が、私達が子供であつた時代と違ふと感ずる点の第一は、あいまいなことでは納得しないといふことがあげられるのじやないかと思ひます。例えば、「むかしむかし」とかいふ話も納得しないし、たとえをとるのにも数字をあげて説明するとかいふふうにしないかと思ひます。また人間関係におきまして、お父さんはえらい、先生はえらいと、漠然とそういうことを語から教えるよりも、先生は何年間勉強をすつて、いろいろ研究し、御苦労なすつた結果、こつこつとをなすつたといふふうに、その人間価値をわかりやすく納得させてこそ初めて尊敬の念を抱くと思ひます。ですから子どもの観点に立つて私達も子どもと共に研究するといふふうな心構えで接していただくと思ひます。

藤井 私はいふまでもなく育ちあがり、PTAとは遠ざかつてゐるの

ですけれど、近頃の幼児教育ということに大変な疑問をもつてお
ります。例えば大勢の人の中で車に乗ったりするとき、子ども
が大変あばれたり、公園でも、草花をとつたりいたします。その
時お母さんがたは、子どもだからと許しているような場面にしよ
つちゅうあるので、私こんど鹿児島から参ります時も、寝台車で
みんな寝ておられますのに、その子どもは騒いだために、どうし
ても寝られず、眠つたり、さわいだり、泣いたりするのですけれ
ど、お母さんはそれを叱りません。やはりお母さんがたが、良心
的な子どもを育てるためには、小さい時からの教育が人間形成と
いうことのできなくてはならないかと思ひます。私は農村地区にお
りますが、その主婦達は本当にそういうことには関心をもつて
おられますので私が果せる役割は本当にわずかであります。が幼
児心理を研究したりして、何げない話合ひの場の中で、
三才頃の子どもは、こういうことが本当に大きくなる芽生えとな
るのだということを話しつつその中にまた自分の良心というもの
を活かしております。

福岡 子どもが花をむしつたり、小さい動物をいじめたりするのを
黙つて見ているお母さんとか、笑つて見ているお母さんが案外多いの
じやないかと思ひますけれど、このようなことは大人になつても
人を愛することのできる人間にならないことじやないかと思ひま
すから、気をつけなければいけないと思ひます。

河村 ある駅でお母さんが子どもを連れて旅に出る様子でしたが、
そのとき子どもがみかんをむいて、その皮をホケットのの中に入れ
たのです。そうするとお母さんが「まあ汚いじやないの、洋服が
よごれますよ、捨ててしまいなさい。」という調子で、折角子ど

もがポケットの中に入れたものを、またブラットホームに投げ出
させられたんです。その場合のお母さんの処置というものは、
これは考えさせられる問題ではないかと思ひます。学校では社会
科の時間、道徳教育というものを取り上げ小さい時から社会に迷
惑をかけないようにならなければいかんということを充分に
教えておられますけれど、それが一歩社会に出ると、母親自身の手
で砕かれてゆく。その時お母さんがチリ紙に包んでポケットの中
に入れるとか、ごみ箱に捨てさせるということをしたら、学校の
教育と家庭の教育と両方が一致して、その子どもは本当にすくす
くと両方から育つてゆくのではないかと思ひました。お母さんも
学校の教育方針をよく学ばれることが大事じやないかと思ひます。
親のいうことと学校のいうこととチグハグになりますと、たとえ
ていうと、一方には下駄をはいて、一方には靴をはいて学校にゆ
くというような状態になつて、間に立つた子どもが非常に可愛想
じやないかと思ひます。

大村 私もやはり家庭の子供のしつけというの、親の生活が基調
になるといふことをいつも考へております。しつけしつけ……と
いつて、この頃のお母さんがたがどちらかという、しつけ過剰
になつていふことを感ずるのです。それでむしろ、あまり
神経質にならないほうがいいのではないか考へます。

淵脇 私も四才になる女の子を持つております。しつけの面では
たしかに親の生活態度が基調になるといふことを感じております
が、そのほかにいまのお話の中にあつた神経質になつてはしない
かといふことですが、その神経質の焦点を合せる場所がどこにい
つていふかといふことの反省がなされるべきだと思ひます。

もう一考考へてみる必要があるのではないかと思ひます。また花
や動物を愛すること人間愛に通ずるということですが、それ
れを学校教育と結びつけた場合、科学する心というものと相反す
るようなことが、低学年の場合おこつてくるわけですね。そういう
時に親として、どういふふうな態度をとるべきかといふことに
ついて、私自身悩みをもつたことがあります。またみかんの皮が剥
けたりしましたが、そういうふうなみかんの皮をポケットに入れて
帰ることが道徳的なんだというふうな考えの前にはそれを捨てる場
所を作らなければいかんのではないか。たとえは汽車の中でも、
ごみの中に入るのは非常にいやなこと、チリかごが用意されて
いたら、そういういやな思いをしなくて済むし、子ども達もそう
いふ神経を使わないで済むわけで、そういうふうな考えかたをもた
なければいかんのではないか考へます。

河村 それはしつけの内容によりますね。いいことと、わるいこと
をはつきり子どもに教えることがしつけの根本的なものではない
かと思ひます。ドイツの主人のしたことですが、駅でいすがた
さん並んでいる時に、小さな子どもがおもしろがつて、とびのつ
たり、おもしろしたら、お母さんがやかましく「他人の迷惑にな
るからやめなさい」と注意したのですが、やはり子どもはやめま
せんでした。もう一度言つてもやめない時に、たまりかねたお母
さんは、おしりをひっぱたいたそう。そういう点で、いまのお
母さんがたに、人間形成といふことをひとつ申上げたいと思ひま
す。

萩野 しつけがきびしいかどうかと思ひますから、そのきびしさと
寛容の時合といふことが必要じやないか。とごととしつけといふ

ことを同一に考えてしまってお母さんが多いのじゃないでしょうか
伊藤(リーダー) 島村さんの話は、学校で動物を解剖したりする
という問題でしょう。

島村 たとえば昆虫採集などで、近所の子どもがたくさんとつてい
るのに、私の子どもは小さい時からかわいそうだからとらないとい
いうしつけがあつたものですから全然とらないわけです。夏
休みの宿題でも、私、どちらが大切か、私はむしろ動物を愛護す
るということをとりたいから、低学年の場合は、そういうふう
にさせて下さいと先生にお願いしたのですが、何かうちの子はどう
も理科への関心の度合がうすいようです。お花の場合は家で花壇
を作つて育てさせるようにしむけているので、観察する態度が養
われてゆくようですけれど、動物というのは、とつてみなければ
わからないという点があるので、考えさせられるのですけれど。
木原 花をむしつたり、昆虫をとること自体が本当にいけないかど
りか、それを分けるのは、たゞいたずらにとると、本当に研
究しなければならんからとるとあると思うのです。花も昆虫も
同じことがいえると思うのです。勿論、植物や生きものをいじめ
るという点からいえば、どちらにしろいけないでしょうけれど、
それを今後よいほうに役立てる、研究の資料にするのでしたら、
とつた花を本当に済まないと思ひながら、大いに研究に役立たせ
たら、全面的にいけないと思ひます。

後藤 たゞ昆虫なんかとつてはいけないというふうに、島村さんは
教えていらつしやるのですか？
島村 そうじゃないのです。たとえば害虫なんかとつてもかまわな
い、むしろとらなければいけないということなんです。でも益
という気持ちでお母さんはしよとするし、お父さんは、まあい
じやないかという気持ちでいるという問題がありました。PTAで
そのことはぜひぶん話合いに出しました。

猪飼 子どもが小学校のときは、とにかく私にまかせられていた形
でしたが、子どもが大きくなつてきまして、やはり父親は父親な
りに、母親のように口やかましく言ひすぎることはないが子ども
を把握しています。たとえば母親は子どもの顔を見たら、勉強せ
い勉強せいといふようになります。ところが子どもの側としては、
そういうことを口やかましく言われるのは迷惑でして、やはり父
親のように黙つていても子どもを把握しているという態度が子ど
もが大きくなつてゆくにつれて大事じやないかと思ひます。

田口 私のところも中学生の子どもが二人おり、いろいろむずかし
くなつてきましたけれど、やはり家庭の教育の問題では、ほとん
ど私にまかせております。大きいことは一応お父さんに相談しま
す。

庄野 子どもの教育について意見が違ふということ、私の経験で
は、子どもが小さい時によくありました。私がこうさせようと思
つても、まあそれはいいではないかとお父さんのほうが甘いです。
高校から大学になりますと、親が別々の考えをもつていたので、
子どもが困りますので、親のほうは努めて子どもの動きに応じて
親と一緒に進んできたような形です。

萩野 そういふ点から家庭の話し合いの場所、家族会議風に入つてい
つたらいいのじゃないか。それが社会への連帯性をもつものじゃ
ないでしょうか。あまり大人の世界の感情を子どもにもつてゆき
すぎると、尊重心のない、信頼性をもたない子どもにするものと

虫と害虫の区別は小さい子どもにはわかりませんね。

後藤 農村の場合、たまごを生まなくなつたにわたりなんかを処分
するのを小さい時からみているわけです。そういうことを教育的
なしつけの中に、どういふふうの子どものみに教えてやるべきか。

芦沢 たゞ単にものに対する愛情というもので解決できないの
じゃないかと思うのです。昆虫を直接手にとつて調べなければ、
科学する興味というものが失われると思ひます。つまり、目的、
動機がよいとか、わるいとかいうことで、行為の善悪というもの
を判断すべきじゃないかと思ひます。

伊藤(リーダー) さつき学校教育と家庭教育がく違ふというの
が出ました。と、その問題に移る前に、皆さんの家庭で、お
父さんとお母さんの考えかたが食進うということはあるのですか、
ないのですか。子どものしつけについて。

島村 私の家の場合は、主人が非常に無口なものですから子どもの
問題は私にまかせているような形になつております。たゞ大きい
問題についてはこう考えるのだけれど……と断はしていますが、
ということとは不規則な生活をしているので、子どもと接する時間
が非常に少ないものですから……。

萩野 主にお母さんのほうが、社会の抵抗に負けやすいのじゃない
かと思ひます。その子どもというものをみてやらないで、たゞ虚
榮心とか、見栄のために子どもをそのほうへ向けようとするのが
お母さんの意思だと思ひます。その点お父さんというのは、大ら
かに子どもを見つめるという食い違いがある場面があります。
たとえば、その子どもが高校にふさわしくないの、ある職業に
つきたいと思つていても、あの家では高校にやるから、うちでも

なるのじゃないかと思ひますが……。

藤井 私は男の子が二人おります。もう古い昔のことになります
けれど、夫婦でけんかする時は必ず子どものことで、父親は「そ
んなに言わなくても大きくなればわかるよ」といふました。た
えば布団をしまわせない、自分のことは自分でせよといふ思つて
も、大きくなればわかるといふていっているうちに、だんだん子どもは
不精になりまして、庭を掃く時は片手で、片手はふところ手にし
ていたり。そのうち子どもが大学にゆくようになつたら、かみが
ぼさぼさしているとか、やせたとか、ふとつたとか、母親はそん
なことはかりいふようになりまして、自分の愚子がどういふふう
に育つているか、どういふものを読んでいるかという精神面には
どうもあまいような気がします。そういう時にはやはり父親が精
神的な相談相手になつていたようです。

猪飼 子どもがテレビを見る場合に、母親としては見てほしくない
ようなものを喜んで見るんです。私はそういうものをやめさせた
いのですが、主人は見たいなら見せてやれ、やかましくいうな。
見るだけ見たら、子どもは選択して、自分でいふ番組を見るよう
になるからと申します。そういう点では、どうも主人のほうが勝
つたらしめて、やはり母親というものはだめだと感じたことが
ありました。

森田 高校三年ですが、私のうちは特殊かも知れませんが、主人と
私の関係は、教育者と文部省のような関係で……(笑)教育の全
責任は全部私にまかせておられます。主人はいつさいとやか
く言わないで、教育しやすいように、沢山お金をもりつけてくれる
とか、勉強部屋を作つてやるというよりなことをしてくるだけ

で、非常にありがたいと思っております。

伊藤（リーダー） 疑問はありませんか。

永浜 奥さんがしつかりしていらつしやるから。私のところは小学二年と三年の女の子がいます。教育者なんですけれど、子どもを育てる場合に、主人と三つの柱を話合いました。第一には人に愛される子どもでありたい、第二には責任感のある子どもにしたい、第三には人と協調性のある子どもにしたいと。モットーだけは立派にたてたのですけれど、なかなかそれがうまくゆかないのです。というのは、私はなんでもスタートが大切だから学校にあがつたら学習面で一生懸命しこまなければならぬという考え、主人は教員でありながら、小学校のうちは大丈夫だ、学校にいつて協同生活になれることで、中学にいつてからバリバリしこめばいいということで、そこにギャップが生じます。

伊藤（リーダー） 成績をもつて来た時に、お母さんは一番初めに何つて聞きますか。

永浜 五とか、四とかには関係なく、なるたけはめるようにしています。主人もその調子で成績のことはあまりとやかく言いません。まあよくやつたというくらいで。

伊藤（リーダー） 子どもが「こんど算数百点もらつて来たよ」といつて答案をもつて帰つたら、まず何つて言いますか。

永浜 よかつたわね。

伊藤（リーダー） その次に何と聞きますか。

田口 「何人百点の人があつたの」と聞きます。

伊藤（リーダー） それが一番正直な人だと思えますね。それで「半分以上だつた」といつたら、がっかりしますか。

う点に開連して、幼児教育についてのいろいろなお考えがあるわけですから、そういうことをさつぱらんに出してみたらどうでしょう。東京の淵脇さん、幼稚園に二人で十万円かゝるといふことですが、いまそんなにかゝりますか。

淵脇 私実際に調べました。入園費・月謝・暖房費・衣服費・バスで送り迎えの費用、こういうのを一切含めて一人五万円はかゝります。入園の時は二万円くらいだつたと思います。この時初めて主人と子どものことで意見が食違つたのですが、主人はそれほどまでに幼稚園にやる必要はないと申します。私もその点は賛成なんですけれど、子ども自身が、やはりまわりの子がみんな行くのに、自分だけ行かないというので、淋しい気持ちがしやしないかという事です。主人はそれは今は淋しく思うだろう、でも将来本心に理解できる年頃になればなんともなくなるよと申しましたけれど、私はそういうふうに小さい時に心にひつかうつたやしかつた思ひというものは、いつまでもしこりに残るのじやないか、自分にもそういう思ひがあるので、そこで割切れないで、とうとう一年間ということであつたわけなんです。

伊藤（リーダー） 学校で教えること、家でしつていふことが食違ふという話がありましたね。

河村 学校で教育していることを、お母さんがたもよく知つて、それと同一歩調でやつていたとしたいと思つてはいます。

島村 一年、義務制をさげることには全面的に賛成ですけれど、現在の状態を見ていると、ほとんどのかたが幼稚園にいつていらつしやいますね。それと幼稚園と保育所の関連性について非常に疑問をもつております。やはり幼児教育の一元化ということが必要

田口、がっかりはしません。

大村 「問題が簡単だつたのでしよう。」と。

島村 私は違います。「やはりよくわかつていたんですね。」と言ふことにしています。わるい点をもらつてきた時は「あゝこゝがわからなかつたのね、じやもう一べんやつてごらんさい」といふます。それからさつさの主人と私の関係に戻りますが、根本的に私達の人生観というか、夫婦の人間として生きてゆく考えかたというものが、ある点で一致しているから、そういうふうに安心して、どちらかにまかせて生活できるのじやないかという気もするんです。そこにはやはり精神的に同じ目的というか、子どもはこういうふうな人間になつほしいという根本的な共通点がなければ問題はこつてくるのじやないかという気がするのですけれど。

伊藤（リーダー） それから、おじいさん、おばあさんと同居しておられて、教育のことであまり考えかたが違ふから、こういう点が困るのだという御意見のかたありませんか。

萩野 ちよつとわるい点をとつてきたときに、「この子はばかだから」とすぐいふんです。そういうわなないで「ばかじやなくて、いまだけわるかつたのね、こんどはよくなるね」と言つて、私がそれを止めようとすると「なにばかだね」といふんです。江戸つ子なので、こゝろが強いんです。私は激賞なので、そういうことはちよつとをりかねるのですけれど。本當のことを申しますと、実の子じやなくて、養子縁組したものですから、どうしても気を配つておりますけれど、おばあさんがあまりきついことをいふので。

伊藤（リーダー） さつき出た学校教育と家庭教育の食い違いとい

じやないか。子ども同士の優越感的な考えかたというものが幼児教育の場合、非常に邪魔しているのじやないかと考えます。

伊藤（リーダー） この問題は農村なんかにもありませんか。

後藤 幼稚園に行く子どもはほんの一部分です。保育所に農繁期の託児所という三つに分れておりますが、そんなに子ども同士意識というのはいくどくもないのじやないかしら。

伊藤（リーダー） だいたい前ですけれど、新潟の佐渡に行つた時に、土曜日は幼稚園の運動会、日曜日は保育所の運動会というので、町の人があんなとかして、いまのお話の一元化をしたいという話にぶつかつたことがあります。

大村 宮城県の北部で、幼児学級というのを、学校で週に何回とか、月に何回とかいたしてました。

後藤 幼児学級はしたいけれど、とても学校の先生の負担が重くて困るという事です。来々学校に入る子どものために、一年に何回とかやるわけです。初めは親に連れられて、次は子どもだけというふうな、一人で学校にゆけるまで何回かに分けて教育していいようにです。

島村 それは保育所にゆかない子どもですか。全部の子どもですか。後藤 それは自由じやないかしら、いやなのを無理に来いという義務づけはないと思います。

藤井 私、私の孫が保育所に通つております。保育所には幼児教育とは全然違う幼児心理なんかを研究したりすることもなく、たゞ子どもを預るという制度、そしていろいろな階級の子どもがおりますので、大人が聞いたら恥しいような言葉も平気でいふ。幼稚園の子はそういう言葉はいふませんし、また保育園のほうは共稼ぎの家

が多くて、朝八時から夕方五時まで預つて下さいますけれど、幼稚園は十時から三時頃までで給食がないという点で大変違うようです。

後藤 上のほうから違うでしょう。文部省と厚生省と。

木原 私は現在も保育所に二人の子どもを預けております。保育園と幼稚園との差別というか、そういう点は子どももののほうより親のほうにある場合が多いと思います。世間の人がいうのは、幼稚園の遠足と保育園の遠足は、お母さん達を見たらすぐわかるという陰口をきくわけです。保育所の場合は共稼ぎのお母さんを助けるということも多分に含まれているでしょうけれど、その保育所自身が幼稚園より劣るかも知れないという先入観を捨て、子ども達のためにお母さんの代りにならなければいかんという意識をもつていたというなら、自然にそういう陰口も消えてゆくのではないかと思えます。私のところの保育所の場合は、とても先生達が積極的になさういふことを考えて下さっているのです。そのような悩みは少いようです。

田口 秋田といつても能代は青森県に寄つたほうで、辺りな所ですけれど、保育所の施設や教えかた、いろいろな内容はほとんど幼稚園と変わらないような状態で、こんどうちの子どももそこに入れてもらいたかつたのですけれど、お前のようにぶらぶら遊んでいてるところのお母さんの子どもは預かれんということ、ずっと遠くの不便な幼稚園にやらなければいかんわけです。こういういふ保育所もあるのですけれど、予算が足りなくて数が少ないのです。そこでこういう残念な思いをしているという実情をもちよつと。

後藤 保育所や幼稚園に入れる時の親の目的、それから保育所や幼

稚園を出てきた子どもを受取つた時の学校の先生の気持ちなんていう方向に、この問題を向けてゆかないと、なんのために保育所と幼稚園の話をしているのかわからなくなります。

島村 私はそういう考えかたじゃなくて、子ども自身の幸せということを考えたら、働いているお母さんの子どもも、家庭にいて自由に子どもを見られる家庭の子どもも、権利は平等にあると思います。そして家庭の実情からやむをえず保育所に入れるお母さん、いわゆる幼児教育的なものを望んでいるわけですから、自然に保育所もそういう方向にゆくのではないか。そして、現状は向つていないか。最近私が調べたところによりますと、保育所でも三時までとか、ある一定の時間になりますと、ほとんどの子どもが家庭に帰る。いわゆる幼稚園的な時間になつていまして、五時頃までいる子どもはほとんどいないような実情です。またそれを保育所側もあまり喜ばないのが現状になつていわけです。だから幼稚園と保育所の問題というのは、どういう観点から考えなければいかんかということを、もう一度考える必要があるのではないかと思えます。

伊藤（リーダー） こうやつたら失敗したとか、学校でこういう教えたをされると、子どもに社会的良心といふものはつきつこないのだから、親がこういうふうになりがかりだつたらだめなんじゃないかという角筋から、つまり世の中が変つてゆく。その中で子どもがどういう立場におかれているかという立場からの話し合いをもう少し進めて頂きたい。

森田 私の子どもは現在高校三年ですが、この子が小学校にいつておりました頃の子ども達の生活を見てみると、みんなが力を合せ

てクラスをよくしてゆこう。そして勉強のできる子はできない子を指導してやるし、できない子も劣等感をもちたないで、みんな和気あいあいとしていて、本当に戦後に教育をうけた子ども達はすばらしいなと思つて、実は感心していたんです。こんな子が大きくなつたら、日本の国もどんなによくなるだろうと思つておりましたし、現在もずっとそういう状態が続いていて、社会的良心をもつてないのは年寄りとか、子ども以上の古い教育を受けた人だといふふうに考えていたわけなんです。最近子ども達の幸せを守る会をいたしまして、小学校生徒をもつていてる若いお母さんとかよく接する機会を得ました。その時にいろいろお話を聞いて驚いたのですけれど、私が社会的良心といふ今年のテーマを出しますと、「いまの小学校の教育はまったくそんなものと縁の遠いものだ」といふことを、いろいろのお母さんから聞いたのです。たいていいますと、先生が答案を採点してお配りになる時に、「あなたが一番になりました、あなたは二番に落ちました。がんばりなさい。あなたは三番です。」と順位を発表なさる。「油断するとすぐ落ちますよ、ですからがんばりなさい。」といふことを先生がしきりにおっしゃる。子どもは答案を返してもらうと、まず隣りの子に負けないように、それでないと県立の高校に行けないとか、有名中学に行けないとかいふ調子で、みんなが本当に力を合せて、クラスをよくしようといふような社会的良心なんかない。いまの子どもはクソ食えよ」といふことを、実にたくさんのお母さんから聞いたのです。つまり新しい教育を受け社会的良心の旺盛な子どもが生れるということは、私の幻想であつて、事実はとてもそんなものじゃないということがわかつて驚いたわけです。

河村 いまは有名校に入學しようといふことで、非常に試験地獄になつていっているわけです。それを掘下げてみると、あのいたけな小さい子どもが小学校に入るか入らないかの時分から、やれオルガンだの、やれピアノとか、遊ぶ暇もなしにお稽古ごとに通つていふような状態、そして学校にあがるとその連続で、学校から帰ると、すぐ塾に走つて行く。どちらかというと、塾のほうを重点にして、学校の先生のおつしやるほうはあまり聞かないという状態が現実ではないかと思えます。といふますのは、私の姪の子どもがいま小学校の四年生ですが、学校の先生が「きょう皆さんに聞かすことがあるから、みんな残りをさい」と注意されたのです。が、先生が教員室へものをとりに行つて帰つてみたら、教室の中には一人の子どももいなかったそうです。そこへ一人の子どもが忘れ物して帰つて来たので、「みんなどうしたのですか」ときくと「みんな塾に行くといつて帰つたんですよ」といふことだつたそうです。次の日に父兄が学校に呼出されて、こんなこと説明を受けたといふことでした。小さい時は子どもはまず遊ぶのが一つの仕事じゃないかと思ひます。遊びにより子ども達同士のつきあひから社会性が生れてくるのだと思ひます。ところが勉強では社会的良心を養うといふことはできないと思ひます。ですから現在の子どもが大きくなると、それこそ自分さえよければ他人はどうなつてもよいという人が沢山できるのじゃないかと憂えているわけです。

大村 長男が三十四才で大学院にあり、末つ子が高校一年生です。上の男の子の時は、いろいろなグループ活動とか、相談会とか、とてもよくやられてお母さん達もとても仲よくやつていたのです。

けれど、下の子の時は、勉強一本になりました。このあいだも、長男の中学三年の時の旅行案内書が出てきました。へたながり版ずりで、何日も残つて自分達で作つたものなんです。下の子の時は、ちゃんと印刷された立派なものです。おそろく子どもにとつては自分で作つたもの、ほりがどんなに貴重で勉強になつたことだろうという気がしたんです。

後藤 中学校では、進学もしない、就職もしないという子どもがあるわけ。農村ですから。そういう子どもはいつもつまらない、早く家を帰つても手伝いさせられるし、学校に帰つていても先生方は相手にされない。それで二、三年前ですけれど、山に小屋を建て、火をたいて遊んだりして問題になつたことがありましたが、毎年それにたよりの問題があるわけです。聞いてみると、学校では先生方が就職だ、進学だと気狂いみたいになつていゝるし、おらみたいにどこもゆかないのはかまつてくれないといゝうんです。また学校の先生がたも「今年進学するのはいはなんですか」と父兄にどなられるし、そういうところをみると、先生も可憐だと思つてね、どうにかならないかと、それこそ眺めてゐるだけなんです。

田口 ある働くお母さんですが、全部子どもの予定を立て、何時から何時まで、そばん、その後は婆、その後は何とスケジュールが決まつてゐるそうです。「何のためにそうまでしななければいかん」と尋ねましたら「わたし勤めてゐるから、子どもが家に帰つても、誰も見てくれる人がいないので、どんなことをしてゐるかよくわからないよりも、むしろ整なりに預けたほうがいいので。」といふことでした。

から、母親が外に働きに出たために子どもがわるくなつたといふことがあつたら、それは本当の親子のつながりではないのだ。本当の親子のつながりといふものは、お母さんが外で働いたから非行の少年ができるというふうなものではないといふことを強調されて、ずいぶん考えさせられたわけです。

淵脇 私、共稼ぎのお子さんを四人預つた経験があります。ほとんどの場合が先生でしたが、最初は生活がでないからという理由で働いてゐたのですが、何年かたちますと、主人だけでも食えるといふところにもきて、お母さんが退めたくないといふんです。というのは、単に経済的な義務だけではなくて、一生自分が仕事を続けたい。子どもができたから本当は家にいたいだけけれど、また復職の希望が全然ない。だからしがみついてもその何年かを切り抜けなければならんといふ気持ちで働いてゐる。それでさつき話が出たように、母親として子どもをみてやるのが本当の母親の勤めならば、そこでブランクを作つても、また復職できるような機構にならなければ、私は本当に働く母親と、そこに残される子どもの問題といふのは、そこまで発展しなければいけないのじやないかと思ひます。

鳥村 実は私も保育ママをしてあります。教員をしていらつしやる家庭の子どもが一人と、公務員の子どもと、国鉄に勤めてゐる家の子どもと三人おります。五年ほど前から、半年ぐらいつれて三人来てゐるわけです。そのお母さん達も一度は子どものために仕事を捨ててゆく上に、仕事をもつたけれど、やはり自分が人間として生きてゆく上に、仕事をもつたことは、プラスだから続けたいといふわけです。私それらの子ども達に接していると、決

伊藤(リーダー) いま東京でも受験勉強熱といふことが非常にジャーナリズムの上でも大きく出ておりますが、下町ーいまおつしやつたように働く人達の町ですがーでは進学しないという子どもは実際問題として教室で捨てられる場合が多いわけで、そういう子どもだけを引受けて、特別に見てやつてゐる塾がちゃんとあるんです。私は社会的良心といふ際立つた言葉で言わなくても、その人達はかつて教職にあつて見るに堪へてゐるわけです。だから塾を一緒にやることも言えないわけですよ。実際にお店なんかの家庭では、お金はやれるけれど、見てはやれない。そういうところは喜んで塾にやります。またそういうところはその子どもの本当のためにゝつてゐるわけです。学童本位の問題、ことに新入学で低学年の子どもの達がお昼頃には帰つてくる。両親が働いてゐるところ、農家で忙しいところは、その子ども達は行く場所がないわけですよ。そういう子ども達を保護し、正しく育成していくといふ社会的な施設といふものが、私はなければならんと思つてゐるのですが、いまそれが非常に多くなつてゐます。そのために皆さんお母さんがたがさるべき仕事もまたあるといふふうに考へるわけです。

後藤 さつきの話は男の子の場合でしたが、女の子の場合は、やはり家を帰つてお母さんの家事の手伝いをしなければならんといふ気持ち強いようですが、そこにまた子ども達が負わなければならん労働の問題も出てくると思ひます。地方会議の時に出来た問題ですが、家にいて子どもの面倒をみてやるのが母親の勤めか、それとも外に出て働いて経済的な余裕を子ども達の上にも与えてやるのが母親の勤めかといふ問題が出ましたけれど、その時、助産者

してほかの子どもに劣つてゐるというのではない、むしろほかの子どものもつてゐない面、例えば、自主的な面、自立精神といふものを非常にもつてゐる。それで必ず子どもは母親が育てなければいかんものだらうかといふ疑問をもちつたのですが、つまりそれはお母さんがたが、たゞ経済的な問題だけで働いてゐるのだといふ意識でなくて、もつと高い意識をもつて働いてゐるから、子どもにもそういう影響が出たのじやないかといふことも感じております。

私は、ちゃんと決まつた経済的な報酬を受けてゐます。そうしないと結局人間の関係がうまくゆかないといふことになると思ひます。また時間は、赤ちゃんの時は、八時から夕方六時半頃までおりましたけれど、現在は一人は小学校に行つており、あとの二人は保育所に行つておりますから、三時四時から六時半七時頃まで家に来ております。

淵脇 私の場合は十一時間保育をしてあります。みんな一才です。最初は協同保育を始めようといふ人達が集まつて私も保育で参したのですが、結局、共同保育にまで発展しないで、個人保育になつて、双子を育てた経験があるからできるでしよう、半分押しつけられて四人まで預りました。二段ベットを二つ買ひました。その初めの時に慈母としてやるか、労働としてやるかで、ずいぶんもめたことがありましたが、私は労働としていたしますとはつききり申しました。それをやるには資格がございましてね、保母とか、教員とか、むずかしい基準があるのですが、私は何ももつてゐなかつたのですけれど、まあ双子を養つて来たのだからという

実績で、お母さんがたが信頼してくれて始まったわけです。勿論考えれば、とてもむずかしいことだとは思いましたけれど、せつばつまつた方には、せめてできることならと思つて引受けました。報酬は一応の基準がなければという事で、よその団地などにいる聞いて決めました。私の場合は一日十一時間保育で四千五百円、そのほか食費は実費で頂きました。タイムオーバーを計算するか、しないかでもめたのですけれど、私はそこはお互いの良識にまづということ、そこまで細かく決めませんでした。

伊藤（リーダー） だいたい今までも、保育、教育ということを中心にして、皆さんがしなければいけません。皆さんのする仕事のある部分は出てきているように思ひます。さらにそういった場合に社会施設の中で子どもを育てることで、母親がじかに育てるのと、そういうことが一体青少年の不良化の問題に關係するかどうか、そういう問題については、やはり大きな疑問があるかと思ひますので、その問題から少し深めていつたらどうかと思ひます。

庄野 子どもを生みつばなしで、親の生活が収入が少ないので、子どものことを考えている暇がない家庭の子ども達がいつばいいます。そういう子ども達を婦人の手でどんなにして見守つてやるか、このことにつきまして、保護監察司、及び保護司の外郭団体として生れた更生保護婦人会というのがあります。私はこういうことについて十年來協力しておりますが、毎年七月の社会運動の時にはグループみんなで行きますが、この頃はよその子ども達が美しい服を着て学校に行けば、やはり着たいだらうし、制服も買えない状態なので、もういらなくなつた制服などは全部更生保護婦人

大村 私の場合、オパール婦人会と申しますが、なかなかお願いしても、引受けて頂けないことが多いので、それで社明運動の時にパンフレットをもつて街頭行進したり、施設を慰問したり、布キレなどを売らして、わずかな利益でいろいろのものを賣つて施設などに行くので、そういうお金がどこからも出ないんですね。大事な仕事なのに、どうしてもこんなにお金がないだらうと……。私まだ二年くらいにしかありませんが、本當に不思議に思ひました。社明運動の時、年とつた人達が街頭行進してチラシをもつて配つて行くのですが、そんなの見て下さるか本當にないんです。一人相撲をとつていような気がして……。なんとか別な方法で皆さんに訴える方法はないだらうかと感じております。

庄野 私のほうは百八十円の会費をとつて会員に入つて頂いてありますが、その仕事をお手伝いしてあげましようという人が次々にふえております。はじめは私一人でしたのが……。

伊藤（リーダー） 社明運動という言葉を聞いたことありますか。（おどろき）「おどろき」という声あり）社会を明るくのぞくです。もう十何年来法務省が主催して、毎年七月いつばいやっていっているわけです。地域によつては、こういう婦人会もあるんです。それがちつとものびてないでしょう。いまいわれたように、大変な仕事なんですけれどもお金を出す人がほとんどないわけです。そしてその人達がもし地域に帰つてきて、社会復帰につまづいて、また悪の道に走れば、その地域というものの安全とかはなくなるわけでしょう。子どもをよくしようと言つたつて、そういうところから出てきた子どもが、そこで暴れまわるんじゃないか。その人達の就職の世話を何から全部やつておられるわけですよ。いま光春の問題も

会にいたゞいて、そして民生委員のかたと保護司のかたと相談して送り、喜ばれております。会員は百十名ほどおります。

一例ですが、生活に困り、母親が亮春でひつかかり、どうとうある刑務所に収容されることになつたのです。ところが四月の入学式に子どもを送り出してから行きたいというので、いろいろ私共も警察や裁判所にお願ひしたのですが、法のほうでは許されませんので、とうとう子どもの入学を見ないで刑務所に行つたわけです。その後私共の会員があの生活はある程度保護もされていいますが、陰になり日なたになつたりして見守つてやるしくみにしてあります。これは全国的にあると思ひます。前には少年保護婦人会といつて弱々したのですが、いまその支部長と本部の副をしてあります。

伊藤（リーダー） あなただけのほうには「部落」というものはないのですか。またそういう家庭の人に限つていつも貧困だとか、不良化してゆくという問題には直接ぶつかつておりませんか。

庄野 市内ですから、それにはぶつかつておりません。部落のかたもいらつしやいますけれど、正しい職業について、裕福な家庭が多いようです。

伊藤（リーダー） 私の知つてゐる限りでは、更生保護の仕事というのには、ジャイナリズムに出ない。つまり扱つてゐるケースを新開やラジオに出せないわけでしょう。ですからこの人達の御苦労は大変なものです。しかし本當に地域をよくしようと思へば、その中にやはり間違つた道に落込んで、更生しようとしている人のために手を差し伸べる人がいなければならぬわけですから、そういう意味で私は非常に日頃から敬意を表してゐるわけですが、

出ましたけれど、そういうところから日本の社会のいまのひずみというのか、あるいは私達の心構えの問題があるということも考えられるのじゃないですか。

陽村 実は私、この会に出る前に不良化の問題について、あまり知識がなかつたのですから、マボリスと、社会教育のほうで青少年不良化の問題を扱つてゐるかたにお目にかかつて、いろいろお伺ひしたのですが、非常に驚いたのは、私の子どもが行つてゐる小学校では、そういう問題児はいないと考えられていたのが、実際はそうじゃなかつたわけなんです。そのほか私達の知らない都会なみのいろいろの問題が非常に沢山あるということがわかつたわけです。

そこで私達が問題意識をもつということとは実態を知ることとがまず先決じゃないかと思ひます。そのかたもマボリスとして頂いてゐる給料の中から、そういう子ども達にいろいろのものを食べさせたり、そういうつた負担がかかつてゐる。どうにかして私達がもつと運動をおこしてあげられないのだらうかということに疑問をもちまして私もにもつと実態を知らしていただきたいと申しましたところが、学校でもいゝ面子にかかるといふか、またそのために子ども達がその学校に行かなくなるという問題も起きてくるから学校の先生がたはなるべくマボリスとかの機関に知らさないようにしてゐるというのです。やはり私達がそれが決して遠くの問題じゃなくて、私達自身の子供の問題なんだという意識をもつ時に、そういう問題が見捨てられないで、もつと身近かに解決のできる方向に向つてゆくんじゃないか。ということを痛感しました。

伊藤(リーダー) ママボリスとは婦人警官のことですか。

島村 いえ、そういう問題を扱っているかたで、警察のほうから給料は頂いているのですが、現行犯をつかまえても、それに對して司法権はないのだとおっしゃっていました。

傍聴者 昨今有名なのは大阪の例です。警察の職員として採用するわけで、いま大阪で三十何名くらいいます。家出少年とか、青少年犯罪におちいる前の段階の子供達をみるわけです。

河村 下関ではママボリスではなしに、青年団の人達がそういうことをやっています。

島村 もうひとつBBS会というのが米子市にもあるのです。若い人かたがたが非常にそういう問題について協力して下さっているというお話を伺って、感激しました。

伊藤(リーダー) 学校の子供が社会的問題をおこした時に、学校ではそれを一生懸命に隠そうとするというわるいくせがありましてね。学校の名譽とかにこだわる先生のために、その子供をその時に治療すればいいのに、隠すが故にその子供がだんだん深みに入ってゆくという問題もあるわけです。そういう点で何かありませんか……。

永浜 先生は子供を美しくみるんですね。私らでも自分の子供がよく見えるのは当り前ですけれど……あの子は非常にいい子なんだけれど、家庭の状況がわるいので、転落の一途をたどっているのだけれど、非常に可愛想だと、ロマンチックというところがあるりますけれど、美しくみるんですね。

主人の学校で給仕を募集したところ名乗り出た子がありませんので、一応受持の先生に聞いたところ、非常にいい子で、とても

子の世話ばかりして、何となくするのと、地域婦人会の幹部のかたに笑われたこともありましたが、今になると、こういうところから離れたくないような気がします。いま少年二人と、子供二人あるおとうさんの三人をみています。はじめは家族のものからも反對されましたけれど、訪問してくれるそういう人になる人はないんです。私から遠ざかつて行く人は、またわるいことをし出すんですね。

それともう一つ、学校の先生があまり自分の学校にわるいことがあつても、おとしやらないという話ですが、私の主人の学校は、市内の一番大きい中学ですけれど、次々とわるい子が出るんです。職員が全部知らないのです。八十人くらいの職員がおりますけれど、私の耳に入りまして、主人に申しますと、学校側は誰も知らないといひます。一学年の先生の中には知っている人があつても、二学年、三学年と全校の先生がたの耳に入れないで、その中学の生徒は全部いいのだということになつてゐる。こういうことは全校の先生に知つていただいて、先生みなでわるい子達をいい子にしてもらひようにして欲しいと思います。

伊藤(リーダー) 東京でこの春あつたことですが、わるい子供をたらいまわしやるんです。自分の学校からそつと出しておいて、どこそこの学校に行けという。これほど無責任な教育はないです。これは今朝ほどの我妻先生がおつしやつた我が家精神から、我が学校精神です。自分の学校だけよければいい。そしてその子どもはよその学校にいつていれば、自分の学校にはもう関係ないという考え方。そこところはやはり今度の会議のかなり重要な点だと思ひますね。

目先のきく子だが、家庭の事情がちよつとわるいが、採用してみてくれというお話だつた。それから近所の人などに聞いてみたら、非常に私生活が乱れているんですね。親がいながら別居しているような状態でしたので、警察にも行つて聞きましたところ、授業のある日にふらつと東京まで出かけて、東京で保護されて帰つて来たことが何度もあるというのです。先生が子供を美しくばかり見ていたんじゃないで、わるいことはわるいとみて、それから処置を一緒に考えなければならぬと反省させられたことがあるのです。

藤井 私の村は、大要な山奥で温泉場があります。中学校も高等学校も温泉からちよつとのところですので、本當にわるいことが続きます。でもそれを保護する人もないし、ただわずかに少年室の協助員のかたがあられ、そのかたは保護司じやないのですが、このあいだも出獄した方が就職するのを一人で洋服を贈つて駅まで見送つて下さつたそうです。それを誰も認めませんし、ほめもしません。中学生が五、六人でよそのうちに駐車してあるハイヤーに勝手に乗つて、県道の途中にほおつてあつても誰もおこりませんし、見て見ないふりをする。高校の生徒は田んぼとか、森で不良の男女の遊びをするのですが、誰もそういうことを取上げて、どうのこうの言いませんし、学校でも隠しているようです。私も本當に申訳ありませんが、勇気がないので、同じように見て見ないふりを今までしてきたわけです。

庄野 婦人少年室から出ているものに、「正しいと思ふことは、勇気を出してやつて下さい」という項目がありますね。あの点を是非やつてほしいと思います。私もはじめは貧乏人の世話やわるい

淵脇 私の主人も教員です。しかも一番問題があると云われる新宿区に、この三月まで勤めておりました。そこで補導に行くと、男の先生にたばこの煙をパツとふつかけて「先生遊ばない?」というのだそうです。そういうのに教師が生徒として対面した場合、本當になんともいえない気持ち、どうしようもないというんです。そういう教師の気持ち、立場というのを、どういふふうに突込んで行つたら、本當に良心のある先生になれるのかと、いつも悩むのですけれど、それも教員の立場からの実情ですので聞いて下さい。

伊藤(リーダー) 社会施設の中の教育施設としてとても足りないものがあるのです。それは小学生から早いところ治療すればなおるはずが、その治療施設がないわけです。中学生になれば、口ではみんなカウンセラー制度というけれど、予算は何も組んでないのです。自分の学校にさえないなければいいのだということではなくて、その子を本當に治療して正しく導くのだという方法をみんなで考える必要があると思ひます。静岡の萩野さん、あなたのところでは、そういう子供を扱っていますね。その体験を少し、萩野 私のところは保護司でもなんでもありません。ただ主人が爆風で両耳をわるくし身体障害なものですから……。お勤めもできなくなつたので、自分から職業補導所に入つて、いまの職業についたのです。おひなさまの壇に並べる道具一切を作っています。軽い労働なので、障害でも微薄でもやれるということがヒントになつたものですから……。

いま、住込の人三人です。これらの人は身体障害と精神薄弱の方面から、知能指数が五〇と八〇くらいのところですよ。いろいろなものを当ててみて、この人にはこれがむくとわかれば、その人

はそれと結びつけてしまふんです。以前には難症の人が来ましたが、私共もしゃべりかたを知らなければならぬわけで、主人と一緒に、例えば頂戴という時は、指でどうやりますし……。

まずそういったことを先に勉強したわけです。その人は三年いていま農家のかたと結婚して幸福にしています。

萩野 うちでは成立っております。その人にと向けかたを考えた、できないということはないと思います。

三十一才の人が身体障害でこれは先天的なもの——せむしで一メートル三二センチしかありません。もう一人はやはり先天性で手が片方だめな人、これは後天にまわしたり、いろいろにします。また通つてくる人もあります。

またある程度、その人を自立させるためという気持は十分あります。小児麻痺の場合は、半身がたいていだめです。その半身でもできる限り、みんな力を出し合つて、ものを上にあげたり、とつたり、少しは手伝いはします。それだけで、あとはその人が生きてゆける職業をつけてやつたら、あとはあんたやつてゆきなさいというふうにつけて参りました。

伊藤（リーダー） それから萩野さんは、もう一つ更生保護に関するケースをもつておられますね。

萩野 非行少年できれいに自立して社会に出ていくれた人もいます。養護院を出た人で、訓練所を一年終えた人がくるわけです。柳さんのやつている少年の家で、この子ならいいということとい

たぶん、身体障害の場合は職安のほうから……。

大村 そういう家があつたら、ずい分たすかります。それが欲しくて……。

萩野 戦前のほうで、問題になつた子だということがわかつたら、速攻が一変します。で、最初からいえる家と、そうでない家があります。

後藤 萩野さん、その精薄の人なり、小児麻痺の人がお宅の手を離れたときに、やはり独立してゆけるでしょうか。

萩野 一人独立できるかと思つたけれど、だめだつたのがいました。それはお父さんが来て、うちにひきとるからといふ家に帰つたのですが、兄嫁さんに邪魔扱いされて、東海道線で自殺しようとしたんです。未遂に終つて病院に見舞に行きましたが、世をはか

る人にもてもらいたいということを念願しているんです。しかし引取つた子はいけれど、あとの子はどうするかというところは、ずい分悩みます。

河村 私のところに「手をつなぐ父母の会」というのができたわけです。これは精薄、身体障害、難症の子ども、そういう本当に日陰におる子ども達の親達が手をつないで立上らんとしているわけです。またそれを援助する青年センターというのができました。中学を卒業して結婚するくらいまでの青年達が、非常に気の毒なその子達の手足になつてあげなければならぬということ、いま盛り上つてゐるわけです。その盛上つた青年というのが、だいたい中学校を卒業して、高校に行かない青年たちで、いま手をつなぐ父母の会の手伝いをしてゐるのです。父母の会の会長さんに、この度私がこの会に出席すると話したら、自分の母親としての切なる断えをみなさんに聞いていただきたいと手紙を託されましたのでちよつと読みたいのですが……。

「私共は一昨年来、不幸な子供をもつ四十名の親達で固く手をにぎり、子よりの一日の長生きを願ひ、はげまし合つて今日に至りました。私は精薄、身体不自由児、そして難児という重症児の母です。一昨年難症学校に入学し、親子で通学しました。風雨の日、また雪の降る日は本当にづらい思いをいたしました。しかしこの道も光を求めて子供と通うはげましの道と思えばこそたのしみでした。でもこうした子供を施設に入れるのは、まだまだ幸せで、人の子として、この世に生を受けながら、光のない谷間に追われ、世間から忘れ去られ、医師の立場からも手のつけられない子、家の中で遊ぶ相手、なくしよんぼりしている重度の精薄肢体不自由

萩野 その点で、いま主人が福祉施設とか、厚生課のほうに運動しているのですけれど、こんど自分が職業長になつてもいいから職業所を作りたい。八〇くらいのできる子は家に引取つて、前から

伊藤（リーダー） やはり日本の施設なり、福祉行政で間違ひがあるのは、児童福祉で十八才までしか保護ができないわけです。その先が自立できなくてもなんでも放り出されてしまふわけです。どこかにコロニーを作つて、その中でその人たちを生活させ、何か生産させれば、やはり社会に對してのプラスを働き得る人達です。

児をもつ母親の境地はいかばかりでしょうか。親として、ただただ不憫の一言に尽きるので。この子ども等のために親が立上らなかつたら、一体誰がこの子に光を与えてくれることでしょうか。お互いに不幸を背負つたもの同士はげまし合つて、一人でも多く特殊教室に入れるように希望してきましてけれど、現在において、それが不可能な状態です。たとえ頭が弱くても、たとえ手足が弱くても、訴えることができなくても、一個の人間としての尊厳をもち、幸福に生きる権利をもつております。まがりなりにも一人前の国民として、長生きするように教育されることは、国、県、市町村の当然の責任だと存じます。私達は永遠にいやすことのできない悲しみをもつております。親が死んだ先には……といつも頭から離すことができません。あまりの肩の重さに、いつそ親子で……と思うことも度々ですが、せめてそれを支えてくれるのは、何の罪もないこの養育院です。出舎のいかなるところにも特殊の施設学校を創設されることを要望いたします。」という訴えの文です。

伊藤（リーダー） いまここで出ている話は、今年のテーマに実にひつたりしているものと、私は考えているのです。なぜならば、人間の中で条件に恵まれず、弱いもの、気の毒な人、そういう人達に連帯的な手がさしのべられなければ、社会的良心なんて、どこにも生きていないのだというふうなことが考えられるのじやないかと思ひからず。

後藤 私の方にも、そういう子どもをもつたお母さん達の集りがあったのです。その中に韓の子ども二人をもつたお父さんが来たわけです。この家は要保護家庭でしたが、お姉さんが中学校終つて、

工場に働くようになったら、お金を打切られたわけ。その前に大きいほうの韓の子どもが県立の養育院に入つたら、六千円かかるのだそうです。保護家庭のうちには、その六千円を出してもらえたが、お姉さんが日給もらうようになったら、六千円を負担しなければならぬ。お父さんが血みどろになつて六千円ずつ続けた。そして、お父さんが「さてなんたらしたらよかんべ」と私達の会に来たわけ。私共にはどうしたらいいかわからない。そうしているうちに間もなく日本子どもを守る会の分科会議があったので、出かけて、その問題を話したわけ。そこでこういうお願いをしたところ、今まで例のなかつたことを、とてもむずかしかつたのですが、あちこち走り回つて、結局、養育院に立寄法という法律の適用を受けて、いまは二人ともほとんど自己負担で、韓学校に入つてゐるわけ。その子達は韓だけで精薄でないから、寄附に入れてもらえたわけですが、河村さんのお話のお子さんは、韓の上に知能指数がうんと低いとすれば……。

河村 二〇くらいです。山口県の徳山につつまがうら学園というところがあるのですが、これは非常に希望者が多くて入れないわけ。また白鳩館というのが、この度私費で出来たのですが、そこにゆかせるには月五千円いるのだそうです。とてもそれでは家の経済がもたないということなんです。

萩野 うちのほうに精薄で二五〇八〇くらいまでという施設があります。定員が大人五十名、子供五十名で、学校の校長やつておられた方が、いまから二年前あまりにも精薄の子がクラスに多いので、自分が校長を退めて、知合いの先生がたを呼び集めて個人

で始めたものです。計画は四年かかつたそうです。保母さん的人员もつとほしい。せめて五人に一人欲しいというんですよ。十人に一人の単位じゃ子供がお母さんのように見ていただくことができないそうです。そして精薄の場合、お父さん、お母さんからの仕送りがあまりない、私が訪れた時は四十三名でしたがそのうち十三名のかたがお金は一銭も払わないで、一度も面会に来ない、あまりにも無責任だといふことは、そこでもわかります。施設のそばに子供を捨てたといふものもありました。その子一人に市のほうから月八千円出て、その中から保母さんの費用なり、学費なり、食費なり、全部分けられてしまつと、本当に子供に与えるものは二百二十円だけです。とてもそれだけの費用では足りない。

伊藤（リーダー） 要するにそういう施設ができれば、もつと救われる子供も親もいるわけ。親がまたそれによつて救われるわけですから……。それに對して國の施策というものは、非常に足りないといふことがはつきりしているわけでしょう。重症の精薄の場合、國が援助して、ようやくできているのが、東京の島田養育園といふのと、滋賀のびわと学園です。

びわと学園が全部できあがつて厚生省からも許可があつても開けないのは、たつた十人の看護婦さんが一人も集まらないためなんです。NHKからも四回か、五回、放送したけれど一人も来ない。島田養育園は私も行つたのですけれど、若い立派な看護婦さんが働いてますね。全部クリスチャンです。

後藤 他県からはなかなか入れてもらえませんか。近江学園に岩手県から二人いつておりますけれど、家で負担する金を八千円か、九千円ずつ送つてゐるはず。

伊藤（リーダー） これは地方行政のセクシヨナリズムになりますけれど、やはり県立なんです。ただ私が心打たれるのは、島田養育園というのは、パチンコでもうけた島田という人の全面的な寄付です。一生そこから出られない子供達で、十八才になる子でも寝たつきりで全然笑いが無い。そこにサリドマイドの子ども達がいます。もう入つていますが、頭は正常なんです。まだ十一月くらいですが、もう歩いてニコリとすばらしい笑ひをもつています。ドイツではサリドマイドの子供には全額國が責任をもつてこれを治療し、その育成をやつてゐる。立派に成長する子ども達ですが、そういう子供が日本には全額にまだたくさん家の中にいるわけ。また親の気持として離せない親もあるでしょうけれど、しかしそういう施設さえできれば、子供も幸せでし、親もどれほど安心できるかわからないわけ。そういう点に對して、國としても、あるいは市としても、施設そのものが足りない。私達市民の一人として、そういうことに連帯的な気持が出てくることを望ましい。皆さんはほとんどのかたが、いろいろな形でやつておられるわけですから……。

後藤 肢体不自由児も義務教育ですね。だから肢体不自由児や、めくらの子、おしの子は國の力でどうしても教育をしなければならんことになつてますから、受けられる権利はたしかにあるわけ。精薄の子にはないんですけれど、そういう子をもつた人、それからさつきからなんべんも出た非行少年が、それなら誰に相談にゆけばいいかといふことが一番先の問題だと思ひます。そういう子供をもつたお母さんが、まずゆける場所をみんなが作つてあげなければならぬと思ひます。

伊藤（リーダー） 誰かが手を投げてやらなければ救われない子供が、うようよいあるということです。そうすると子供が一番になるのか、成績がいいとかいうことよりも、むしろ健康で笑いをもっている子供だったら、親としては本心に喜んでいいのじゃないか。そうして、そういうものをもつていないものに對することを考えなければならぬと思います。長崎の福岡さんから離れ島の漁村の子供達の問題を少し出して下さいませんか。

福岡 私達、子どもを都会に出している母親として、一番心配なことは、田舎育ちの子供達が、町の中で悪の道に誘われやしないかということだと思います。小さい時から彼の音だけを聞いて、汽車をみたこともありませんし、勿論米のなる木をみたことのない子がたくさんいるわけです。その中から県外に出てゆく。というのでも炭鉱が不景気になり、また漁業の方も魚が大変少くなり、その家業だけでは生活できないという深刻な問題になってきたわけです。だから長男でも、次男、三男は勿論のこと、若い人は一人も島に残らなくなつてしまいました。島に残つたものは大変心配なものだとしてそれをどんなにして子供に悪い手をのべてあげようかという問題になりますと、何から始めていいか、手のつけようがありませんでした。そこで婦人会の新聞を昨年の春に計画し、夏頃やつてできあがつたわけです。その新聞の内容というのは、婦人会の会員のかたの教養の高揚とかいうことは、まず第二の問題で、部落の中でおきた身近な問題、心温まる話や、美しい話をたくさんその新聞の中に織込んだのです。この婦人新聞に、故郷の花ー水仙、つばき、なの花、野菊、屋敷など季節の花の押花を添えて県外就職の子供達に送りました。それが予想以上に非常な反響を

題が広がるなんて、実は思っておりませんでしたので。会合の席上で、そんなことあなた一人でなさるのはいけないことだから、私達にも是非負担させて下さいということ、この次の号から組織的に取上げていただくように、皆さんのお話しで決定いたしました。会員は七十九名です。

伊藤（リーダー） あなたのところの生活は……。

福岡 炭鉱が景気の良い頃は食料品店をしておりましたが、不景気になりまして、購買力がぐつと落ちて最低の生活を支え切れない程度になりましたから、家業を転向し、いま養豚をいたしております。多頭飼育でたくさん飼っております。五十頭ほど……。

猪飼 八日市のほうに高速道路ができて、経済的には困つていゝるわけでもないのに、お母さん方がみんな働きに出られるのです。ある家庭では、子供四人に留守番をさせてお父さんも、お母さんも、お兄さんも、お嫁さんも、みんな出稼ぎに出た留守中に、子どもが学校に行かないで、八日市から京都までの直通バスに乗つて、京都に行つて映画をみて、夕方家に帰つていたということがずつと続いていたらしいんです。あまりちよいちよい欠席するので、学校の先生が家庭訪問されたところはじめてわかつてびっくりしたということなんです。こういう問題はどこでもあると思います。私共のほうは、お母さんが旅館に働きに出るのです。毎日現金が入るし、自分の仕事ができたと喜びというのか、つい仕事本位になつて、子供のことがおろそかになりがちだということから、問題がたくさん出てくると思うのですけれど……。

伊藤（リーダー） それはおそろしく農村地帯、あるいは海岸地帯で、近代的な工業都市になつてゆく過程において、非常に目立つた現

呼びまして、こんなにまで沢山のかた達が、私共のしたさやかな行為に對して感謝をしてくださつたのかとびっくりするほどでした。炭業から帰つて来て、その新聞を見てみると、元氣づけられて、またあした働くぞという勇氣がわいてきたとか、また島におつて何んにも活字に目を通したことのない少年だつたけれど、婦人会の新聞というのを初めて見て世の中がどんなに変わつていくか、そして自分達も都会で、どんなに頑張らなければいかんかというところを、つくづく感じさせられたとか、ほかにもいろいろあります。実はこの経費一切は私の個人の負担で送つたことですが、たくさんの人に喜ばれそれをまた婦人会の会合に持込み「実はこうしてお子さ、理からお便りが来ますよ」と、お母さんがたに読んであげましたところ、お母さんがたも大変喜ばれて、そんなに新聞を期待してくるのだつたら、私達でひとつ微功文を送つてあげようという問題に拡がりつづあります。

伊藤（リーダー） 何通くらい出されたのですか。

福岡 二カ月に一回五十一通、新年度になりまして、また八人ふえて、五十九通になつております。

いまのところ子供だけに上げておりますけれど、三十以上の方も故郷の新聞はなつかしいから送つて下さいと十人ほど申込みが来ております。

藤井 経費はどのくらいかかりますか。

福岡 労働力は専任しておりまして、印刷のほうは三百円ぐらいの手代が五百十円で、一回送るのに八百円余りになつております。紙は西洋紙の両面を使つております。

本当にささやかな善意から始まつたことで、こんなに大きく問

象ですね。岡山の児島のほうでも、新しいコンビナートの都市ができれば、お母さん達がみんな働きに出てしまつてしまいます。すると家庭的には忘れられた子供が出てくる。共稼ぎというものと、子供の教育という問題では、新しいかつ深刻な問題が全国的に出てきている。しかしこれは日本だけでなく、アメリカはもとひどい、科学技術によつて生活物資がいくらでも新しいものが出てきて、それが欲しいばかりに共稼ぎになる。そうすると家庭的に忘れられた子供が出てくるわけですね。

子供を社会の一員としての方向で育てる場合に、いまのラジオテレビ、新聞、漫画、映画、そういうものははたして反社会的で、子供の教育の上でも非常に迷惑するのだ。いわゆるマスコミの問題に對して、御意見を伺いたいです。

猪飼 テレビで、いま忍者とというのをやっていますね。あれで投げつけると、どこにでもささるのがあるんです。あれで目を怪我した子がいます。ああいうのはあまり積極的には見せないほうがいいのですけど。

河村 投げつけるとがったものを作るために、子供が線路に鉄をもつていつて作るのだそうです。非常に危険なことだからということとを聞いたことがあります。

大村 うちの近所の子どもが、マントを着て幼稚園の二階からとび降りて怪我しました。あとで聞きましたら、やはりテレビのまねがしたかつたということでした。

猪飼 この頃ずいぶんひどい週刊紙が出ています。あれを大人が読んで、そのへんにほかしておくと、子供の手をたやすく入つて読むわけです。とても刺激的で、大人でも目をそむけなくなるような

ものですが、大人は読んだらその後片付けを責任をもってやつて、欲しいと思います。いつか中学の子どもが修学旅行で何を読んでいるかと思つたら、そういう週刊紙をみている。汽車の中にたくさんばかりあるとのことでした。

福岡 子供に見せていけないような、読んで捨てるような週刊紙は、なるだけ読まないようにしなければいかんのではないかと思います。

藤井 そういうものをあまり売らないようにできないものでしょうか。

芦沢 マスコミのいわゆる商業主義的傾向というのを批判しなければならぬと思います。そうしなければマスコミ関係の仕事が企業として成り立たないのかというと、決してそんなものでもないと思ひます。しかし一般の大衆が、そういう批判的なるものを要求するという形に迎合してしまふ傾向をマスコミそのものが自覚していただかないと、根本的な解決にならないのではないかと思います。

萩野 この頃、新教育とか、勤評とか、道徳教育とか、指導要領の改正とか、学力テストとか、いろいろ順番に出てきて、PTAや親達が、どこに焦点をもつていつたらいいかわからないし、また反面、中央行政というか、そういう方面からのマスコミ問題が多くなつて、子供がそれに動揺されやすい傾向があるのですが、PTAでもそれを一番考へてゐるのです。私共が出る運営委員会には、先生は各主任と校長という名目になつてゐるのですが、PTAとは話にくいといつて出てこない主任があるのです。校長先生は出られますが、アソシエーションといひますけれど、そ

れの毒なかつこうでね。だいたい先生がたというのは、そうではないかしら。

伊藤(リーダー) いままでの話で大体お氣付だと思ひますけれど、教育は誰のものかといふことを考えることが一番大切なわけですよ。教育は決して政治家のものでもなければ、先生のものでもない。親のものでもない。その親が真剣にこの教育といふものを考へて、その考へによつて國の教育といふものを動かさなければならぬといふことが建前であるし、この筋は崩してはならないと思ひます。つまりどこかに日本の教育を権力をもつて動かそうといふものがあるわけですよ。そうしてその権力に対して弱いという国民性、私達がついてゐる、あるいは私達が過去に権付けられた教養といふものが、そこにマイナスに作用してゐるのじゃないか。つまり日本に残つてゐる古い習慣といつたものを、みんなを出し合つてみよう。そのことはたとへば選挙といつたような時に、上から押しつけられるものについてゆくというクセが、もし私達にあるとするならば、それをどういふふうに反省するか、そして主権者としての國民の意志といふものが、少くとも今日の話し合ひである教育に、少しでも現れないういかどうか。そういうことを結合つてみたらいいじゃないかと思ひます。特別オプザバーとして、総評の大野さん、何か御感想があれば……。

大野(特オプ) 別にありませんけれど、保育の問題、子供の問題、働く婦人の問題とくに既婚婦人の問題など、山ほど共通の問題があるわけですよ。

そういふ点で総評下部組織婦人としては、そういう問題について全面的に取組んでゐるわけです。しかしそういうものは、ただ総

れらしくない動きが多いんです。

尾村 いまの教育のことで一番問題点になるのは、教組を通じての先生の教育像といふものと、PTAというか、家庭で考へてゐる教育像といふものの食違ひがあるのではないか。それを埋めるための努力がなされてゐるかどうか。そのへんのところを一番考へたいと思ひます。

伊藤(リーダー) まあ家庭で、本当に自分達親としての願ひというものを、教育に対してもつてゐるかどうか。上から流されるものに従つてゆくが、また教組からくるものをそのままのまひか。そういうところの家庭の自主性というか、親の教育に対する市民として当然考へなければならぬ考へかたを、家庭の親がもつてゐるかどうかといふところに問題があると思ひますね。

後藤 いま私共のところでは、中学校、小学校の統合の問題が出てゐるわけです。地域Pのために、教育委員会なんかぐるぐるで、必らず一軒から一人出席するようにという通知をもらつてゐる。うちは義務教育うけてゐる子がいないけれど、一軒から一人というから行くと、先生がたは全然発言しないんです。「学校を統合しなければならぬ」という政治的な説明はよくわかりました。しかし本場に現場の先生がたはどう考へてゐらつたのですか。ここでお聞きしたい。」と質問したんですよ。そしたらだまつてゐるわけなの、なんとたまげたと思つてね。「校長先生何ていうんですか」とまた急を押しつけた。こつちには教育長以下ずつと並んでゐるんですよ。主席の先生が立つて「政治的な問題だから、学校側としてはタツチしないようにと固く教育委員会から申されてゐますので、たいへん恐れ入りますが……。」と主席の先生

野さん下の労働婦人だけでは解決できない問題でありまして、やはりこれは全日本の婦人が手をつないで、皆さんから出された多くの問題の解決にあたらないといけないといふふうに考へておられますので、そういう点で、これからいろいろお話を聞かして頂きたいと思ひます。

(第一日 閉会)

第一部会

第二日目一〇、〇〇、一七、〇〇

伊藤(リーダー) 昨日は子供を中心としての家庭、学校、社会の問題を取上げたわけですが、今日はそれを地域社会と変化する新しい生活環境の中での諸問題という意味で、自由にだしていただき。農村が変つてゆく、その中で古い習慣だけは残つてゆく、古い習慣の中には勿論いい習慣もあると思うんです。しかし選挙その他を通じての古いしきたりみたいなもの、それから都会における団地生活の個人主義、新しい家庭中心主義というようなものが生活に出てきやしないか。また内職というよりな問題も、ここでひとつ考えてみて、そして環境全体の問題として、日本の問題をどう考えてゆきましょうか。どなたからでも……。

永浜 私のところは農村ですが、私は疎開してきたのでこの習慣などなんにもわからなかつたわけです。たとえば、葬式があるとどうしてもまる三日はつぶれるんですが、手伝いに行かなかつたら非難が太鼓なんですよ。私も家庭のことはぼつぼつ出して、かつぼろ着をかけて出て行くわけですが、仕事というの大したことはないわけです。菜をゆでたり、それを切つたり、ごはんをたいたり……。公務員の男のかたなんかも、三日公務を休んで出るわけですよ。鉄道員とか、郵便局員、私は不思議に思つて局へいつて聞いてみたら当り前だというんです。それから私、菜をきざみながら「皆さん、とうとうと三日もかかつてやらなければだめなんですよ。出られる人だけが隣人愛という意味でやるならいいけれど、どうかしら……。」と言いましたら、どうこうたる非難で、昔からこうやつてきたのだからと、ひどくおこられたわけですが、そういうことは公務を休んでまで出るといふことじゃなくて、手伝える範囲内で手伝うというふうにしなさい、

移りゆく社会に順応してゆけないのじゃないかと思つております。島村 地方会議で聞いたのですが、未亡人が開放性の結核にかかつた。生活保護を受けている貧しい家庭で、子どもがある。その子をどう措置していいのかわからなかつたところ、偶然保健婦さんがいて、す

も法的な措置を知らなかつたところ、偶然保健婦さんがいて、すぐ手続を教えてくださったのですが、農村ではそういう知識が全然ない。その知識を得るだけの時間の余裕がないということ、意識をもつてたないというよりも、生活自体がすごい重荷だといわれるんです。やはり兼業農家が多いのだそうです。

藤井 私の場合も農村ですけど、自分の良心をその地域の人々に共鳴を求めるとは、大変に長い年月がいります。突然にいつても絶対に聞きません。たえず自分があなたにたより、仕事の出来ないうで劣つていふという謙虚な気持が必要で、誠実が絶えず必要です。農村の人は環境的に因習的で、長いものにはまかれる主義で、今までしてきたことを変えるということは、出しやばりだと言われるから、かわり合はないほうがいいと、大変消極的です。葬式の話をしましたけれど、うちのほうの村も、手伝いに行く人のための食事の用意のまた手伝いといつた具合に、葬式を出す人は、まず借金とお米を借りることを心配して、悲しみは二番目になる。それをやめましょうというのには、その村から非常に信頼される人でなければだめです。それまでに、私なんか十五年かかつたんです。

永浜 近所のかたとグループを作つてさつそくやつてみました。まだ実践には移りませんが、個人個人ではみんな思つていふんですね。

島村 個人の意志が結びつかないところに、いまの農村の問題があるのかなという気がしますね。

後藤 私みたいな、五十になつてもまだ嫁の立場にいますという場合には——ことに私はよそから来たものだから、まず第一に他所ものだという頭がある。だから姑さんをなんとか納得させて、隣組を納得させて、地域の人——というまでには、とても五年くらいじゃ……。

福岡 ある寒い日にはだして店に来たお嫁さんがあるんです。「こんな寒い日にどうしてはだしの」と聞くと、「仕事はしてもしなくても、はだしでいなければ、嫁の立場としてやつてゆけないのだ」といわれました。この問題にぶつかつて、私はよそのものだけれど、私達婦人の力で何とかしてあげたいと考えましてから、丁度五年ですが、はだしで歩かないで、下駄の上につかつかつていふというところまで、いまいつています。

後藤 よそから来たものは、その土地の習慣をまず身につけて、一応はよそもんだけれど、先生のかあちゃんだけれど、よくこの土地のことをまじめにやると思わしめて、そしてまず安心させてから「私もまじめにやろうか」と、このへんのことをやつていくんだ、とつてもひでぐねえがすか」と、みんなさ呼びかける。そうするとやはりひでぐねえがすか」と、みんなさ呼びかける。土地に生まれ、そこに嫁になつて、主婦になつて、姑になつて、やはり抜け切れない人があるわけです。それが私のようによそから来て、こんなことをやめたいといふといつたら、大変な話、やはり一応その習慣の中にとけこんだふりして、抜け切る。その段階がなければ、生活改善なんてむずかしいんでないかしら。

森田　そういう地域の閉鎖性という状態は、何も特別に農村だけではない、町は町で、また違う次元の閉鎖性があるわけですよ。町の人は、文化は農村より進んでいるし、何をなすべきかということもよく知っているんですよ。ところが手をつないで一緒に仕事をしようとするのは、ほとんどないんです。社会のために役立ちましようなんていうのは異端者で、あれはなんやら好きでやっているのだ、市会議員になるんじゃないかというありさまで、自分の家庭だけという、都会の非常なエゴイズムがありましてね。そういう中へ入ってゆこうと思つたら、やはり農村の場合のように、えらそうにしていたら全然だめなんです。謙虚に誠実にそういう人達の中に入りこんで、いろいろ話をしてみると、やはり問題をもつていて、心を開いてくれるんです。そうすると一歩一歩、本心に社会的なことが動いてゆきます。

淵脇　個人と個人が連帯しないということ、これは団地の場合なんかは特にそうです。それほど個人というものが、自分なりの考えをもつていてそれがよいと信じ切つていっているところ、もう一つガンがあるようです。たとえば人間というものは元来孤独なものなんだ、だから少々淋しいのは近代的な社会に住んでいるから、当然なんだと、近代人としての一種のほころみみたいな考えでいる。そういう気持の人が案外多いんですね。だからこちらがとびかかつてゆけば、ああ私もそう思つていましたと言つてくれるならまだいいんですけど、もうそういうふうな言われちやうと、ああそうですかと引退するよりしかたがないような気がするんです。それでお互いが全然砂つぶみたいで、ガラガラしていて、ちつともまとまらない。そうかと思つと、自分達に直接利害のある

ことがおきてくると、パット出てくる。そういう団体行動するといふような知恵はみんなもつていっているわけですよ。たとえば、パスの開通とかいうことになる、ワアツと自治会が動くんですけど、それが済んでしまつと、さつと退いてしまふ。打算となつたら団結することも知つていられるけど、本心に町全体をとて、社会をとかいうようなことになると、さつぱり動かない。だから私としてもどういふふうに、それに働きかけたいか。年月をかけて、愛情をもつて、自分は行動で示せば人が信頼してくれるというように、なところだと、まだ張合があるだろうと思つていられる。……

森田　同じ立場にある人は同意してくれるということがあると思ひます。私がやつてきたことをある人たちは婦人団体の役員になるためにやつたのだろうとかいわれますけれど、ある方面ではたといは傷い軍人や、めづれない人がもつていられる母の会などの関係のかたは、私もそういうことは感じていたけれど、時が来なかつたからあんたひとつ頼むよという気持をもつておられるのです。だからその立場ということだけにこだわつていないで、問題を大きくするには、もつと広い立場でゆきたいという気持があります。

島村　私実はゆりべ、郷里で青年団運動と一緒にやつていた友達に会つたんです。その人は東京に住んで十二、三年になるんですけど、いま非常に絶望感におそわれているというんです。自分だけがなんとかしたい、どうにかしたいという気持はあるけれど、どういふふうにつながつていいのかわからないというわけなんです。非常に横のつながりを求めているわけですよ。

森田　終戦直後、非常に生活の苦しかつたような頃は、私の知つて

島村　私は日本海の孤島——豊後島の生れです。お嫁のもらいてがないからとび出したほうです。

淵脇　私もそう。

いる奥さん達でも社会運動というのか、そういうことによく出席されたんですよ。ところがいまは生活がゆたかになつて、町の婦人なんかは生活時間がものすごくあるんです。私なんか計算すると自由時間が八時間あるんです。多かれ少なかれ、それに近いものがあるはずなのに、最近は何となくそういうものに出て下さらない。私非常に問題だと思つたんです。子供のことに関心してても、高校全入の問題について講演会しますといつても、お母さんたちが十何人しか集まらないんです。ところがその次に「学力を高めるには」というテーマにしたら、ワアツと百何十人の人が出られた。全体で力を合せて、なんとか打開しようという努力じやなくて、とにかく自分のうちの子だけ学力を高めて、うちの子だけ高校に入れようという、非常に個人的で、人をけとばして自分だけ出世することと解決しようという立場に、とくに時間や経済的に余裕のある人がなつていっていること、文化が進めば進むほど人間はエゴイズムになるのかと思つたら、本心に文化など進まないほうがいいと思つたら、これは非常に残念だと思ひます。

田口　秋田の地方会議では、青年会などで一生懸命やつていられるかたは、お嫁さんにもいたくないというお母さんが、まだいるそうです。活動したいのか、しないのか迷つていっているという声がちよつと出ていました。

「私はかつて青年会のリーダーでしたが、こうして立派にお嫁さんになつて、若妻会のはうを一生懸命やつて、村のために成功しているから、どんどんやつて下さい」というお母さんもありました。が、非常に深刻な問題で、そういうかたは少なく、あとのかたはみんな共通したようなためいきでした。

淵脇　そういうことは学生それ自体の活動そのものにもあるわけですが、現在のこのいつた社会的な連帯性の欠如というものが、どういふ点からきているのかという点を考えてゆかなければならぬのじやないかということをお考へる場合に、私達日本人の固有の国民性というのか、それを考へなければならぬのじやないかと思ひます。その国民性とは何かというと、やはり日本の貧困——経済的な貧困、それからもう一つは、封建的な社会環境、そうした二つの問題から、一方では優越感になり、またはエゴイズムにまた家族中心の傾向をもつてきているわけですよ。すべての——たとえば都市における団地生活において、また農村において——うちのほうの葬式もやはり三日かかるほうなんですけれど、そういつた状態なんかにしても、すべて家族主義的な傾向そのものをもつていられるわけですよ。私達がそういういつた貧困や封建的なものに対してする場合に、私達個人個人がいくら力を尽しても、それには限界がみえているわけですよ。やはり私達が一番問題にしなければならぬのは、現在の政治、または政治機構そのものにあるのじやないかと思ひます。私達が政治的な問題にかかつてゆかなければ、ぜんぜんそういう根本的な解決はなされないのじやないかと思ひます。それでなければ、昨日の問題、たとえば青少年の不良化とか、精神の問題にしても、ただ同情としてしか解決しない。もつと根本的な解決はつかないわけです。私達の大学でも女子学生の就職がむずかしいんです。女子学生というのは社会的な関心は

ないと極端にいいすけれど、社会的な関心がある程度もついているが、しかしそれを出すと就職に關係するわけなんです。そういう点で個人個人は若い火なんです。しかしそれが就職に關係するという点で、力として發揮できないわけです。社会的良心といえますけれど、良心的に私達がよいと思う方向に進んで行つた場合に、それを妨害するものは、政治機構そのものであるという状態を根本的に打破してゆかなければ、問題解決にならないと思います。

藤井 芦沢さんは学生さんですが、昔、セツルメントという活動がありましたね、いまはどうなんでしょう。大変良心的な活動をされていたようですが……。

伊藤（リーダー） 最近目立つて活躍したのは、名古屋の風水害の時に、学生セツルメントが罹災者の子供を収容しましたね。東京からも応援に行つて……。

藤井 そういうのは政治的な制裁を受けないのじやないですか。そこまで政治があなただけの何かをさまたげますか。

芦沢 ただ単に福祉活動であるというふうに認められないんです。伊藤（リーダー） セツルメント活動でも、戦後は非常に社会的に歓迎されていたのが、いまは特殊な目で見られるようになってきた。この移り変りが問題なんですよ。

島村 さつき出た農村の古いしきたりが破れないということは、やはり貧しさということが一番の大きな原因じゃないか。働くお嬢さんをもらわなければ、一家の生活がやつてゆけないわけですよ。会合なんかによつ中出ていようなお嬢さんじゃね……。

い既製品を縫っています。それも国鉄の機関区を転々する田舎まわりの生活で、大きなところにお勤めして縫うというところはできないわけでも、駅前小さな商店と個人的に契約してその仕事だけをするものになつています。婦人子供服です。

かりに子供のユニホームを一日に十枚縫うとして、その時に針目を二ミリから三ミリにまわすだけで十枚が十三枚縫うことが可能で、しかしそれですぐほつれるし、ボタンはすぐとんでしまふことになるわけです。そういうのを縫つていたら自分で子供をもつていので良心がとがめるわけです。ですから十枚で二百五十円とすると、手を入れて、いい製品を作るとしたら、八枚縫つて二百五十円でも、その労力に対しての賃金としては恥しくないので、どうしても私は七枚か八枚縫つて同じ賃金をもらわなければいけないと思うわけです。私もやはり仕事ですから、生活がたないことには続けることができないんです。そこは個人的に交渉しました。初めはなかなか困難でもつと安く縫うという人が出てきて、三カ月間私は仕事をストップされたんです。二十五円のどこを二十円でもいいというわけなんです。しかし私は自分から、じゃ私も二十円でもいいとは絶対にいい気はなかつたんです。農家のかたのつくろいでもしたほうがいいと思つて更生活を見つけて扱っていましたところ、店のほうから実は二十四円の人があつたから縫つてもらつたけど、売れないで、こんなにたまつてしまつた。だからあなたに二十四円ずつ払うからもう一回縫うところなことをやつてくれとおつしやつたんです。私はそれをするともしないともいう前に、「それなら三十円にして私が仕事を続けることができるでしよりか」と言つたら、勿論そのほうがいいとおつし

本原 大きいことは勿論根本的には政治につながるわけなんです、まずそれまでの段階として、私達にできることは、自分の周囲にある人々——みんな世の中を明るくしようという心があるわけ

です。でも世の中を明るくする運動をしますからどうぞ協力して下さいといつてもついてくるかたはなかなか少ないわけです。隣りに自分のところと同じ年の子供がいる。だから子供の問題から入つてゆこうと思つて、まずその方と子供の問題から話しをするわけです。一方、農村のお姑さんも、一回二回は子供の守りをしていないでいい日をもうけてあげようというよりなことから近づくにつて、それを少しずつ深めてゆく。また私と同じように内職をしている女の人も、合算的に時間を使つて賃金を少しでもあげて、いい製品を作りましようと思ふところから入つてゆこうと心がけております。

それが二年、三年になつてくると、一つの大きなまとまりとなつて現れてくるような気がするんです。それをなおかためについて、今後は政治的な、そういう問題に結びつきたいと思つております。

伊藤（リーダー） 本原さん、ここには職場のかたが少ないので、あなたから職場の問題として、内職のことを説明してくれませんか。

本原 私の場合、主人の二万円足らずの給料で、私と主人と子供三人の五人の生活です。ですから私としては社会的に尽したいと思ふのですけれど、それができないわけです。そこでせめて皆さんのためになつて、皆さんに迷惑をかけないような仕事をしたいと思つていられるわけです。私の場合は結婚してからすぐから八年くら

やるんです。わかつてくださったんです。それ以来ずっと五年になりますけれど、まずまず円満に仕事をしております。私がもしお金をもつていたり、時間的余裕があつたりしたら、社会的にももつと尽したいわけです。それができないから、せめて自分のした仕事に本當に皆さんに役立っているところを見つけて仕事を続けたいと思つていられるわけです。

島村 私も仕立物をやつた経験があるのですが、一番感ずくことは内職の賃金というものが、労働力として認められていないということなんです。また労働力として見なすという意識が内職をやつてい

る方にならぬということ、私の近所でもお蔭にならない安い賃金でやつていられる。それで自分は大変だ大変だとおつしやつていられる。なかそのへんのところに問題があるという気がします。

森野 私の場合は内職を出すほうなんですけれど、これは自分の仕事だという意識をもたないで、ほかの内職をやつていられるほうばかりに目をつけるんです。あの仕事だとこれだけとれるのに……と批判されるんです。いろいろ動揺される点が多いんです。

島村 やはり収入の多いほうにとびつきの人情じやないかしら、ただその仕事を良心的にやるかやらないかは別問題であつて……藤井 そういう問題の根本に、商業道徳が足りないというのか、もうけさえすればいいという考えが、大変社会の悪を増長させていると思ひます。マスコミの問題にしても、週刊誌が売れさえすればいいということ、青少年が見てこまるようなものを平気で売っている。また食べ物にしても、衛生上よくない色をつけて売る、また食品店でも、ちよつとお便所に行つて、その手でつかんでい

る。お客の前で上着ははさんでいるその良心のなさ、なにか根

本的なものが欠けていまいかと思ひのすけれど。

淵脇 私も実は子供を預かるときに、保育の会の幹部の中には、私達は主婦で暇があるのだから、困っている人にサービスマスするのは当り前じゃないか。それを労働だ、賃金だといわないで、向こうから下さるものなら志を頂くといい考えかたの人が多かつたのです。私はどうしてもそれは納得できなかったもので、ガンとして私は労働としてやります。それでなければいけませんと頑張ったのですが、労働というのに対しては考えかたを、もう一べん考えなおしてみなければいけないんじゃないでしょうか。

森田 どんな安い賃金でも世の中のためになると思つて働くことが社会的良心ではなくて、本当に一人前の人間の労働力を十分に尽くしているのに、その労働の十分の一の賃金しかもらわない、こういう制度こそ目を向けるのが社会的良心だと思ひます。

萩野 私の場合は、やらしてもらいたいと言つてきた時に、その人と、うちのものはこれがいくらでこれがいくらだから、それでもよかつたらという話合いを先にやります。三百円から三百五十円という程度のもので、労働がかわるのでもしたら四百円代のものもありました、その人の労働力と暇を考へて、まわすものが違うんです。未亡人にもつてゆくのものと、暇をつぶしたいからやるという人の場合とは違ふように私はみてやつております。それから長年やつていたかたが全然するとはなないんです。その間に動かされるのが私にはちよつと思ひを保持すけれど、皆さんには経済とか、いろいろありましようから、そういう動揺しやすい気持ちもあるだろうと思ひますけれど……。

後藤 農村もつてもだまつていられなくなつて……。なんて農

りに、本当にささやかに自分一人でやつてゐる。しかしそれを使う何百何千という人のことを考へてやつてゐるわけですから、そういう実践の低うと、労賃はこうでなければならぬという考えかた。それが結び合つた時に、これが政治につながるというところは当然なことです。いまいわれている最低賃金というのは、よそのことだ、組織労働者のことだというふうに考へるのではなくて、労働に対する報酬、一歩進めて人間が生きてゆくための、憲法で保証されている文化的生活をするための賃金として考へてゆく、そこまですくのがやはり社会的良心だ。そういうものが盛りあがつて政治というところを考へなければならぬと思ひます。もう一つのことは、このかただけに限らないで、全国的なオルグをみて、私の非常に目についたのは、ごみの処理、これは農村と言わず、都市と言わず、みんな困つてゐる。いつたいこれはどこからきたかということ、近代的な工業都市に交つてゆく時に建築した人は、あとは放りつばなしというふうな問題もあるでしょうし、いままで美しかつた河がごみでいつぱいになつてしまつたという問題もあるでしょう。こんどの豪雪で福井、石川、富山という地帯では非常に困つたわけですよ。そういう問題が出てきたというところ、それからいままでの農村なり静かな農村が、工場化していつた場合に、交通問題からして始まるでしょう。そこに例の交通戦争というところで、お母さん達が子供を学校に出しても安心しておれない。ブレイキの音を聞いたなら、みんなバスと家からとび出す。一体それが人間の生活であるかどうか、そういう問題をもつてゐるかたから出していただいて、少し話合いを進めてゆきたいと思ひます。

村のお母さん達は可愛想だと思つてね。自分であんなにして作つた農産物の製品を価値づけるということができないわけなの。

藤井 私もいまそれを思つていたんですよ。田口 私共もよく市場に買いにゆくんですが、お店では高い値なのに、市場に行くといふの、一くらの値段で買えるんです。トマトなんか一山十円くらい、年がら年中難儀して汗流して、これでどうなるかしらと思ひながらも、安いから喜んで買つてくるんですよ。

島村 その問題で農家の人にそういうことをいふと、私が休んで作つたものだからとおつしやるんですよ。その体を動かすことが、すなわちお金をこいひ意識がないといふことね。

木原 労働に対して価値を低くおきすきても……。子供をおんぶすることです。自分が朝の八時から夕方五時まで働いて、その働いたものに対する労働報酬はこれだけ、それをもらうのは当然だと思ひます。朝から夕方までオロオロしている人と同じだといふことじゃつまらない。農村の人も自分の作つたものを作ることはかり一生懸命にしないで、どうしたらその価値を下げないか時期的なものは共同でかんづめにするとか、そういうところまで手を組んでしなければ本当じやないと思ひます。

伊藤（リーダー） 内職というものの低位置と、それから皆さんがお出しになつた労働との問題は、いま日本社会のもつてゐる非常に大きな問題でしようし、二重構造がこのように激しくなれば、今まではなんとか内職をしないで済んだ人が、物価騰貴などでやらなければならぬようになってきた。したがつて内職の問題といふのは、これからは非常に深刻になるわけです。木原さんのよ

島村 P.T.A.に出まして、私の町の非常に交通量の多いところのシグナルとか横断歩道がない。その向こうから通つてくるお母さんが多いのに、どうして今まで解決されてないのかと問題にしたところ、その町のかたがおつしやるのに「うちの子供は、なれております、車の間を横切つて、サツとゆくのが、とつてもうまいんです」だから集団でそういう運動をおこす必要がないといふんです。私びつくりしてしまつてね……。

伊藤（リーダー） 「現代つ子」といふことを御存知でしょう。あの中に出てくる一つのタイプで、スイスイ族といふのがあるんです。いま言われたように、川崎の工場地帯の子供は、ダツと流れてくる自動車の中をスイスイ歌なんか歌いながら渡つてしまふ大人のほうに絶対渡れない、私なんかこわくて……。それが現代つ子といふことでちやほやされたり、もてはやされたりしていいかどうかという問題があるわけです。

河村 なんとかして交通事故を少くすることができたらということ、みんなで寄り集つて話しておりましたけれど、なかなか実行に移せなかつたのです。ある婦人会の集会の際に、とにかく交通量が多いけれど、なんとかしてこれを防ぐ方法はないものでしょうかといふことを提案したわけです。いろいろ意見がたふさん出ましたけれど、その中で一つ、女性として母として、自分の愛情をこめたマスコット人形を作つて、運転手に配り、私共がどれだけ心配しているかという心情を訴えたらどうだろうかといふ話が出て、全員拍手をもつて賛成したわけです。それから安全都市宣言一周年記念日の七月一日、できるだけ沢山のお母さんに参加を呼びかけ、公園などに集まりました。本当に祖末な人形でした

けれど、作ってみると可愛いくて、あげるのがおもしろいような気がしました。これだけおもしろいという気持ちをもった人形を渡すのですから、向こうに何か訴えるに違いないと思ひまして「運転手さんへ」という手紙を印刷して渡しました。その次からは私達の愛情をこめた手紙を書いたほうが、受取られて感じが違ひのじやないかというので、肉筆で思ひ思いの感じをこめた手紙を書いて人形にそえて上げることになりました。第二回は秋季交通安全旬間の時に上げて、その後は、毎月一日が町民安全の日になつておきますので、その日は誰でもいいから心ある人は街頭に出て、人形をあげる、もし人形のできない人は花束でもいいからあげて、無事を祈りましょうではありませんかということをやつておきます。そうしたところが本当に私達の心が通じたのか、運転手さんから、できるだけ事故をおこさないように一生懸命努めるからという手紙が次々とくるわけです。運転手さんからだけでなく、その奥さんから、私達運転手主人に持つてゐるものは、本当に車のキイという音がしたら、何か事故があつたのではないか、電話のベルが鳴れば、事故の知らせではないかと、毎日毎日生きた心地がしないとおつしやるんです。ところがその後このような温い心を寄せて下さるかたがあるということは非常にうれしいというお礼状をよこして下さるのです。私達は運転席の前に人形をぶらさげるのは運転の邪魔になるでしょうから、隅の隅でよろしいから私達と一緒にこの人形が皆さんを守つてゐる。皆さんのお供をするのだという気持ちで下さいという手紙をそえてあげるわけです。その作つた人形を二つばかり持つて参りましたのでごらん下さい。黄色のたすきをかけております。みんな自分

の家にある布端をもちよつて、毎回約千個作つてあります。渡す時は国道二号線が東西に走つておりますので、東京——熊本とか名古屋——福岡という車がひっきりなしに通るのです。それを止めることは婦人の手では絶対できませんから、警察のかたが署長さん以下ほとんど全部出て下さいます。警察の前で止めてくださるわけです。時には私達が人形を沢山もつて立つておきますから「お金がないからいりません」とおつしやるんです。(笑聲)

「いいえお金を頂くのではないんです。あなたがたの安全を祈つてこれを渡上げます」というと、長距離トラックから降りていらして、「ああそうですか、どうもすみません」といわれるんです。非常に喜んで、言います。こういう私達の気持ちで、少しでも事故が防げればというので、続く限りやりたいと思つております。それだけではなしに、人形を作つておきますと今までのいちばん交通道徳を守つていないのは婦人に多いそうなんです。

伊藤(リーダー) 賛成(笑聲)

河村 買物に行つても、つと横断歩道でないところを通るんですね。ところがこういうことをやつておきますと、横断歩道を渡りましょうという調子になります。ですから運転手さん、その家族のかただけではなしに、私達自身が非常に目覚めさせられたと思つております。

伊藤(リーダー) 家庭でお母さんが人形を作つてゐると、子供達に對しても非常にいいわけでしょうね。

河村 はい、それとこれを作ることによつて人と人とのつながりというものができらんです。私のところはいま近代都市に変化しつつあるところで、今までの農村的な考えをもつてたかたと、都会

からどんどん入つてくるかたとの差がひどいわけです。ところがこの人形を作ることによつて、婦人会にも入らない、入つても何んの役にも立たないと嘗つていた住宅のかたが、どんどん集まつて下さるようになりました。結局人形造り即人造りということができたということで大変な収穫だつたと思ひます。また好きなかたがたは人形趣味の会を作られて、内職にもなつてゆくわけです。最初は交通安全にみんなが協力する意味で作りましたが、それが知らないうちに、そういう方面に発展しつつある状態です。

これが私に來たお礼状です。福岡市のかたですが、運転手さんからの訴えとして、被害者にも非常に間違つた考えをもつてゐるところがあるので、こういう点について氣をつけてほしいと力説してゐられるのです。

庄野 わりあいにはタクシーの運転手は良心的なようですけれど、ダンプカーの方はぐつと質が落ちるそうです。

猪飼 昨日私、東京の町を歩きましたけれど、京都と比べて、東京は整然としているように思ひました。京都なんか歩きますと右側通行でさえも守られていません。根本的なことだと思ひますけれど……。

福岡 山口のかたにお尋ねしたいのですけれど、このような問題を組織的に取上げていらつしやることに非常に感心しました。それにつきまして、千個の人形という相当な数ですが、ある程度お金がかかると思ひますけれど、会の運営としてどのようにしておられますか。

河村 顔と手足の布だけ婦人会の席で買つております。それと中に入つてゐる針金、リボン、タスキこれだけを婦人会が世話をし

ています。あとのものは全部自分もちなんです。どんな布端でもいいから出すわけです。

堀脇 いちばん最初、こういうことをやろうと考えたかたは、どんなでしようか。

河村 いちばん先に、事故がこれだけたくさんおこるのだが、何かいい方法はないでしようかと提案したのは私だつたのです。そしてたら大きな幕をつけるとか、いろいろ出たのですが、あるお年寄のかたから、人形を作つたらどうでしようかという話が出て、女にふさわしい仕事だということと満場拍手をもつて、みんな立ちあがつたわけです。一度この人形をあげて出したら、本當にまた出ようという気持ちになるんです。人形を渡します時は、涙が出るような氣がします。この運転手さんが無事でお勤めができればいいかと、その自動車のうしろを見送つてゐるような状態です。

伊藤(リーダー) しかし、この人形のまねをまちこちでしないことですね。日本中の自動車が入形ばかりもつて、事故はちつとも減らないということになつたら困ります(笑)

最後にごみの問題をもつてゐるかたはありますか。

猪飼 私も十九年前に町から農村に嫁ぎました。カとハエが多くて、煙だらけにいぶしておいてその間にごはんを食べてしまふといつた調子、ハエがごはんの上に沢山をかかつていても、慢性的になつていて、なんとも思ひません。ごみ捨て場は川で、みんなバツバツと捨てる。その川で洗濯をし、野菜を洗い、手を洗い、ひどいところになりますと顔を洗つています。ちやうど婦人グループを作りましたので、まずカヤをつらないでもいいような町はできないかしらと相談しまして、女だけの力ではむずかしいといひので、町々

るみの運動にもつてゆきました。美里会という組織をつくり、町長さんに会長になつていただき、下水、お便所に全部フタをすること、市の衛生課の方に御指導願つて、ハエとかの発生時期には、一カ月に四、五回、冬は一回か二回全部を消毒して歩くんです。みんなが手を携えて一緒にやりまして、一年たちましたらカヤをつらなくてよくなりました。また青年会もいろいろ協力してくれまして、お墓参りして、竹筒をそのまゝにしておくと、そこにカがわきますので、そういう始末もやり、また村中一斉の川掃除もやりました。川にごみを捨てないようという立札が立つてゐるのですが、それでもつい習慣になつていて、バツとやる心ない人が未だにあるのです。私、この運動を通して思つたのですが、農村は今まで力でもハエでも、こんなものだと思つて生活してゐる傾向が非常に濃いです。小さいことなんですけれど、一つずつでも打破ることが私達の力でできるのですから、これからも一つ一つできることを見つけてやつていつたら、もつとよくなるのじやないかしらと思ひます。

大村 私には仙台の北の郊外ですが山に囲まれてゐるんです。立札を立ててもどうしてもだめなんです。それでよく考えるのですけれど、その人達は結局ごみを捨てる場所がないんです。市にごみを集めて来てくれるよう頼むのですが、一寸遠いのですから、なかなかきいてくれないんです。車が足りないとか、予算が足りないとか……結局公德心とか、良心とかいつても、それだけじやとてもだめだと思ひます。それ以前の問題を解決しなければだめじやないかと思ひます。

森田 環境衛生とか、交通戦争といふことを、私達婦人、とくに主

婦は広い立場から、この状況を理解したいと思ひます。こういう問題は終戦直後は出ませんでした。ごみの量は文化のパロメーターと言われますけれど、昔はたつたへたも食べていたけれど、今は食べ残す、百貨店の包装紙も昔はありませんでした。パンフレットなんかもいっぱい送つてくるようになった。日本の経済が拡大すると、それに相応してごみの量が増えてくる。これはいたしかたないことです。お便所のほうも昔は百姓さんが家にとりきつてくれて、うまいことその処理ができていたのですが、いまは、ほとんど化学肥料を使うようになりまして、これもやはり日本の国が近代化されて物質的な豊付けというものがどんどんできてきた。その一つの現れで本当は喜ぶべきことだと思ひます。

また交通戦争というよりなことも、自動車工業が発達してきて、売らんともうからないから沢山売る。それで車の量が増えてきて交通地獄になつてゐるのですが、ここで考えたいのは、文化が進んできた場合、ほかの先進国だったら、それを受入れる体制——われわれの心構えとか、あるいは政治とか、そういう受入れがスムーズにゆくだけの用意があるわけです。自動車工業にそれだけの生産を許すなら、まず地獄にならないように、広い道路を作るという受入れ体制が必要だし、文化が発達してごみがふえてきたら、その処理場が必要になつてくる。また肥料工業が発達して、人糞を使わなくなつたら、それを集めて処理する。下水を完備するという受入れ体制が絶対必要なのに、日本はあまり急速にやつてしまつたから、受入れ体制がない、神武以来の受入れ体制のところ、企業だけいやに近代的なものが出てきたところに大きな

ひずみがあると思ひます。私は奈良ですが、千三百年前の平城京の一条道、三条通りがそのまま残つてゐる。そこへ東京でも見られない二階建のバスが大阪から入つてくる。二、三十台もドリムランドに殺到してくる。肝心の人間さまがその度に軒下へぱりついて難をのがれる。沿道の家はきつ粉をまぶしたようにほこりだらけ……。文化国家だけれど、それを受入れる環境は平城京時代です。このアンバランスを私達はよく知るべきだと思ひます。これはやはり個人の努力ではどうしようもないことで、やはり政治力に頼るよりほかに。ところが町の人、とくにインテリィのわるいくせで、これは政治の貧困だ、政治がわるいといつて知らん顔をしている。これはやはり社会的良心がないと思ひます。こういう時代になろうとは政治家もちよつと想像してなかつたと思ひます。ですからこれは一種の困難で、予期しなかつたことがおきたのだから、政治家も一般民も力を合せて、なんとかこの危機を打開しないと、本当に大混乱がくると思ひます。これからの近代国家の政治家というたら、浪花節型の人より、科学者のような人をもつてこないとかさばき切れなれないと思ひます。そしてこのギャップを埋めるような政策をとつてくれる人を、どんな地方の議会にも、中央の議会にも送るべきだ、こころへんで私達の社会的良心を発揮したいと思ひます。

島村 ごみ処理について、連合婦人会がこの問題に取り組んでゐる話をしてしたいと思います。

「これは個人で解決できる問題か」「町村で解決できる問題か」「県で解決する問題か」といふし分けをして、的確にこれは個人でやらなければならぬから、こつこつにやろう、これは町で

やらなければならぬから町村の連合婦人会、これは県でやるべきだから県の連合婦人会でやろうといふふうに分けてあり、いまそういう方向に向かつてあります。再生業者が紙を一年間に十億回輸入してゐるのだそうです。だから私達が家庭で、ごみ処理の時にバツバツと捨ててしまわずに、そういうのを仕分けして、業者に売るようにしてあげばいいのじやないかという会長さんのお話を聞いて、非常に感心したんです。

伊藤(リーダー) 特別オブザーバーのかたで、何か御意見のあるかたからお願ひします。

岩崎(特オブ) ごみの問題に関連したことです。これが、これこそ本当に主婦の一日もゆるがせにできない悩みの一つではないかと思ひます。

これこそ本当に政治に反映させることによって、婦人の力で解決できる問題だ、まず私共ごみを出すほう、またそのごみを処理してくれる役所のかた、現場に働くかた、その三者会談をいたしまして、税金で処理して欲しいと思ひます。必ずできると思ひます。それに関心をもちまして、役所の予算などを婦人自身の手で調べて、増額してもらい、処理場を作るとか、焼却場を作るとか、そうすると今までのように不公平にもなりませんし、大変スムーズにゆくのではないか、それについていろいろ細かいこともありますけれど、その柱でもつてゆけば、有権者にしても婦人のほうが多いのですから、婦人の力でこれは必ず解決できる問題だろうと思ひます。東京においても団体で結合して徐々にそういうことにとりかかる相談をいたしてあるわけです。

大野(特オブ) 内職の問題で賃金関係が出たので付け

加えておきたいと思ひます。

私達組合でいろいろ仕事をやっておりまうけれども、なんといひましても、絶対量が——物価が非常にあがつてきているのに、生活する費用というものが非常に安いということ、賃金が安いということ。まずこれを物価高に見合うような賃金にしなければならぬということに、まず組合として一番力を入れておりますけれども、なかなかそうならない。また同時に農村の生産した品物を買うについての消費者に対する保護もやはり個人の力でできませんので、労働組合の家族会、主婦会というのを作っておりますけれども、そういうところを皆さんが、一緒にやつて、当然に政治の力で、やはり国家予算とか地方自治体の予算をとつて、そういう人達を保護しながら、生活する一般の人達に迷惑のからぬという形が非常に大事じゃないかというふうに考へております。そういう面からも私達は皆さんと一緒に今後も努力を續けてゆかなければならぬし、現在もやつておるわけです。それから内職をしている人達でも、未亡人のかたなどと一緒に生活しなければならぬという賃金と、奉仕の精神という事で意見が対立したようですけれども、やはりその仕事に見合った最低賃金というものが出てこなければいかんと思ひますので、運転手は運転手に見合った賃金の最低はもう農村の人なら農村の人が生活するに必要な賃金というふうに最賃制というのを土台にして、それに各家庭の人が働いた場合に生活できる賃金というものが出て参ります。それに、消費者に対する保護、生産者に対する保護という問題も、政治の力で保護政策がとられれば、非常にきれいに解決すると思ひます。その点が非常に大事じゃないか。もう一つは、政治やつている人達と、選挙す

ンスが来ている。それは経済のアンバランスからきていることは間違いない。文化も二重構造、三重構造になつてゐる。そういう時にわれわれがなすべき仕事、われわれが政治をされているのではなしに、われわれが政治をしているのだという立場から、ものごとを考へれば、ささやかな交通マスコットにせよ、その地区だけで終つては日本の交通安全はないわけですから、それが広く、どのように社会とつながつてゆき、われわれが政治をする立場にいかにして切換えられてゆくかというようなことを一つ話合つたらどうかと思ひます。

(休憩)

る一般の住民の悩んでいる問題がつながつてないというのが、現在の政治の問題じゃないか。私も自分の住んでいるところで、どこかどぶの問題をやつていますけれども、実際その土地から出ている議員さんに、具体的な問題を持ち込んでも、消化できないわけです。選挙の時にはきれいなことを話すというが、いまの政治の欠かんであつて、私達がやはり身近な問題をつきあげていつて、そういう人達をもつと下に引きおろして、生活に結びつけた政治にしてゆくということを私共は今後努力してゆかなければならぬと思ひます。

淵脇 ぶみ処理とかどぶの問題は団地は片付いています。それは私達が家賃の低さにその人達を雇うお金を払つてゐるんです。そこに問題があるということをおしやします。

伊藤(リダー) 農村の閉鎖性、都市団地生活の孤立性という問題、そういうところから新しい近代的な人間関係の生みの悩みのようなものが語られたと思ひます。それについては、やはり日本社会のもつてゐる古い組織なり機構なり、習慣といつたものと、どう闘つてゆくか、あるいは処理してゆくか、考へてゆくか、プライバシーという問題——個人と集団という問題、そういう角度からさらに深めてゆきたいと思ひます。

第二は日本人の生活の貧しさ、それに伴う内職、内職における賃金というものの、つまり労働と賃金の考へかたというものの、これがやはり今日われわれが社会的良心というものを論ずるならば、そういう根本のところにも問題があるのだという考へかたを、午後はとりあげてゆきたいわけです。そして最後は、交通とか、ごみとか、いうことだけではなく、日本全体にいま文化のアンバラ

(再開 午後一時半)

藤井 いろいろのことが政治につながるといふ問題についての話ですが、私達は自分が一票入れるということにはかなりの勉強ができたようですけれども、入れた政治家をどうするかということが、まだなんとなく行き渡つていないようです。

私の村で保育所がなく大変困つてゐる時に、仏教婦人会がお寺に保育所を建てようということになり、とにかくお金が集まればいだらうという事で婦人会の連中とか、お寺の係りのかた達がいくらもお金を集めて建築にかかりましたら、それは大変な違反だつたそうです。そして、もうどうにもならないところまでいつた時に、私達の推した婦人県会議員がちょうど福祉の係りの政治家だつたものですから、私達はあなたを推したのだから、どうかこの問題をあなたの力で県当局に世話をいただいて託児所が開かれるよう尽力願いたいと頼みましたところ、大変に尽力して下さい、補助をいただくところまでこぎつけ、近く開園式ということになりました。これは私達が自分の推した議員を地域の福祉のために利用したということだと思ひます。

後藤 横のつながりということについての話ですが、まず思ひまれない子達とか、弱い人達に対しては、国で面倒をみるのが建前だと思ひますけれども、そういう国でももらいたくないことを通すためにどうしたらいいかというと、まず私達は私達でできることをする、たとえば、特殊学校にも入れてもらえない、施設にも入所できない子達に一日でもいいからたのしい思いをさせてやりたいという二、三人のお母さんの願いから、特殊学校の先生、福祉事務所の人々そのほか多くの人達の好意にささえられながら、一か月

に一回日曜学校がもたれたわけです。いろいろなつづきがありましたが、社会福祉協議会に行ったり、また福祉事務所、それから市へというふうに向けられていつたわけです。水沢の子供を守る会という組織の力強い協力があり、社会福祉協議会が運営の主体となるようなところまでなつたのですが、これは本当は国でしてほしいので、いま水沢市と江刺市と合同で公立のものにしようという動きがあるのです。その間厚生省にも何べんも陳情に行きましたが、その時も地元の前田さん達とか、民生委員とか、福祉事務所・福祉協議会という小さい民主団体の人達の協力がいつも私達のまわりにあつたことが、公けのものを対する運動の一番の支えになつたのだと思います。

伊藤（リーダー） 鳥村さんは保育所で苦勞しておられるのですが、あなたが自分でやつていて、それが保育所として認められる設備にまでなつていくのですか。

鳥村 いま乳児保育所の設置運動をしていて、何回も市会に陳情して、本年度は調査費をとるところまでいつたわけです。これからそれをどういうふうにして私達の運動として展開するかということが問題なのですけれど、そういう運動をやつていて、一番私が感じるのは、地元婦人会がそつぽをわいてくれているということなんです。というのはこの設置運動をやっている人たちの中に、非常に革新派な人がいるということが一つの原因だつたのです。女にとつて子供を守るといふことは共通な問題ですから、そういう時に主義主張に関係なくみんなが手をつなぐなければならぬのだという意識をもつてほしいものです。近代社会においては、働くお母さんを保護する施設は絶対必要だといふ問題意識をぜひとも

それには住居の問題もありますし、やはり大がいのかたは有料の老人ホームに入りたいとおつしやる。無料はみじめな感じがするのでしよう。だからそういうことは皆さん三十才くらいから経済的なことも心がけになつていひのじやないか。私達の年になつては遅いのです。子供達の幸せを考えると共に自分の老後もあるようにしたいと思ひます。またこの老人問題では、私達の地方会議でも、ホームヘルパーという制度を地方にも沢山作つて欲しいという要望が出ました。家族のいない老人を世帯する人がいないからです。

後藤 金が崎の公民館では、人世大学という老人の学習があるので、七十五才以上の老人を集めて、町内三カ所に分けてやるんですが、婦人会はPTAということにして、その時に応じて、お世話しますが、たいていは公民館がやつて下さるわけです。その学習はこの頃の町政はどうなつてゐるか、産業はどう進んできたかというふうな勉強をしたり、またレクリエーションとして、十円もつていき、役場の栄養士が作ったお弁当の給食もあります。うちの年寄りも二人とも出かけますけれど、かつこう一日たのしうですね。昔のよかつたことを年寄りのくちで話合つたりして、かつこうなぐさめになつて帰つてくるらしいのです。

芦沢 精進の特殊教育が必要だと認識してお母さん達は、それだけ進歩性があるのでいいと思ひますが、問題なのは、特殊学級を必要でないというお母さん達です。農村では、道徳とかで世間体を気にして特殊学級に入れたがらない。普通学級でとにかく話をしてくれというんです。しかし普通学級でIQ二〇〇八〇くらいの子供を指導しろといつても無理で、とりもたれた子供達は

つてほしいということが、私の一番の願ひです。

淵脇 やはり団地でも保育所が欲しいという問題は切実にあります。しかし保育所は、所得の額が決まつていて、団地の共済のような場合は、所得が多いので入れないんです。ですから自治体として公立の保育所を作ることではできないと蹴られるわけです。しかし団地に保育所は絶対にほしいという要求で、それをどこにもつてゆけばいいかという悩みをいつももつております。

伊藤（リーダー） 保育所に限らず、老人のための施設とか、肢体不自由者とかについて何かありませんか。

福岡 私達の地域婦人会ではお年寄りに、いまの時代のあり方について理解していただくには理論ではいけないということをお話しして、明治生まれの会、七十才以上のかた全員が集まる会を毎月もち、婦人会でお茶の接待などしているのですけれど、役員の中には、私達も忙しいのだから、お年寄りの会に毎月出るのには不可能じゃないかという人があつて、皆さんに気持ちよく続けていただけないので悩んでおつたわけです。ところが会員の中から、私達にできるさやかな善意として、とにかく園芸ができるから、この園芸だけでも活かして、お年寄りに喜んでいただきたいという声があり、そのかた達に毎月お年寄りの会に入つていただいて、非常にお役に立つております。

藤井 私はこの中では一番の年長者ですから、老人ホームに関心をもちております。私達の年令になりますと、これから老後をどうしようという問題が切実に考えられるわけです。私達の年令のものは、子供達には子供達の生活があるから、自分達はできることなら厄介にならないで別居したいという考えをもつております。

精進見ですから、悪への抵抗が弱く、犯罪のほうにいつてしまふ。犯罪者の中で精進見が二〇％を占めているという現状です。そういう犯罪者を取締るだけが社会の問題じゃなくて、犯罪者をなくするのが一番の問題じゃないかと思ひます。また地教委のかたでも、お金をいくらかけてもなおらないのだから、そんなところへ金をかける必要はないといひます。またIQ二〇〇くらいの人達でも大学へ入れたいという親があるんです。いま特殊学級の設置されているのは僅かですし、収容率はわずか二％です。残された九八％の子供達は家で遊んでいるとか、普通学級でつまらない遊びをしているんです。そういう子供達にやはりお母さんがたが、もつと力を貸して、特殊学級の設置に動いていただければならぬのじやないかと思ひます。

伊藤（リーダー） 医学が進んで長生きするといふのは、人間にとつて非常に幸せであるはずなんです。しかし多くの人が雇われる社会——つまりサラリーマンである結果として、停年制というものが、あります。そうするとサラリーマンから離れた年寄り、あるいは農村にいては、もう子供達も出てしまつて自分では働けないという老人が非常に目立つて多くなつてゐるわけです。それはただ単に月一回の老人をたのしませるというふうなことで解決するかどうか、そういう問題を皆さんで考えて、そのための施設とか、広くいえば社会保障にもなるでしようが、そういうもののために婦人がどういうことをすれば、一歩でも前進するかという意見をどうぞ。

鳥村 そういつた問題をどういう観点からとらえるかということ、まず私達考えなければならぬのじやないでしようか。特殊学級

に入れたくないということも、結局人間は平等で、その子供、子供の能力に応じてやはり生活があるのだという考えかたをしていないから、なんでもかんでもある一定の線までとにかく押上げて、学歴偏重の世の中に自分達も波にのつてゆこうという考えかた、また老人ホームの問題にしても、やはり老人にも生きる権利があるのだ、たのしみ権利があるのだということを考えなければならぬのじゃないか。そういう観点から私共も問題をとらえてゆくし、そして政治家もそういう観点から問題をとらえてほしいと思います。

藤井 農村では田を耕し作物を作る仕事ですが、これは若い時でなければできません。何の保障もないので、若いものはみんな都会出稼ぎに行つて、とり残された老人は土地を売ろうつたつて買手はありません。農村の片隅にあるその老人の問題はどうにも手がつけられないのであるわけです。

木原 私は現在は仕事の都合で別居はしておりますけれど、主人の母がおり、もう七十で、身体は元気ですけれど、やはり会う度に早くなんとかしなければと思うのです。社会保障が進んだ国でしたら、老人ホームに入つていただくことができるのですが、いまの実情では、私達がいくら運動したところで今日明日というわけにはゆかないんです。これはまた私達にもつながっていることです。すから、若い人は自分の生活に追われることは勿論ですけれど、いままでの御苦労を察してあげるべきだと思います。ですから私の場合、母にもしものことがある前に、とにかく同居しようと思がけています。また私達の側からいえば、老人自身も子供達にたよるという気持ちよりも、できるだけ最後まで力を合せて働

た今日、私達がささやかに月 回の老人のお世話をするということとじゃなくて、古い因習を破るにはこのよりな明るい場をもうけなければ、新しい人間関係は生まれないのじゃないかと、私は思うのです。

伊藤（リダ） ひとつてエピソードを申し上げますが、これは現実にあつた話です。高知県の山のほうで、一人のお年寄がある朝、村の中の大きな木に首をくくつて死んでおつた。学校に行く子供がみんなそれを見て、校庭でワイワイ騒いでいた。先生がこれは大変な問題だといふので、教室に入つた瞬間に人間が自殺をするとはいふことかわるいことかと聞いた。五年か六年です。そして「だつてしょうがねえや、あのおじいちゃんひとりもんだつた、あのおじいちゃんには身寄りがない、あのおじいちゃんには貧乏だつた、だからしかたねえよ」子供の答がほとんどそうだつた。先生がびっくりして「あのじいちゃん若い時に、この村で一生懸命働いて、お米を作り、野菜を作り、みんな食べさせてくれたじゃないか。それだけ働いた人が年をとつて働けなくなつて身寄りがなくて、一人だつたらみんなこれを助けてあげなければならぬのじゃないか。外国には社会保障制度というのがあるのだ」といふことを教えた。そうしたら、ある日、教育委員会から呼び出されて、あなたは社会主義を子供に教えている……と云われたんです。現実にあつた話ですよ。私共の社会はまだそういう段階だということ、そしてこのことは一べん笑つて、あとでしみじみと考えなければならぬ問題だと、参考のために話したのですけれど、いま皆さんから出ている問題は、ある点でどういふ問題にかかわりがないといえないと思うのです。

いて、そのあとは何も心配しないという心構えでいてほしいと思います。

永浜 何をやりましても、人造りということが大切だと思います。そして話合ひの場を身近かにもつということが、私は第一の問題じゃないかと思うのです。天下國家を論ずるというよりな、そんなむずかしいものじゃなくて、近所のかた五、六人——あまり大きくならないほうがいいと思います——集まりまして、自分のやつてきたこと、また自分はこうしたとか、こうしたいということ、話を合つていこうと、いろいろ自分で反省したり、あのかたはこうやつたのだから、私もこうやつてみようというふうに考えられるのじゃないかと思っています。

萩野 社会保障の問題に関連して、育英資金のことですが、私のほうに仕事に來ている人のお子さんに育英資金で学校にいつて今年卒業して、いまから社会に出るという人がありまして、その人は十何年かかつてその借りたお金を返還する気持はもつていられるけれど、近所の人で、返さないでもいいのだという人がいるが、どうしたものだろうかとという相談がありました。それで私もよくと調べましたところ、今年二月末現在で全国の学生にお貸しした金が五百六十億で約百二十三万人という数字です。そのうち私の県は四億七千九百万で一萬三千八百人、そのうち返還している人が五五%しかない。二十年賦だと、月何百円にしかならないものを返さないでいる、そこにも社会的良心というものが欠けている例がある。ですから社会保障に対しても人造りということが大切だと思います。

長崎 このように新しく社会が移り変つて、私達の生活も変つてき

田口 老人側にも考えなければならぬ点があると思うのです。秋出市でやつていられるホームヘルパーで、婦人会の人が行きましたも、なかなか仕事をやらせてくれないのですね。そしてカラにじこもつて心をあけようとせず、助けられたいという頑固な気持ちがあるのです。経済的な心構えを今からすると同時に、私達は可愛がられる老人にならなければならぬという心構えも必要じゃないかと思っています。

庄野 私の隣の町におじいさんとおばあさんの兄妹がおり、二人とも八十近くなりまして、火の用心がわるいというので、民生委員が世話して、養老院に行くように奨めたのです。徳島には市内に二か所養老院があります。どうしてもいやだというので、二年かかつたわけです。風呂にも行かず、栄養もとつておりませんので、汚い着物のまま、扶助をもらつて生活していた。とにかくつとこのことで養老院に選ばれたわけですが、その時に現金を十一万八千円もつていた。重箱に入れて、木綿の白糸でかがつてあつた。またシマの財布を首にかけていて、それには九千円くらいの現金が入つていた。この金を施設のほうに出してしまおうかどうしようか問題になりました。出してしまえばすつかりとられてしまふので、これは民生委員が保管して、何かいるものがあるとか慰問に行く時に使ひましようということになりました。五日目にその民生委員のかたが慰問に行かれますと、散髪もきれいに洗髪した着物で、金持の老人のようにして養老院に座つていたというのです。だから自殺をする前に、婦人、あるいは民生委員が手をさしのべて、その人達をお世話したらと私は思うのです。

伊藤（リダ） 皆さんが、いろいろな善意ある行動をなされようとした場合に、

市町村当局とか、何とか委員というものとぶつかつたり、矛盾してどうにもおかしいという問題もあらうと思ひます。後藤さんが昨日出されたおしの子供の場合も、婦人達が社会施設とか福祉行政というものをあまり知らないというところにもあつたわけでしょう。

後藤 そうなんです。一人一人が知らないのだけれど、知らないことは本當にしかたないと思ひます。自分にかたわの子供があつたら、みんな関心をもてるようになったらと思ひます。ただそういう子供をもつたり、そういう問題にぶつかつた時に、どこにゆけばいいかということが問題だと思ひます。それから受ける側も、自分でわからなかつたら、なんとか関係団体とかにいつて解決の途を見つけないと、誠意があつてほしいと思ひます。森田 民主主義の世の中はありがたくて、女の人がいろいろデータをもつて地方自治団体に行きますと、いうことをよく聞いてくれます。私のほうでもごみ処理、清掃問題で婦人会の人がみんなで施設を見学しました。非常にお粗末なもので、その時印象に残つたのは、清掃労働者の更衣室、ごはんを食ふところ、お風呂もなくて、あのきたないものをかぶつて、そのまゝの口でごはんを食ふてゐる。非常にいい勉強になつたわけです。お役所というのはそれが公けになつて新聞にのると困るので、動いてくださるんです。清掃問題でも、婦人会がよく動いてゐる地方では、やはりそういう施設は充実していますから、どんな意見を出すべきだと思ひます。

後藤 そうですね。困つたことをまつりごとをする人にわかつて

ことが非常に沢山ありましてそうしたかたがたの社会的良心というものを考えさせられるのですけれど。

萩野 自治体がもう少し事務的にばかり動かないで、その場その場で実施の体験でそれを取りあげるようにしてもらいたいと思ひます。

大村 マスコミでもいらんようなことはずいぶん沢山流れるのですが、なんとかして大事なことをもつと大衆の中に流すということができないうちでしようか。

島村 私もそれが言いたかつたのです。私の属する母と女教師の会では、子供達の幸を守るためにどうしたらいいかと、去年の秋七百名が集まつた——七百名の女性が集まつて大会をするというのは鳥取ではこれ一つだけなんです。それが駅伝競技のためにボイコットになつたということで、マスコミに対して非常にいかりを感じたわけです。そういうことが私達の周囲に沢山あるわけですね。

瀧脇 田舎にいと、ボヤツとしていても大体村の中、町の中のこととはわかるのですけれど、都会になると、それこそ隣のことともわからない。まして地方自治体の政治とかいうことはさつぱりわからないんです。地元について地元が全然わからない。私、町長さんのところへ行きまして、町の広報活動が住民にどの程度されているのかというのを伺つたのです。そしたら三カ月に一回半紙一枚の広報が出るだけですし、町議会も聴いていいということになつてゐるのに、いつ聞かれるかはどうして知らされるのかと聞いたら、役場の脇の黒板に告示されるだけなんだそうです。そのようになんにも教えないでいて、選挙の時だけいつたつて無理だ

らうための努力は、やはり困つたことに直面してゐる人達がしなければならぬのじゃないかしら。なかなか一人で行つてお願いするということにはむずかしいから、その時こそ、自分の入つてゐる組織でもいいから、組織ごとになつていつて、向こうの人にわかつてもらうということが、私達婦人にとつては大事じゃないでしょうか。

藤井 私のところでも、そういう例があります。道路がたんに横みたいて、自動車やバスが通るとどうなつてしまふんです。あの時、田植をしてゐる人の頭に石がぶつかつて怪我をしたのです。その婦人たちが十人くらいが、何とかして県に訴えたいというので、方法がわからなかつたところ、陳情書で出さないといふことで、こまごまと書いたのだそうです。それで土木部長、課長を動かして、「その道路は河内トールですか」とその婦人に聞いたら、それが答えられないで、みんな顔を見合せて、何メートルかしらといふことで、婦人の勉強が足りないといふことが指摘されましたけれど、結局力を合せて陳情したといふことで、聞き入れてくださいました。

猪飼 私のほうで井上さんといふかたが老人ホームを建てられたのです。井上さん御自身が滋賀県中を歩かれて、ふるしきをさがして、足袋一足から売つて資金を集められたのです。むつみ会という組織で、一人一人会員をふやしていつて、二年前に立派な老人ホームが建つたわけです。その井上さんの姿を見てゐると、本當に女でも志してやつたら、あんな立派なことができると感銘してゐるのですが、その場合、善意を阻むものは、お恥しいのですが、えてして同性の人が足を引張ることなんです。それに類した

と思ひます。有線放送みたいなマスコミの方法というのがあるつたら本當にいいと思ひます。それと、知らせてくれという声を、私達は自治体に向けて大きく言わないといふかと思ひます。私は今度この会を機会にして、町政を監視する、議員さんがあまりおかしなことをしないように、本當に私達のことをしてくれようという婦人運動をしたいと思つております。

河村 福祉施設の設置を進めるためには婦人会というのでも大きな力をもつてゐると思ひます。しつかり婦人会活動を推進しなければいかんと思ひます。私のところにソーダー会社がありまして、ソーダー坂で家庭の主婦が悩んでおりました。これを婦人会の結晶した力で、会社に請願書を出したところ、すぐ考慮され、いまでは非常に喜んでおります。

伊藤(リダ) 社会保障と福祉行政といふ言葉がかなり出て参りました。こんどのテーマの社会的良心といふことになれば、当然行きつくところだつたわけです。ところがいまお話を聞いていて、私としてうれしく感じましたのは、社会福祉、社会保障と、うことは、だまつていても国がしてくれようといふことではなくて、あなた一人一人が横に手をつないで、小さなことから、可愛想な老人がいれば、その人にまづたのしく生きる道を考へてやる。そういう人達が全国にたくさんいるといふことになれば、非常に大きな社会的な変動が来ていることは明らかです。そうすると、それは当然皆さんの行動から陳情となり、それが地方行政から国の政治につながる。つまり社会保障は国がしてくれものじやなくて、私達が行動することによつて、国もだまつておれないといふところに、本當に一人一人の社会的良心で政治につながる

ということになるのじゃないか。そういうことを皆さんの御発言の中からつきりつかみ得たということです。

私、社会的良心というものを考えた場合になるほど良心というものは、一人一人の胸の中にあるものであつて、非常に個人差のあるものであるし、個性的なものだと思ひわけです。その個性的な良心が横につながらる時において初めて社会的良心になる。したがつて一番大切なことは、良心の組織化とか、良心の社会化というものが出てこなければならぬ。それが皆さんのところでは、各々の立場、各々の地域でできているわけです。

つまり良心というものは心の問題と考えがたけれど、それが価値をもつためには行動がなければならぬということです。よく人造りとか、道徳教育ということが言われますけれど、道徳は親に孝行すればいいのだということを考えることじやなくて、具体的な行動をしなければ道徳価値というものは出てこないと思います。

この二月の労働省の婦人少年局の調査によると、調査をした半数のかたは、市民による社会サービス活動の必要は認めているんです。七〇％は社会サービス活動——福祉にしろ、社会保障にしろ、何かお役に立ちたいということはあるわけです。ところが実際にやってみないかということになりますと、つまり直接活動に参加できない、していないという理由としては、時間がない——これはよくわかつています。その次に適当な方法や機会がない、これはとりもなおさず問題に出ました情報——そういうつたルートがあるとか、そういう方法でゆけばいいのだということとがわかつていないということです。それから組織、グループを

れ着物を染めたいとか、テレビをどうとか、ハミを買ったとかその時に、「でも私達の主人がいまほつこり死んだら、私達どうなるでしょう。」と言つたんです。商売があれば商売を続けてゆくでしょうけれど、いま夫の経済力にだけ依存している階級では、夫が死ねば、何らかの退職金などは入りますけれど、いつべんにとじきのようになつてしまふ。もしそうなら皆さん何になれると思ひ、いいところ旅館のなかいさんか、洗濯する女の人、そのくらいしかできないでしょう。そう考へてみると、サラリーマンの主婦で、天下泰平で、生活設計派で、自分の城を築くことばかり専念して、非常に恵まれているように見えても、一度むけば、非常に危険な、社会的に保障されていない生活です。冷蔵庫なんか買つて充たされたような気持ちになつてはいるけれど、自分達の立場を冷静に考えると、そつとするやうな中で生きているということとがみんなわかつて、社会のことなんか自分に関係がないと思つてはいたけれど、これは大変なことだ。停年ということも社会問題だし、給料が年功序列制から職務給に変つてきた、賃金体系が変つてきた。そういうことを考えると、天下泰平でもなんでもない、危機の上に生きているというのを奥さん達が知つて、なんとかしなければならぬと目覚めて下さつたのですけれど、そういう無関心派の人達をどうして社会的に目覚めてもらつて、みんなで手をつなぎましょうというほうに向いていつてもらえるようになるでしょう。

伊藤（リーダー） 私のおきき立場のものには身にこたえる話で、ボカッとゆくの事は亭主のほうらしいので……（笑）実はこの問題は相当これから皆さん活発にやつていただきたいのはさつき申しました

もつていないということです。そうするとこれからは皆さんが話合つて、将来社会的良心というものを活かすためには、やはりある程度みんなでそのことを知つてゆかなければならない。近代社会における御婦人に対して一番社会的にも要請される点は、まずそのものを知つてゆく、それはいろいろの問題があるかも知れませんが、せなければ、少くとも自分達の生活にかかわりのある政治とか、行政とかいろいろのことは、もつと積極的に勉強をするということが非常に大切なことのように思われるわけです。

それからマスコミ・エグゼクティブが、こういうことに対して非常にうかつであり、不親切であるということも、ある程度私は認められます。適切な解説というもののスペースが少いということ、また御婦人がしばしば立派な仕事をされるのが、新聞、ラジオに報道されないという抗議を私もよく聞くのですけれど、御婦人にえてしてありがちなのは、自分のやつてゐることは絶対に報道される価値があると思ひ込むところに問題がありはしないかというふうに、私は疑問を出しておきます。

森田 組織する時一番具合がわるいのは、都市のサラリーマン階級——しかもこれは日本の人口のうちで大きな比重を占め、ますます増大する階級だと思ひうのですけれど、金はあるし、時間は余つてゐるんです。ところがそれが社会的でなく、自分の家庭だけ、きれいなカーテンをさげたり、自分の家庭をモダンにして、小さい自分の城を築くということはかなり熱心になつて、家の外に出てみんまで手をつなぎましょうというところには、なかなか来ません。どうしてこれをこつちを向かせるか。ある場所ではサラリーマンの奥さん達が沢山いて、いい調子の話をしているわけです。や

うりに生活の近代化、小家族化、雇われサラリーマン化、それに対する賃金の、題もありましよう。しかし一方では農村で、農村では比較的力量を合せることができる。その合せることが本當の理解と意志によつて行なわれるのか。お葬式に三日かかるという問題と同じように、外からみると大変共同しているように見えますけれど、その中にまた矛盾がありはしないか。つまり都市生活と農村生活は非常に近付きつつあるけれど、まだまだ考えなければならぬ問題がある。そこで個人というものの、アパートの孤獨な生活者という問題をひとつ自由にやつて下さい。

淵田 綱一本で結ばれているような家庭生活、主人がボツクリ……と考へたら獲られない夜が多いです。松戸におります時に常盤線の三河島事故がありまして、同じ団地に通勤車が三つ揃つてきました。あれを見たとき、本當に一週間寝ませんでした。子供二人かかえて掃除婦になるよりしかたないんです。そういう事を切実に思つてゐる人は沢山いるのですけれど、じゃそれをどういうふうな方向に進めばいいかということになると、私さつきばかりません。

島村 私はずきから大きなことを言ひますけれど、私がこういうふうに関心意識に目覚めたのは、つい最近です。半年ほどにしかならないんです。というのは私は自分の子供を校外の学校に出したのです。自分の子供だけをよくしようとする意欲しかその時はなかつたわけです。自分達の生活は地域に結びついていなければ絶対にだめだということに、その後やつと気がついたわけですから、そういう時に私達もこういうふうなグズグズしてはいけないからなんとかグループを作ろうじゃないかという話がありました

二、三名のグループを作ったわけです。そこで私、我然勉強して、新聞を読む目が違ってきた。だから私達でそういうグループをもつてその中で育つてゆくということが必要じゃないかと考えております。

大村 そのグループ作りの問題ですけど、隣の町内でいろいろグループができたので、私達のほうもというので作ったんですが、一年もたないうちにだめになつてしまいました。反省してみたのですが、隣のグループには強い力のボスといつてはおかしいんですが、強い指導力があつた。そういう力がないと、なかなかうまくゆかないということを感じたんです。

伊藤（グー） それはさういふ我妻先生が、いわゆる指導者の独善ということとを言われたのは、そのことで、皆さんもいろいろ経験もあるし、御苦労もされたと思いますが、いまの問題意識をもたなければならぬという問題はよく出てきたと思うのですけれど、まださつきの都会の中の孤独ということ、近代生活の中の個人という問題の話し合いになつてないわけですよ。

後藤 いちばん初めのお葬式の問題と、いまの都会に住む孤独と喪喪じゃないかと思ひます。田舎では隣りで死ねば三日間ひまだけしなればならぬけれど、私のうちにことがあつた時は、やはり隣り近所の力がなければ生きてゆけないという田舎には田舎なりのその地域のむずかしさとか、きびしさとかいうものがあると思うのですよ。盛岡という岩手県でいえば都会で育つたので農村に行つた時は、何から何までなんたらなんたらと思ひかへばかり、そのカベは破らなければならぬカベと、やはり個々の中で自分が幸せに生きてゆくためには、その中にとけこんで、みんなと仲よ

ふるまつていいあんばいになつて帰る、これはやめたほうがいいです」といつたら、校長先生も、よそから来た先生で「私もふしぎだと思つていたが、いつの代から始まつたのか、やめてほしいとなかなか言われなかつた」というんです。それで翌年からやめたのですが、そういうふうになんかきつたりは、一つずつでもなくなつていくんです。みんなしかたがないと思つていくわけじゃないんです。

島村 よくないと思つていくことを誰か言い出すかということね。庄野 そこに勇気がいるわけですよ。

伊藤（グー） まさか勇気という問題が出たわけですが、皆さんがさううてて善意をもつて社会的良心を生かしてゆこう、育ててゆこうとする時に、本心にこれが直接邪魔になつたというものをさつぱらに押し合はうじゃないですか。いま勇気という一番根本の問題が出てきました。その前には、皆さんが何か行動に移す時、邪魔になるのは同性だ、女が足を引張るということを書いたわけですが、ほかにも……。

木原 若い母親が子供のことについてお姑さんと相談する。私の場合は、女同志の気持で、お母さんにしても主人を育てたという経験があるから、理解して頂こうと思つて話しをするわけです。その時主人が、自分の母親と嫁との間にはさまつたという感じをもつてもらつたら一番困る。嫁と姑が意見がぶつつかつたりすることがあつても、どつちも可愛いという気持からおきてくるのだから、主人は何もタツツしてもらいたくないと思ひます。

大村 私はいつも主人の立場というものを考えるのです。何かしうとする時にいつも……。やはり政治やなにかに關係した

くしてゆかなければならぬということがわかつてきたわけです。たとえば選挙があつたりすると、部落推薦の形でがんにがらめやられて、右も左も向けないような立場におかれることもあるんです。ことに婦人会なんかのリーダー格になつてみると、とても大変な時があるんです。それでもやはりこの中で、これはしかたがない、やはり部落にまざつてゆかなければ村八分になるからしかたがない。そのしかたがないというところがあるのじゃないかしら、たとえは団地暮らしをしている人は、お隣の前は汚くても、自分の前がきれいならいい。田舎では絶対そういうことは許されないわけです。大掃除するなら部落ぐるみでやる。お隣りで不幸や怪我があつて田舎が運れたという時には部落の人みんなで行つて世話する。そういう中で生きるためには、お隣の不幸の時の三日間のひまは、はしかたがないということね。

伊藤（グー） どういうことかは考えませんが、しかたがないという面があると同時に、これをしかたがないままにしておいてはいけないうという考えかたも一方ではあるわけでしょう。しかたがないというのは諦めですから、諦めなければならぬものが、そこにあるわけですから少しづつでも合理化してゆくという方向はどうですか。後藤 それは私もやつていくわけです。たとえはいまから十年くらい前には、小学校の入学式についてゆく父兄は、女だつたら四合ビン一本男なら五合ビン一本さげていつたんです。あまたまげたと思つてね、だいたい母親に行けというところは言わないんです。まず世帯主だから、おじいちゃんが行くのに五合もつて行く。それで六年生の終り頃、PTAの役員だつたので「入学式で子供は先に帰して、親だけ学校に残つて、もつて行つた酒を先生がたに

問題です。選挙だけでなく、教育委員会の目とかさういつたものをいつても意識します。

藤井 婦人会はあまりそういう制約を受けないけれど、ほかの婦人活動は、進歩的なもの、色がついていけると見られがちです。

島村 結局、主婦の思想とか生活というものが主人の職業と關係はないのですけれど、世間が關係がないと見なすかどうか。それが主人の立場にかえてくるのじゃないかと……。実は私の主人は民放の報道部の仕事をしておりまして、これに応募した時には当選するとは思わなかつたので、なんにも言わなかつたのですが、いざ出られるということになりましたら、NHKの行事だから、自分が責任者の立場にあるのでおもしろくないからやめてくれということを言い出したわけです。私も非常に考えたのですけれどやはり私は私の生活があるのだから、私はこれをNHKの仕事だと思ひのじやなくて、婦人運動の一つとしてゆくのだからというところで、主人もそれではということと了解したので、選挙運動で応援演説などすると、主人の報道に色目をつけて見られる地方の民報ですからいゆる地方のお金持のボスのなかたが重役になつていける。そうすると私の思想とは反するわけです。主人自身は私の立場を理解はしてくれているのですが、やはり現実には理解だけではどうにもならないものがあるということを感じます。

もう一つここにくる前に、PTAのお母さんがたと話し合いの会をもつたのです。私はPTAに入りまして、年数が浅いんです。私の上には副会長さんとか部長さんとかいうかた達が沢山いるわけです。そうすると私が婦人会に出るといふことがあまり無い

入らない。それで集まつて来られたのは他校のお母さんがたで、私の学校のお母さんは一人来て、一分ほどで帰つてしまつた。それでPTA活動に非常に疑問を感じています。私がPTA活動に批判的な言動をするということが問題の一つだと思ひのすけれど。

田口 私が地区の婦人会に入つた当時のことですが、私の留守に寄付の割当が来たんです。何の寄付だつたか忘れましたが二百円くらいだつたと思います。幹部の一人が親切に「あなた留守でしから、私が立替えておきました。」というんです。私はとても納得がゆかないので、きようはそのお金はあげますけれど「今後寄付は個人の自由だと思ひますから一応相談して下さい。」といつたら、とても憤慨して帰られたのです。それからというものとはとても風当たりが強くてうまくゆかなかつたのですけれど、そういう時にはやはり勇気を出して言つたらいいでしょ、言わないでいい人になつたらいいかと思ひ時があります。

森田 今までは外部からの圧力ということが議題になつていたと思ひますけれど、私は去年一昨年とある団体の奈良県の理事長という大事な仕事をおおせつたのです。ところが本当に家庭の主婦が一人前のしごとというえらそうな言ひかたですけれど、社会的良心を活かして何か一つの仕事をなしてあげるということは、のすごく大変な事だということが身にしみてわかりました。アカダクロダいいわれることは朝めし前ですけれど、事務員、雑役の仕事全部やるんですから……。きよう参考にもつてきましたけれど、これは私の日程表です。外出した日を赤でぬつてあります。そのしごとだけでなく、主婦が外で働きたとあれば動くから使

の中に引張りこまれてしまつて、手アカのついた善意にとられることがあるのです。

萩野 私は森田さんと反対に、これから活潑に動いてゆこうと思つているところなんです。十年間黙々とやつてきたわけですけれど、これからはこのことを社会に知つていただけた以上、もう一つ動きたい。私生活との度合の問題もありますけれど、これからの一年、またその一年という発展のしぐみを臨みながら、市行政とか、いろいろな方面に頭をつつこんで行きたいと思ひのす。身体でぶつかつてゆきたいと思ひのす。

藤井 皆さんの年の令になる時は、日本はもつとよくなつていると思ひますけれど、私は息子を戦争で亡くしてあります。私がこゝろ活動に入つたのは、それが原因なわけです。息子が戦死するといふことは二十年前には想像もしなかつたことで、やはりこの子を立派に育てたいといふことで、七五三のお参りにも行きました。世界の動きなど知らないまま、息子は自分の意思でやなく出征して帰つてこなかつたわけです。私達の年令のお母さんはたくさんいるにもかかわらず、扶助料がもらえればそれでいいのか、その後継も息子達の命といふものについて訴えてくれないのです。

戦争反対といふのは、なんとなく思想的な感じがして、今日までとりなんにも言はずにきました。ただ息子を失死させたといふことではなしに、息子の死に、何か報いられることをしたいといふことで、この小さな地域の中で、何かやつてゆきたいといふ気持ちで今日まで続いているわけです。皆さんもお子さんの命を奪ひより政治にならぬように、いつもお母さんがたの良心を向けていらつしやることを願ひたいと思ひのす。

つてやれといふことで、あれもこれもと、大変なことになつてしまつたんです。本當にこれを見て下さい。私一べんいいいからよその奥さんのように朝から紅茶わかつて、ラジオ聞きながらボーツとしていたいと思つたんです。私、外部からごちやごちや言われるのは平気ですけれど、家族に非常に迷惑をかけました。これはこたえるんです。私はサラリーマンの主婦だし、自由時間があるから、これを社会的に生かすべきだと思つてやつていふのに実際に一人前に仕事をしようと思つたら、本當に私の生活なんか吹つとんでしまふ。昼間会社に出て夜はいろいろな案内状を書かなければならん、計画を立てなければならん……といふことで夜までつぶらる。それでどうとう家から禁示令が出まして、子供が今度大学受験で大切な時だから、あまり激しい仕事はやめてくれと言われまして、残念なんですけれど、うちの家族の社会生活も大切だから、やはり出来る範囲内では仕事をしますけれど、自分の私生活が蒸発してしまふような働きかたはしないようにしようと思ひました。きょう開会式でも、共同の仕事と私生活のからみ合といふことを考えなければならんとおつしやいましたけれど、本當に長続きさせようと思つと、こゝろのことをやつていんだめだと思ひました。つまりブレーキをかけるものは内部にあると思ひのす。

福岡 私達の部落の中でも、あの時、三日間お葬式のお世話になつたから、私達もいかなければならんじやないか、あの時いらくお見舞を頂いたから、うちもこれだけお見舞をしなければならんだらうとか……。義理人情のウラには、そんな問題があるのじやないかと思ひのす。折角自分の善意でした行爲も義理人情

木原 私は昭和八年生まれで、小学校五年の時に終戦になつたわけです。防空壕の中で教科書を見るような心のゆとりはなかつたわけです。中学時代はお粗末な本で、米司令部から消すところを指定された、そういうものを見ながら勉強したんです。ですから新制高校卒業の肩書はありますが、悲しいことに、本質はそれこそ今の小学校程度より低いわけです。私と同じ年代の人がいまの新聞やラジオの内容を批判する力に欠けているといふのは、そういうところに大きな原因があると思ひのす。それで戦争反対を痛切に感じています。

淵脇 同感です。

福岡 実は私国を出て参ります時主人からくれぐれも言われてきたことがございます。自分の戦友が靖国神社に祭られていて、自分は東京に行くような機会がないから是非自分の代理で参つてきてほしいといふことだつたのです。それで私も何はさておき東京見物もしないうちに靖国神社にお参りしたわけです。いよいよ鳥居をくぐり、お参りする時に周囲を見ましたら、賜見をしながら、何をしにこの人はここに居るのだらうかという態度の若い人が沢山いたわけです。それから外苑のほうに行くと、杖をついたおばあさんがいました。遺族会と書いてありましたから、お子さんがお孫さんが戦死なすつたのだらうと思ひのす。そのおばあさんの話は、実際に戦死した子供に会いにきたといふことじやなくて、どこそこの旅館の料理はこんだつたとか……。靖国神社の中でそんなお年寄のかたでさえ、戦争を忘れていふ感じがしたのですが、これは大きな問題じやないかと思ひのす。

島村 スローガンの戦争反対といふことには、みんな賛成です。

ところがその戦争反対とは逆な方向に向かっているということに気がつかない。しつけの問題で、学校教育に家庭が合わせてゆけばいいということをおつしやつたかたがいるのですが、現在の学校教育というものがどういう方向に向けられているか、それを私達を知る英知というものが現在ほど要求されている時代はないのではないかと感ずるんです。

淵脇 英知を養うということで、私達は子供の頃に教育をされなかつた。私も高等女学校を出る時、お前は女の子だから大学に行かなくてもいいといつて行かしてくれなかつた。そうして、この年になつて、主人に、「いづつもお前は自分が知らないことは世の中にないと思つてゐる」と言つてばかりにされるんです。くやしいから勉強したいと思つても現在の家計の中から自分の勉強のための費用は出せないで、主婦のための育英資金というものがあつたらしいな、といつも考えるのです。主婦が知的にのびるためには勉強しなければならぬ、勉強したいという情熱があつても、経済的な面とか、いろいろな面で阻害されます。それが女性の知識を低めている大きな原因でもあるんじゃないか。そうして、何かできることが身につけば、一本の綱につながつていような不安感も消えるのではないか。いざとなつたら自分が働く、それも肉体労働をやるだけではなく本当に自分が役立ちたいと思ふ場所に働けるということで、自分自身生きてゆく道に希望がでるし、張合いができる。やはりそうならなければいけないのではないかと思います。

伊藤 (リーダー) 皆さんが考えている社会的良心というものが、日本社会においてどういふふうなびてゆくかということを感じ

だという見かたをされるのです。米子に基地があつてタスキをかけて基地反対に出ると、あの人はアカだという見かたをされて、その人の私生活が非常に阻害されるのです。それじゃお母さんがたは戦争に子供をやりたがつてゐるかと、そうじやない。何かそのへんに矛盾があるような気がするんです。皆さんにそういう意識をもつていただくにはどうしたらいいだろうかということを感じてゐるんです。

淵脇 それには婦人が本当にそのことをわかるようにならなければいけない、知性というか、良識というか、そういうものが婦人の中に成長してゆかなければいけないと思ひます。結局は経済の貧しさと、知性の低さとか、すべてを阻んでいると私は考えております。

永浜 その面で私達のグループは身近なことから始めまして、町会議員のかたに一人来て頂きまして、町の財政のことから、その他教育のことなど、二時間くらい二回話して頂きました。その結果、いままでも気がつかないことがわかつて、いい勉強になつたと思ひます。また折があつたら、それをもう少し広げてやつてゆきたいと思つております。

島村 私が昨日言つたように、先生がたの考えていらつしやる教育というものと、父兄の考えている教育というものと、ビジョンが違ふのじやないか。それを私達が埋めるように努力しなければいけないのに、その努力がちつともされていらないのじやないか。そうしてその努力がされていなくところが、何か政治におされるところか、政治によつてへんな方向にだんだん引張られてゆくのが、いまの現状じやないかと考えるわけです。

て、いろいろな問題が出てきました。鹿児島県の藤井さんの話されたことは、社会的良心というものは、日本社会に限る問題ではなくて、人類社会とか、あるいは地球社会というものに結ばなければ、人間としての価値というようなことは考えられない、問題はそこまできているのじやないか、というふうに私は解釈したのですが、その問題についても少し御意見は出ませんか。

たえば、ほかの都会でも出たのですが、この地球世界から戦争がなくならない限り、人間的な良心というものは否定されるような社会だと思ひます。そうすると、そのためにはやはり婦人として、あるいは母親である女性として、何かをしなければならぬという考えかたは、私は成り立つと思ひます。ほかの部会のかたの前ですが、そのためにグループを作つて、カードを作つて世界の誰でも知つてゐる人には、そのカードを送つて、広島あの悲惨な災難を知らせると同時に、戦争反対の声をあげていふということ。さきほど私は社会的良心は行動に移さなければ評価されないということを申しましたけれど、そういう意味で一つの大きな方向を提示してゐると思ひますが、如何でしょう。藤井 私もやはり皆さんがたの年令層に期待してゐるのです。私くらの年令のお母さんがたは、戦争で子供を亡くしているのに全然声を出してゐないというのは、女は何も言えない、女は引込んでゐるという教育を受けたからだと思ひます。今の世代の皆さんからは、きつとそれをはねのけるものが出ると思ひます。

島村 私達が戦争をしない社会を作るといふことは、まず憲法改訂の問題からんでくると思ひます。それから、選挙にもからんでくるわけです。ところが地方では、戦争反対を叫ぶものは共産党

後藤 先生がたが、真正面からその方向に行くことをおさえた場合に、やはり自分の地位というものが非常に危くなるわけでしょう。島村 それがたええ戦争反対といふことばじやなくて、ものに對する基本的な考えかたといふものは、やはり先生がたにもあるわけですから、だからもつと先生と親が話し合つて、そういう問題について一致点を見出すべきだと思ひます。

芦沢 P.T.A.の中でも、親個人個人としては、いろいろの考えかたをもつてゐるわけです。その親がP.T.A.の中心メンバー——農村の場合はだいたい村の上流階級に属する旧地主階級と、中産階級は小農階級があつて、それぞれ考えかたが若干違ふんです。ところがP.T.A.そのものは、役員によつて指導される場合が多いから、いろいろギャップができます。それをどうするか。P.T.A.として問題を解決するには時間がかかりますから、同じような考えかたをもつた人が集まつて活動しなければならぬということと、それから農村というのは階級意識が強いから、小農で貧乏なものと小作だつた人が、もとの地主とか大農の人と反対すると、なんだお前はばかだとか、小農のくせにといふことを今でも言われるのです。そういう農村の現状自体をもう少し考えていた方がいいと思ひます。

河村 私が申しましたのは、社会道徳の面で、子供のしつけが重点だつたのです。学校教育と家庭教育とが同じ歩調で進まなければ次代の子供をしつけていくことはできない。社会に迷惑をかけない人間にすることはできないといふことを申上げたのです。学校では靴をはく、家は下駄をはくといふことは、子供はどつちに行つたらいいかわからないで迷ひます。こういうことは

人に迷惑になることだから、してはいけないということとは、学校も家庭も同じ歩調でゆかなければいけないと思ひます。

島村 私は、しつけのもとになるのが、やはり人間愛であり、平和主義であるということに結論づけたいのです。

福岡 戦争反対に対する努力の度合のことなんですけれど、伊藤先生からお話があった世界の人々にカードを送るという大きなところまでは、私達は手が届かないんです。それで私の地区では、部落の青年寄りの敬老会が毎月一回ありますが、その日は子供もおとなも、部落の人が全部集まるので、通り一べんの歌や踊りをするのじゃなくて、昨年の敬老会には、私の自作自演で、戦争とはどんなものか知らせるような一つの劇をいたしました。そういう身近かなこともやはり大切なことではないかと思ひます。

木原 戦争に対しては、私達が今まで討議したように、国内で婦人同士が手をとり合つて嚴重に監視するというのが一番根本的なことです。私はこちらにくる途中、海外農業派遣団といつて、外国で三年間農業を勉強してくるという若い人達と乗り合わせたんです。その人達は勿論各地方から集まつた優秀な方たちばかりでした。私はこの婦人会議の意義などを説明して、その人達にも抱負などをきいて、互いに話し合つたのですが、私はその青年たちに「あなた達は日本の青年という立場で行かれるのですから、外国に行つたら、せいぜい向こうの人と仲よく打解けるようにして下さい。國と國とのつながりという面で非常に大切な役割だと思ひます。あちらの人たちと固い握手をして別れるくらいになるように努力して下さい。」とお願ひしました。またそれと同じように考えかたで、貿易自由化になると、こちらの品物は向こうに行

き、また向こうからこちらにくるということで、輸出する際に、外国の人達に日本に対してわるい印象を与えるようなものは輸出しないようにしてもらいたいものと思ひます。そういう方面にも大いに気を使つていただいて、いろいろな面から戦争反対ということを中心がけて、被けてゆきたいと思ひます。

大村 のどと過ぎれば熱さを忘れると申しますから、やはり戦争のおそろしさについては繰返し繰返し私達は考えてゆく必要があると思ひます。それからもの一つ、本當の意味での人類愛といふか、何か小さいことでも不幸せな人達に良心をもつて接するとか、そういうことから少しずつ社会的良心は育つていくのじゃないかと考えます。

伊藤(リトダー) 先ほど私がちよつと触れた点がいま出てきたのですが、もう時間も切迫してまいりましたので、ここで一つ考えなければならぬのは、皆さんが前編的に社会的良心を活かし育ててゆくという気持では、ほとんど一致しておられると思ひます。どういふところから今日の日本の社会の矛盾があり、どういふところから自分達は手をつけないといけないのだろうか。現実にはいろいろな面であつておられますが、それが日本の政治とか、日本の経済とか、あるいはさつきお話に出た日本の文化のアンバランスといふようなことから、落ちこぼれていく人達に対して手をさしのべるということが、やはり大きな社会的良心の問題だと思ひます。その点を皆さんがどういふふうにか考へ、これからやろうとされるか。今日の残りの時間をそういう点について少しのべ合つてみたいと思ひます。実はこんどのテーマは、自分の生きている周辺が社会的にも、文化的にも、経済的にも急激に変化し

ている、その変化の中で問題をつかむということが一番大切な柱であると思ひますので、もちろん、いままでお出しになつたお話も、ほとんどそれに関連するものですけれど、そのところをもう一度確認しておきたいのです。というのは、社会的良心といふ言葉として、今度の問題に取組まずに、自分のやつていふことがどういふふうな社会的良心に還元するのだろうかといふふうな認識と意欲で所感文を書かれた場合が多いので、ここで初めて社会的良心といふものを話し合つてみて、まだこういう経済的条件によるのだといふような問題を建設的に出さ合つてみたらどうかと思ひますが、どうでしょうか。けさほどは経済の二重構造、文化のアンバランス、内職の賃金、農村婦人の労働という問題も出たのですが、その問題がそのままになつていきますから……

藤井 良心の行動を實際に移した時に、慈善事業といふものと、何かそこに相違がありますかしら。

後藤 慈善事業はやはり行きづまりがくるのじゃないでしょうか。藤井 たとえば私達のように、一応生活も安定して、子供も独立して、もう自分達のことだけすればいいということになつた人達が、救われない人達のほうに手をさしのべる。生活の安定して、余裕のある六十近い婦人が自分の家にとじこもらないで、社会に對して慈善的といふとおかしいんですが、外國ではそういう例が多いんじゃないでしょうか。

大村 慈善事業とかなんとか理屈はいつていられないんです。實際そういう人がいつばいますから、どんなにしても手をさしのべないわけにはゆかない。それで皆さんに協力してもらいたいと思ひます。

島村 近代社会がどう動いているかということがわかつた時、そういう中にとり残されている人達が現に私の前にいるのだという時に、じつとしておれない氣持、それが社会的良心であつて、近代社会を正しく認識した時に初めてそういう氣持がおこるのじゃないか。私、自分のことから考へて思ひますけれど、やはり働く母親の問題にしても、社会の中で生まれた問題だと思ひます。そういう問題を政治的に解決するということは大切なことですけれど、ただ施設を作りさえすればそれで解決できる問題かどうかを考へた場合に、やはり私達婦人の力が、こういうほうに向けるべきではないのじゃないか。私自身保育ママをして、個人生活との矛盾に苦しむ時があるわけですが、自分の自由時間がなくなる、家族の生活がなくなるということについて微みをもつわけです。その時に私はやはり近代社会といふものは、こういうふうな動いてゆかなければならぬのだから、それを推し進めるのが私達の義務といふか、生きていく力なのだ、そして、私達個人の生活もそういうふうにあつてゆくのだという自信が生まれた時、初めて保育ママに対してはつきりとした意識が生まれてくるのじゃないかと思ひます。

後藤 さつき藤井さんがおつしやつたお金があつて、暇があつて、何かできるような年になつた時に、慈善事業といふことも、たしかにして下さるかたがあればいいのですけれど、そういうことに頼つてばかりもいられないし、それだけでは必らず行きづまりがくるのです。けれども社会的に救ひの手のくるのを待つてもいられない、いまずぐなにかしなければならぬ問題が、私達のまわりにはごろごろしています。そういう時、私も、兼業農家の主婦

だし、婦人会の役員、農協の役員、そして恵まれない子供達の会にも行きたいし、ずいぶん忙しいのですけれど、まわりにごろごろしていることを知らんふりしていられないしということがあります。母と女教師の会でも、女の先生は保育所を建てなければならぬという運動を三年もやっていますが、それがなかなか思うようにゆかず、三十八年度にはものになりそうだが、四十年年度にはなりそうだといいわけですが。そういう時、私達はやはり百姓のお母さん達がまず子供のことを考え、せめて田植の時に稲刈ばかりでも、らくな気持ちで働けるように、農繁期には託児所がほしい、そうすると、それにかかる費用はどとうするかということになるわけですが。共同募金からもらえないだろうか。また百姓しているお母さんに直接関係のあることだから農協でどんな考えをもっているだろうか。まずいちばん先にそういうことを考えついで、金が崎の町内のあちこちに農繁期の託児所を開いたんです。春だけと思つて開いたら、田植の時は本当にやかた、毎年ある水路で死ぬ子供もその年はなかつたし、火遊びもなかつたし。これは稲刈りの時もあつてほしい、というのです。しかし春にはやつと農協と共同募金からお金をもらつたが、秋は出るか出ないか、八月の農閑期を利用して、またあいたわけですが。それなら農家のお母さん達がそれくらい金であんなにくだと喜ばれるのなら、安いものだというわけですが。それでお母さんは、作反別をもつてない家とか、農学校を出たばかりの娘さんの家に行つて、稲刈の手間を払うからお母さんを引受けてくれと頼んで確保しました。そうなると思つて、農協だつて、もうだまつてみているわけにはゆかないんです。お母さん達がそんなに走りまわつて託児所

る素質を引出してあげることなんです。そうすれば、その人なりに生きてゆく力というものは出てくると思っています。今まで十分それを経験してまいりました。それを皆さんにわかつて頂けたことは、私は本當にうれしく思つています。

後藤 ハンデイをもつた不自由な人達でも、身体障害者には解る方法があるわけですが。精薄児にはできないんです。それから、社会保障制度なんです。身体障害者には法的な立派な保障がなされている。手帳をもつており、その手帳によつて受ける恩恵は数多くあるわけですが。たとえば行路病者になつても、ちゃんと保護を受けて帰されるわけですが。ところが精薄児は、もしそのへんで倒れていても、行路病者としてしか扱われない。こういうことに対して私共は何回となく日本愛育会の総会にも来て声を出すのですが、精薄児に対する社会の保障というものはないわけですが。それは線の引きかたが非常にむずかしくて、どうしても付添がないと行動できないものとか、IQによつてだけでは決められないというわけですが。水沢の愛育会にも何年か続けて運動したんですけど、足踏み状態です。せめてそれなら水沢を通るバス会社だけでもというので、県南バスに陳情して、県南バスを利用する精薄児だけは、自分の所属している施設なり病院とか、センターの長の証明があれば、バス賃は半額ということになつていますけれど、やはり時にふれては関心をもち、せめてここに出席されているかただけでも、精薄児に対する社会保障の制度に御協力をお願いしたいんです。

萩野 それにつけ加えさせていたきたいのです。文化が向上するにつれて、そういう人達は余計普通の人たちから引き離されてし

を聞いた、足りないものがあればせつけんやてぬぐいは婦人会の幹事がつて行くということになつてくると、世のどんな人達にだまつて見えています。農協の理事会でも、おなご達がやつている農繁期の託児所はあつたままではよからうかと組合長がいうのです。理事会、総会にかけて、本當に農協と町当局で金を出してやることにしなければだめだ。去年は十二カ所しかたけれど今年は十八カ所くらい……というふうになるのが、やはり私達のお母さん達のとつと早い良心の発露ではないかと思つてます

(拍手)

淵田 さつきの慈善事業と良心の違いを考えてみると、非常にハンデキャップをもつた弱い人がいる。この人を助けてあげようというのが慈善だと思つてます。ところが社会的良心というほうは、こういうハンデキャップをもつていて人達は、みんなの力で守り育てるのが当たり前だ。たとえば精薄でも、身体障害でも、人権の尊重というのは、健康体の人とまったく平等だから、みんなの力で面倒をみなければならぬことなんだ。社会的連帯感というの、そういう意味でいろいろ助けるのが社会的良心だと思つてます。そこが違ふと思つてます。

淵田 一つそれにつけ加えらると、ハンデイをもつた人達が、自分は恥かしい存在なんだということではなくて、自分達も生きる権利があるのだということを自覚して、まわりがそれをバックアップするところがあることが大事じゃないかと思つてます。

萩野 萩田さんと淵田さんのおつしやつて下さつたこと、私がずいぶん今まで考えてきたことで、とてもうれしいんです。今までやつてきたことは、本當に慈善じゃありません、その人その人にあ

まうんです。いまはこういった交通網とか、いろいろな災害がある毎に、そういうつた身体障害もふえてくるし、精薄の問題も依然として交らない状態にあるんです。本當にこれは現実の問題ですから、皆さんにもお願いいたします。

大村 非行少年とか、刑余の人々に対しては、皆さんどんなふうに考えていらつしやるのでしょうか。

庄野 私も先ほどから、それをおつたんです。身体障害や精薄の人達が大事を以上、非行少年のことも見守つてほしいのです。慈善事業とか、奉仕とかいう区別なしに、身近なところから救つてやつて欲しいのです。

伊藤(リーダー) 星から出た問題で、非常に中心の問題は、皆さんが善意をもつて社会的良心を生かそうとする場合に、それを阻んでいるものとして、実はもつと具体的なものが出るかと思つたのですが、皆さんの場合にはかなりスムーズにいつている。それから比較的身近な問題からやつておられるために、そう激しく行政当局とぶつかるというよりなことがなかつたことは、いいとして、また速報がちというか、もう一歩という点がないのではなか。皆さんの仲間の沢山のかたが書かれた中に、日本社会の古さというものが、あるいは日常生活で私達の行動を監視しているものが意外に多い。それが皆さんのことばとして現われているんですが、皆さんも思い当たることがあると思つていただけます。何かしようとする、あいつはものずきだと言われる。あいつはすいきょうだ、女のくせに、売名屋だ、でしやばりだ、ばか正直だ、あいつは自己満足のためにやつているのだ、あいつはお人好しだ。藤井 私なんかみんな言われています。

森田 もう卒業してですね。

庄野 じつさいお人好しでなかつたらできませんから……。

伊藤(リーダー) こういうことを持出したのは、こういうことは雨の中で闘いながら、結局体験を通して、社会的良心を活かすためには、異常なる勇気がいるということを皆さんが申し合わせたというところが、大きな結論である。同時に社会的良心を生かすためには、まず、いま社会あるいは、世界がどう動いているかということを知らなければならぬ、つまり婦人が知識だけでなく、知性を身につける。あるかたはいみじくも英知ということばでいわれた。それはやはり社会的良心というものを考える場合の、非常に重要な問題だと思ひます。ややもすると、気の毒な人、恵まれない人というのは、感情とか、感覚だけに訴えて、お涙で千円か一万円寄付したという場合は、少し意味のかるい慈善にあたると思ひます。本當の意味の社会的良心とは、少し離れたものである、もちろん慈善はいけないということじゃなく、当然人間社会には必要なことです。しかしここで耐讀している社会的良心というものは違つてくる。その社会的良心を阻んでいるものは、いまいつた日本社会にある古いもの、同時にそれは皆さんはもう乗り越えておられるので、ことばとしては出なかつたけれど、出てきたものは、とりもなおさず、皆さんの頼りとして違つた方向へ進めようとするものがあるのじやないかということ、つまり現在の社会の動き、世界の動きというようなものに対して、人間

言われまじけれど、政治がある、国があるということだけで、かたづけてはおれない、現実に目の前にしなければならぬことがあるわけですから、それが皆さんの話し合いではつきり出てきたということです。

あえて私につけ加えさせていただきますならば、社会保障というものは、経済的に恵まれないものはお金をもらえばそれでいいのか、年寄りには養老院に行けばそれでいいのか、また、精進の子供達が施設に収容されればいいのかどうかということですが、一番大切なことは、さびしさの保障、ほかのことばでいえば、心の人間的保障というものがなければ、人間は幸せにされないと思ひます。ですから社会保障ということとは多少違ひかもしれませんが、さびしさの保障というものをよく考えなければならぬということをつけ加えさせていたきたいのです。またホームヘルパーの問題も出ましたが、どんなに社会保障の進んだ国——イギリスやスウェーデンでも、婦人がたの奉仕活動、ボランティアの活動というのは、絶対に今後、人間の生活が續く限り必要なものです。人間の生活は経済生活だけで解決するというような簡単なものじやないはずで、究極には、私達の奉仕の生活、奉仕の意志というものをたなければならぬ。そしてその奉仕は、ただサービスをすればいいということではなしに、積極的意志によるものでなければならぬということです。それは人間の生きる權利と義務の問題です。皆さんが話し合いになつたことに

尊重という角度からいつて、人間の生きる權利が否定されているということに対しては、人間である以上、非常に義憤を感じるはずで、私はそれが社会的良心のポイントだろうと考えるわけですね。そこで人間の生きる權利を奪つてゐるものは何だろうかという、経済的条件もあるでしょう。労働の条件もあるでしょう。

戦争の条件——そしてそれは世界平和の問題にも當然つながつてくる。つまり日本社会そのものに、大きなところで社会的良心の発露を阻害しているものがあるということが、一応皆さんの間から出てきたということは、非常に私にとつては収穫であつたと思ひます。同時に人間尊重とか、人間の生きる權利としてみた場合には、恵まれない人に恵むということではなくて、その人間が生きていく權利をもつてゐるといふ意識と認識の上でことが運ばれるということですね。つまりその人には生きる權利があるから、われわれはその人に温い手を差し伸べなければならぬ社会的責任があるということですね。社会的良心というものは、生きてゐる人間の責任である。そして恵まれない人間は生きる權利をもつてゐるのだ。こういうことばは、皆さんの昨日からの話しの中につつと出てきていたもので、それを私がまとめただけです。したがつて、自分達だけではできないものは、町村にたのむとか、福祉協議会にたのむとか、だんだん全国的に盛りあがつた時に、はじめて政治につながる。そうなれば男達もだまつてはいないでしょう。そういう意味で、こんどの場合の横上げを、一番はじめとたか

け加えさせていただきました。

最後に特別オブザーバーの大矢さんからまだ御意見をいただいておりませんので、お願いいたします。

大矢(特オブ) 私も三回目の婦人会議に出していただいて、十五人の中に入れていただいたことがあります。さつきものずきとか、お人好しとか出ましたが、私は三十代には、のぼせばばあと言われたものです。本當に今考えると、たしかにのぼせていたようです。ここには社会的良心の権化みたいなかたが十五人集まつて、大変心強いのですが、ある意味では非常に危険性もあるということを一言申し上げたいと思ひます。というのは、皆さんの話しの中で、ちよつと氣になりましたことは、何か一つの既成觀念にとらわれてしまつて、それ以外のものはみんなまちがつてゐる、ぐずで、ばかで、ものわかりがわるいというふうにきめてしまつてゐるということです。私などではじめはそんなふうでしたが、いまにはぐずのばかの障りにまわされてしまつたのですけれど、そういう人が人から糾弾され出すと、ぐずのばかどころか、全然動かなくなつて、そつぽをむいてしまふという例がとて多いのです。いまお話を伺つて、非常に皆さん苦勞されているのはわかりますが、一歩さがつて、頭をやわらかくして、自分のグループを外からみて、どういふふう動いてゐるかということを見えづいて、人の批判も聞くよう人間になつていなければいけないと思ひます。あの人についてもだめだと思ひ込まれてしまつては

だめじゃないでしょうか。

社会的良心という問題をお出しになつた少年局の勇氣には、非常に感謝するわけです。もう一つ、私はいろいろ地域組織その他に参加していますが、タイミングというところが非常に大事だということを感じております。いいことだからといって、どんな問題でもどこでもかまわず言いちらしていいということではない。いま言つたら話がだめになるという時には躊躇なく言いけれど、いま言われない頭だとタイミングがわかるんです。いまという瞬間をはずしてしまつたら、もうものにならないということがありますから、そういうことを忘れないでいただきたいと思っています。

もう一つは、多くの人々がのびてゆく中で交通整理のよりな役——これも頭がやわらかでないとできないことですね——をやることです。いろいろな問題を持つてきても、すぐ役にたつようにその地域のインデックス——たとえばその管内のお医者とか民生委員。児童委員にはどういふ人がいるとか、どこにどういふ施設があるとか、学校はどこにあるとか、というよりなことを、みんなで調査しておくのです。そうするといろいろな問題が持込まれた時、すぐ役に立つと思います。

御参考までに申し上げます。

伊藤（リーダー） 私のリードが足りなかつたところを、補足して

第二部会

会議員

青森	椎	沢	和	子	(保育所主任・保育)
茨城	館	野	哲	子	(無職)
群馬	山	田	結	子	(群大技術員)
神奈川	小	島	薫	子	(無職)
石川	高	瀬	和	子	(中学教員)
福井	野	田	幾	久	代(無職)
長野	宮	島	潤	子	(無職)
三重	楠	本	志	子	(無職)
大阪	岩	尾	和	子	(無職)
島根	中	尾	舟	満	子(美容師)
岡山	横	田	政	代	(農業者)
広島	山	田	雪	絵	(無職)
高知	岡	林	み	どり	(商業)
福岡	萩	尾	比	路	(無職)
大分	松	本	喜	美	子(会社員)

リーダー

大谷省三(東京農工大学教授)

特別オブザーバー

新沼 静(全国農協婦人組織協議会)
石井 あや子(婦人民主クラブ)
田中 靖子(日本青年団協議会)

いただいて、大変結構だつたと思います。それではこれで会議を終ります。

一七時〇〇分 終了

大谷（リーダー） お話し合いの進め方につきまして、何よりも大事なことは、とらわれないで、速断しないで、素直な気持ちでやっていたいただきたいと思ひます。

しばらくの間緊張感を作る意味で、所感文の内容、あるいは自分がどうして社会的良心という問題について考えるにいたつたかというようなお話し合いをいただきたいと思ひます。

岩尾 核兵器を実験することは、私たち、人類の生命である空気をよごすような、生命の根底に横たわる問題であることは、だれでも知つていますが、それに對して具体的な反響というものが、当面する問題を私たちは見出すことができなかったために、ソ連やアメリカが実験すること、領土の言葉をあげても、実験問題として、それにどう対処していいかわかりませんし、運動がどういふふうに進んでいくかということも見出すことができませんでした。実際、核兵器の問題はいけないと思ひながら、私も自らは、手のとどかない大きな政治的問題であつて、頭の上の存在だと思つていたので、私たちが小さいとき、満州事変がおこり、支那事変、大東亜戦争に進展していきましたがその時代は、批判することも、批判の材料を手に入れることもできなかったが、今は政治を批判することもでき、タブーであつた皇室のこととも平氣に話し取りあげることができて、ひじょうに世の中が自由になつてまいりました。この自由をかみしめましたときに、私たちが、いけないことは限らぬといふことが、責任の重づけのある自由であるといふことをみんなが話し合つたのです。そして、できるかできないかわからないが、何か方法は

ないのだからかと話し合った結果、絵はがきを作つて、広島への被爆者の現実をみんなに浸透させていつたら、そこから何かの方法が生まれるのではないかと考えました。それで、被爆の現実を知らせるとなると、やっぱり文章に書くか、アルバムのようにするかということですが、けれども、文章は特に不得手ですし、日本語もまともにできないという連中が、外国人にこれを訴すことは、不可能なことですし、会員の中には、教人語学のできる人がありますが、とても世界の人の呼びかけをすることができないから、一冊五、六頁のアルバムを、日本として作るとはできないが、一枚五、六頁のアルバムでできる絵ハガキで、被爆の現実を世界の婦人に知らせようということをお願いしたので、できるかできないか別として、私たちが、こういう平和への努力をしていることを、子どもたちが見て知っているんじゃないかということ。きょうは、お母ちゃん、原爆の絵はがきのこととていくから、学校から帰つてきたらお留守番しなさいと子どもは、「お母ちゃん、いつてきいな」といつて送り出す。それだけでも、仕事の意味はあるからということではじめましたが、そういう気持ちで資料を集めていまして、絵はがきを作りたいから許可して下さい」と、正面からぶつかつて、写真をどうにか作ることができました。しかし、作つたことが第一歩で、それを世界中の人びとにくばつて、ほんとうに

たいと思います。

大谷（リーダー） それでは中尾さん。

中尾 私、中学しか出ておらない。すぐ紡績会社に入りまして、入社したときは十六才という、社会にすぐ純粋な気持ちでした。点訳奉仕会が広島市にでき、盲人の方々に光が与えられるようにと、大きな望みをいだいて、すぐグループを作つて、奉仕活動をはじめ、お正月に十円ずつ出しあつて、保護家庭に小さなおもちゃを買つて、お手玉を加えたりして、市の民生課を訪れたりした。寮生活を大部やりまして、結婚してはいつた職場が美容の世界で、すぐくまわりに気かねをする職業のため、奉仕活動も、まつたくやめてしまつたのです。けれども、自分が仕事をやつていただけでいいのだからという気持ちから、思いついたのが、女の子だけに限つて、カットを奨励で、三十円ですることにした。その当時は五十円だったので、学校でほとんどの子どもがカットにくるようになって喜んでいたが、父兄から文句が出た。それは、親が今までやつていたのに、親がしたのでは気にいらないで、美容院に行くようになった。貧乏な家の子供が三十円もやりきれないという声が出た。それで、学校で禁止するということになった。それを聞いたときには、いやな思いをしながらも、続けてきた自分がばかりしくなつて、やめてしまおうと思つた。それだけじゃだめだと思つて、いろいろの層の方に聞いてみました。そうしたら続けてやつてた方がいいのではないか、そこは男の人とか若い人が全部出かせぎにいつて、年寄りとか女しか残つていない。田畑の耕作は女がする。だから、子どもはほつたらかされて、髪も、一カ月くらいたつてしまふ。そういう子供もきれいにあればと思

原爆は恐い、核兵器のエネルギーは、私たちふつり想像することのできなない大きなものだということを知つて、核兵器を禁止する協定を結ぶような世論の盛り上がり一人一人の庶民の中から作つていきたい。そして、平和を社会にしたいという、まことに高貴な願いでございます。所感文を出したときには、日本の片すみで、主婦がこういうことを思つていてということを知つてくたさるだけでもいいと思つて書いたのでございまして、こういうことをお話しできるのは、思いがけない喜びでございます。

大谷（リーダー） その後の反響はどうですか。

岩尾 所感文を書きましたときは、まだ印刷中で、でき上がりましたのは三月十日で、会員たちにはまだ発表する機会がございました。四月十日に全国に発送することになりました。広島に三日間勉強にいつてまいりまして、広島各関係の方々にお目にかかつて、絵はがきの感想、いろいろの御注意をいただきましたけれども、広島県地元の被爆の現実を知つていらつしやる方にお見せしましたら、ひじょうにデリケートな注文がたくさんございました。でも、大阪の部会では、「いいことをしてくれました。私たちの仕事としてほしいから、たくさん作つて下さい」というお話しでございました。

萩尾 どういう機関を通じて配布なさるつもりですか。

岩尾 個人個人のルートを通じてしたいと思ひますし、できれば外国に、高校生などのペンフレンドなんかを通じてまして、高校生から上の方たちの年令でないと、あまりシヨックが大きすぎるからということでございます。

私たちにできるあらゆる方法を考へて、できるだけ広く配布し

つてはじめてのが助機ですが、生活の基準というものを、私が見間違つていたから、すごい反対の意見も出たわけですが、続けてくださいという声が多いので続けております。今では割り切れないう気持ちも残つております。

大谷（リーダー） これは大きな問題を含んでいると思いますが、あとで問題にして、それでは山田さん。

山田 私のは、みなさんの社会的奉仕が多分に含まれた立派な所感文にくらべて、自分自身が経験したり考へたりしたことをままとしましたので、地方の選挙で経験したことをはじめに書きました。隣り村の地区で一人ずつの県会議員の立候補者がありました。義理人情がとて大きな中を、どちらの地区も、わが村の立候補者を当選させようとして、人海戦術に出た。立候補者本人ではなくいろいろなやつていて人から出たことだろうと思ひますが、毎日のように、何人出てくたさいというように、部落に命令が出ます。私の地区はちやうど隣り村の県議員が現職で、溜池を作つていたにいた。その御恩返しをあの部落はするだろうということで、地元の出発員が、夜になると御恩返しという呼びかけで私たちの部落のものは、何かきかねな立場に立たされた。自分らの村の人数よりも多いのが外からくるわけです。部落の人は、これに対して出ないと、応援して欲しいと思われたいから、出ようという声になつて、一軒の家から二人出たり、鶏や牛を飼う人は他人にたのんで、そういう格好で出ていつた。結局落選というみじじめさだけ残つたわけです。そのときに、婦人会長さんは、私は立場上、運動しません。そういう立場をとつておられた。それが村の人の大きな非難の的になつて、落選したときに、部落全部で

はありますが、会費をやめるといふようなことが、おこつたわけです。私も部落の役員をしておりまして、私の立場もむづかしい立場でしたが、私一人がやつたつて、どうしようがないという気持ちで、見すくし私自身、卑怯な考え方があつたと思うのです。で、振り返つてみて、ほんとうに個人の社会人の確立ということと、個人の自由な気持ちを尊重しなければいけないし、それから、社会的な社会人といふことを押しすすめるのには、ものすごく大きな勇気がいることと、冷静な判断力がある。そういうことを考えたことがあつたのです。それと、農村もだんだんと共同化されていきますので、それはいいのですけれども、いやなうわさがたつたり、何かありまして、それが個人のしあわせを、傷つけるというふうなことになる。他人の小さなしあわせでも、安易に解釈して、みんなを喜んであげる。それが社会的な社会人に通じるのではなからうか。もう一つ、私の子供が中学三年ですが、それが今もすごい入学難で、高校入試で悩んでいる。一人でも高校にはいろうと志願する人が少なければいいと、小学校のときから仲よくしてきた人でも、少なく受けてくればいい。そのいう気持ちで、どうしても心の中をわいてくる。これは社会的良心とどういう関係があるかしら、そういうことをいいますので、入試が、こんなに小さい子どもの胸をいためているかというところを知つて、びっくりした。私は、子どもにも有名校ばかりを出たのが人間として、社会人としていいことじゃない。もし中学校だけで終わるとして、その人の能力でやつたならば、それは立派な社会人だ。子どもの社会的良心を傷つけるとしたならば、私はどういふ態度をとつたらいいかしら、どの親も憂へ通わせたり、家庭

教師をつけたりしたならば、子どもの良心を傷つける問題はいつまでもたつてもやむことがない、そう考へて、PTAなどに働きかけ、みんなを当局にあたり、何とかして希望者を多く入学させてほしいと、PTAの署名運動とか、教育委員会にお願いするとか、ささやかながらやつてきたわけなんです。

大谷（リーダー） それでは、高知の岡林さん。

岡林 私（所感文）は、私の住んでいる小さな漁村の、観光競走——生活費の中で交際費の占める割合は一年のうちで、約一カ月ぐらにあるということが家庭グループの討論で出たことがありまして、学習なりグループを通して、いろいろ考へたり話し合つたりしたことについて書きました。いなかの生活は封建性が強く、一人の力ではそれを打ち破るということができませんので、気の合つたグループで改善にもつていつたわけですが、部落全体が生活改善といつて、きめたことも、個人の生活が守られないのはどこに原因があるかといふことを話し合ひまして、結局自分たちの生活を、自分たちで自主性のある生活に高めることが第一である。そのために、他人の生活をおかさないうにすることがなにかについて話し合つて、少しずつ改善していきました。

大谷（リーダー） その結果はどうですか。どの程度までそれを続けることができましたか。ひじょうに壁が厚いですね。その壁がどの程度くずれたか。

岡林 はじめは、部落だけでやりまして、婦人会だけでも、やはり守られないで、結局ばらばらになつたわけです。このごろになりまして、子どもが高校に進むようになりまして、生活費と教育費の問題がからんでしまして、真剣に母親は考へるようになったのを見つうて、どのようにしたら婦人の地位が向上するかというふうに、自分の生活をやつてきたわけですが、佐伯は、大分の県南にあたる農村の市ですが、戦後近代的な化学工場ができました。そこに私、高校を出て、すぐBGとして入社いたしました。近代的な、すごい見かけがいい会社と喜んではいつたが、中に入つてみると、女性の地位が低いわけです。先輩の女性たちが、そういうことに関心をもつていて人たちがひじょうに少ないわけです。私は、同じ仕事をして男性といふものを面で見ると、差をつけられているところに反感を感じるのが毎日でした。それから婦人の地位に関心をもちました。労働組合の青年婦人部の中で婦人の地位を向上させるのはどうしたらいいかといふことに問題を掘り下げていきました。やはり女性は結婚したらやめてしまふ、だから勤続年数が短かいから、地位が低いのだ。勤続年令を高めるためには、育児の問題とか、共働きの問題、というふうな働く婦人としての悩みがたくさんあるわけです。それは自分の会社だけではどうにもなりませんから、地域社会の働いている婦人たちと話し合ひを持たなければならぬ。小さな中小企業で働いている人たちは、恵まれない立場にあることに気がつきました。そういう婦人の問題に関係していまして、日本の社会機構、資本主義社会の中で、私たちが工場で働いていると、日本経済の動向というものが直接ひびいてくるわけですから、あまり権利を主張しては、自分の首が危いというふうな男の人たちの考へです。結局、正しいことを通すことは、生活に不安をきたす。だから、おれにはできないという人が大部分なのです。たとえば、失業者が出ても、下受け会社でひじょうに低い労働条件で働いている人た

ですが、私たちの意志は、まだまだ先ではないと、寒のらなれと思ひますけれども、一部の母親も子どもの教育費を出すためには、懸懐費とか消費を節約するより仕方がないといふことに気がついたのでした。

大谷（リーダー） 岡林の叔母さん。

叔母 都市から農村にたたいま住んでおりまして、農村のひじょうに悪い面をつくづく感じさせられたわけでございます。所感文には、私も子どもが昨年、老人の養子をするに際して、三千人分のお弁当を作つてもらえないかといふ市からの要望がありました。それに対して、農村から出ていらした婦人の方々、会長さんの立場、今までやつていながら作らなければならぬとか、御老人のためだから作つて差し上げるといふ立場で、作ろうといふことでありましたが、私はそれは絶対反対の立場に立ちまして、その頃の気候で、たくさんの食品を管理するといふことは、中津などのおこる可能性が多い。最悪の場合には人命にかかわることだからと、全部仕出しやに出すようになつたのです。そのときに、近隣から中津患者が出まして、はじめはみなさんが、「ああよかつた」といふ形になつたのですが、農村の因習と情性、習慣、それから伝統的なもので動いてきた、そういうものだけに支配されている考へ方を、もつと広い社会といふものを意識して、村から町市から国、またさらに世界につながる広い視野に立つた、自覚された、思慮深い社会的良心をもたなければならぬと、そのいう面で、たたいま活動いたしております。

大谷（リーダー） 大分の松本さん。

松本 職場で私自身、婦人の問題にとりくんで、そこから社会とい

ちがいても、その人たを救おうとする積極的な行動をもつ人が少ないわけだ。その人たを救うためには、どうしたらよいかわかることだ。私はだんだん目をむけていったのです。経済が何%成長した高度成長だといえながら、東京にはたくさんあるビルがあり、ひじょうに繁華でありながら、この近代社会の陰に、また働きたくとも暇がない、あるいは病気で医療費がないとか、そういう現在社会のちぐはぐさというものがあつたとき、一体どうすればみんなが安心して、働きさえすればあわせてなるのだからかということをもつてみますと、どうしてもつと大きな立場から、政策が必要だと考えます。日本の社会保障制度は、世界の中でも高いほうじやないといわれています。そうしたものを、もつと高めなければ、たくさん不幸な人たを救うことができないのじやないかということがあつてきたわけだ。

私の近くの婦人を見ても、自分のしめわけだけにとりつかれ、おしやれとか結婚することだけに目を奪われていて、政治的な関心がない。社会保障制度を充実させるにしても、有権者の半数を占める婦人が、もつと積極的に社会とか政治に目を向け、社会的良心をもつとたくさんの人たがもつて、そういう方向に目を向けていったらいいじやないかということ、地域の婦人なんかと話してありましたが、それを今度所感文に書いたわけですが、現在私も共かせぎのものがひじょうに託児所をほしがつていて、現代社会とマッチした結婚生活が営めない。託児所は、市立が一つあるだけで佐伯地方だけでも間に合わない。それで、電話局や小さな企業に勤めている方々といつしよに託児所を作る運動をは

じめ、現在アンケートを市内にくばり、それを集約中でございます。それを集約しましたら、市会のほうにもつていくことになつております。

大谷（リーダー） 一通りみなさんの所感文に書きました内容をお話したいわけですが、ひじょうに多面的ないろいろなものが出てきています。お伺いしたいのですが、みなさんいろいろなことをおやりになつた場合に、社会的良心を生かそうという気持ちでやりなつたのですか、はつきりとそういう言葉で理解しておやりになつた方、手をあげてください。

萩尾 目的でということでございますが、はつきり思つたということですか。

大谷（リーダー） 今ほもう、社会的良心という熟語が頭にはいつていると思いますが、これを書かれる前の段階で、つまり応募する前には、社会的良心という言葉を結びつけておやりになつたかどうかということですか。

萩尾 社会的良心という言葉とごさいませんが、社会に反影するのだという意識をもたせる運動をしているわけだ。

大谷（リーダー） と申しますのは、みなさんのおやりになつていて、みなそれぞれに社会的良心になつた問題であり、それを生かそうとしてやつていらつしやうと思つて。しかし、大部分の方は今度の募集要綱で、社会的良心という言葉がなければならぬからやつた。これは、社会的良心を生かす活動をやつてきたのだということをお感じになつて、お書きになつたのじやないかということなのですが、そう理解してよろしいでしょうか。

一同 そうです。

大谷（リーダー）

逆に申しますと、社会的良心という言葉は、大へん抽象的な理解しにくい言葉ですが、実践をやつていない人には、漠然としていふと思つて。みなさんのように、とにかく実践をやつていらつしやつた方は、幅が少ないにしろ、社会的良心というものはどういふものかということが、具体的に理解できたのじやないかと思つて。ということは、社会的良心ということは、ひじょうに廣いといふ申すか、ひじょうに多様な表わし方をしなければならぬものかということをもつていふこともよろしいのではないかと理解する。そこで、今までみなさんのお出しになつた問題、ひじょうに多様なことから、それを整理するだけでもよろしいかと思つて、いかなるべきことが、社会的良心について考えさせるきつかけになつたかといふことは、みなさまの方で、それぞれのお答えであつたかと思つて、それを、今までおやりになつたことを離れて、まだまだたくさんお感じになつていふと思つて、それをどういふ広がりをもつていふか。つまり、現在の社会で、社会的良心は生かされなければならぬ、それにはどういふ問題があるか、そういう意味で、お手元にあるように、

- 一 子どもの問題に即して、家庭、学校、社会、
 - 二 地域社会に即して、
 - 三 職場の問題に即して、
 - 四 社会施設、社会保障の問題に即して、
 - 五 職業と生活の問題に即して、
 - 六 選挙の問題に即して、
 - 七 その他人間性を育てさせる問題に即して、
- こういうような問題について、しばらく話し合つてみたらと思

います。

生活環境も違ひますし、都会の方と、農村の方とは、ひじょうに問題の出方が違うのですが、根底においては同じ問題ですから、みなさんでお話し合いができると思つて。まず最初に、母親の立場で、いくつかりかの方がお書きになつていますが、みなさんで、まず母親の立場から掘り下げてみたらどうでしょうか。

椎沢 家庭の母親として、それとも職業をもつた母親の立場として？

大谷（リーダー） どちらでも結構と思つて。

中尾 地域社会の方にも関係あると思つて。

大谷（リーダー） 別に区切りませんから、関連したほうが、どんな問題でも結構です。

中尾 いわゆる出かせぎの村ですが、子どもが父親になつたか。結局、一年のうち一回か二回しか帰つてこれない父親が多い。そのために、子どもの教育が全部母親にまかされる。何かすくつかあんな感じがする。もちろん子ども以上に女としても問題があるのじやないかと思つて。

椎沢 私、保母という職業についたときには、ちようど四つと三つの子どもがありまして、早番だと冬でも六時半に保育所にいつて、ストーブを燃したり、掃除をしなければならぬ。大きい方をソリにのせて、小さい方を背中におぶつて、暗い道を保育所にいく。私もだれも頼む余裕はございませんでしたし、お年寄りでもいればいいと思つたり、近所の奥さんが、ちよつとでも見てくれたらと思つたが、保育所という職場なので、子どもをつれていつてもよかつた。母親が子どもをつれていけない場合、家

庭にだれもいない場合に、近所の親の方が、それこそ社会的良心でみてくれたら、どんなに助かるかと思う。一応共かせぎの家庭では、赤ちゃんのこと問題になると思います。四つ五つとなつて、集団の中で遊べるというの、小さいうちにはとても大変です。それで私は、保育所ママというのを、地域的に全国的に広げていつたらしいのじゃないかと常に考えていました。

大谷（リーダー） 具体的にいますと？

桃沢 一応子どもを育てた経験のある方、できれば前に看護婦とか保健婦、保母の資格のある方が適任者ですが、ある程度常識で判断して、一応あずける方とあずかるほうと話し合つて、子どもをお預けするといふようなあれで。むずかしく考えますと、手も足も出なくなりまして、赤ちゃんがあるお母さんは、あしたにもお願いしたい状態なので、地域のお母さま方がどけこめる仕事として、保育ママという仕事をしたいです。

大谷（リーダー） ひじょうに具体的に重要な問題が出されたわけですが。

楠木 現在は恋愛結婚があたり前のようになっておりますので、私の年令のものが寄りますと、子どもの結婚問題がいつも話題になるんですが、何も恋愛結婚でなくても、双方がほんとうの良心的な話し合いができましたならば、現在の日本の家庭の構造がやはり同じ家庭の中で同居するようになっておりますのを、無理に別居しなければならんことではないと思います。

私の家庭では、現在同居して円満にいつておりますが、これも最近では、考えなければならぬ問題だと思います。

大谷（リーダー） この問題は、あとで関連した問題が出ると思っておりますので、今青森の桃沢さんからお出しになった問題について、一つ話し合つ

てみたらと思ひます。ひじょうに大きな問題でみなさん方お働きになつたものとも関連をもつていると思ひます。つまり、そういう解決の仕方の問題ですね。

松本 職場の側からお話ししますと、女性の地位を向上させようとする、長く勤めなければならぬ。すると、子どもの問題が出てくるわけですね。そして、職場に保育所を要求する場合と地域に作りたい場合と二通りあるが、地域に作りたい場合、お勤めをもたない方にも協力していただかないと、できないが、家庭にいる主婦の方が協力してくれない。そのため運動が伸びないところがあるのですが、そういう点、家庭にいらつしやる方も、社会的良心を生かして、働く婦人のために、何かをしようという心が強いといつても念じております。

野田 私も子どもをもつて勤めた経験がございます。家事は合理化できても、合理化しきれないものが育児の問題だと思ひます。職業も忠実に果たしたいし、子どもにも忠実な母親でありたい。今は乳児期も過ぎましたから、市に保育所がでなくともいいわけですが、それでも、かつて、深刻に苦しみおしたので、何とかして保育所を作りたい。二年前ここに寄せていただきましたときに、あなたは何をここで約束しますかといわれたとき、私は、保育所作りの問題を、精一ぱい努力してみますと申し上げて帰つた。みんな機屋さんに赤ちゃんを背おつていつて働かねばならぬのに、保育所がたつた二つしかない。そこでは乳児保育なんか全然してもらえず、三才以上です。しかも、比較的経済的に余裕があるお子さんを保育所に入れて、ほんとにあずかつてほしいお子さんに入れてもらえない。何とかしてそれをしてもらいたいと思つて、

署名運動をした。乳児検診の機会を利用して、御協力願えませんかといいましたところ、奥さんたちは知らん顔をしている。ところが機屋さんにいつてゐる人が、署名してくれられた。署名が千二百ほど集まつて、市長さんにもつていつた。福井の働く婦人の会で、とうとう私立の乳児保育園を作りましたが、市では五年間で、一年に一カ所ずつ作りますという公約になつて、今年四月一日から新しくできたのですが、やはりみんなに呼びかけると、わかつてもらえそうな気がします。

小島 保育所にお集まりいただいているときは大へん安心と思ひますが、保育所からお母様と別々に帰るという場合、お母様のお帰りのなるまでの、わずかの間に事件がおこりまして、やはり共かせぎの御両親の中学生が、親切から、お嬢さんを遊ばせているときに、ちよつとしたいたずらから、そのいたずらが発覚するのを恐れて、首をしめて、お嬢さんを殺してしまつた。保育所からもどりました場合の、地域の協力で、大いに社会的良心を生かしていただきたい願ひでございます。

萩尾 桃沢さんの保育ママ、これは、もつと詳しい何か、労働者とか厚生省とかそういうのがあるのですが、それから社営というのがあるでしょう。具体的なこととおつしやつていただかないとどうにもならないのですが。

桃沢 保育所にお集ります乳幼児は、三才未満乳児加算といひまして、全国的に地域別がありますが、だいたい金額負担で、二千五百円くらいが三才未満の乳児の保育料でございます。それから三才以上小学までの保育料はA B C Dの四段階に分かれて、生活保護を受けている階層はゼロでございます。今年四月から、今ま

で百円の階層が三百五十円から七百円の間、金額負担と申しまして、所得税納めている人の収入によりまして、前年度までは千五六百円でしたが、今年からは、所得税は百円納めている階層も千五六百円、何百円納めているものも千五六百円では不公平だといふので、千五百円、千八百円、二千円といふふうに、三段階に分かれております。

萩尾 私が申しますのは、保育ママですが。

桃沢 これは青森県八戸市という狭く限られた地域のこととて、一般的に通用するかどうかはわかりませんが、だいたい、乳児をあずかる保育ママは、生まれたときから一才半くらいまででしよ。ミルクをおかあさまがついていらつしやつて、だいたい三千五百円から五千円くらいまでの間のようです。それから、共かせぎの場合は、食費やいろいろ出して、五千円から七千円の間のようにです。そうなるのと低所得階層で、あしたの米にも困るのに、子ども一人のためにといふことになつてくる。だいたい、市役所で民生委員の方などと話し合つて措置いたします。

保育所は一カ月以下はあずかりませんが、いくら経験のある保母でも、一才未満、二才未満の子どもの、一対一の保育を必要としているのに、施設に入つた場合は、それができない。そういうときに家庭ママが必要だといひたいのです。保育所に赤ん坊から入れられて、四才になつて、親の愛情で育てられた子どもと、同じ組にはいります。この二人を比べますと、施設に長くいた子どもは、しゃべるのは大したものですが、人間性が欠けて、ドライな子どもになつてしまひます。地域のおかあさんに呼びかけて、ぜひ一対一を要求する保育ママを常にやりたいと思つています。

山田 保育所とか保育ママもひじょうに結構ですが、最低の女同士
のいたわりあいを強張したい。それは、母性保護の關係で仕事を
しましたときに、たまに、ある女の先生が出席二、三日前に亡
くなられた事件があつた。教育庁にいきまして調べましたら、妊
婦前日、一日か二日くらいしか休まないものさじじょうに多い。
休めないというわけですが、もちろん産休制度や何やらあるわけ
ですが、まだそういう状態です。それから、労働衛生關係で、ある
女工さんのグループを調べたが、そのとき授乳時間を与えられて
いても、他の女工さんに気がねして、授乳の時間が満足にとれな
い状態です。同じ職場の人とか、同じ女性同士いたわりあい、相
互扶助の精神がまだ必要じゃないか。私はそういうふうに感じま
した。

山田 産婦の婦人も働くおかしな人なんです。おかしな人教育が
まかせられているというよりも、おかしな人に教育がまかせら
れている。保育所も、二カ所あるのですが、三才以下はどうして
もおかしな人にかまかされている。そこで、私たちの小学校の
PTAが、老人学級というのをやりました。それから婦人会は、
今ごろの子どもについて、お母さん知つていたことということ
でやつたのですが、熱心なおかしな人は、よくやられている。
その反面、もう私なんかついていけないと投げつけてしまうおかし
やん。それがちよつと問題になつていっているように思うのですが、何
かい知恵を聞かしていただきたいと思っています。

岩尾 保育所にあずけて働きに出なければならぬ家庭婦人は、困
窮家庭が多いそうです。せめて保育所にいる時間だけはその子ど
もに人なみにしてやりたい。保育所は、お金がないそうで、おも

育所を作つてほしいと市役所に再三お願いしておつたのですが、
ちよつとこの春総合小学校ができました。今まで三つあつた学校
が、統合したので各部落に一つずつ小学校があつてきた。それ
に目をつけて、一カ所せひ保育所にもつてほしいと申し出た。そうし
たら、前々の実績があるから、熱心さに見せて払い下げましよう
と、保育所ができた。ですから、積極的な働きかけといいま
しょうか、そういうものが必要ではないかと思ひます。

梶沢 八戸市では、はでにいろいろなセンターを作ります。毎年保
育所をつくり、今年度はどこに作る、あそこを作るといつても、
五年も六年も作れない。地域でやるといつても、無認可の保育所
は、事故がおきた場合、補償問題でめんどろなことがおこる。だ
から私は、それを地域で盛り上げますが、できれば認可された保
育所をお願いしたいが、それが去年、今年あたりめんどろになつ
て、法人組織で五人以上の管理で、こうこうやらなければならな
い、はじめは善意だけでやつたのが、かえつて結果では悪いこ
とになるのではないかと思つた。無認可保育所の問題がいついま
すが、それをよくお願いして、そこで論議を打開していただき
たいと思ふ。

大谷(リナ) お聞きしてまいと、どうしても必要で、農村でも職場でも、
都会でも絶対必要だという点において、意見が一致してゐる。た
だそれを実現する場合に、どうするかという場合に、すぐ話が政
府にとうじやうというのが問題なのだと思います。もう少し地域の中
で、どうやるか。これは福井の野田さんがとにかくがんばつて、
多少でも効果をあげていらつしやる。やはり地域での行政とも関
連がからんでくるのではないか。つまり政府に対して問題を出す

ちやんかてんでないし、給食もひじょうにそまつなものだそう
です。どうかしてもつと政府に働きかけて、お金をだしてもら
うに、地域婦人が働きかけるようにしたいという声が出ました。
中尾 島根の地方会議で出た問題ですが、保育に、夜のお勤めのお
かしな人は夜の保育というのを希望しているということをお伝え
てほしいということでした。

松本 保育所にあずけるのは生活困窮者、どうしても働かなければ
ならないのであずけるほうと、それから女性が自分の仕事を続け
るためにあずけるという方と、二通りあると思いますが、先ほど
保育所であつた子どもは、ひじょうにドライで愛情の面欠けて
いるとおつしやいました。やはりふつうの家庭で育てた子ども
と同じように育てる。そこに保育所の義務があると思ひますが、
やはり現在は、経済的な面とか、そういうふうにかないと思ひ
ますが、たとえば、保母さんをふやすとか、いくらでもできる
と思ひます。それから、子どもは母親が直接育てることも必要です。け
ども、集団的な子ども教育も、やはり現代社会に要求されてい
る一つじやないかと思ひます。たとえば、私の村に二年保育所とか二
年幼稚園とかいって、お金のあつたものは二年いつていられる方もあり
ます。やはり集団生活をさせるという面もあるのです。保育所に
入れてほしいという考え方をもちた人たちが、それをまとめて、
何か大きな力をもつてぶつかつていけば何とかなるのじやないか
と思ひます。ただ、自分達の意志が反響するところがないと、た
め息に終つてしまふような気がする。というのは、私のところで
も保育所が一つで、定員百人に対して入れる子どもが二百人近く
ある。小さい子どもはとつてももらえない。私立でも、もう一つ保

前に、もつと足元の問題としてこの問題を考へてみたらどうでし
ょう。

宮島 保育の問題が出ていて、いちばん根本になることは、ほんと
うならばその時期は母親の手で育てられるのがいちばん理想的で
ある。それともつとも根本的な問題は、結局男の方の月給が安い
ということだ。もう一つ、女の方が、せめて保育の間だけでも
家庭に帰つて、それからその職場にもう一度就職させてくれる。

その働きかけのほうも大事なのじやないかと思ふ。

山田 私はあるグループに属して母親予備軍として保育所問題を取
り扱つております。そのとき、あるアメリカの小児麻痺のキャン
プインとして、市民の一人一人が十セントずつ寄付して、小児麻
痺の研究を遂げていくことで実績をあげている。それは、やは
り市民の連帯意識としての盛り上がった組織的な働きですが、し
かも、政府とか何かにつく問題をもつていく前に、五十円でも百
円でも、人々が募金して、それで自治体なり政府の施策をとお
しする精神もひじょうに必要じやないかと思ひます。

野田 どうしたら地域精神、保育所問題がしつかり取り入れられる
かという、これは婦人の声を代表する市会議員を送る必要があ
る。私の隣りに勝山という町がございます。これも機業の町で、
大野が三カ所につたが、ずつと前から六カ所ございます。人口
は大野よりむしろ少ない。それには立派な乳児保育所がついてい
る。そこで今、大野で考へていますが、男の職員さんは赤ちゃん
を育てるのに困つてないから、本腰にならなから、女の市会議
員を送つてもらいたいということです。すぐれた婦人議員を出す
ことが、この解決をひじょうに早めると思ふ。

裁尾 先ほど長野の宮島さんの御意見ですね。母親は子どもを育てる義務があると思う。そうして、小さいときの愛情が、その人間の一生を左右する信念をもつております。けれども、家庭の事情でできないことも多いと思いますが、できる方でも出ていらつしやる方がひじょうに多いということが考えられます。もとママさんはママさんらしく、一個の人間を育てるということが大切なことを考えなおす必要があると思う。

大谷(リリーダ) 先ほど中尾さんが、島根県の特産事情じゃないか、ということですが、農村は全体的に兼業農家で、経済的に苦しいから、そうならざるを得ない。松本さんのところで二通りとおつしやつたが、どうしても、勤務を続けていくということをやつていらつしやる方もあると思うが、やはり共かせぎをしなければやれない人が大部分と思う。だから母親のあり方についての問題はあとに回して、さつき出た問題についてどう立ち向かつていくかを少し掘り下げたほうがいいと思います。

横田 文明が進歩していくと、共かせぎということは必然的にふえてくると思う。現在悩んでいらつしやる方がもつともつと深刻になつていくとする。それを解決するには、また保育所を作ることでも大切で、そのつなぎとして保育ママというものが必要じゃないか。家に割合仕事のない人も、さがせばあると思う。呼びかけでもあると、ばつととんでくる人もあるのに、全然知らないという人もある。そういうときに、その手助けをするようにしなければならぬと思う。

大谷 保育所の問題を大部やりましたからこれを掘り下げて、呼びかけても答えてくれない。何かやろうとして働き出すと女のくせ

供えて悲しむところですか。それがまんじゅうというささいなことからひじょうに大きな家庭問題に発展してくるのです。たとえば、お嫁とりのときにまんじゅうをくばりますね。すると、そのうちは何番目くらいだから十三円のまんじゅうが十五くらいくるだろうと思つてゐるのを十二くらいだと大へんことになるし、お姑さんは、もつていく場所がないから、嫁さんにつらくあたるわけですか。それからお葬式でも、親が死にますと四斗俵一俵、おまんじゅう二十……。

萩尾 一俵を何にするのですか。

高瀬 集まつた人に食べさせる。私なら姑が死んだら最低二十ですね。二組といひますね。籠で一對、お香典五千円くらいですが、ちよつとした嫁さん階級は、一カ月分の給料は軽くとんでしまうくらいいるのです。そこでせめてまんじゅうだけでも廃止すればという運動になつた。自分を例にとつておかしい話ですが、結婚して十何年目くらいに子どもができた。しかも男の子で、まんじゅうをくばらなければならぬが、六十軒ありますので、一つ十五円のまんじゅうを十五ずつくばるとものすごい額です。みんなに相談して、十軒づつ班になつてゐるから、班だけまんじゅうをくばるか、百円か百五十円程度の家庭用品をくばつて、少しお金を部落に寄付すればどうか、といひだした。すると「それはいい」といふ人、「今までまんじゅうくばつてゐたものをナキヤンデソナコトセニヤ」といふ人とあつたが、結局押切つてしまつた。というのは、夏、まんじゅうをもらつてものすごい腹いれをおこした。この際というので、まんじゅう撤廃をしてしまへました。そして、千円か二千円ずつ気持ちだけ部落に寄付する。ただし班へ

にという壁にぶつかる。そういういろいろな問題を含んだものとして地域社会の問題を一つ。(休憩)

大谷(リリーダ) 保育所という具体的な問題に即して、いろいろな皆さんの御意見が出たわけですね。そうした問題との関連で、地域社会の問題を考えてみたい。当然地域社会という場合には、生活環境としては職場の問題もあるかと思いますが、まず地域社会の問題を取り上げて……。

館野 最近青少年の不良化の年令が大へん低くなつてゐると申しますが、主人は総合中学の校長をしております。そういう例を見ることが多いのですが、いわゆる非行少年のことが家庭にまでもちこまれて、当人とそれから担任の教師、校長というよりな立場で考えてゐるうちはないのですが、そのうちのいくつかは警察の耳にはいりまして、新聞だねにもなります。新聞だねになるのは、ほんの氷山の一角です。学校と家庭の当事者だけでいくといふ問題はたくさんございます。それをつきつめていきますと、完全に秘密のうちに、準備されて、そうなつたということはほとんどなく、おとなの目に触れたというのが必ずございます。そういうときに、最初に触れた人がなぜ知らせてくれなかつたかと痛切に感じます。それが今のような心配をもたせられた要素ではないかと思ひます。そういう世論を喚起していただきたい。

大谷(リリーダ) これは、地域における人間関係ということになるかと思ひますが、そういうことからまず第一に問題を取り上げていただく。結婚の問題を一つ——最初に問題にしてみたらどうでしょう。

高瀬 私の住んでゐる時は、人が生まれたといつてはまんじゅうをくばつてお祝いをしますし、人が死んだといつてはまんじゅうを

は家庭用品をくばりました。そうして、集まつたお金を積立てて部落の共同電気を設置する費用の一部にあてた。もう一つは、部落の集会所がなかつたので、お宮の横の物置を改造して集会所にしたということです。

大谷(リリーダ) あなのところと同じ問題ですが、私一つみさんに聞きたいのですが、幾村と幾村でない方がいらつしやるのですが、だいたいおわかりだろうと思ひます。娘を一人嫁にやる場合に、支えをどれくらいその地方でかけてゐるか。

松本 私、私も会社に勤めてゐるのですが、農村に住んでゐるわけですが、私のところは部落が六十軒ほどありまして、幾村、海に面した農村地帯という形ですね。私もまだ独身ですが、この間妹が結婚したのが、だいたい二十万円くらいかかるそうです。どここの人は電気洗たく機をもつていつた、電気冷蔵庫をもつていつた。四五年前とお嫁さんの道具が違つてゐる。結局、最初はミシンまであればだいたいよかつたのに、今は電気用品すべてをいい家庭にお嫁にいく場合に、要求されてゐるわけですね。私の部落は、因習というのが強くない。テレビも八十%くらい部落にある。やはりまんじゅうが古いのだという考えは、だんだんと年をとつた方にはいつてきてゐるようです。結婚という、現在二十万円いるというふうにいわれております。それは、私の場合は、できるだけそんなことはやらないといつてゐるわけです。

大谷(リリーダ) 電気用品全部合せてですか。

松本 そんなもの入れたら、やはり三十万、四十万かかるのじやないですか。

岡林 私のところは交際費にたくさんいる。結婚することになると、

おじとかおばとかが、親等の順に花むけのような形でやるわけですね。おじさんから順々にダンス、障子、湯たんぽを譲るというふうに。私たちが結婚したのが終戦後ですから、一々ダンスから障子というように買ひまして、お金もひじょうにたくさんかかり、自分の生活ができない。だいたい二十万くらいで最低のところじやないでしょうか。

山田 私、私の地方で、その家の兄弟で、その財産を相続した分をやつておこうという運動がおこつて……。

大谷（リーダー） 女の子が嫁に行く場合です。

山田 公民館は使用料五百円で、巫子に二百円、料理は三百円。

大谷（リーダー） それです。もう一度呼びなおしますか。

山田 はじめはもう一度やるところがあつたが、非難されてしまつて、今は自然になくなつた。

横田 私のところは婦人会活動を終戦後すぐはじめて、披露宴にはあまりやりません。ちよつととくに上ばれたときにおまんじゅうを百円くらいで——費用は二十万くらいです。

中尾 だいたいオート三輪で、あそこの家は一台とか二台とかで、金額はわかりません。

楠木 三重もやはり、だんだん進化されたものをもつてみえるという形になつていっていると思います。私一人娘で、男の子が三人ありますが、家のお嫁さんは、家からみれば財産家からきていますので、立派な文房を、そのころで五六十万もつていられるけれども、私は自分が婦人会のリーダーになつていたから、率先して、土地を娘に四十坪与えまして、それに住宅を、ほんとうの市営住宅をみるのを見てやつたのです。支たくのほうは新婚旅行にいくのに着る

やつぱり……。

小島 私、結婚相談所みたいな事務所を作つてあります。やはり都会生活ですが、金額の方はまったく千差万別です。サラリーマンで親がかりでない方は、三万くらいから十万くらいまでのお結婚です。そういう場合、お嫁さんのほうはお勤めの方も多うございませうから、月々サラリーの中から、その資金を捻ひていきます。また、年々ボーナスその他で贈り物やダンスなどを求めています。披露宴に何十万おかけになるよりは、将来のために貯蓄してあげたらと私はおすすめますが、結婚式なども百円でテーブルティーのような形でござつていらつしやいます。

山田 私伊勢崎に住んでいますが、いわゆる磯の町ですから、割合そういう面ははなようです。友人は結婚式ではなく、友人とか親類を呼ぶときと、結婚式と、それから近所ですが、何か三回くらいやるらしくて、やつぱり私の計算にすると、二十万くらいかかつていらつしやいます。

熊野 ふつう御近所では二十万と申しております。私この間長男の嫁をもらいましたが、横浜の方です。いい嫁だと思つたのですが、いなかではいいお嫁さんをもつたというのには、結局お支たくを見ていふのです。しかし、勤めも有楽町で、こちらで生活するから、お支たくなんか見られる心配ないからというにしました。いろいろ話し合ひまして、こんなことがわかつたのでございませう。お父さんの小使の中から冷蔵庫を買つてくださる。お母さんはダンス買つてくださる。私のほうは、みなさんから祝福していただいて、おじ、おばから家庭用品がそろつたわけですね。だいたい親類中のお祝いで家財道具がそろつてしまつたわけですね。

を作つてやつただけで、料理は簡単にやつたわけでございます。

宮島 金額はわからないのですが、グループの方の生活です。村で同姓がやかましくて、むずかしかつたそうですが、同姓全部と縁を切つて、お嬢さんを大学の音楽部に入れて、それから空の出入を百坪、土地を分割して娘に渡して、家を建てるのは将来夫と建てなさい。同姓というのは部落で三十軒あります。その同姓の中には長がいます。だからコースをやりたいと思つても、同姓を納得させるわけがなければなりません。新しいことをするには、同姓会から脱退するしかありません。だからみんなからは悪口いわれていられるけれども、村の中で娘を大学の音楽部に入れたのは、高校でたつた一人でした。

野田 私の農村では、一年分の年収をたつた一人の嫁にかけます。平均少なくとも二十万から三十万使つていける。それが主に飲み食いに費される状態です。中学を卒業して、それからすぐ機屋さんにいく。六、七年働いて三十万くらいたまると、だから親がそんなに苦労してやるのではなく、娘が働いたお金で支たくするから、かまわないうちやないかという考えも成り立つのですけれども、問題なのは中産階級で、子どもに教育だけは身につけさせたいが、お嫁入りの豪華な支たくまではできない。学校を出た娘に、してやれないと、休面にかかるといふので、親ごさんが無理算段してやるが、それに反発して、奥に新しい、時代が変わつたと思つてどの結婚した若い友だちがあるのです。

高瀬 最低で三十万。最高はきりがありません。私の部落ではもう分には、衣裳見せとか、二日も三日も費すといふことはまつたくなくなつたが、ところが、他の部落に出ていくときに、それが

大へん因習の強い農村に住んでおりますけれども、長男の嫁にかかわらず、そんなことを断行しました。

熊沢 青森では結婚には田んぼとか山を売ります。アンチャといいますが長男の場合、それから長男に嫁をやるときは、すどいお金をかける。三女、四女など、長女でないのは、みなピタコといふ。長男はアンチャとかおや方、それ以下はオンチャ。アンチャは田んぼ、畑を売つて三日三晩飲んだり食べたりします。そういう風習は、地方でひじょうに残つていける。

大谷（リーダー） 私がみなさんにお聞きしたのは、まじやうと同じ問題なのですね。つつこんでみれば、私としては念のためにお聞きしたのは、戦後十数年かかつて各地を回るたびに、娘さんの結婚の支たくがどれくらい使われているかといふことを聞いたり調べたり、どなたかおつしやつたように、だいたい一年間の農業所得に相当するものを使つていける。全国的にそういつてよいと思つて、上は限りないとおつしやつたが、まさに過ぎるもので、米価が上がりれば農家の場合は、それ相応に値上げをしていくといふことですね。また、私はまじやうの場合には罪が軽いと思つて、卒直にいうと、むしろ結婚式に一年間の勤労所得を全部使つてしまつたといふことが見えてくるというところの問題があるのじやないか。小島さんのおつしやつたように、BGの場合は、あまいうが決の仕方をしていられるわけですね。都会でそういう解決をしているのに、農村ではなぜできないのか。そして、それが、それこそ社会的良心の問題と結びつけられて問題にならないのはなぜだろうかといふことを、私はひじょうに感ずるのです。これは、一人ではできないので、私はこれを悲しき共同体といいたい。私の

見るところでは、戦前には農村において地主階級は、戦後農地改革の結果、自作農になつてから、耕作農民が昔地主のやつたようなことや、それ以上のことをやるようになった。これはヤミブーム物価というものが経済的な基礎になつておりましたが、とにかくそういう慣行ができてしまつた。そうして、もつてくるものがないか悪いかで、いい嫁をもらつたか悪い嫁をもらつたかという判断が出てくる。結局一年間の農業所得を使つておるわけですから、生活水準は切り下げなければならぬし、農業経営の改善をやるうとしても、資金がなくなる。そして田んぼまで売る。それから相続分だといつても、それだけ広くもない田んぼを分けてしまえば、農業経営はもつと苦しくなる。そういう矛盾があるわけですが、たとえば私の話を聞いて、これはいけないというのでなおそうとしても、個人ではどうにもできない。結局そういうことをやると、稼ぐところがなくなる。つまり、みんな寄つてたかつてスクラムを組んで、人間らしい生活をするための物質条件を食いつぶしている意味において、私はまことに悲しき共同体——といわなければならぬのじゃないか。山田さんのところはひじょうに現代的な、合理的な形をとつていっているように見えるが、みなさん分割相続していますか……

山田 分割相続ではなく、割り前のことで少ない人は一万円……長男がどこでも遺産を相続するでしょう。不動産なんか全然分けない。もし二十万円あるとして、五人おつたら、一人が四万円、そういう考え方です。みなさんではないらしいんですが、財産は親を見る、農家を継ぐべき人がもらうのです。学校へ行きたい人はそれで学校へ行く。

覚が足りない。費用をかけて結婚式をしてやるのが子どもへの愛情だと思つてゐる。それだけ思つたら、自分の老後のことを真剣に考えたらと思うのですが。

大谷（リーダー） ひじょうに重要なお話があつたわけですね。みなさんいかがでしょうか。

松本 私未婚ですが、今おつしやつたような形式でやりたいと思う。今から父や母に私はこうやりたいから、そのときはたのむと、だいたいで承知しているのですが。

山田 私、親はつかりのせいではないような気がする。私の姪が今年大学を卒業したとき謝恩会をした。ほとんどの方は振袖袖で、姪の場合によつては私の訪問着を貸してやるという約束をしておいたが、二人か三人の洋服組だつたわけですね。それをみても、何か大学まで卒業したお嬢さんたちに、自主性、主体性の喪失というものが考えさせられる。

大谷（リーダー） これはまた、深く問題が出てきたね。農村だけでなく、山田 ですから、若い人自身にも主体性の確立という問題が考えられなければならない。

萩尾 主体性のことで、成人式のときに、ものすごく華やかな服装をしてくる。やつぱりお嬢さんにも責任がある。自主性がな。自分がどうあるべきか知らない。それを打ち破る一つの方法として、婦人会と青年団。私の場合には、成人式に該当した男女全部を集めて話し合いをして、よく話し合わせたわけですね。そうして、とことんまで考えて、それを全部廃止する形になりました。山田 その成人式も、伊香保では八月にしている。それは、やはり若女の方たちのはでな服装を避けたいということですが、やはり若

大谷（リーダー） そういう特殊な例があるにしても、一般的にいうと、ほんとうに悲しき共同体だと考える。この壁は意外に厚いのです。こういつたものが、ほかのものにつけても、前向きな動き方をしようというものはほとんどない。基盤になつていいると思う。最終的には、皆しさの問題、共かせぎや、出かせぎをしなければならぬ、そういうほんとうの原因を自分たちが作つていいるのじゃないか。それだけじゃありませんけれども、いつぞや貧困のための強力体制を作つていいるのではないか。その問題を少し掘り下げてみる必要があるのではないか。

野田 私は結局、寄つてくるところは、息子たち自身が結婚するのじゃなくて、私が主体になつていいるのです。ところが、私の友は、どうしてもこの人じゃなくてはいつて、親の反対を押し切つて結婚した。その人は立派な職業がありますし、学校卒業してから計画的に貯金して、二十五万くらいはためていいるわけですね。だから親から結婚の主導権を息子たち、娘たちがもつていいる、子どもたちが経済的に、やはり独立していかなければ、最後は親のいになりになる。その人は、結局経済的に独立したから、親と子どもたちで反対なやつたけれども、とうとう結婚した。ところが、その友だちが五百円会費でやつて、全然親たちに負担もかけずに、立派な結婚式をあげて、あまつたお金は、結婚の花むけにして、ださつた。それで、親ごさんも最後は、娘がそこまで思うならと、あたふたと結婚式場につけたが、入り口で、お父さんも参列してくださるなら、会費をください。お母さんもくださいといつて五百円だけお父さん、お母さんが出されたわけですね。だから、結婚は、娘や息子は自分の責任でやるのだと同時に、親の側に自

い人たちが、主体性の確立というものをもう少し考えていいるのじゃないかという気がします。

宮島 主体性と同じ意味で、創造性というか、自分で新しいものを作り出すという気持ち、農村の婦人の中からコースがやりたいという人が出てきた場合に、そういう感情の中から、そういう気持ちをもつてやり出そうとしているのは、立派だと思ふ。終始支援してはいますが、まわりの人はなぜ、そういうばかりかたことをする人を支持するかわからないという。自分がいいと思つたら、どんなやつていく。そういうものを決していいて思つていないというところを、ひじょうに強く感じます。

大谷（リーダー） そこで先ほど楠木さんは、結婚のあり方の問題を親の立場からお出しになつたのですが、今までのお話しをお聞きになつて、どうお考えになりますか。これはひじょうに大事な問題ですね。つまり対立するということではなくて、人間というものを考えた場合にこれをどう調和させるかを考えてみたらどうか。

南木 これを親のほうの側でみますと、いろいろの会合に出られて知識をもつていられる方は問題ないのです。そういう会合にもちつとも出られない方は認識がうすいと思ふ。それで、私は青年会の会合にアンケートをとつたことがあります。話し合いをしたことがあります。そのときに、青年たちは、結婚したら、二人の戸籍ができてしまう。家と家の結婚ではなく、ぼくたちは二人が結婚して新しい家庭を築きあげる。親たちは結婚式におとうさんの兄弟、おじいさんの兄弟、親せきの兄弟といった、親類を呼ばんならんというが、ぼくたちは、そんな顔も見たくない人たちはではなく、ほんとうの自分の友だち、恩師を呼ばないといつたと

とがある。私は、そういう子どもの考えも親がよくわかるように、自分が知識をひろげて、子どもは子どもで、何かしら両方から歩み寄るところがあつてこそ、円満な結婚ができると思う。

大谷（リリーダ） 社会的良心というのは、人間が人間らしく生活する権利があつたしななければならぬのに、その人間自身が反人間的な生き方をしなせやならんために、こじらしている問題として、この問題を考へてみたらどうかと思ひますが。個人的良心と社会的良心の関連の問題。それから我々先生が講演の中で、社会的良心と我が家精神という観点から問題を出されて、我が家精神の究明解消が、社会的良心を生かす道だという問題を出されたわけですが、この問題を考へるに、いちばん具体的な身近な問題じゃないかと思ひます。

楠木さんから、このごろ恋愛結婚がひじょうに多いが、親と話し合いの上というお話しがあつたが、親の立場としては、そういう思ひ方をすると思う。しかし一方において、野田さんがおつしやつたように、なかなか話がつかないときは、自分たちで所屬としてやる以外にないという現実の矛盾がある。富島さんのお話しに、私はびつくりしてしまつたが、同姓との縁切りをやらなければだめだということ、排沢さんの場合には、長男と末子の間にひじょうな食い違いがあつて、長男の場合には田んぼを売らなければならぬ。これはやはり家の問題と個人の問題、この問題がむき出しに出ているのじやないかと思ひますが、どうしたらいいか。野田 親子の対立は、結局ものの見方、価値観が世代によつてひじょうに違うからではないか。若い人は、現代そのままを卒直に生きようと思ひますし、年代がたればたつほど、いかに努力しても、

つことが、まず必要じやないかと思ひます。大へんなまぬるい考へですが。

大谷（リリーダ） いや、それは大事な問題点ですが、結婚の経験があるのでしょうか。おやりになつたことは別として、本質的にどう生きるべきか。だから自分のやつたことにこだわらないで、みなさん御発言願つた方がいいと思ひます。

館野 お若い人が選んだのいいというふうに受け取れるのですが、若い人が選んだ道が必ずしもいいとも限らないと思ひます。親は親なりに長い経験をもつてきているのですから。歩みよりは、親が一步歩みよること、子どもが五歩歩みよることは、親の方がむずかしいかもしれませんが、話し合いによつて、歩みよることも必要と思ひます。

横田 こういふ時代になつて、親が子の結婚に対して話し合いをする力がなないと思ひます。女のひと男のひとの交際はものすごく自由になり、職場にも、あらゆるところで接する機会があるが、それよりもまず子どもを育てるときに、正しい相手をほんとうに選んで嫁しいというふうには……。私も今のお考えに大賛成でございます。

小島 私は、やはり恋愛してから結ばれるのではなく、深くなる以前に、相談をされるような親になつていきたいと思ひます。青少年時代に、意識するとしなにかかわらず、女のおともだちができて、女は男の友だちができます。女のおともだち、男のおともだちということにこだわらずに、女も男も、自由な気持ちで交際させて、特別な意図のもとに交際をするということになる以前の教育を、私つとめてお若いおあさま方に望みたいと思ひます。女

やはりそこに年代的な相違がある。さつきの人の結婚の場合ですが、若い人は若い人なりにひじょうに努力した。この結婚にこぎつけるまでに三年かかつている。友だちにも恩師にも自分が信頼できる、人びとにも聞いてみた。悲しいかな親と娘さんとの価値観の相違ですね。相手の男の人が財産がない、学歴がないということが、親と娘さんにとっては最大の不満です。娘さんは東大出のお見合いをした人よりも、学歴のない人のほうが人間的に深いものをもっているの、表裏的な学歴なんかは隠れこまない。親ごさんは結婚は経済的な裏づけがなければいけないという。若い人には、若さで経済的問題を克服していくとうとしてゐる。だから、古い世代に属するもの、新しい時代を知るために、努力しても努力したりないという自覚をもつと、もう少し摩擦がへるような気がする。

富島 経験も含めまして、親と調和するなどといつてもきりがなないと思ひます。時代の流れには、どうしても親たちは抵抗できないと思ひますから、若い人たちが、正しいと思つたことは、時間がたつと、結構親というものはわかってくれる。だから、基本的態度としては、若い人が調和を先に考へるよりも、自分のしあわせを追求していくことが大切だと考へます。

山田 個人の尊厳とか自由ということ、おとなにしても子どもにしてもあるのじやないかと思ひます。年令的な所屬というものが今の時代に多いのじやないかと思ひますが、それが、消化不良のままあるものですから、何かどちらかが歩み寄つてこないような状態ではないかと思ひます。

やはり人間としてもう少し思いやりを年寄りよりも若い者にも

の子を見る目、男の子を見る目を早いうちに付けておきまして、親も子どもの歩みといつしよに歩んできたならば、おそろく恋愛問題がおこりまして、十分それに対処していけると思ひます。

楠木 息子たちが結婚にまで進んでいるとか、相手があると急に打ちあけられましたときに、母親の立場から、相手のおかあさんのことも一応考へなければならぬと思ひます。もし未亡人であつた場合には息子さんが養つてあげなければならぬ。そうしたときに、自分の老後の問題がおこつてくるといふことをよく考へなければならぬと思ひます。

高瀬 結婚問題に直面してしまつてから親子が話し合つても、なかなかうまくいかないと思ひます。平生から、あるときは親子であり、あるときは友だちであり、あるときは先生のような、そういう立場でよく話し合ひという環境を親も子も歩み寄つて作つておくことが大切ではないかと思ひます。

館野 どちら先生ですけれども、長男と長女で好きになつてしまつたのです。女の方のおかあさんは、大学を卒業させる資力がないうのに、大へん努力して卒業させた。二人がどうしても結婚したいというのに親ごさんのほうは、どうしても結婚させたくない。母親の生活費を二人の働きの中から出すからと提案しても、わからぬ。

大谷（リリーダ） 今の長男と長女の問題はひじょうに具体的ですが、みなさんのところで、そういうケースがおこつた場合にいつたいどうなさるか。

岩尾 私の弟の長男は一人娘をもらひまして、四人の親を見る覚悟をしてゐます。年令的に差があるから、四人の親を見ることがで

きることです。

小島 籍は結婚するとわかりますので、どちらにいつてもなくなるわけでございますけれども、結局姓の問題で、一人娘と一人息子という場合は、やはり息子さんの姓になるようにでございます。その場合、できた子どもを、両方で一人ずつでも二人ずつでも、分けるということで解決しておりますが、それから恋愛のことですけれども、私のまわりで、戦争未亡人がお子さん二人をつれておりました。その方が未亡人になられた直後ある会社にお勤めになつておりました。たまたま一人息子で十五くらい違うかと思ひますが、大学出てすぐはいつてきた方があつたのです。もちろん両親がおられた。お二人は、ほんとうに純粋な愛情で結ばれました。その後今だに奥さんはお勤めをしていらつしやいます。先日会いましたら、私は大へんしあわせな結婚をしておりますので、旦那様の御両親に一万円ずつ送金しておりますが自分の愛情に対する喜びとしあわせのためにまだ足りないもので、それを倍にしように思います。そういう感謝の心で、大へんむずかしい結婚を克服ししあわせにしていらつしやる方がございます。

山田 農村の恋愛問題ですが、青年の指導者で、男の指導者と女の指導者が仲がいいという話がありまして、みんな祝福したのです。しかし、年寄は自然の成りゆきに任せていかなければいけないという面をもつていながら、案外がんとそこらがある。それで、あそこにある家の娘さんを迎え入れられるだろうかというのが私の心配だつた。男の方に、お勤めの通令期の弟さんがおられて、だれかと恋愛関係にあつた。兄さんを許したら、弟も許さなければという状態です。その家のおとうさん、おかあさんは、

るんです。(笑)

横田 息子でもおとうさんでも納得してくれたいが、恋愛というものは、感情で、理性ではできないことが多いんじゃないか。いいことではあるが、むずかしいと思う。

楠木 結婚問題にしても、その他冠婚葬祭の面についても、土地の事情によりこれを短時間に合理的にするというのはむずかしいと思ひますが、それをもう一度お話し合ひしたらどうか。努力とテクニックを使つてやつたらいよいよ、ひじょうにいい案だと思ひが、それをもう一歩つき進めて、そういういろいろの問題に直面した場合に、その人たちが、そういう社会的良心、家庭的、個人的な良心を失つて、そうして人間性を失ひ、これはどうした原因によるかということとを双方で考えてみる必要があると思ひます。

大谷 (リター) 大部分結婚問題ですが、ひじょうに重要な問題ですけれども、ある意味では、根本的な問題が出ています。今度は地域社会の問題に関連して、選挙の問題をお話になつていく方がいく人かあつたのですが、この問題を収めていたいただいたらと思ひます。

これはある意味では結婚の問題と同じですね。地域社会における。

横田 私のほうは、選挙戦になりますと、方々に旅行なんかありますと、金一封がちよよいちよ出るのです。今はありませんが、終戦戦直後は芝居をその頃になると計画的にする。村の若い人がきて、花をさせて、それがいくらか残ると、村の青年たちが飲む。旅行でございまして、ばつと出ます。何とかバス旅行に御招待します

わかつた人だと信じていたのに、結果は娘さんの親のほうに全然お百姓でない他の方にお嫁にいかしてしまいたい。その人たちが結婚して農村の新しい家庭生活を見せてくださるだろうと思つていたので、私なんかの力ではどうにもならないというあと味が残つてゐるのです。

岩尾 結婚は、大切なものですけれども、親子との結びつきでございます。それはやつぱり、親は親であり、子は子であり、別個の一人一人の人間であつて、一人一人の個人の上に立つて処置しなければならぬ問題を、おとなになつてもつながらの上になつて絶ち切らないために、いろいろと問題がこじれて、いるというふうに思ひます。だから、結婚に直前して、そうした矛盾が露呈されるので、生まれたときから親子の関係を、正しい考えの上になたれていなければ、自然そういう問題は解決されていくと思ひます。これからでもまだおそくないから、お互いが正しく、個人としての目ざめの上に立つように、親も子も努力していくことが大切じゃないかと思ひます。

桃沢 思ひき共同体をどういうふうにつけていくか。現在、悪い風習の壁を破るにはどうしたらいいかというお話し合ひをされてゐるが、先ほど山田さんが、話し合ひをしたらどうかとおつしやつた。それはとてもいいと思ひます。理屈じゃなくて、努力とテクニックをうまく使ひてなしたらいいと思ひます。息子が自分の意見を通そうとする場合に、親のほうは、直ぐいいわないうで、ギリギリまでつてやつたらと思ひます。地方ですと、何々議員だとか学校の校長先生だとか、そういうような立場の人からうまくいけると、案外親は折れるのです。実際そういうことやつたことを知つてい

というのに、いしちひつかりまして、個人としては買収に応じないような良心的な人も、そういうことになると、すぐひつかかる。去年うちの部落で、二人候補者が立つた。市会議員です。旅行でもあるといつたら絶対反対してやろうと、友だち同連で、約束しておつた。案外のこと、旅行のばしもしようといつたら時期が三月だつたからあまり反対はなかつた。ところが四月になると、子どもを連れてバス旅行を、他の部落がだんだんした。すると部落に二人の候補者が金一封をもつていつてゐるらしい、といううわさが伝わつた。それでもういつべん会議を開いて、私の部落もいくつになつた。私の説に賛成してゐた人も何もいひない。結局私が一人反対のようになつた。私は成り行きにまかした。私の部落はそういう立場をとつてゐたから、ちつともお金はこなかつた。私はいいと思つたが、ほかの人はそうは思わない。もう一つは、選挙戦になると、いろいろ芝居とか映画の前売券がものすごく出る。

島倉千代子ショーがあるというときに、いつばいばらまかれた。所屬団体から私にも前売券がきた。売ろうと思つても売れない。ある人が、候補者のところへもつていつたら売れるでしようといつたのですけれども、候補者にばらまいたら、活動につながららごめんですと、返した。そういうときを利用して、周囲の人が利権にあずかるうとしてゐる。

野田 私のところも、市議会の選挙がございました。屋根の上よりも高い雪の一本道を、屋根にマイクをつけて「みなさま、何とか何とか」、聞いてみると、「私を勇気づけてください」十五分間ただそれだけです。市議会の選挙には選挙公報も、立会演説もない。候補者を知るには、街頭演説しかないから、一生懸命になつて聞

いていたが、政策のせの字もない。私もあまりかねて、「政策聞かしていただかせんやるか」といつたら、「あんた何いうてる、政策なんかいつてる暇ないよ。忙がしくてかなわない。そら、あつちにもきたらう、こつちにもきたらう」。やはり候補者がたすきかけておいてる。結局、當日、親類、縁故をかけたお金もらつて、票がきまる。地方選挙の実態は、そんなことです。私のグループは、それではいけない。政策もしつかりした人を入れようと思うが、肝心の公約もなければ立会演説もない。婦人会の中には、選挙のたびに特定の候補者を応援するが、私のグループは、政策を中心に勉強して、私たちの信念にびつたりとした政策をかがけてくださる方でしたら、一銭も一円もいりません。お金もどだけ積んでくださつても、お金で動く人は残念ながら一人もございせんから引き取りくださいといつて帰つてもらつた。ところが、私の地区で推薦したと、どうか書いてください。どうかこの紙に名前を書いて判を押してくれという。選挙は自由でしようといつたら、とんでもないと、奥さんたちを白い目でにらんで、ここに判を押せばハンカチに何かつづんでくるというのです。

中尾 市議会の選挙は、十日間の選挙期間があるように聞いていたが、最初の三日間とあとの三日間は、ひじょうにやりやすい。最初の三日間は立候補いたしました。お願いします。あとの三日間は、最後のお願いですと、振られるが、まん中の四日間はずかしい。はつきりした政策をもつていないものは批判されるし、四日間をどうやって戦うかで、きまる方もあるということでした。ですから、私たちもよく目をつけて、四日間という短い日日をの

がさないように耳を傾けるといふ、何かそういう機会とか場所を設けてほしいと思います。

萩尾 選挙公報、立会演説会は、小選挙にはないのですけれども、小選挙の場合も立会演説も選挙公報も出していただく方法があるのですよ。

野田 公約に制約されないものは、もし違反した場合の罰則というか、責任感が少ないと思う。ただでさえ市民は、いわゆる情実の網の目にひつかかる人がいっぱいある。私も、個人的にお願ひしますといわれただけでも、十何人ある。親類関係でちよつとかかるのが三人ある。それを振り切つて、ほんとうにいい人を入れようとしているのに、政策も何も公けに、みんなに聞かせる機構がないといふことは、ひじょうに手落ちだと思ふ。

萩尾 私たちの力でやる方法がパンフレットで出ているが、それをお読みにあつて実行されればできると思ふのです。手続において確かにむずかしいが、私ども実行した場合の事例をかけたのです。

野田 それは結局市議会できめるのでしよけれども、自分の首をくくるような法律を、議員さんなかなかこしらえてくれないわけです。

大谷(リーダー) 法律じゃなくて、条例ですね。

萩尾 婦人会で実際に一生懸命政治を勉強したので私たちの目がひじょうに肥えてきた。たとえば教育委員とか知人とか、みんな呼び出し、いろいろな形で説明も聞き、こちらからもどんどん質問して、ごまかされませんというところまでいつてゐる。積極的によればできないことはないのじやないかと思つております。そこ

までの勉強が大事だと思ひます。

山田 選挙のことと悲しい経験がありますから、福岡の方よりな、強いところから私自身にないので、空気がいいことを思ふのです。選挙があると、私の家の辺には、後援会ができてくる。できましてからでは間に合わないといふことを経験しています。

選挙がすんで二三年たつたところに、みんなの報告をさせた。あのときはこういう悲しいめにあつたのよといふことを、友だちのあれにも話し、これにも話した。後援会も二三人でたちまち賛成しないで、それが作られるまでの過程をみんな考えました。それから、施政報告演説の名をかりて選挙の運動があります。それで、あれはあの党にいつたからこの人をするだろうという考え方をまたないようになさしめようと、部落の人をなるべくどの党へもさそつていつてあげる。こういうことが私たちにできる選挙の方法だと思つてゐます。

楠木 婦人議員がひじょうにたくさんでたが、だんだん婦人の議員の数が減つてきて、心細いような感じになつてゐる。三重県の例では、私は、婦人会長が連絡協議会長であり、市の会長である方が政治家であるために、選挙のために婦人会がわけてしまふわけです。無所属ではあつたが、党派とのつながりがありますものですか、どうしても、応援にも立たれるという形になりますと、婦人会活動と政治活動とは別個に考えるものであるという信念ではあるのですが、実行はできないわけです。そのために、現在一人しか県会議員の方が残つていられん形になりまして、そのしわ寄せを伊勢市内の婦人会は、うけてゐるわけです。私の地区なんかは、そのために圧力をうけて、現在連絡協議会は、脱退した状態にな

つてあります。こうした場合、議員を送り出して、広く声を反映させたいけれども、それにはどうしたらいいかといふことを、私先生にお聞きしたいと思ひます。

大谷(リーダー) 私の意見はあとで。

宮島 私のところは、婦人会の役員が選挙違反で十二名検挙されたが、それに協力しなかつたグループの会員が村八分にされた。結局、部落推薦を否定しなければならぬといふことですが、あまり町の組織が整然としすぎてゐるから、こと選挙にまつてくるとそれが全部上から下まで一本通つて、スピーディーに連絡がいきまづてしまふ。婦人会組織だけじゃなくて、部落がそういうあり方です。一人だけ残つてゐる人は必ずグループを作つて育てていくことになる。そうすると、またねらわれる。悪循環をくり返してゐる。そういうことが腑に落ちない。

山田 婦人にも何も頼っておりませんが、婦人会で公明選挙のたびに、かえ歌を作つて、そのメロディーが、みんなが知つてゐる教年前にはやつた「お富さん」のメロディーでやつてゐる。婦人会自身も、公明選挙の意義というものをよく知つてゐないのではないかと疑問をもつてきた。公明選挙の観点といひますか、ポイントがひじょうに低いところにおかれてゐるのではないかと、いふ気がする。しかし、候補者の弱みにつけこむみんなの態度にも問題があるわけですが、やはり婦人会だとか、そういう組織の中の人たち自身が、公明選挙という、その意義をはつきり知つておかなければならぬのじやないかと、町の運動でも感じたことなのですか。

松本 大分の地方会議で出たのですが、市会議員の選挙のある村で、

砂箱箱がある候補からくばられて見つかつたわけです。調べたところ、六十四軒のところ六十二軒くばられていたそうです。もつてくるほうがむしろ義理のある方とか、結婚するときに世話をなつた方とかで、断わるに断われない。良心をもっている人は苦しんだらしいが、そういうことが話されました。もう一つ未亡人にある候補者から二十万円の金がわたつた。この処理にひじょうに困つたということです。

館野 だいたいの有権者は、そういう行ないに対して受け身じゃないかと思う。候補に立つほどの人は、それぞれ立派な人だと思ひます。取りまきがいけないのじゃないでしょうか。そういう人がそういう選挙の方法を考えるのじゃないでしょうか。

岩尾 大阪で百人ほど出たのは、買収といわれるが、私は手ぬぐい一本、石けん一つもらつた経験がないのです。結局買収という言葉はあるが、目に見える形で見たことも、招待されたこともない。買収が行なわれるということは、選挙のとりまき連とおつしやいでしたが、ボスの選挙……。結果的にいえば、あそこにいっても無駄だと思われるようなところには買収にいかない。何もわからないうちに買収にいく。だから、そういうところをなくするためにはどうしたらいいかという問題で、上の方の候補者のまわりのボスをつついていかなければならない。ひじょうに選挙に関心をもっている層においては、きれいな選挙が行なわれているということです。

野田 結局、お金を使う候補者は、それだけ何かで取り返すだろうと思うんです。ところが、私の地方ですと。あの人が出ておるから、あそこをいって一ぱい酒飲んできてやれとか、ごはん食べて

やれ、そのほうが得だという、ひじょうにさもない、あさましいい層がある。ところが、そういう人は演説しない。だから、ずるい候補者はこういふことをいう。こんなことで選挙事務所やるよりも、みんなに千円ずつやつたら五十万円で議会に当選する。市議会に当選するには五十票あればいい。しかし、ひじょうに若い人で、演説をして、政策をぶつて、最高点ではいつている。情ない現実だけれども、一部はひじょうに目ざめつつある。

横田 婦人会長という立場にある人が、特定な人を支持して選挙運動をします。これが岡山においていつも問題になります。岡山では運動をしないという空気がある。私どもは、法的には婦人会長は個人という資格において、特定の候補者を押すことはいいと思うが、全国からお集りの方たちが、どういふふうに考えていらつしやるか聞いてみたいと思います。大谷（リーダー） この問題はまたいろいろありますから、あそこしやらないと思います。テーマはわからなかつたし、まんべんなく社会的良心というところを取り上げることはできなかつた。問題を限定してみたいわけです。それぞれの問題の中に、ひじょうに本質的な問題がありますから、それをとことんまでつきつめて、あとの問題をそれと結びつけて考えてみたいと思ひます。

閉会 五時十分 了

大谷（リーダー）

きのう選挙の問題についてお話をしているうちに時間切れになりました。しかもその際に岡山県の横田さんから、婦人会の会長は選挙の時に一体どうあるべきかという具体的な問題を出されております。しかしこれは婦人会の会長がどうあるべきかという問題として出されましたけれども、実は同じような問題がたくさんあるわけでありまして、問題を考える糸口としてこれを考えてみたい。これについて所感を御意見を述べていただきたいと思ひます。

山田 結局婦人会の良識にまかせるといふ問題になつてしまふと思ひます。婦人会の会長という立場に立つと、結局多くの婦人達がその下に続いていくわけですね。末端はある意味では、たとえば選挙の場合、浮動票として離隔したものがないわけですね。その場合、婦人会長の動きというものは非常なデリケートな作用を及ぼすと思ひます。ですから、まだ女の人の自覚というものが高まつていない現在、浮動票があると会長はまだまだ動きやすいと思ひます。ですからそういう特定の人を支持するというのは、私、反対です。結局婦人会長の良識にまかせるといふ他はないのです。

岩尾 このたびの選挙で、地域連合婦人会で山高しげりさんをおしました。この時にもいろいろ問題がおこりまして、地域婦人会が果して会長を支持していいか、運動をしていいかということではない分限になつたわけでございます。ほんとうからいいますと、政治結社を作れば活動をしていいということになります。その政治結社と婦人会長の面立ということとは非常にむずかしい問題です。また下部機関にはそれがわかつていないのでございますから

第二部会 二日目

十一日 一〇・〇〇〜一七・〇〇

山高さんの場合はともかくといたしまして、地方議員なんかの場合、支持という場合には、一応婦人会の役をのいて、自分は個人会長という役がらでやつていないということを見せる必要があるのじゃないかと思うのです。

高瀬 婦人会の会長とかリーダーという位置にある人たちが自分の役職を利用して婦人会という大きな団体をつかまえて大量得点をねらう特定の候補者をおしてそれを全会員におしつけるということとは絶対につづしんでいたくないと思うのです。選挙というものはあくまでも個人の自覚で行ないたいと思うのです。二月、私たちの所で知事選が行なわれたのですが、婦人会が真二つに割れまして、選挙のすんだあとにもそのしこりが残つて、どうしてもうまくまとめることができない、やはり婦人会は婦人会本来の姿にたしかえることがいいのではないかと言われておつたものですから……。

萩尾 婦人会の役にある場合は絶対してはならないというのですかそれともする場合は一応役をのいたらいいとおつしやるのですか。

高瀬 ええ、そう思います。

萩尾 私もそう思います。そこまで意識がないですから、意識が高まつて、結社と一しよに同調された時は堂々とやつていいが、今そこまでいつていない段階ですから一応のいて運動にはいるべきだと思います。

高瀬 私もそう思います。そうでないと大きな誤解を招くと思います。

山田 今私達の所ではお二方がおつしやつているような顔になつて

いるのです。ですが、ずっと前のときは、会員が会長をおして、会員たちが場合に、勇気を失なうなということとはどんな場合も必要です。そして会員が良識をもたなければならぬということもそうです。が、現実に今のよりな状態の中で出来るかどうかということのところに問題があるのじゃないか。卒直に申しますと、結論がきれいにしつて出過ぎているのじゃないかという感じがします。

小島 横浜市の市長選では、婦人団体、他の団体ではつきり支持するものをわけていっているように思います。それは婦人団体の、あるいは民生委員会の、あるいはいろいろな会としてのお知らせの中に出現しているようにございます。でも会員は自分はどうするということよりなおなかをはつきりもつて選挙にのぞんでいるように見受けられますが。

大谷（リーダー） 選挙に組織を使おうということ、そこに問題があるのじゃないかと思うのですが、どうでしょう。

萩尾 大体地域婦人会というのは政治活動は絶対に出来ないということになつております。

大谷（リーダー） 地域婦人会は絶対に出来ないということになつていのに、現実に行なわれるものなきにしもあらずということとは問題がある。だからなつていのか、なつていないかということが問題ではない現実の問題として逸脱するものがあるのをどうするかという問題です。

萩尾 団体としては出来ないということになつておりますから出来ませんけれど、個人の場合は、私ばいと思います。ですから個人と団体の見わけをはつきりさせなければならぬ。

大谷（リーダー） 個人であるならば、団体を特別に必要ないでしょう。萩尾 ですから、その時団体としては絶対動かないということになつ

が村から議員を出しているから、個人の会長というものは選挙にタッチしてはいけないという線をとられたために、会員全体から批判的になりました。会員の総意であなたを選挙したのだから会員がこういふふうに向つていいる時は会長も会員と同一線をとつてくれるように、そういう圧力が強かつたのですが、その会長は私の地区の会長ではタッチしないということを決めているからという線をとられました。現在ではずうつとその線でいつています。

富島 私は先ほど福岡の萩尾さんや、石川の高瀬さんのおつしやつたのと結論は同じですが、私どもの町では、今度の町長選の時は会決をやめたいでやつておられましたけれども、あとでいろいろ批判がありました。

大谷（リーダー） それから婦人会長の問題だけなら、この問題はもう少し広い問題があるはずですが、どなたか御発言はありますか。

小島 会長という名のもとに会員に圧力をかけることはさけるべきであると思いますが、たいへん良心的な候補者があつた場合、選挙に対する大勢の方々の自覚をうながす意味において会長の任にあるもの、お役におるものはその選挙に対して勇気を失つてはならないということをつくづく感じております。神奈川県では、実はこの問題は婦人会に出まして、その時、会長さんは選挙に対して勇気を失つてはならないということ、会長の自由意志にまかせて、なお又会員の社会的良心にまつという結論になりましたから会長さんが選挙運動をなさることに別に不賛成ではない、ということですが。

大谷（リーダー） 皆さんのおつしやること、卒直に申しまして、わかつたようになわらないような気がするのですけれども、具体的にそれをや

つています。

大谷（リーダー） だから、あなたのほうがどうなつているかということではなくて、一般的にそうなつていないところに問題があるので、たとえば岡山の横田さんが出されたのは、そうなつていられるにもかゝらず現実に問題は問題があるがどうしたらいいかという問題を出されていると思うのです。

山田 結局婦人会が組織票としてねらわれるところに婦人会そのもののあり方に非常に疑問があるわけです。政治活動は出来ないという大義名分はあつていても、実際にはねらわれているのが現実なわけですね。結局、先ほど婦人会長の政治活動とかなんとかいうのが出しましたが、結局会長そのものよりは、その会長につながらる会員、とにかく末端でおどるような時しか出ないような会員さえも組織につながらつていいるわけですね。結局、ねらわれるところと婦人会そのものというか、会員の意識の低さがあるわけです。たとえば公明選挙の運動なんかでも、変な歌の賛歌など作つてやつていいる見識のなさ、そういうものが、ねらわれる下地としてあるのじゃないかと思ひます。非常に抽象的ですが、ねらわれるあれとして考えたいと思ひます。

大谷（リーダー） 私は思想とか、立場とかいう大衆の合理的な組織である場合は、これは問題はないと思ひます。これはどう動こうとも、そういう意味で組織が作られているのですから、問題ない。たゞ網羅的な会員組織になつていいる地域婦人団体というものが、政治に現実的に動員されてしまふということに問題があるのじゃないか、だから任意組織と、そうじゃない関係があつて、かぶさつた形のものとの区別していかなければいけないと思ひますね。だから、どん

んを婦人団体も政治に關与してはいけないというのではなくて、問題に限定しなければならぬ。その場合、ねらわれやすいというところをなんだけれども、それは婦人会がねらわれやすいのか、婦人がねらわれやすいのか、どうですか。

宮島 地域婦人会というものは上から与えられたもので、一人一人に主体性がなくて集まった会である。だから会としての主体性は認められないのです。御主人が支持する候補というのがそれぞれあつて、奥さんがたまたま婦人会の役員をしていると、その奥さんは責任をもつて会員を集めてしまふ形になる。女が、政治的にも経済的にも独立してないため御主人たちを通して票が動いてしまふ結果になる。自分達が作ったグループの場合には、そういうことはほとんどないと言ひ出来る。ただし与えられた組織の場合は仕方がない。だからそういう組織はだんだん発展的解消していくべきだと思います。

大谷(リーダー) 地域婦人会を解消すべきだとか、どうだとかは私にとつていきすぎなので、問題をもう少し検討したお話がいいと思います。今、あなたがおつしやつたことで二つあると思うのです。御主人によつて婦人が動かされるという問題が出て来たわけです。これはきのうから問題になつてゐるのですし、あとでもう少し問題にしてみたいと思います。今は婦人会がなぜねらわれて、そして動員されるかという問題に限定して考えたほうがいい。

宮島 それは存在するからということがいえる(笑聲)
岩尾 皆さんのお話を伺つていますと、婦人会がねらわれているというところでございますけれども、都会ではそういうふうな雰囲気は感じられないのでございます。だから都会にそういう雰囲気になつてしまふという面はかならずあると思います。それに対してまだ

地方にそういう雰囲気が残つてゐるというところは、時間的なずれをそこに考えます。だからそういう選挙のこととは個人の主張であつて、婦人会は思想的な根拠が何も無い集まりで、全然交渉する場所がないものをつなぎ合はして利用するところに無理があるりますから、一人一人の会員の自覚によつて解消する問題であると思ひます。

横田 皆さんがこんなにお考えになつてゐることに、いわば反動といふのです。戦後言われた、婦人活動がいかに無力であるか、会員のこの自覚をしなければならぬといふことがしばしば見受けられます。それに対して婦人会の一人としてものすごく反動を感じます。十何年、選挙は農村のすみずみまでみんなの心をゆさぶつて、選挙に対してはある程度の意見をもちつており、主義主張があると思ひます。ことにマスコットの発達した時代に、あまりに婦人会が無能でするすると引きずられてゐることは無いと思ひます。全国的な広い範囲だつたらそういうことがあるかも知れませんけれども、一般的にそういう傾向はわり合ひに少なくないといふかと思ひます。

大谷(リーダー) あなたはけつこうとされるけれども問題は残つてゐるのです。

野口 具体的に例を申し上げますと、地区の婦人会長がある政党の婦人会にも属しておられるわけでございます。ですから、地域婦人会、即ち政党婦人会といつた線が非常に強く出るのです。きょうはこれであるとおつしやつても、同じ顔をしてゐる方が、きょうは政党の關係で、きょうは地域婦人会長ですと、ご自分は区別してゐても、他人からは同一視される。だからこれは困るのではないかと

が、私をたてればその部落が、ここに橋がかかります。ここに道路が、私をたてれば、非常に有利な公約をする。すると自分の部落がよくなるというので部落推せんをする。そうさせるような政治のやり方が悪いといふことになる。橋が必要であるか、道が必要であるかは市自体が全般的に考えてやればそんな必要はなくなると思ひます。

松本 部落だけに限らず、職場にありますと、労働組合から一人出したいといふことになる。すると会社からこの人を出したい、結局自分達の利益を代表する人を送りたいといふことになる。するとやはりそういう政治のやり方どこか欠陥があるのじやないかと思ひます。その市を全体的によくしようといふものがあるれば、その利害關係はだんだん少なくなると思ひます。

大谷(リーダー) 今、もう一つの自分たちの利益を代表するものといふことですけれども、それはそれで筋が通る。しかし部落推せんといふ場合に、そういうのはつまりした利益代表の形にならないうで、きのうからいろいろお話があるように、ボスが出て、古い農村の組織といふか、秩序といふかの上につかつて、そして強制的に村八分のよきな社会的強制を背景にしながらやつてゐるところに問題があるのじやないかと思ひます。だから非常に危険なものをもつてゐると思ひます。だからどつちかといふことでつまり自主的に部落の人たちがこの人に入れてもらいたいといふ形をとるか、あるいは古い部落といふのが残つてゐて、その上につかつていて代表が出るという形をとるか、そういうところに問題があるのじやないかと思ひます。それと、政治のやり方に問題があるとしても、やはり議員を道ぶのは、選挙権を行使す

落尾 なぜ、部落推せんをするかといふと、つまり自分の部落をよくしたいわけなのです。というよりも部落推せんをされるその方

る人たちがいないですか。

岩尾 部落推せんというものの、ほんとうに利益代表ということ、
それでない代表……。きのうは福井の野田さんがおつしやつた、
保育施設を作つたりするには婦人代表を出すに非常に早く出来る。
それもある意味では婦人という一つの組織じやありませんけれども、
も、ある一つの集まりの中からの利益代表ですね。そうすると、
正しい意味でほんとうに還元されてくる利益が正しい意味で受け
とれるならどういふ形であつてもその人をおくるといふことが納
得される状態なら無理がありませんし、自然な形だと思ひます。
それでない形で利益代表としてある人を出さなければならぬとい
ふことになりますと、本当の心を裏切つた表現をしなければなら
ない。そこをきわめなければならぬと思ひます。

大谷(リーダー) 実は農協婦人部についても非常に大きな問題が
あるわけですね。つまり農協で候補者をたてればいやおうなしに動
員されるというのが現状なんです。これは地域婦人会の場合、あ
る意味では同じ問題ですね。これはいつも問題になるのですが、
現実には地域婦人会の場合と同じような動員のされ方をしている
ところもどうしたらいいかという悩みがあるわけですね。この場合
は、農協婦人部の場合は地域婦人会の場合よりもむしろ地域が広
くて、市会議員とか、県会議員……。県会議員の場合もありまし
ようが、むしろ国会の場合です。この場合は拡大して出てくるわ
けですね。地域の場合は、そこで今までは主として地方選挙につ
いて皆さんお話しなつていたのですけれども、これは問題の本質
をもつと見きわめる意味で、国会の段階まで問題を広めて考へて
みたらどうでしょう。そうするとつとつとつきりしてくるのじや

す。それについて私は非常に反省させられた結果、山高さんは無所
属から出ておられるけれども、婦人会が政治活動が出来ないとい
うところに非常な無理があつたといふことです。だからPRが非
常にやりにくかつたといふことがあります。婦人会の会合があつた
時、その会合の席上でPRはしてはいけません。会がすんでからPR
して下さいという運動の仕方、それが非常に生ぬるかつた。二
番目には、ただ今のお話のように、御主人の政党と、それから
奥さんの地域婦人会をおすという矛盾、これはどこの御家庭にも
選挙には必ず出でくると思ひます。もう一つは、無責任な、自
主性のない面からかかってくる。私がしなくてもこれだけ
大きい団体だから誰かがしてくれんといふこと、もう一つはま
た無関心、こつこついろいろあることで反省させられました。山
高さんの落選が実は分厚い私たちの経験になつたわけですね。

大谷(リーダー) 萩尾さんの場合は、言外に、代表として山高さんを当選
させるべきであつたという気持ちで御発言になつておられると思ひます。
たゞ先ほど申しましたように、その前に問題があるのではないか
つまり初めからそういう代表を出すという組織として地域婦人会
というものがあるかどうか、そういうものとしておそろく成立し
てはいないと思ひます。それなのに、これは個人を攻撃するわ
けではありませんが、筋を通して考えれば、山高さんがそれを基
盤として立候補された、そして幹部の方々はそれを支持すべきだ
とお考えになつて動員しようとした。というところに無理があ
るのじやないかという感じがするのです。そこでさつきお話しがあ
つたように出されるならば、やはりこの組織を離れて出てやるべ
きじやないかという発言が方々からあつたわけだ。

ないか。たとへば、先ほど会長さんが具体的な例として出されたの
ですが、これはある意味じやあ同志的組織であつたかもしれな
いが、もしかりに地域婦人会というものから候補者が出た場合に、
それがどういふふうに行動する場合に行動すべきかという問題とし
て考えたらいと思ひますがどうでしょう。

楠木 大い衆議院の選挙になりますと、現状に對しては、御主人
の政党が婦人の政党になると思ひます。立合演説会にまいりまし
ても女性の少ないことをいつも感じるのです。公報がまいるまし
ても、それをよく見て判断するといふことが非常にないわけですね。
政治は子供の教育、台所の経済にもひびく、この重大な私どもの
借き一票を行使するにはどうしたらいいか、もつともつと各自が
認識することが必要であり、一番大切じやないかと思ひます。そ
れで私の場合は、会長自身が婦人議員でございまして、もし会
長を支持しない場合は、会の運営も乱れ、婦人会の統率がとれな
くなるわけですね。もし反対をすれば圧力をかけられますし、又そ
れに對して立ち上るといふことが地域の婦人会では出来ないもの
があるのです。衆議院の選挙でしたら、特に男の方の居られる候
補に、又奥さんが引つぱられてくるという現象です。例えば、御
主人が社会党の方でございまして、その方のほうへ応援に行
つておつたら御主人に叱られて、途中から断わりを言われてやめ
ていく有様です。選挙がどういふものであるか、婦人議員が出た
らどういふふうに行動の社会がなるかといふことをもつともつと
知ることが必要と思ひます。

萩尾 地域婦人会の代表として個人の名前を出すのは悪いのですが、
山高しげりさんが次点で、初めあがられなかつたわけでございます。
萩尾 ぬの方には現職のまゝお立ちになりました。そういうところに
やつぱり問題があつたと思ひます。

大谷(リーダー) ああ同志の方を糾合して、あらためて選挙戦にのぞむた
めに、同志的な政治結社をお作りになるならば、それで全てが通
るでしようが、既成の組織としての婦人会を動員するところには
無理があるのではないか。これは地域婦人会をやめるのではなく
て、私は農協の場合でも同じことが言えるのでないか。この原
理をやけり確立しないといふ現実においては大衆的な組織が、官島さ
んがどういふふうな存在するから利用されてしまつたわけですね。
そこらのところをどうチェツクするか、チェツクするために婦人はど
うしたらいいかという問題になつて来ますね。

宮島 農協の場合、つきつめていいますと、部落といふものの人間
関係の面の境分、子分の関係で、立候補するのは自分でも、大親
分がかかれています。大親分といふのは婦人会の役員が自分とし
て存在している。自分は現分に忠誠をつくさなければならぬ。
連環反応で続いている、その根をたどつてゆくとほんとうの黒幕
は一番けしからぬ男性が存在している。そこで困つてしまふ。
大谷(リーダー) ですからそれを男性がけしからぬといふふうな言われやう。(笑)
館野 婦人会じやないのですが、部落でこんな例があつた。私の地
区で三つの部落が推せんして候補者を立てたわけでございます。
そうしますと、その期間十日間くらいの間は部落じやう寄つて飲
み食いしているわけですね。新聞やなんかではその候補者が最高だ
らうという予想があつたのですが、ふたをあけてみましたら、毎
日果まつていた頭数よりもはるかに下回る票だつたのです。それ
で選挙の反省として、大分自覚した有権者が出来ているから、こ

の次の選挙からはもう部落推せんは廃止するといふ線にきていますので、自覚した人々が大切だと思ひます。

大谷（リーダー） 結論的に言えばまさにその通り、個人の自覚が大切ですが、その自覚する場合に何を自覚すればいいのですか。

松本 先ほどからお話を聞いておると、どうしても私、民主主義というものが自分のものになつていないのじやないかと思ひます。そういうものがちゃんと身について来たら、個人の自覚とか、自主性、主体性というものが確立出来てくると思ひます。もう一つは、私のほうは権力に弱い所です。その権力は誰が持つてゐるかといふと、どうしても経済的な富ではないかと思ひます。それは農村、都市を問わずではないかと思ひます。

山田 失敗を通してみんな考へついたことですが、各地域婦人会の役員の人たちにはある程度いふ責任があると思ひます。たとえば、選挙になつてからいろいろことを言うのじやなくて、地域婦人会の人たちになくさんの発言の場を常に与えてゐるということと、それから、自由になんでも言はせる空気を作つておくということと、それから、なんでもない時に常に公明選挙をPRすること。そういう指導というか、何かそういうものを作つておく責任があると思ひます。

大谷（リーダー） 個人の政治的自覚が必要であるといひましたが、そしてそれに対して松本さんは民主的な考えが確立してゐないといふことをおつしやつた。その通りですが、それをもつと具體的に言ひとどういふことでしょうか。

野田 もし結婚してゐる婦人でしたら、夫から政治的自由を確立すること。それから家族から独立すること、そういうふうにして、

でいます。選挙運動が出来ないといふことはあるかもしれないけれども、出来るようにすべきでしょう。そこで一休誰に投票するかという基準の問題ですね。きのうは、野田さんは地方選挙においては、選挙公報も出ないから公約がなんであるかもわからん。それから立合演説会もない、非常に困る、こういうことでした。これに対してやりようによつては出来ないことはない、こういうことです。そこで、国会議員の場合、参議院議員、衆議院議員の場合でも、この場合は選挙公報が来るし、立合演説会もあります。しかし、それで本当に選挙基準が考えられるかどうかといふところにも問題があるわけですね。どういう基準で一休候補者を選ぶのか、たとえば、地域的な代表として、どうしても部落推せんの場合、出さなければならぬとおつしやるけれども、せめて地方議会の場合にも、それが信じられるかどうかしらなければ、公約を知るためにも選挙公報を出さなければならぬ。あるいは立合演説会をやらせるようにしなければならぬ。そのためには地方自治体において条令を改正しなければならぬといふ問題がある。しかし、そういう地域団体といふところから部落推せんとかなんのかの形で出す場合は、私は条令を作ることには賛成しないと思ひます。そこまでやつぱりたみこんで考へてみなければならぬ問題を含んでゐるのではないかと思ひますがどうでしょう。

松本 先ほどから選挙運動のことに限られてゐるようには見受けられてゐるのですが、私達は日常、やはり政治といふものに關心がなくて、自分の小さな幸せの中で毎日の家計簿に一生懸命取り組んで生活してゐて、選挙の改選時期になつて初めて選挙選挙などとつても、結局いろいろ権力に負けて不正な選挙が行われる結果に

たとい婦人会が候補者を立てたり、推せんしたりしても、適當でない、いやだと思つたらけつたつていいと思ひます。家族の権力から独立出来たら、婦人会とか、労働組合とか、いろいろ組織に盲従しないだらうと思ひます。最後は自分があらゆる面から独立出来るだけの自負をもつていなければ、これは婦人会の問題一つ片付いても、まだ部落といふ問題があるし、部落が片付いても組合の問題がある。組合が片付いても市町村関係の段階などの問題がつづくと思ひます。

萩尾 それが出来さなければいいと思ひますが、経済的に独立してゐない婦人が非常に多いのです。その場合は、結局経済は主人に頼るしかたない。そういうたしなると、主人が労働組合に入つてゐて、労働組合がおした人を出さなければ自分の経済はたつてゐないといふ場合があるでしょう。その場合に婦人は一体どうしたらいいかといふことです。それが私は問題だと思ひます。

大谷（リーダー） どうもやつぱりいになりませんが、やつぱり婦人と男性との問題にたゞりすぎたのではないかと、もつとその前に一人一人の人間として、政治に対してどう対決するかといふ問題が出されなければならぬのじやないか。政治運動といふことで選挙運動は出来ないかもしれないけれども、私は投票する時には秘密です。自分の意中の人を書いたつて、だんなさんと同じものを書かなくつたつて、入れた顔をしていれば済むわけです。だからそれが最低限の、ある意味では抵抗であり、独立の芽生えだと思ひます。それを話し合ひの中で、御主人と愛情さえあれば話し合ひ出来ないことはないで、そのところにカチンとした自主性が、やつぱり婦人の場合はくずれてゐるのではないかと考へ

なつてゐると思ひます。だから、やはり日本の政治はどういう方向でやられてゐるか、もつと大局的な立場から政治といふものを見つめていくと、日常生活が深まつてゆくのじやないかと思ひます。そういう生活態度であつたら、その選挙でどう望むかといふことは日頃の生活態度から自然に出てくると思ひますが。

野田 現在では選挙の候補者がほんとにいいなと思ひ方は出て下さらなくて、あの人がいいなと思ひ人がお出になるのです。そうすると、立候補した人でなければ投票出来ない。政党でも、生活を見るとあなたは出てほしくないといふ人ばかり顔をお並べになる。そこで今度は投票するのはかなわないう思ひますがね。大谷（リーダー） これはどこでも問題になるのですが、結局人物を選ぶか、政党を選ぶかといふことになる。地方選挙の場合はそれほど大きな問題にならないけれども、だんだん地方選挙も政党化してゆきつつある。これが大事な問題だと思ひますがどうでしょう。

松本 一昨年から安保闘争とか、国会でゐるいろいろな問題が生じてゐますが、やはり現在の政治は政党で行なわれてゐるのではないかと思ひます。ですから、どんな立派な個人が出て、その個人だけではどうにもならないものが日本の政治の中にあると思ひます。ですから、一つのことをやるうと思ひますと、政党といふことが、私は人物よりも先に必要ではないかと思ひます。

萩尾 政党に左右されておられますけれども、各人が人物といふものを選んでゐたならば必ずやそういうものはなくなると思ひます。ですから私は、それこそ社会的良心をもつて、一般国民のために、あるいは又世界的良心もつた広い福祉、幸福を願ひより

な方ばかりを選びたいですね。そういう人をみんな選んでくれ
たら、政党なんかいらない。……。

中尾 いわゆる政党は強くないと何も出来ないというところの問題
がある。萩尾さんのおつしやつたように、個人の自覚ですばらし
い人物をどんどん送つても、政党の力でないと何も出来ない。そ
こを考えたほうがいい。

宮島 私は、やはり人物を選びたいが、今はそういたしますが、将
来の希望として、もうちよつとまじな政党がたくさん出てきて、
自分の好きな政党が選ばれるよう変つてくればいいと希望してい
ます。

山田 ある地区で、革新系の市長がなつたりしますと、あそこは中
央の政党と結びついていないからという。実際に今の政治を見て
ますと、どつちかの政党政治になつちやつてゐるわけですね。で
すから理想論ばかり並べるよりは現実的なものを見つめて、少な
くともそういう中から果たしてもらえそうを公約をしているとか、
常にみんなが政治の、モニターであるというよりな心算で、結
局政治は選挙しつばなしでなくて、そこから私達が進んだ代表が
どういうふうな仕事をしているかということとをみるということが
大切だと思います。ただ選挙という事態にぶつかるとワアワア
ワア騒いでいるという、私達の態度に非常に問題があると思う
のです。少なくとも現在は政党政治であれば、その政党の中で、
私たち、何か信頼出来るような方、そういうものを選びたいと思
つております。

岩尾 お話聞いておりますと、個人にもまだ信頼出来る方がなく、
政党にも現在の段階で信頼出来る方がないということとございま

らないかという、ばかばかしい選挙戦がいやさに出て下さらな
い。だから、いい政治をするようにもつと真剣にならなけ
ればならない。ましてお金をもらおう、飲み食いしようなどとい
うのはけしからん、皆さんがそういう気持ちになつたら、政治に反
映してくるのではないか、すごい理想論ですが、そう思うのです。
萩尾 戦後緑風会というのがございましてね、ああいうのがだんだ
んなくなつて来たというの、やつぱり選挙民に責任があるよう
に思うのです。これはあんまり放送では言いたくないのですが、
福岡知事選挙のことでございますが、私は自民党とか社会党とか
をぬきにして、自民党のほうに中央に直結した議員をと、片つ方
は県民のための政治をと、二つにはつきりわけてゐる。そうした
場合にどういうふうに進ぶかということが実に問題だと思ひので
す。

大谷（リーダー） 選挙の問題は複雑な問題をもつておりますけれ
ども、島根の中尾さんが、立派な人が出て政党政治を解消する方
向にもつていつたほうがいいという意味をおつしやつたと思ひま
すが、これは現在の議会政治では成り立たないのではないか、今
の日本の議会政治は、議会政治の方式でゆくといやうなことに政
党政治になつていく。だから政党を認めざるを得ないということ
が前提になつてゐると思う。その場合、どなたかがおつしやつた
ように、いかに立派な方を出しても、その人が思ひ通りに政治が
動くのでなく、やはりそれぞれの政党に属して、その政党のやり
方で、国会は運営されてゐます。やはり多数決原理で、現在政治
は動く。結局はどつちの政党を支持するかということを決めない
限りしよがない、将来の問題は別として、現実にはそうである。

す。私もそう思います。それじゃあ今から育てるのにはどちらを
育てたいかという、政党を、いい政党になるように育てて、積
極的なお手伝いをしたいと思ひます。

横田 話がちよつともどるのですが、地方選挙ともなれば、何か家
庭において主人の言ひなりに女が動く、これを反撥したい。そ
ういうような人たちが半分くらいはおるけれども、残りの半分は地
方選挙になつたら、主人がそりまでタツチしませんから、そり皆
さん御心配になるほど男の言う通りになつてゐると思ひません。
それから、今の選挙の実情をみると、いまだおりを覚えます。で
すからせめて次の世代の方たちがこの現実をよくして下さればと
思ひのです。働らいてゐる若い人に望みをかけたいと思ひますが、
そうした人たちがほんとうにいいようにして下さるかどうか、こ
ういうことについて失望的ですか、夢をおもちですかと聞きたい
のです。

小島 私も政党を選ぶか、人物を選ぶかといひますと、今の段階で
は政党のほうを選びます。そうして、政党をよりよく育てるため
に、やはりこつした全国会議の御婦人の声も政党の方がぐんぐん
とり入れて、よりよい政党を育てていただくように懇願する次第
です。ただ党利、党派にのみ迫られて、地方選挙の場合にもそれ
がひびいてまいりまして、大変迷惑してゐるのは選挙民だとい
うことを、声を大にして申し上げます。

野田 現実には、立候補された方の中から選ばなければならぬとい
う大きい制約があります。それなら、人物がないのかといひば、
世の中は人間で作つてゐるから、人物はないことはないと思ひ。
立派な方がいっぱいゐるから、なぜそういう方がお出にな

いたらずに理想論を並べて済む問題でなくて、現実はどうするか
という問題、そうしますと、やはり私はどちらの政党に属してい
るかという問題を基準として選ばなければならぬ。これが現在の
の民主主義的政治の原則ではないかと思ひ。したがつてそれぞれ
の政党が高ければ、政策についての研究、それから実績ですね。
ただ単に掲げられた公約だけでなく、政治の在り方とか、全体の
ものを含めての実績というものを自分たちで本當に検討し
て、その上で進ぶべきだ。私は選挙についてはかねてこう考
へてゐる。次の選挙に至るまでの間、自分達の運命をどう決めるか
という決定権を白紙委任状の形でゆだねるか、私は一票一票の
記入をする場合にそれがきまるのだと思ひ。だから投票所へ行つ
て名前を書くということは非常に厳粛なものにもかかわらずそれ
が自覚されてゐないところにある問題を出てくる根元があ
ると思ひ。結局国の政治というものは、国会で決められるわけ
で、その国会でいづゆる政治をどうやるかということを決めるのは
一人一人の議員が所属する政党の政治の出来方によつて定められ
ると思ひのです。せんじつめていきますと、候補者の所属してい
る政党に対して一定期間、自分達の生活のあり方、将来の運営に
ついての決定権をゆだねる。しかも、これより大きなものはない
広範は白紙委任状だと思ひ。委任状を書く場合に、お金のことと
か、小さなことについては、非常に厳密に考へて慎重にやるくせ
に、一番大きな問題については、きのうからいふような問題とし
て皆さん出されてゐる。社会的良心をやみがたい形で感じ、怒り
を感じるといふ問題、みんな政治の問題につらなつてゐる。たと
えば、青森の柗沢さんが出された保育所の問題、現状においては

保育ママが必要だという妥協的な、いわばすつきりしない形でやらなければならぬという問題も、全部社会保障の問題につながる。そう考えてくると、橋をかけるのかという日常生活のこととあることから、もつと基本的な政治の姿勢というものが決まっています。選挙というものを考えていかなければならぬと思うのです。結論は皆さんのお出しになつた所で付くことだと思ひます。つまり自分達がしつかりしなければいけないということです。そして自分達で婦人の力を、いわば政治モニターとしての考え方をしなければならぬという結論に落ちつくと思ひます。けれどもその姿勢を決める場合の根本的なものの見方ということですね。そういうことになるのじやないかと思ひますがどうでしょう。

るように、今の選挙はばかげきつて、正しい選挙になつていないということなんです。正しい選挙をやつたとするならば、一結果はどうなるかということですね。

それじゃあ選挙の問題はこの程度にしまして、その他に地域の問題として、都会に住んでいらつしやる方はゴミの問題とか、あるいは小暴力とか、いろいろの問題がありましようから、問題を制限しませんから、お出し願ひたいと思ひます。

大谷(リーダー) そういふ受けとり方をすれば、私の言ひ方が悪いが、とにかくどちら側にもたつてゐるのではなくて、原理的なことを言つてゐるので、どちらを選ぶかは御自由で、自分の立場にたつて、どちらを支持すべきかということで決めるべきで、決めたならば勇気をもつてそれを貫徹するというのが大事だ。

野田 私の方で毎年大雪が降つて、平年でも五カ月前位は雪の中に埋すもれるのですが、今年はものすごい降り方でした。大みそから二月三日まで、夜も昼もやまんで降り、九メートル三十センチもつた。雪の問題でみんなが非常に悩むのですが、これが先祖代々続いてゐるものですから、冬になれば雪が降るものだ、し方がないと思ひあきらめてしまつて、現実には妥協してしまつて、みんなが自分の家の屋根雪おろしをするだけが精一杯です。その雪をどこにおろすかという、初めは道に落さないように気をつけています。きょう墨根雪が一メートル五十センチほど積もつた、危ないのでおろす。あしたの朝になるとまた一メートル余り積もる、すると天下の公道だからだめだからと思ひますが、そういつていられなくなつてしまふ。三度目からは二階の屋根よりも道のほうが高くなる。だからブルドーザーが来て一ぺんやつても低くなる。いのです。こんな雪が降りまふと、交通ストップで一番初めに運んできたものは新聞なんです。それも、飛行機で十日目に来た。もう少し山に入りますと半年はだめだから、十一月になると越冬食料を全部仕入れてしまふが、私の所はともあれ町なので、それに戦後によつと暖かくてそんな苦勞をしていないので、食料

大谷(リーダー) 現実はその通りですけども、それが正しい政治的自覚によつてそのなつてゐるのかどうか。きのうからいろいろ問題が出ましたね。ゆがんだものになつてゐる場合だつてなくはない。自民党を攻撃するわけじやないけれども、皆さんがおつしや

の方たちは雪國の方たちで生活の知恵を發揮し、婦人たちは婦人たちが真剣に自分達の知恵を働かして解決しなければならぬかと思ひますが、地域地域で皆違ひますから……。

野田 実は、その問題で、つきつめて考えたのですが、今年のは異常だつたのです。百年目と言われた。異常には違ひないけれども、雪は降るものです。だから昔の人は雪に對する備えがあつたわけ。昔から建つてゐる家は東京のような細い柱は使はず、軒もひさしも深くして、要するに雪國獲得のかまえがあるが、都会風のいわゆるモダン住宅といわれる家はみんな困つてしまつたわけです。私は昔風の考え方をしますから、十一月になると野菜も、食べるものも一応買ひますけれども、新しく転勤して来た集団住宅にかたまつてゐる人が先に悲鳴をあげる。もう一つ道の問題、都市計画で京都のように基盤の目みだいに整然としてゐるが、それが世の中に合つたほど広くない。それで大きい通りが一つで車道、人道とわかれていた所はいいが、そういう道は一本しかないから両方から雪を捨てる場所がない。融雪機が道の両側に出来てゐるがそれは軒の下にあるので一番初めに埋まつちやう。昔は融雪機が真中にあった雪が通るので二つに分け巾を狭くしたから危ない。そういう面、やはり昔の人もいい知恵があつたと思ひます。

大谷(リーダー) 今切実な問題だと思ひますが、社会的良心のほりに問題をしぼつて、一つ私、最初の晩に楠木さんのお話になつた非行少年の問題、非常にうたれた。茨城の娘野さんは青少年の不良化をくいとめるために自動車政習所の問題をお書きになつたと思ひますが、こいつた善意にもとずく婦人の活動を少しとり上げてみたらどうかと思ひます。個人の善意、あるいはグルー

を買ひこんでないし、困るのです。みんな困るのに、なんとかして福井までの道をつけようということに目が向かない。向くかもしれないけれども、實際問題として自分の家がつぶれるからそれまで手が届かない。こんなのはどうやつて解決したらいいでしょう。

野田 私は物価値上げのことについて、日常感じたり接したり、抵抗を受けてゐるのですが、私の町は八戸の新興都市で、とても婦人会の活動が活発です。あいにく私、婦人会にも入つてゐませんので、婦人会に對して批判的な言動かと思ひますが、職業婦人として見た場合に、街頭で募金、値上げ反対運動、署名運動、をしてゐます。あゝしましやう、こゝしましやうとすばらしいスローガンをかかげてやつてゐる。その地区のリーダー的婦人会員と近所で会いますね。個人的に。すると「値上げいやになつちやうわ、大根一本四十五円するの」「あのお店は高い、買わないほうがいいのじやないの」と話しかける。その奥さんが、晩になると高いから買わないようにしましやうと言つて悪いのじやない。あそこ奥さんにこゝういふ関係があるのよ、といつて高いほうの店で買つちやう。うっかり買わないほうがいいじやないの、と言つと、あの奥さん小生意気だね、と陰口をきく。社会的良心を昼間

かかげ、夕方買物籠下げる頃ともなれば個人的良心というふうなことを、この場合だけじやなく、いろいろの場合に見えます。

大谷(リーダー) 今切実な問題だと思ひますが、社会的良心のほりに問題をしぼつて、一つ私、最初の晩に楠木さんのお話になつた非行少年の問題、非常にうたれた。茨城の娘野さんは青少年の不良化をくいとめるために自動車政習所の問題をお書きになつたと思ひますが、こいつた善意にもとずく婦人の活動を少しとり上げてみたらどうかと思ひます。個人の善意、あるいはグルー

野田 野田さんのおつしやつた、雪の解決、この度ここに来る前に東京に一週間ほどお聞きしたのでありますが、団地婦人がろうごくに入つたような形で自殺者が多い。それはなぜかというふうなことはいろいろを面から考えられますけれども、その原因をつきつめなければ、解決方法は何も考えられない。ですから雪國

大谷(リーダー) 今切実な問題だと思ひますが、社会的良心のほりに問題をしぼつて、一つ私、最初の晩に楠木さんのお話になつた非行少年の問題、非常にうたれた。茨城の娘野さんは青少年の不良化をくいとめるために自動車政習所の問題をお書きになつたと思ひますが、こいつた善意にもとずく婦人の活動を少しとり上げてみたらどうかと思ひます。個人の善意、あるいはグルー

プの警意にもとずいた社会的良心をいかに、この部分の問題を少しとりあげてみたいと思います。

楠木 三年ほど前に地方婦人会にまいりました時に、精神薄弱児の指導をしているという一つのグループの方が、たまたまオプザーパーとして御出席になりました。地域婦人会の会長さんが、会員の皆さんにおはかりしますからということになりました。それでその婦人会の方とグループの方が力を合せた姿がだんだん大きくなりまして、又地域婦人会を通じて、県内だけでなく、東海三県にも呼びかけて、社会を明るくする運動の一つということで非常に成功しているのです。本年は精神薄弱児の家庭は非常に悲惨であるから、その面にも手をまわして、活動していこうという経緯の発表がございました。

館野 最初の動機は活動資金を得たいということでございます。ところがやってみますと社会的良心の現状ばかりが目につきます。さつぱり進みませんでした。自動車の教習所と、それから免許試験の両方をおかなくてはならないから五百人くらいの人が集まらねばならぬ。その人たちは一部の高校生をのぞいて成人ですが、どういものか雷同的なこともあつて、集団的なところではいろいろ問題をあきでくるのです。ふだをつけて、自転車、オートバイ、自動車などあつてはいいのですが、いつも二百人くらいあつてはいいのですが、そのうちの一刻くらいは目にあまる行動をされるわけです。私たちは最初困つた困つたと言つていましたけれども、困つただけではしょうがないからなんとかしよう、少しづつでも切りくずしていこうというので始めました。最初は方法もみつかりませんでした。グループで話し合ひまして、勇気をもつて中へと

笑つて言いかけてよということにした。最初一日くらいは「おはよう」と言つても、「ふん」と言つておつたが、半年ぐらいたつたら私の背中をポンとたたいて、「おはよう」と言う。しめたと思つた。「きようは早いからころがしつこしより」とその子と遊んだ。いいものをやろうかと十円渡した。すると小さい十円の手紙を買つてきてくれた。とにかく子どもの気持にけいりこまなければならぬと思つた。そうしてとても仲良くしたのです。そのころはお金もなくならないし、保育料も入るようになつた。それからおあさんに会いまして、この分ならもつとお利口さんになるのじゃないかしらとおもつていきまして、だんだん普通の状態にもどりました。学校の先生にもそれとなくお会いしましていろいろ聞いて、おあさんをどうにかしなければならぬと思つた。

楠木 町民運動会で、私も役員として行きましたところに一等の旗のところにあつた子どもが、私は三等だのに一等の所に間違つておかれたんよ、と言つてくれました。それで私は役員会にはかりまして特別にその正直な心に対して、ほうびを出したことがあります。もう一つは、山村の学校の近くを通りましたら、まだ右側通行が実施されたばかりで習慣性で左側を通るのが多いのに、列をちゃんと作つて右側を通つて行くのを見ましたので、早速その学校へ、こういう姿を見ましたと手紙を渡したところが、校長先生から一べん来てくれというので訪問させていただきまして、今まで子どもが石を投げたとか、おたくの学校の子どもが悪いことをするというのはたくさんいたが、善行をほめていただいたのは、私どものほうは初めてですので、お手紙を印刷して全校の

びこんでゆくより他にないだろうということでした。若い人でしたら私が待ちかまえていてもそれを無視してつづつ走つてしまふ。それで最初の人が道に立ちふさがつて止まれという勇敢な行動に出ます。それにはさすがの無法者もしたがつて降参するのでつけさせる。それからたつた十円の駐車料に、わざと五千円出した、一万円を出してみたりする。そういうのは根気よく、両替してくる。そういうほんとうにお金にかえられない努力をしています。また自分でつけてきた傷をこころでつけられたから修理代をよこせ、と、ある時なんかは千円くらいかかるといわれて、こつちで責任をもちますからと修理屋さんに行つてみたら六十円ですんでしまつた。それもこちらがつけた傷ではないが、六十円でその人を反省させることは大きいと思つています。相手はその度に変るのですから種はつきないのですけれども、少しづつ切りくずしていけたらいいと思つて続けております。

椎沢 私の勤めていた保育所の子どものお母さん、おねえさんで非行少年になつてゐるのが大層ある。親は朝晩ろくに出たきり夜しか帰らないので、したがつて子供は保育所にあずかる。その間中学生の兄や姉が御飯をたいたりゆんだりをみる場合に、非行にながれやすい。私の部屋は乳児の部屋ですが、保育料が度々なくなる。六年生くらいの子がいて、先生の靴か何かをとる。親が渡した保育料を使ひとみをしてしまつて、三カ月も払わない。どんな子どもかと家庭の状況を調べましたら、おあさんからしてよそのものをほしがるという状況です。そのうちに保育所では、あの子は用心しなければならぬという目でみられる。どこへ行つてもこの子はすくわれないから、あの子が朝来たら「おはよう」と

生徒に配りましたということ。これもおとなの面から子どもに社会的良心を呼びおこせました実例かと思つております。

小島 子どもを小暴力から守るために、婦人といわず大人が結束して、ただ自分の子どもを守るだけでなく、見た時に、あるいはかわりになつてはということを一括して、みんなて手をつないで頂きたいということなのです。学校の往復にどうしても繁華街を通らなければならぬから、そこで突撃ささいな暴力ですけれども、おびやかされてゐるのでございます。高校三年ですがボンと突き当つて来て、顔をかせ、ということをやられた。それを通りかかつたおとなは、どなたもなにもしてくださなかつたという事です。幸いけがもせず、息子なりの考え方で処置は出来たのですが、そんな場合に見て見ぬふりをしないで、みんなて手をつないで行くように、それから、交通地獄ですが、子どもを交通禍から守るために、私どもの地域では当番で、朝三十分交代に立つことになつております。

宮島 私の息子は中学三年生ですが、私が日ごろ感じていることは学校の教育の中であまり試験勉強に夢中にさせないでクラブ活動を充実させて、それぞれクラブ活動にはげさせるようにすれば、青年や少年の家庭からの脱落、学校から脱落がかなり防げられると思ひます。学校生活に限つた場合は別の問題にも関連してゐると思ひますが、今の学校の勉強のさせ方、在り方について非常に疑問を感じてゐます。学校の出来る子は即ちよい子で、遊んでばかりゐるのが即ち悪い子という既定の考え方のために時代に即応しないで迷惑してゐるものがある。そういうことをつよく感じます。

山田 私のところは地区ぐるみ運動を呼びかけてゐるのです。各部

落で補導委員を作っています。それは大方のところでおかあさん、それから青年の方です。そういうのが各部落にあつて、それから公民館に育成協議会というのを作っているのです。ある程度地域全体に組織がなければいけない点がありますので、青少年育成というのを一本の目的にして、去年から今年ずつと続けている。私はどんなことをしているかわからないという補導員がいますから、公民館はPTAとタイアップして教育映画をもつてきて、部落で話し合いの仕方などについて委員会の研究会をしたり、各部落に公民館とPTAで地域婦人会がぐるぐると教育映画をもつて回っている。割合に個人対個人では言えないようなことが満足に言える場合がある。

山田 補導員問題ですが、そういう施設に入っている子ども達を一日里親となつて、自宅でちやほやしているでしよ。私から見ますとほこらしそうにお話をなさる方がある。補導員の施設の根本の問題、施設の整備とか、補導員の将来の職業教育にもつと目を向けるべきじゃないかと思う。ただ単に一日くらの里親制度を設けて、一日の家庭のあたたかさを味わわせて帰すなどというのはかえつて罪を感じがする。身体障害者の場合もそうですが、社会人として復帰できるような態勢をととのえてやるのか、設備をもつとよくなるとか、そんな問題に、私、女の目を向けたいと思つておりますが。

館野 非行少年、非行少年と申しますが、社会的良心を十分活動させるに一番いい対象ではないかと思ひます。体験から申しますと、警察がそれを取り上げてかえつて逆効果があるような場合が多い分あります。主人が関係した学校で、本人が知らない間に警察の

する方でも、とにかく勉強したい者は残るという形式をとります。その次、二学期の半ばすぎますと大体就職、進学がはつきりしてきますので、今更そのコースをもつて、学校では就職補修コースというものを設けるのです。ですから進学するから補習をうけるということではなくして、平等にとり扱います。就職のほうは、たとえばきよりはペン習字とか、社会に出て実際に間に合うものをやる。女の子ならば簡単な活花、それで子どもはそう劣等感をもちないで喜んで補習コースを受けております。

野田 私どもも家庭の母親として一番身近に出来ることは、よその子ども自分のと同じように思つてやればいい。危いことをしてたらとめる。いけないことをしてたらちよつと一言声をかけてやると、子どもは案外すなおに聞いてくれる。それをよその子だからといつて見過し勝ちだと思ひます。私の近所は工場なので毎年九州、東北から、卒業した若い娘さんがやつてくる。工場では働いてもらひさえすればいいので、生活指導は正直手がまわらな

い。工場では二部制になつていますので余暇の使い方がなくて、夜な映画見に行つたり、ダンスホールに行つてみたりしてぐずれる。高校に行く家庭はそこで又教育を受けられるが、中学でやめた子どもはなんらの教育がなされてない。私は気の毒になつて、二、三本を貸して上げたりしているうちに遊びにくるようになつて、一しよに遊んだりそのへん片付けたり、お料理を作つ

手帳につていまして、鑑別所送りをするから書類を作つてほしいといふことで、担任の先生が涙ながらに、私宅にまいりまして、そんな所に行く子どもは長い一生にとつて汚点になるからこれだけはなんとか願ひ下げにしてほしいといふことになりまして、主人も同意しましたものですからその方向にいきまして大へん成功したケースがございますが、警察がそういうものをとりあげるばかりが直す方法ではないと思う。それこそ社会的良心で直せばいい対象だと思ひます。

岩尾 大阪では中学から高校に入学試験の時に、公立高校よりも私立高校が一か月早く試験があります。それが私立と公立が同じ額までとめてくれといふことが出た。中学校から社会にこび出す人は二学期のうちに就職先が決まつてゐる。そうすると劣等感を持つたり、学校で勉強したい気持ちでゐるのに、三学期は進学に先生が一生懸命になつていてはつたらかされてゐるから、学校に行つてもつまらないといふので、三学期は非常に危険な状態で、大阪あたりではほとんど学校に行かない。飲米街をさまよつてゐる。そこにくるくるとの非行少年の芽生えが出来る。だからどうしても就職試験も、高校の試験も同じ時期にして、義務教育だけは同じ取扱ひをしなければいけないといふことは真剣に考えなければならぬ問題だと思ひます。

高瀬 学校でも父兄でも、あまり進学にウエイトをおきすぎますと就職組があぶれたかつこりになる。そこでやはり進学指導は三年生になると補修コースのよりな形をとつて、進学する方でも就職

て一しよに食べながら、その子の恋愛問題とか家庭生活の辛いことを話したりする。

これをグループのように他の人にも受け持ちしてもらつて、もう少したくさんの子を指導したいと思ひます。

萩尾 よその子をお自分の子と思ふということから、私は実際として皆さんにいつも「ありがとう」といふ言葉、それから、いいことをしていらしたら、おとなでも、子どもでも、誰に對しても、「あ、すてきなことをなさるわね」とか、子どもに對しては、「ほんとに偉いわね」とか口にだして言う。思ひだけじゃいけない。夫婦間の愛情でも同じだと思ひが、だから思ひだけじゃなく、ほんとうに愛情とか感情を言葉に出すことが大切だと思ひ。これは日本人の欠点だと思ひますが……。

山田 私、研究室にあるので、いろいろ検診などにまいりますと脳性小児麻痺をもつたおかあさんと個人的にお話をしたので、脳性小児麻痺の場合は治癒する見込がないから、社会保障の中の育成医療というのは適用にならない。施設にもはいれない。そういう場合その子を連れて歩いたりすると、大体三十、四十くらいのお子さん方が非常に好奇心の目で見る。そういうことは、たとえは身体障害者の場合でも、じろじろ見るのはそれくらいの年配の奥様がたが多いのです。社会的訓練がなされてないせいなのか、非常にむき出しな目で見るというあれが多いのですが、いわゆる好意ある無感心さというものを私、強調したい。好意ある無感心という

場合と、ある面に非常にちやほやする型、そういうのとわけられるが、少なくともみんなが好意はあるが無関心をよそおえるだけの社会的訓練をしていただきたいと思っています。

桃沢 社会的訓練といえ、おふろなどで子どもが水をじやぶじやぶかぶつてゐるから、「だめよ」と言うと、「あのおばちゃんに怒られるからやめなさい」それがどうもよくないのです。私の子どもは、私が注意するからいいでしょうという態度。それこそこちらの好意を逆襲しないでもらいたい。

岡林 私、高知でもずっと西の辺りな所ですが、最近大へん非行少年が多い。原因をつきつめてみますと、八キロほど通学している。その間におなかのすいたり、盗難がおこつたり、暴力問題がおこります。婦人会などでいつももちあがる問題ですが、話して見ますと一カ月のバスの定期が一千円から千二百円かかる。二人も子どもを持てば二千円以上の経費がかかつてしまうので、どうしてもバスで通わせなければならぬ地域では、そのことについてディスカッションしまして、市の婦人会にもちよつて、市の教育委員会などに働きかけまして、年に六百円だけ補償してもらうことになつたそうです。この問題が地域会議の時に出来ましたら、通距離通学費をなんとかしなければ、次の高校に進学させる経費さえもうかばないということがおこつています。

小島 非行少年が非常に多いのは神奈川県だそうでございます。横浜が又大変多い所ですが、神奈川県では更生保護婦人会というも

大谷（リーダー） オブザーヴァーの方に来ていたといっておりまして御意見をうかがつて、我々のお話の中にその問題をいれてお話しの方がよろしいと存じます。石井さんに御感想を述べていたといふと存じます。

石井（特オプ） 選挙の問題にもう少し問題の核心にふれていただいた方がいいと思いました。しかし非行少年の問題などに母さまらしい、こまかい御配慮がでてきて、これはなるほどというものを感しました。

大谷（リーダー） 新沼さんは昨日もお聞きいただいたので一つ昨日から今日にかけてのお話をお聞きになつて……

新沼（特オプ） 農村婦人団体の仕事を農業労働をはなれては全く同じような共通した問題、その中で特に感じましたことは、保育所の問題が出たわけですが、保育所を是非欲しいという声はすべての農村婦人の声というふうにとつていいのではないかと感じたのであります。私共の方は、マンモス組織でございますので、組織の会長とかいうその方が直接立候補するということはない。する場合に会長は地位をおりて個人の立場として又応援する場合は、政治結社のようなもので常にその中で選挙活動をやつてゆく。もう一つは、組織の中で政治学習は非常に大事なので日常生活の中で持続的に行なつていこうとか、また政治活動と言へばすぐに選挙につながつて考えてゆくのですが、現代の生活の中でどういふ点を自分達の生活の中で考えてもらいたいのかというふうなことを学習の課題にして、具体的に申しますと保育所というものは、現在農村の婦人がどうしても働かなければならぬから保育所という問題もあるのであります。

のを作りまして、保護司さんの奥さんが中心ですが、あと、婦人会の非行少年に關心のある方、それに指導力のある奥様などで、非行少年の収容施設の拡充への資金集めとか、あるいは非行少年になつた方たちに対するあたたい手をさしのべると同時に、又大いに非行少年をなくするため手をつないで及ばずながら努力したいと思っています。

もう一つ農村の子供の教育という観点から考えてゆく。こういう問題を政治の問題と結びつけて自分達の学習したことを政治の中にも正しく反映させてゆく。そういう総合活動を村の中でしてゆく。

田中（特オプ） 地域の婦人の方の具体的な報告をききまして感る程そういう活動をなさつてゐるのかといふ勉強になつたと思つたのでございます。選挙のことについては家庭に入つた視野の狭さというものが感ぜられます。視野を広めて勉強して認識してゆく、そういうふうな勉強してほしいと感じました。託児所、保育園のこととはほんとにいろいろ勉強になりました。

大谷（リーダー） 結婚と恋愛のことがありましたね。青年団の方は未婚の方達ですから、そういう立場からこの問題をふれていただいたと思います。

田中（特オプ） 結婚の問題は歩みよりが欲しい。そういうようなことには心を動かされます。私達はやはり自分の幸福ということについて一番に考え易いのです。知のことは第二第三とつて無視するといふ状態、気にかかりながらやはり考えに入れにくいところがあるのです。私達の母もどう思つてゐるか、何もいわなくとも、その気持はやはり人間としての思いやりを求めているのだということを知つて大いに考えねばいけないと思ひました。

藤尾 選挙については視野の狭さを感じたということは政治綱が足りないということですか。

田中（特オプ） 現在の政治状態から見ると人物中心ということはおそらく考えられないのではないかと思つてゐるわけです。そういう時に人物を主張できるといふことはやはりある狭さがあり、勉

強不足、認識不足がある。そういうものを感ずるわけです。
大谷（リーダー） 残された問題として入学試験の問題をとりあげて欲しいということですが、

松本 春になると入学試験の問題が新聞などでさわがれて、職場で気の毒だなと感じます。その原因を考えますと、二通りあるように思います。一つは社会が学歴を重んじる。やはり高等学校にいつて、大学にいつて、そして職場に入つて立身出世することを社会の方が要求している。学歴をなければならぬ真面目に働いても、いくら実力があつても認められない。という社会であるからどうしても子供は学歴が欲しいと感じてゆくのだと思います。もう一つは、社会の中で生活しているお母さんの場合、自分の夫 学歴がないばかりに平社員でとても苦勞して来た。子供達にはそんな苦勞はさせたくない。何とか一流学校に入れたい。ということの子供の試験地獄が生れて来た。子供に個性のある職業を薦めさせたり本当に学問をする子供の素直な教育というものがそんなものによつて曲げられていくのではないかと。岩尾 学歴を重んずる社会のためにあんな競争が行なわれるのです。子供達からそんな競争をなくすためには、社会そのものが能力を導ぶ仕組みに変わらなければならぬということ 議論されます。大阪あたりだと学校差があります。いい学校にいれる時には人間性を無視したとてもお断りなれないような知識の詰め込みをやるわけです。それに対して第三者は批判するのですが、いざ自分の子供がその立場に立つた時には親も血眼になつて人間性を無視した教育に追いやつてしまふ。そういうつた学校差、私立の学校と公立の学校の差別をなくす。今年は大阪と

ます。せめて小学校時代までは人間性を活かして無邪氣な時代を送らせようと思つていますが、幼稚園に入るから教のお勉強をしましう。小学校に入る頃という完全に大人の責任だと思つちやう。一年から楽しい子供時代を過ごすために勉強でも遊びを覚えるようにしたが、特に都市の方に多いのです。がこの傾向を何とかお母さん方からなくして頂きたいと思う。人間性的のんびりして来たものが何年か後に社会に出た場合と一生懸命詰めこまれた青白い秀才が社会に出た時とは、人間らしいことをして来た人は、人に対するいたわりもあるでしょうし、ある程度抵抗もふみ越えて楽しく生活できるでしょう。これだけ勉強してあいつより早く課長になるという戦意でなく人間社会をもつと人間性のあるものにしてゆくため幼稚園の入学試験は全然やめて貰いたいのです。

大谷（リーダー） 昔は偉くなれという表現をつかいましたが今でも残つていてしょうか、
小島 下席いまそういうような青年を三人もつていて母でございですが、今の子どもは立身出世主義の心は持ち合わせていないようにございます。例え小さい会社であろうと自分が何もない人間であろうと、とにかく世の中に何かお役に立つことを社会から受けるものによると思います。親ができたから立身出世の道を歩ませたいとか、子供は親があつたから自分が一生懸命勉強してとか、それぞれ抱負をもつて生きています。入学試験の問題は勿論能力に依じた勉強が一番基礎になると思いますが子供の芽を延ばすのは親でござい。入学試験の

兵庫県で私立の入学命令を返してくれという問題が起つた。非常に莫大を煩でござい。政府当局が公立学校に援助するだけのものを私学にも援助すれば、そういう無茶なとりかたをしない。私学には私学の特長がある、入学金を出すのは覚悟の前で入れるべきであるという説がありますが、今日の問題としては私学が公立よりも前に試験が行なわれるので、公立の試験のステップにするわけです。私学を踏台にすることは純粋な子どもの気持ちを汚すことだから先生も父兄もつと真剣に考えなければいけないと思います。

楠木 進学する子どもがおりますと、親御さんの方がまず神経質になる現状でござい。日常の学力は先生が一番よく知つておられますから、担任の先生の御意見を第一番に尊重するというのが一番いいと思います。
宮島 高校に入るにも大学に入るにも大変困難な時代ですが、考えてみると何のために大学にゆくのか、何のために高校にゆくのか、目的意識がはつきりしていないので、子どもによりまして高校受験のために勉強するのは非常につらい。それからぐれて不良になつてゆくという大部の子供。実際社会に早く出て働く方が能力が發揮されるのではないかと。苦しい試験勉強をして僕はどうしても大学にゆくのだという頭張つてくる子供がある。だから子ども自身がそのために人生に目的をもつてゆく。それを早く親が見抜いてやること。苦難な受験勉強が一概にいけないというのでなく個別的にやつてゆくことが大事と思う。
植根 入学試験といつてもいろいろありますが、幼稚園から小学校に入る入学試験は幼児教育をする者として実に秋かわく思つてい

地獄を恐れるあまりに能力のある子供が社会に貢献できる子供である場合その芽を損わないようにしたいという親心から申上げた。い。
大谷（リーダー） 一般的に末だ偉くなれという気持ちが醸成してきているのではないでしようか。
楠田 大將になれ大臣になれと昔の親は言つたでしようが、時代が変つてそういう言葉は使われないが親の意識の中にはなるべく子供をいい会社に就職させたいという気持ちが現在ものすごくあるかも知れぬ。殊に生存競争が強くなればなる程さけ難いので実存していると思います。

萩尾 今の子供は非常に経済観念が發達していると思います。大將になれ大臣になれと言つたのは昔のこと、今の子供の立身出世は経済力をもつことであると思う。経済力をもつことは結局いい会社につとめるとか、そのためには大学のいいところを出るとか、官島 親達の方が頭脳労働する人と肉体労働する人では、頭脳労働を大切にしがちな傾向があると思う。人から聞いた話ですが、東大の入学率の一番という難の高校は高校三年間のうち二年間で高校の課程を済ませて、あと一年は受験準備の勉強をする。ところが川崎製鉄では難から東大に入つた者は社員にとらない。東大以外の学校に入つた人はいい。何かかという、三年間で仕込む勉強を二年間ですると必ず手ぬかりがある。それは生涯人間として伸びないからだということを感じました。

小島 私経験した学校では入学率もよろしゅうございしますが、大変論理的な教育に重きを置いていますがそこに六年間あらずけずと、私四人のうち一人御厄介になつたが、大変人間らしい教育をした

が受験の方でも人を押しのけたりするようなこともなく自然に
頭む学校に入れるという経験をもちております。

大谷(リーダー) 個別的なあれではあると思いますが、問題は社
会的な問題として考えてゆかなければいけない。

小島 といいましたのはそういう教育を押しすすめてゆきたい願
いでございます。

松本 もう一つ入学地獄になる原因があると思いますが、それは日
本の工業が非常に発達して来ましたが、それは義務教育だけではど
うしてもだめで時代に即応した中等教育が要求されているが、そ
れにマッチした学校施設が追いつけないのではないかと思います。
ですから沢山の教育を受けなければならぬ。定時制の問題など
も考えなければならぬ。

若尾 夜間学校を平等な取扱いをするということは望ましいから積
極的に働きかけてゆきたい、各企業体が中学卒を会社に入つた人
を一定期間高等学校程度の教育をさせているという。これを義務
づけるということは変だけれども企業体の中の教育をおとしてい
つてほしいというものが非常につよい。

大谷(リーダー) いろいろ御意見をうかがいましたが、現在の社
会的教育状態の弱さというものがよく出て、それに対する皆さ
んの関心が具体的な形で出されたと思います。しかし批判するだ
けでなしに我々のテーマは社会的良心ですから入学試験の問題を
提起されて入学試験だけの問題を論じているのじや意味がないわ
けで、それを社会的良心の問題までつなげているのじや意味がないわ
けで、それが大事だと思ひます。そういう点に限って御発言が
ございませんでしようか。

大谷(リーダー) 今まで小学校から仲よくやつて来た友
達を離れるよりな行方はさせたくないし、私はどういふふうにし
ていいか悩みの種ですが、知恵を拝借したいと思ひます。

館野 今の近くに全員の理想を達成するため高校が増設されま
した。新しい学校なので第一志望第二志望がございまして第二
志望を発表しました時に定員一名足らぬ位です。それで全員入学
できたわけですが、一年そのまゝやつてみましたが先生がどうにも
動きがとれないようなことが何か出来ちやつたようです。ある程
度の教育を遂行させるためには試験もやむを得ない制度ですか。

宮島 人の子供の時には非常に進歩的なことが言えるのですが自分
の子供の時には逆もどりでしてしまふ。それで結局どういふ矛盾の
中においてどうしたらいいか、苦しいことだけれども実行してゆく
まわりくどいやり方しかないと思ひます。また大学を出た人は實際社
会に出てやつていける仕事の内容という点、例えばキーパンチャー
なんかを聞いたります。これこそ精進院が施設の中でやつても
出来るのではないか。一体その人はそんな仕事をやつて幸福と
思つていけるのかしら。子供が本当に幸福だというのはどういふゆ
き方なのか矛盾を感じます。

花沢 試験地獄は直ぐ解決されない、結局山田さんがおつしやるよ
うに落ちては返るような子供にあればいいけれどもそ
の場合遅くはなかつた母がしつかりして自殺など防ぐより
しなければならぬ。

野田 自分の子供が勉強に向いていないと悟つた時には、その子の
長所を活かした仕事につけて後悔しないで励ましてやれる母親に
なりたい。例えば勉強に向かないが、手の仕事が好きなならば大工

山田 私などの場合、大学の医学部の研究室ですが、医学部などと
いうものは非常に封建的色彩が濃い。私は高等学校卒業してから
違う学校にいってそれから入つたので私など助手にすると大学の
権威にかゝるという、文部省に申請してもそういうような回答
があつた。私自身一生懸命やるつもりで、ある程度発表もやつて
います。が実際には学歴は非常に重んじられているので、現在
在受験資格だとか何とかもうなすけませんが、それから教育投資と
いう形も何か背けるような気がいたしました。実際私も子供が
できた試験地獄にも耐え得るようなたくましい子供をつくつて
おこりたいと思ひます。

萩尾 先程長野の宮島さんがおつしやつた肉体労働、頭脳労働のど
ちらが大切かという問題、職業に貴賤はないといひますけれども
現に私が子供にそんなに出来なければ八百屋の小僧さんにしてし
まうという子供は職業に貴賤はないというのです。職業の貴賤
を抜きにして皆が正しく立派に一生懸命働いているものは、皆正
しく美しいという社会的良心と結びつけたいと思ひます。

大谷(リーダー) 結論としては全く立派ですが、いかゞでしよ
うか。皆さん子供達にそういう風にわり切れるかどうか。
山田 実は私の子供は中学に入つたのですが、署名運動など真先に
立つて署名していたつもりなのです。全員入学とか、校舎をふや
して欲しいとか、一生懸命協力して来たつもりですが、子供は来
年の春には卒業ですがまだ解消されない。一年間努力して子供
は落ちても受かつてもいいとよく辛抱しておりますがそれをほめ
ても、子供の悩みはそれでは解消できない。私の子供はどちらか
というに遅ましい方で私だけどうしても通りたいという勉強意

などにすればいいと思ひます。大工になるんだつたらやはり一番いい
大工さんになれたらいい、その方が仕合せだ。
大谷(リーダー) 非常にいい問題が出されたと思ひます。つまり子供に
対して無理な問題があるのではないか、意識するしないに拘らず
現代の社会の中にそういう面があるのではないか。今おつしやつ
たようなことが素直に活かされ、又家庭の内部におけるある意味
じや社会的良心につながる問題になつてくるのではないか。だか
ら教育制度の問題もあるけれどもやはり心構えの問題にはね返つ
て来るような気がするのですが。

萩尾 現実にはぶつつかつた時にはとてもむづかしい問題です。私共も
そこを押しきつて本心に賢明な母親になつて子供をよく見て実行
に移すだけの力を皆もたなければならぬということだけは考へ
ております。現在の問題としてとても悩みます。
大谷(リーダー) 子供にいろいろなことを言わないで放つておき
ましたら自分は自分の道をゆきたいという判断をもつてしよ
うか。
宮島 もてます。

大谷(リーダー) 親がこういう世の中だから学校を出ておかなけ
ればいけないという強制があるのではないでしようか。
萩尾 それは学校次第で高等学校になると子供達は受験のために予
備校に行く。それだけ先生は頭脳労働を要求している。頭脳労働
ではないがよい学校にゆけることに一生懸命です。高等学校時代
から学力差をつけられるから。

小島 横濱の栄光学院はドイツの先生が校長先生でございましてカッ
リックが主体になつていますがカッリックを強要することはなく信者
の子だけを集めることもしません。日本の戦争の混乱期に出来た学校で

終戦後日本の教育を入りこみになつた学校で、今礼儀その他がい
われておりますが校門から校舎までの間一キロ位と思ひますが、
中に入りますとどんな方がいらつしやうと子供が御挨拶をい
たします。そういう儀は強要された所ではないですが。

大谷（リーダー） ある意味のそういう学校もふえますことも望
ましいのでありますが、それで終つてしまつては社会的良心の
問題はふつとんでしまふのだ。現在の非常に苦しい中でどうす
るかという問題をとりあげて貰つて。

山田 お母さんの立場で子供の幸福を願つて学校に進めるお話で
すが、もつとつき込んで来ますと自分の老後の問題がひそんで
いると思ひ。子供をいい学校に入らせて自分達が幸福を願つて
いるという考え方がひそんでいるのではないと思ひますが。

大谷（リーダー） 昨日の結婚問題の場合にも老後をどうするか
養つて貰う問題が出て来ないのであります。日本の社会保障制度
の問題に關連して来るわけです。ですから入学試験の問題も入
学試験だけの問題でなくもつと広い問題の中の一部です。

萩尾 現実にはそういうのです。長男には非常にいい教育を受けさせ
るが次男には学校教育などいい、女の子だからいいという。
そういう面はやはり老後のことまで考へていているということとは
これは考へられると思ひますが。

大谷（リーダー） そうしますと皆さん外に向つての社会的良心
は非常に活動なさつてゐるが、自分の家の中の社会的良心を忘
れられてゐる。同じ親の子供に生れたのにアンチャとオンチャ
とあんな大きな差別する。それほどひどくないうちでも長男次
男の間に差が出て来る、根本的に不平等ですね。

をさせるということが出て来ますが逆にもつと零細な経営規模の
際は男三男或は娘さん達が不平等な扱ひを受けなければならぬとい
う問題が出てくるのですから、出された問題はやはり社会生活と
結びつけて考へてみなければならぬと思ひます。家の問題は我妻
先生はやはり精神といふことをおつしやつてゐる。ここにもある
意味では我妻精神、これは現在の日本としては相続制度の問題が
さういふ形で出されてゐますがそれを動かすことが出来ないとい
ふれば一体それはどういふようにして現状内において人間らしい生
き方を確立するか問題になつて来るのですから老後の問題が問題
になる。つまり相続するときにわけつてしまふ。どの子供かに老後
をあずけなければいけません。私は家内について言つてゐます。子供
は立派に教育してやらなければいけませんけれども、老後になつて
子供達の厄介にならなければならぬといふ考へ方はしないようにし
ようねと。それが一番大事なことじゃないか。老後にたよるうと
すると教育投資といふ考へが出て来る。やはり独立した生活を死
ぬまでそれぞれの人がつづけてゆくといふ考へが出て来ないとい
ふ問題は悪循環になると思ひますがどうでしょう。

萩尾 大変失礼ですが先生の場合は老後の保障が出来ただけの財産
や何かお持ちでいらつしやるのでございませうか。恩給……

大谷（リーダー） そういう発言はよろしくないと思ひます。勤勞
者といふものはその月暮しをするしか貰つてゐないのです。労働
力の再生産分しか貰つてゐない。その中で自分の生活を確立する
しよつとするなら大変な努力をしなければならぬ。恩給とかお
つしやるけれども恩給は私にとつては退職です。そういうことに
問題をさらされては困る。

松本 農村の場合に言へることは次男三男に農地をわけたくない、
それでは立つてゆかない農業経営があると思ひます。

大谷（リーダー） その場合非常に矛盾が出て来るのです。非常に
深刻な問題だけれども、私庄内に参りました時にある篤農の青年
年、二十二、三の青年ですが、全然農地は固有の方が好いですね
という。よく聞いてみますと一定の政治的意識に立つての問題で
なくて自分の生活の中で叫びたいやうな氣持で言つてゐる。どうい
うことかという、新民法の下に均分相続、分継相続が原則にな
つてゐる。彼の経営は三町五段だから立派に七けた農業になつて
いる。百万以上になりますと兄弟が多い場合は分継相続するとす
れば、どうしても弟や妹から財産の分継を要求する。そこで分継
の要求をさせないためには、男の兄弟には大体大学を出すだけの
教育をしていかなければならぬ。それから娘一人を嫁にする場合
になると、三町五段になると仕度金を百万以上使うのは当り前に
なつてゐるのですから男の兄弟が二人いて女の姉妹が二人いると
いくら百万以上の収益を上げたにしても追かけられて農業経営の
収縮など出来ないという。やつと兄弟をさういふ形で片づけたと
思つたらもはや自分の子供の問題になつて来る。願ふと長男には
家の財産を分継するなといふ形で親父からリレーのバトンのよう
に農地を渡され自分の子供にへらさないように渡すだけのかげこ
とをやつてゐるのと同じだといふ。財産などがあるから人間的生
活ができない。だから土地は固有の方がいいというわけですね。
私は非常に深刻な現在の社会における矛盾だと思ひます。ここに制度
の反人間的側面が表れてゐる。この場合はとにかく兄弟人な
みないき方をさせようとしてゐることがこれが反人間的ないき方

萩尾 そうじゃなくて一般的に恩給のことですけれども恩給のある
場合はいいと思ひます。私も恩給がございしますからそんなに
深刻に老後のことは考へてゐないのですが、現実には私の兄弟に職
業を転々として 転々としてゐるのではなくて技術革新のため
にさせられてゐる。そういう兄弟は子供に教育費をかけてしまふ
となにもない。そうしますと老後は生きてゆかれない養老院
に入るより仕方がないが、最低の養老院にも入れない……

大谷（リーダー） 問題を皆さんから出していただいたといふのは
つまり老後の心配をしないといふ。個人個人が日常生活をきり下げ
て苦勞しなければならぬやうな生活が強制せられてゐる。その中
で老後の問題を処理してゆくためには老人ホームとかさういふも
のも考へてゆかなければならぬこと……

小島 それから老人に入るまでのことですが、学校を出た人の受容
れ態勢において、能力に応じた賃金を払つていただくと同時に能
力に応じた段階といふものを社会が考へていたならば入学試験と
いふものがある程度……

松本 黒金官房長官が定時制高校の差別をこれから民間会社にしな
いといふといふやうな通告をしたといふので大変嬉しかつたが、
養老院の経営者には充分の受け容れ態勢をつくつていただくやう
になれば、入学試験なども學歷を重んじられないやうな社会であ
れば一面改正されるのではないと思ひます。

山田 子供に勉強させるのは親が功利的な考へで自分が老後見ても
らいたいのからといふ意味も勿論あると思ひますが、農村の生活を
見ますと子供は都会へ都会へと走つてしまひあてにならない
い。子供にはそれぞれの生活があるから仕方ないといふ諦めの方

が強いと思う。自分達でどうにかしてゆかなければいけないと考
えております。それから次男三男が分け前が貰えないとおつしや
つたが長男は僅かなものを貰つて低所得において自分の家を守つ
てゆく苦しきをもっている者が沢山あります。何もなくてもいい、
自由を天地に飛び出たいという次男三男が沢山いる。自分自身得
来の生計を立てて生きてゆくという人は仕合せですが、私達はそ
の段階にまでせめて自分達だけでも厄介にならないように出来るだ
けにしていつて最後に保障というものがもつと確立されることが望
ましいと思います。私達はものをためて置いて買ふという明治時
代の教育で今はそうじゃない。今は先ず買つて楽しんでゆくとい
う生活の中で親の面倒まで要求することはどうかと思う。だから
親は自分達が厄介にならないようにする。そして最後は國家が温
かい福祉で何とかしていただきたい。

大谷（リーダー） 都会の私の周辺でさえも未だ養つて貰うのだか
らといつて嫁えらびをしている沢山の例をみている。だから私が
いつたよりな形でわり切つてゐる家庭は非常に少ないのです。財
産をもつてゐるだろうとおつしやるがサラリーマンは残るはずは
ない。恩給を貰つて恩給で喰える程度のもはいいから自己の生
活を確立する以外にない。だから自分自身子供の荷物にならない
ようにするといふゆき方と社会保障の両面でゆかなければならぬ。
それだけに一年間の農業所得に相等するものを嫁の仕度につけて
メンツのために使う。これをこれだけ使はないで自分達の経済に
相応する形で将来を慮つての生活設計をしなければならぬといふ
そのほりは放つておいてやるというのはいやりの人間的生活、人間
として生きるために何をしなければならぬかといふことを根柢

きない。やはり強制することができないとすれば一体それぞれの
個人が自分自身の意志に基づいて拘束されないで生きてゆくとい
う一体どうしたらいいか理論論では片づかない。現実の中で矛盾
が出て来ている。

宮島 これは個人の経験で、一般論として通用するかどうかわか
りませんが私は主人が長男で私は長女です。私の場合には弟がおり
まして私は主人が学校を出てから結婚したので結婚式の費用は別
ですが合流していま一軒の家をもつていますが主人の親からも実
家の親からも一銭も金銭的迷惑をかけていないわけです。主人の
父親もそういう水くさいやり方は面白くないという風にとられた
むきもありますが、私共はとにかく充分ではないけれども充分生
活できる段階にまで来ている。長男としての階位をもつて財産分
与していただく必要はないと言つております。お父さんお母さん
が足腰たないから一緒に暮らしたいという時には面倒をみるから
それ迄今の形でやつてゆきたい。

野田 この問題は私共のグループで子供に老後を養つて貰わなくて
もいいように今からその心がけをしなければならぬと誓合つたわ
けです。子供が学校にいつてゐる間は生活能力がないからその間
は親が経済援助をするが社会人になつたら自分の結婚費用まで親
に出させるのでは老後を考えるだけの経済が出来ないから親と子
の関係を成年の時でもわり切らなければならぬということもござい
ますので。

大谷（リーダー） ところで家族間の人間関係を整理しておく必要
があるのではないかという意味でこの問題を発言していただきた
いと思つてすから今おつしやつたように例えば何故結婚する

に於いて忘れてゐるのではないか。
萩尾 どんなにつましくして老後のことを一生懸命にやるとしても
出来ないという人が多いと思います。

大谷（リーダー） だからその場合はやはり社会保障制度の充実をや
らなければいけない。だからといつて全部の人が社会保障制度に
もたれかかるということには問題がある。だからやはり両面で考
えてゆかなければいけないと思う。何でも彼でも全部政治のやり
方が悪いともつてゆけば際限がない。それじゃ政府をつくる努力
をしてゐるかとやうとしなくていい。ぶつとぶつと自分達
の間で愚痴をとなえてゐるだけでは何にもならない感じがする。
萩尾 戦後の家族制度の考方を一応ここで考え直す必要があると思
う。親自体が子供にたよれないのだ、という風に子供をつきはな
すのではなく、自分から子供が退いてゐるという考方が大きい気
がする。私はその話を聞いてそんなことはありません、親子です
から子供はどんなに困つても親を見る気持はあるのですよと申し
ますが、親子といふものはそんなに簡単に年をとつたら養老院
にやつてしまふといふよりわり切れるものであるのか。そこに
今家族制度の考方を一応考え直す必要があると思う。それは現実
の問題として考えなければならぬ現実かどうかというのを流れてお
るか。昨日からの話で気がかかるのは恋愛結婚がいいか、親の
瞭解を得る結婚がいいか、その場合に親御さんが一番心配される
ことは恋愛結婚の相手と結婚させればその実母が親の面倒をみて
くれないのではないかといふ不安である。だから干渉したくなる
といふことです。これは沢山例がある。それをどうあつて貰いた
いといふだけではもはや解決できない。やはり強制することがで

時に親が農村の場合であれだけのお仕度をしなければならぬか
老後のことを考えればそれどころじゃないわけです。それをなぜ
やらなければならぬか。社会はそれをやるのが当たり前だと考え
てゐるところに問題がある。宮島さんのところで実験されたわけ
ですが両方の親御に全然迷惑をかけなかつた。私は三十才前に結
婚してありますが私自身も当時私も家内も全然両親には迷惑をか
けておりません。これは一つの新しい社会をつくつてゆくための
モデルではないか。もはや一人前になつたら自分で自立した生活
してゆくのが当たり前なのに親の方でも面倒みるのが当たり前と考
え、子供も親にもたれかけが当たり前と考えた。こういつた家族の間
における妙な親子だからといつたもたれかけ合ひといふような
ものが人間関係の一つの条件になつてゐるのではないか。そこま
でこの問題は考えなければならぬ問題をふくんでゐるのではない
かと思う。

それから教育投資といふものがありました、実は何回前にか
やはり会議員に出ていらした農協婦人部の方のところへおしやべ
りに参りまして農村の結婚の問題をとり上げました。その時感銘
したといふのでその村の農協婦人部の方々が話し合ひをして改善し
ようとする動きが出て来た。その後家に帰つて夕飯の時に家族と
共に話をされた。そうしたらほんとにそうだ。僕達は實際嫁を
貰う時にそんな嫁の貰ひ方をしないから大丈夫だ、けれども妹達
は可愛いそうだねと言つたという。つまりそれを通すとその村で
は貰つてくれ手がなくなるといふことで相談に見えた。一体どう
したらいいか、私は苦しいかも知れんが娘さんも大学まで出して
あげなさい。自ら問題は解決する。今金がかかるかも知れんが結

婚のために要求されただけの仕度をしてやれるならば近くの大学に通はせられない筈はないと、私は忠告したわけですが。先月久しぶりにお会いしましたら、先生の忠告を受け容れて大変仕合せだった。横浜の国立大学を頃は卒業しましたし、ちゃんと立派なお嬢さんを探がして私はこういう風に結婚することにしたのでお金一つもいらない。ここまで教育していただいたからと言った。子供を立派な一人前の良識のある人間に育てあげたという非常にすつきりした割り切った形になっている。この家庭の場合には、非常にきれいに家族関係が割り切れ、而も親子の間に相互の理解、納得が確立されているわけですね。農村の今の環境の中ではそれが出来ない。といつて手をこまねているところに問題があるのではないか。そして徒らに親子の関係をより癒して却つて自分達の生活を混乱させているのではないかと感じます。ですから人間関係の一番基本的な関係として家族の間の人間関係の問題が絞られて来たわけですから結婚の問題だけでなく家族の間の人間関係がどういふ風に人間生活を閉塞しているか問題をも少し掘り下げていつたらどうでしょうか。

桃沢 親子を主体と考えた場合、自主性をもつた家庭では子供がころんでもおきて一人でよごれたところを洗うことが出来るが、片方では可愛がりすぎて、お母ちゃん洗って頂戴という子供が出来。それが伸びて親は老後の保障をあてにしたが、子供も自主性がなく親が強制する学校に入るといふふうになっている。つながらず、つてゆくから家族関係においても小さい時からお互に自主性とか、個人の尊重といふことを基本において生活していって貰いたいと思います。

越すと診てあげられない。他の病気がつたら診てあげられる。また健康保険に入つていて、年とつて会社をやめると今度は保険金は自分で負担しなければならぬ。健康保険の料金は五年間になる。あとの二年間は自分で払わなければならぬ。医療の方も非常に不安定で社会保障がしつかり出来ていけば老人もとても楽になるのではないかと感じているのです。

岩尾 人間関係の基本的なものとして、選挙、結婚、家族関係が問題になつて来ました。老後の場合には元氣な姿勢をもつて生活設計を立てておくということです。すると自主性のある子供を育てなければならぬということになります。自分自身が自主性のある人間になるということをもつと深い意味で考えて大人にもお子さんにも自分達の共通の盲点を話し合つて、帰つたらそれを隣りの奥さんなりに話し合つて一人でも多くの人に自主性をもたして、ほんとうの人間らしい生活を営むという努力を今日からではじめてゆきたいと思ひます。

野田 私のグループでも老後の問題は自分達の手で解決して社会保障も勿論充実させなければという結論めいたものに達したのでございすが、私の住んでいる町に養老院の施設がございすが。町の五十年以上のおばあちゃん達はあんなもの政府がこしらえるさかいにこの頃の若い者は私を大事にしてくれん。あんなものつぶしてしまえ、子どもが年よつた親をみんなというのは大番生だ。親を流さんばかりしておこなさるのです。この考方の相違、当然年よつたら子供が親をみるのは当たり前でもう一度家族制度を復活させようと大変です。

大谷(リーダー) そりなるとモラルの問題ですね。今の道義心と

山田 社会保障では現在老令年金がしかれていゝが実際には一カ月千円か二千円のものしか貰えないという制度です。お小遣いにもならない程度にしかない。そこには根本的な問題がある。ずつと働きつづけて定年という枠があるし、而も社会保障も完備しないといふところにやはり子供に頼らなければならぬという問題があります。例えば私の友人など花々しい恋愛結婚をして男の子が生れたといふて安心している者がある。結局それは自分達の面倒を見てくれる子供が出来たといふ安易な気持ちがあるのではなからうかと思ひます。根本的には社会保障の問題、老令年金の問題でそうしたものがもつと完全であれば家族関係もスムーズに解決するのではないかと思ひますが。

松本 山田さんの言つたことに賛成です。批判することはやさしいといわれませんが、やはりしたくなる面が社会に多いと思ひます。例えば何兆という国家の予算で、毎年毎年軍事費がふとつてゆく割合に社会保障の予算の枠はふとつていない。

山田 生活保護法で生活扶助をうけている世帯は従来の保障のうち二四〇位を占めている。そのうち所謂老人だけの世帯が半数以上を占めている。そこにも、結局社会保障の問題につながらつていゝわけで結論は同じですが社会保障の拡充を望むわけですね。結局現在は一時的に経済負担をいくらか軽くしてやるといふ程度の社会保障しかない。

宮島 社会保障の中の医療保障の問題ですが、特に老人の場合窓口をやつていて気の毒だと思ひます。これは仕事をしる時は共済組合、健康保険組合に入つていて、自分自身は無料で治療をうけているが、慢性的病気がかかりますと同一病名で三年間かかれるが一日でも

いゝものが倫理といふものかモラルの問題になつて来ますね。

岩尾 今までの話を聞いておりますと五割の二割に近くお勤つてゐる話と思ひますが家族制度の問題はそんなに簡単に解決は出来ない。老後はみて貰わなくてもいい、子供はみてやらなくていいのだといふならば簡単に片づく問題ですがそこに家族間のモラルがまわりついて来るためいろいろ問題がおこつてくる。

そこでちよつとモラルについてお聞きしたい。

大谷(リーダー) この問題は非常に厄介な問題のようだけれども今日これをとことんまでつきつめてゆかないと今度の問題の根本にふれてゆかないのではないでしようか。はつきり割り切つてゆけるというお話ですがどうでしようか。

高瀬 怒られるかも知れませんがやはり年代の相違が考えられる。というのは私の主人も実は農家の長男一人息子で結局親と家にしはられてどうすることも出来ず、今いるところに住みついてしまつたのです。今男の子が一人いるのですが、自分のふんだんが子を知らず知らずのうちに我々は一生涯たい荷物と背負わせる結果をみさせてはいけないうと絶えず考えているので、親は親、子は子としてはつきりとさせ、とに角子供の世話にはなりたくないと思つております。

大谷(リーダー) ところで特別オプザーバーの方の御意見を伺いたいのですが、石井さんいかでしようか。

石井(特オプ) 私が感じますことは、教育の問題にいたしまして、今の世の中に生きてゆくからには教育といふことも投資だと考えていたかなければならぬし、子供たちをそのためにたく

ましく育てていかねければいけないとどなたか発言をされました。これは実感だと思えます。そのいう中でそういうふうなやつていくたくましさというものはどういふものかという質問が出てまいります。そしてその中で排他的なものを、自分だけが学校へ行ければいいというように感じをもつて、仲良くいつていたものかけんかしていくことになつた場合は、一体私たちがどうしたらいいか、そのところを教えてほしいという問題が出てまいりました。こういうところを深めていただくことが、この会合では大事だと思ひますが、それが又ちよつとそれたのは遺憾でございます。しかしお話の中にやつぱりそういうことをついでにいかねければならぬというのがこの空気の中で出て来ているように思ひます。私は、現在たくましく投資をしていかねければならぬという現実はどこから出てくるかという原因、又仲間をのけても自分の子どもを進学させていかねければならぬし、子どもの良心もその中で痛めつけられて利己的になつてゆく原因がどこからくるかということがもう一歩深められて、壁になるたくさん問題を含んで私にのけられていく方がやはりお話しの中からは出ていかねければならぬのではないかと考えられます。そして、子どもに世話にならぬように、親たちがやつぱり独立していかねければならぬのですけれども、しかし中年以上の就職がむずかしいわけでございます。子どもの方の賃金も低いという、両方が独立していかなぬという問題もそこに出てきます。そして老後の保障についても、要するに協力保障出来ない問題が大へん多い。そうすると、社会的良心、家庭的な良心の中でのものを解決していくにも限界があつて、そこをつき破つていけないものがある。

る。そしてまず、やはり制度や政治の問題にもなつてくるわけです、そういう問題が毎日毎日の自分たちの悩みから決して切り離されたものでないとかわかつた時に、やつぱり自分たちが手をつないで政治をかえていかねければならぬというところに目が向くのではないかと感じられたのであります。

大谷(リーダー) このような御意見があるわけですが、これを頭の中に入れてながら問題を深めていきたいと思ひます。特に申し上げたいのですが、政治の問題は最初からとりあげますと、ほんとうの地についた御意見が出てこないのではないかと。だからやはり個人個人のいき方までかえていつて、その上でそれを問題にしていきたいと考えております。

宮島 その問題は親子の相対的な問題で、一緒に暮らしていくと、非常にむずかしいという感情をもつ家族の場合もある。お話を伺いましたが楠木さんのようなお母さんならずつと一階にいてもらいたいのと思ひました。それは愛情だけでなく、テクニクとか、考え方であつて、そういうふうになつていらつしやるのじやないかと思ひます。ちよつと御発言願ひたいと思ひますが。

楠木 私は長男、次男と嫁がありまして、長男が初めて嫁を迎えました時に、私は姑という言葉が非常に気に入らぬのでございまして、嫁、姑の問題が昔からとり上げられておりますので、それに自分ばかりは嫁の嫁で、養子嫁は非常に気ままだという面から一つ脱皮して、皆さんの手本を示そうという気持ちになつて、子どもとの生活を別棟にいたしましたのでございまして。子どもは県の吏員でございまして、私は商家でございまして、光熱費一切はおもやのほうでもつてやりました。両方で戸を閉めて、プザーをつけて

その合図でお互いに裏口を開けて二人で台所をいたしました。新婚の二人は自分の部屋でたべ、私はこちらでいただくという嫁で、後片付けは私と嫁と娘の後、十一時までを嫁の自由時間にして離れへ帰したのでございます。十一時になりましたと嫁が当番で食事の支たぐをしおもやのほうで一しよに食事をいたしました。後片付けは嫁の係で、それが済みますと解放いたしました。商家のことで、家族揃つていただくことは出来ませんので、役所から帰つてくる息子を待つて二人で仲良くお食事をすすすと散歩なりどこなりに出かけるという方針をとつたのでございまして。これは非常に成功したようでございますが、私が姑という立場で考えたことは、二人の私生活には全然タッチしない。向こうから相談をかけられたらば意見を言ひます。私が結婚生活に入つた時と、今の結婚生活は違います。嫁の人権尊重と申しましょうか、三男が学校へ行つておりますけれども、自分の子どものこととべんとうを嫁にゆめさせるべきではないという意見のもとに現在に至つております。

大谷(リーダー) 大へんいいお話を伺つたわけです。しかしさつきから問題になつてゐるのはそういういふお母さんじやないの問題が出て来ているわけですね。そして、そうありたいのですが、現実の社会的な条件からみるとそういうところに行く道筋を阻害するものが一ぱいあるわけですね。その中で一体どういふふうにしたらよろしいか、親との関係を、これは非情になれといつてゐるのではないので、やはり人間社会の発展にとつて、歴史的に家族制度というものが変つてくるわけです。どういふ方向に変つていかねければならぬか、変つていくだらうということ

をふまえてこの問題をもう少し考えていく必要があるという意味です。非常に含蓄のある問題の提起ですが、我妻先生が我が家精神といふことをおつしやつた。この意味ですね。これが今の問題とからまつてくるわけです。それをほり下げてくることまで来てしまひます。だから姓をどつちにつけるか、なぜ姓名を自分のうちにしなければならぬかという問題、長男と長女の恋愛結婚はこれから少なくないと思ひます。認めてやらなければならぬ問題だと思ひます。その場合に覚悟をきめておかなければならぬ。決めておかないから反良心的ないき方を強制することになる。それを考えていただくところから問題が進展して出てくるのじやないかと思ひます。

萩尾 私は家を代々たてていかねければならぬとか、ついでにかなければならぬとか、そんなことはいいかげんこととてやめたらいじやないかという考え方です。そこからみんな始まつていふより気がするのです。

岩尾 それはやりたいのですが、親たちがやめさせてくれないのです。私のほうでも、薄給の中からのいなかの蔵の固定資産税をとられる。ボーナスをそつくりとられるので、岩尾の姓をやめておまえの姓になると言つたことがあります。やめさせてくれない。

野田 これもやはり思ひきつてやらなければいけない。私の兄弟は五人で、家は農家ですけれども、五人とも家をつがず、みんなきれいに出てしまつた。父はどうしてゐるかといふと、自分の体力にあわせて残つてゐる田んぼを耕したり、時々子どもの家を回つたりしてゐます。普通の農家の父親なら跡取り息子は自分の所から動かさないが、父は別に、ここにいないでも家は絶えること

はないのだから、子どもは子どもの能力をのばすに一番ふさわしい土地に住みついていいと割り切つてくれています。家というものに対して形を大事にして中味を忘れてしまつてゐるからそういうことを子どもに要求するのだと思います。

大谷（リーダー） いちいち意見を言ひましたが、非常にすつきりした形と、そうはいつてもというのと、両方あると思います。やはりどうも割り切れないという顔をしていらつしやる方もあるのですが……。

萩尾 私なんか自分から出来るような気がありますからそんなふうに割り切つてしまふが。

大谷（リーダー） 現実には矛盾に満ちてゐるので出来るところと出来ないところがあるのは事実です。しかしどちらの方向に向かつて動かしついかねばならんかというところを見きわめることが大切だと思ふ。

岩尾 そうするところまで我が家精神を発展的に解消させて、社会の中に浸透させていくことになるのでございますね。あらさんのおつしやるようにスツと割り切れるかと思ひますが。

大谷（リーダー） 我々先生の出された我が家精神というのは、新しい形の夫婦中心の家族制ではなくて、日本の古来の古い形の我が家精神、これを発展的に解消することが必要だ。こういう意味であつたと思ふ。だから我が家というもので対する考え方は切りかえが必要になつて来ているという御提唱じやなかつたのかと理解するのです。

小島 親子の關係において、長男が家をとるが、次男、三男は外に出るとかいうことが、新しい我が家精神ではなく、結局は都合の

いいものが親と暮らす状態となると思います。長男は家業をつくとか、家のための名譽とかのみを考へるのでなくて、一人の人間として子どもたちそれぞれの個性を生かした生き方が子どもにとつて一番しあわせであるということとで解決されてくるのではないかと思ひます。

萩尾 先日ある方が、一番下の子の方が一番いいという。どういふわけかといつたら、だんだん上からお嫁に行つたりして出て行くが、最後に残るのが男の場合、男の子は親についてゐるからかあさんと一しよに、当然家をつくる形になる。というのです。どうしても家をつくらなければならぬという考えです。これは小島さんがおつしやるような方法でやつていくのがいいと思つたのですが、長男じやなくてはお嫁をもらはないとか、女の子は見えられないとか……。

小島 嫁に出した娘でも、実家の両親が、立場を了解してくれて、自分もそこで世話になるといふことがかなえられれば、娘であつても自分自身卑下することとございませぬし、子どももやつかにからなないという気持ちにしていけるのいいと思ひます。

山田 いなかの場合どうにもならなくて、古い時代と新しい時代と、その中間の時代が一しよの家に住むという關係が多いわけとございませぬ。その場合、一番教育されるのは姑で一番新しくなると、どこの農村でもそんな傾向にあると思ひます。お嫁さんの教育よりも年寄の教育のほうに重きを置いたために世代の違ひ者同士の生活をする場合に、姑が昔と違つてゐる面を犠牲になつてゐる氣の毒な場合がたふさん出ていると思ひます。

大谷（リーダー） おつしやつた点、大事だと思ひます。最近は大

へんを嫁日照で、ある山村に行きましたら、おかあさんが、女の形さえていれはいから……。そこまで来ているわけですから、ある意味では嫁、姑の關係が逆転してしまつて、お姑さんが自分をこころして嫁さんを大事にしなけれならん。こういう昔とは違つた形の人間性阻害が出来てゐる形が少なくない。これもやはりさつきの問題にたしかえつてくると思ひます。おやじさん夫婦が同居しなければならん。そういう点からいふと、適当かどうかは知らないが、三重県の志摩半島のこと、これは数百年前から同居制度が確立してゐる。同じ屋敷内に三代にわたつての家族が別棟に生活してゐる。この同居制度を称して、花嫁天国といふふうにマスコミは流すのです。ですから、ここへは喜んで嫁に行くという。はしなくも、こういう形が成り立つ歴史的背景はあつたが、それが今家族制度のあり方という新しい問題を出しているわけですから、それからさういつた花嫁天国と言われ、若い娘さんが考へるような、あるいはお姑さんもそのほうがいいと考へるような問題が現実に出てゐるとすれば、さういふ点に焦点をおいて今後の家族制度のあり方を考へなければならぬところに來てゐると思ひます。

岩尾 農村の問題として出されましたが、都会でもやはり姑の座がないのでございませぬ。農村では家も広いが、都会では狭くて文字通り身のおきばがない。それに仕事がございませぬ。だから体力もあり、エネルギーのある老人が時間をもて余し身のおき場がない。これに新しい矛盾が出て來た。

大谷（リーダー） おつしやる通り根氣がある仕事ですが、私は大へん氣に入らないのですが、教育だとおつしやると……。その通りですが、そこで私も教育者だ、おまえたちはだめだといふお叱りを受けるのですが、それじやあ教育さえやればさうなるかといふと、現実の社会では教育にバトンを渡してしまつて、教育が懸いからといつてしまつたのじや問題は解決つかないのじやないか。やはり自分でやつていく以外に道はないわけだ。

宮島 教育というより、むしろ教養だと思います。私はいろいろな芸事の社会における家元制度というものに興味があつて、しばらく勉強したのですが、その時に感じたことは、自分の個性をのびしめていくことがいかに大切かということです。自分がやりたいと思うことがどんどんやれるように実力をつけていくということ、そういうことを感じたのです。

松本 日常生活の中で小さな問題でも、自分でこれが社会的良心だと思つたら勇気を出して一つ一つやっていくことが一番大切じゃないかと思ひます。そうして自分一人だけそんなことを思つてもどうせだめだからと引っこまないで、なんらかの連帯性をもとにする心がまえが必要ではないかと……。

萩尾 日常生活の中の一つの例として、福岡県議会に出ましたが、子どもを連れて魚やの前に行つたそうです。すると子どもがお魚をいじつたそうです。昔のお母さんなら、それをいじると、お魚のにおいがついて汚ないですよと叱るところを、今は、いじるとお魚が悪くなつて次にお買ひになる方に御迷惑がかかるからしらいけませんか、という形で叱つています。そういう社会的良心を小さいところに一つ一つ細かくうえつけていくお母さんの考え方が必要なのじゃないかと思ひます。

権沢 私はそれを念願しつづけて十年もいろいろやつて来たのですが、社会的良心と、個人的良心が矛盾する場合があるのです。たとえば遠足に行きますね、よそのお母さんともついでに行きます。紙屑散らかさないように、この芝生にははいらないでね、とても社会的良心は生かされている。しかし、きれいな公園に行きますと、親御さんが、はいっちゃいけない芝生にはいつてお弁当

岩尾 一つにつらぬかれる……。

大谷（リーダー） 良心というのは本来人間的な良心であるとすれば、社会的良心でなければならぬはずですね。

館野 ちよつと抽象的になると思ひますが、その立場立場で自分をよく守つていらつしやる方はどこへ置かなくてもいい方だと思ひます。

楠木 今の世相には背から残されたしきたりと、現代の民主主義とはつきりとした基本がわかつていないような気がする。そうして又その行動が拘束されるとか、されないと、そういうことを考へた時に問題があると思ひます。それで道徳心の問題とか社会的な問題、この二つのつながりを考え自主的に行動することが、両方の良心を育てるものじゃないかと思ひます。

大谷（リーダー） 個人的良心の問題は一応それくらいにしまして、こゝろいふに考へていけば個人の主体性の確立というものが、社会的な人間関係の中でなくては出来ない。つまり社会的連帯性を自覚したものでなくてはならぬということになるわけですね。ですからまあ、これは最早論ずる必要はないと思ひます。

その次に、社会的奉仕の意義という項目を出しておきました。それから尙第四は、慈善的行為の限界です。これを一しよにしてお話ししたいのですが、皆さんのお話を伺ひます。自然に発する気持として、ほつておけないという気持で社会的奉仕をする、あるいはしつづける、あるいは個人に慈善行為をする、そのことは大切だけれども、それはすぐに限界にぶつかつてしまふという結論を引出していいのじゃないかという感じがする。だからいつて、これは不必要だという意味じゃありません。けれども、一体そうであるとすれば、社会的奉仕とか、慈善行為と

を食べて、紙屑があつてもちよつとそこにとめて行く。社会的良心に忠実であつた人が、必ずしも個人的良心に忠実であるとは言えないと懸念するのです。個人的良心がまとまつて大きな社会的良心になつていくとも考えられますが、日常の細かいことにつづかつて矛盾が多い。一本にしてのばしていきたいと思ひます。子どものお魚の事件、それをなんの場合にもそういう気持でおかあさんが養つてくれればいいと思ひます。

大谷（リーダー） 個人的良心と社会的良心の問題が出たのですが、どう進めるのかどうして矛盾するのか。

岩尾 個人的良心という表現をなさいましたが、それは良心であるかというところに疑問をもちます。それは良心と名づけるべきものではないのじゃないでしょうか。

大谷（リーダー） 利己主義でしようね。

萩尾 この間東京から帰りました車中で、若い団地の奥さんでしたが、袋をちやんと持つていました。それはいろいろな、捨てるものを入れる袋です。ほんとうにこの方は立派な方で、散らかさないから入れるのだと思つたのですが、いろいろなお話をしているとうちに、私はとても潔癖です。そこらに物が散らかつていゝとむずむずするんですとおつしやる。その方は自分が潔癖だつたために持つて来たわけですが、人に迷惑をかけないために持つて行くべきだと思ひます。

大谷（リーダー） 私は個人的良心と社会的良心という言葉を使いますが、ある意味じゃあこれはご都合のよいもので、個人的良心と言われるものも、ほんとうには社会的良心ではないかというふうに理解しているのですがどうでしょうか。

いうものは一体どういう意義があるか、もう不必要だと言つてしまふないう意義が、私、あると思ひます。それはどういふところにあるかという問題を背後に考へておく必要があるのではなからうかと思ひます。つまり一切の社会的仕組が悪いのだ。政治が悪いのだと言ひきつてしまふもののが現実にあるわけですね。限界内でもやはりその意味があるのではないか。その意味はどこにあるかということをご考へておく必要がある。

岩尾 社会が完全でないためにそういう欠陥が出てくる。そういう欠陥に対して心がうずき黙つて見ていられたらなかつた時奉仕に行き、何かの行為によつて助けようと立ち上がりまされ。その場合心がうずくのは人間性のすなおな発露ではないかと思ひます。それをすなおに押し出していくのが人間としての正しい考え方である。それを政治の機構の中でさせて、自分達の情緒的な面を閉鎖させてしまふのは精神生活がいびつにすると思ひますから、やっぱり大切なことだと思ひます。

野田 自分のまわりを見ますと、いろいろ困つたこと、気の毒なことがわかつてくる。そうしてやはり困つた人だつて人間だと思ひます。自分が可愛いかつたら、人が困つていゝ時助けるのが当り前の話です。具体的問題にありますが、集団就職した娘さんたちがほろり出されて困つていゝ。工場ではその人に対して手がのべられない。私は個人的にするが、私という人間のもつていゝ力なんて小さいものです。何百人もいる中のほんの三人か四人を呼んで家庭的な雰囲気になつてもらうだけです。すると、どうかしてそういうことを政治全体で解決してほしいという要求を呼

び声だけじゃなく、心の中から実感として政治家にもつていけるの、ある程度政治家も聞いて下さる。とても私らの手ではおえませんが、政治でやつて下さいということをくり返すと、政治の力でとり上げてもらえると思う。だから初歩の段階として、個人的にでもそういうことをしていくことが必現だと思ふ。

山田 日本という国はすぐ美談にする。たとえば義経人が施設の子ども達に、クリスマスのお礼のものをもつて行くと、新聞は子ども達の喜んだ顔を写す。施設の人たちは大へんありがたいことでございまして言つたことを書くわけです。それは社会的な高揚として一つの手段かもしれないが、日本人の低俗な感情に訴える手段だと思ふ。もちろんそれを批難するわけではありませんが、たとえば日本に共同募金という形がある。まあいつた問題も一つの足がかりとして考えていいのではないかと思ふ。共同募金なども社会福祉協議会でその是非についてアンケートを出したところ、七、八十パーセント賛成だという回答が来るわけです。共同募金を総花的に、あそこにもよつと、ここにもよつとという形で施設にいくばるのではなくて、共同募金という一つの形をもう少し考えていいわけですし、結局お金というものによつてあらわす行為ですから、何かもつと違つた形で発展させていきたいように思つています。

大谷(リーダー) 美談という言葉があり、美談抜かいにされるのは、逆だいうと社会的良心のさばくであり、政治の貧困の象徴ですね。だから美談がオアシスみたいになる。

松本 日本人、というところが、外国ではポラントイア、サーピス精神というものが普及されているんですね。これは

いけないという結論でございますし、又党派か人かということとは結論までいかなかつたように思います。私は現在の与党や野党をいつまでもそのままにしておくといふことでなく、各政党の政策を国民一人一人がよく判断し、こうしてほしいという痛切な問題についてほんとに關心をもつことだと思ひます。政党というよりも人物を国民一人一人の盛りあがつた力によつて政治におくることが一番大切ではないかと思ひます。

大谷（リーター）　ここへ来たら又個人のところへかえつてしまつたようですね。つまりもととは個人の責任の問題ですが、社会的良心ということから考えてみると、個人的良心と矛盾するものじゃないということを申しましたが、何かそれだけじゃ結論が弱すぎるのじゃないか。

野田 個人的な努力で全ての問題が解決されるというのは、たつた何
も政治なんていらないと思ひます。みんなの共通問題を一番い
い方法で解決するために政治というものがあるのだと思ひます。
人間の進歩からみてそうなので、現実の政治というのは一部の利
権にあやつられた政治があるということがみんなのしあわせを阻
害していると思ひます。それを先ず直すにはどうしたらいいかとい
うと、市民である私達は政治をきびしく批判しなければなりません。
間違つた批判をするといけないから調べてみるなければいけない。
それには政治の勉強をする必要があるし、そのための方法もある。
本もあるし、グループ活動も出来るが一人よりはグループで勉強
し、それによつて正しい政治のまなこが開けてくるのではないか
と思ひます。

批判するとともに、積極的な政党に対する要求ですね。そう

何かが身近に政治を感じている。自分のおる周囲が静かであるためにそう思う。ここで皆さんがあるすればいい、こうすればいいと理想論を、私も言うのですが………。私自信を失ないそうを、とても変な気持ちがあるので。

大谷(リーダー) ここで申し上げておきたいことは、何か皆さんの頭の中に潜在的に、婦人代表を出さなければならぬという気持ちがあるように受けとれる。だから婦人団体選挙運動の問題とか、あるいはこういう問題は婦人の代表が出なければ主張してくれないからだめだというお話が出たが、政治の問題を男女性別の問題として考えなければならぬところに問題があるのじゃないか。政治というものはもつと厳肅なもので、人間である以上は男であるうと女であるうと同じ問題をもっている、それに訴えかける代表が女性でなければ問題が出せないという、その狭さですね。これをのりこえていかなければいけないのではなか。ですからこまめくると、男女関係が離れて、政治の問題を考えていくことが大切じゃないかということを考えさせられるわけです。

最後に、私こう思うんです。社会悪に対決しようとする自然に壁にぶつかる。だからこれは一種の打開の形をとらなければならぬと思ふ。打開という言葉は非常にきこえない言葉ですが、要するに、よくするための努力をみんなやらなければならぬというこゝろをなつてくると思ふ。その場合に、どういうふうなみんなが具体的に、グループ化するならグループ化するか、現実の問題として考えておかなければならぬと思ふ。つまり理想だけわかつてもうどうにもならないので、野田さんがいろいろを形で自分の経験を通してお話をなつたが、この問題を最後に考えてみた

人の方たちが、私たちだけで聞くのは惜しいからと友だち連れて来て一べんに三倍になつてしまつた。人数が多いと一カ所に集まりにくいので、とつちで五人、あつちで六人と集まるわけです。大きな問題になる時にそれが一しよになるという形になりかけているのです。

館野 私ここに出てまいりました時に、私のつばやきのようなものが取り上げられたという喜びで感激でいつぱいだつたのですが、私に類した、行動がいくらか芽生えていると思ふのですが、こんな方法では、一億近くの人口の中で、ほんの日本の片隅を切りくずしてもどうしようもない力だと思ふ。何とかして働きかけたり出来れば一度に広がつたらと思ふ。幸いに出かけて、少年監視法とか、交通法規などいろいろを聞かされて、そういうものの裏づけがたぐさん出来れば、私のこういう仕事も大へんやりやすくなると思ひまして、力強く思つてゐる次第です。

大谷(リーダー) やはり仲間作りが非常に大切だと思ひますが、仲間と既成の団体の問題もある。たとへばいろいろの婦人会組織がありますけれども、やはり基本は仲間作りだと思ふ。既成の組織を、与えられた組織として考えて動かせるかどうか、そういうところにも問題があるのじゃないか。ほんとうの力を発揮するためには、仲間が共通の社会的良心で結ばれていなければ効果がないわけですから大へんこれはむずかしい問題と思ふ。

萩尾 仲間の中でも、そこに強力におし進めていく勇気と力をもたなければ絶対に動かないと思ふ。一生懸命勉強して理論を通して人を説得するだけの力をもつて勇敢にすすめていく他に方法はないと思ひます。

と思ひます。グループで勉強していくのだという結論になつていくかもしれません……。その結論は間違ひじゃないけれども、一体グループをどういうふうにして作つていくかという問題ですね。卒直に申しますと、皆さんお話を聞いて所感文をお書きになつてゐるはずですが、中尾さんはグループがなくて一人で書いたとおつしやつたが、大部分の方はグループでお話をしながらお書きになるのが建前でありまして、しかし人数が少ないんでですね。それなりに成果をおあげになつてゐるという事は疑ひませんが、もつとつき上げていくにはどうしたらいいかという問題を最後に皆さん方で少し話をしていただきたいと思ひます。

野田 私たちがグループを作つたきつかけは、友だちがほしかつた。いろいろなことを考えたり、開いたりして、自分のこの考えは果たして正しいのか、間違つてゐるのか、自己満足じゃ仕方ないと思つた。他の人はどういうふうにお考えになるのか知りたくて、友だちがほしかつた。ところが近所の奥さん方は内職でそんな話をしてゐる時間がない。私はある本を読んでいるので、その読者を本屋さんに調べました。そうしたらごく近所にその奥さんがいらした。そこへ私が行つたが、初めての人の仲間を作りませんかと云うのは言ひ出しにくくて、雪の降る中三日通つて、三日目に思ひきつて実はこんなわけですが、読者グループ作りませんかと言つたら、あなたいいこと言つて下さつた。私も友だちがなくて淋しうて淋しうて仕方がなかつた……。読者はちやうど七人あつたので、たずねたら七人が賛成だつた。一つの本を読んでいたもので、ある程度精神的な共通面があつたから固まつた。第九回の婦人会に出席させていただいて、報告会をしたらその七

松本 グループが出来た場合、リーダーになる人の人間性といひますか、人格といひますか、そういうものがあるのすごく大切になるわけです。そういうものが余ほどなければそのグループの発展性はない。リーダーにそういう人がないからなかなかに発展しないという問題が出てくると思ひます。

大谷(リーダー) まだあると思ひますが、時間がまいりましたので。

(休憩)

大谷(リーダー) 会までいろいろお話し合ひしていただいたわけですが、問題は無限に残されていると思ひます。傍聴していらつしやる方特別オプザーバーの方も参加していただいて、しばらくの間、問題をお話し合ひたいと思ひます。

それじゃあ簡単に、この会に出て、帰つてから一体自分はどうしようかというのを、一言ずつ出していただいたらと思ひます。権沢 私は保育所を作ります。そうして呼びかけて保育ママをのばしていきます。

館野 私は今のグループをもう少し強力なものに広げようかと思ひます。

山田 今、やつております母性保護の仕事をいろいろこの度学んだことを生かしてやつていこうと思ひます。それから友人ともつてゐる社会保険の勉強会みたいなものもつと現実にそくしてやつてみたいと思つております。

小島 今のところグループをもつておりませんが、よりよい友だち

を得てグループ作りもしてみたいと思いますが、さしあたりまして、相談所で扱っているいろいろな問題について、この会議の、家族会議のお話し合いのようなことを、これからの仕事に生かしていって、更に自分の仕事を降り下げていこうと念願しております。

高瀬 自身、社会的良心をいつの場合でもいかされる個人を、先ず作り上げたいと思います。それから更にグループ活動をすすめていきたいと思っております。

野田 私は今のグループが、まだごく限られておりますので、帰ってからグループのかたちと協力して、はたやさんで働らいている人たち、商店会の人々がグループに参加されるより、そのところを少しずつ広げていきたいと思っております。

宮島 皆さんと討議したお話を自分自身で納得し、消化するのに時間をかけ、グループに話して、これからどうするかということグループの人たちから意見を引き出して、それからさきのことを考えます。

楠木 私は非行少年防止、青少年不良化の問題をより以上に皆さんに呼びかけて続けていきたいと思っております。とともに、婦人会の皆さんに政治教育をやりたいと思っております。

岩尾 今やかりかけている絵葉書は、序の口でございますから、当然全力を集中して、この問題にあたりたいと思っております。少しでも余分があれば、ほんとうに政治の勉強をしたいと思っております。

町の人から、もう少し社会的良心を育てあげるところまで自分良心を高めていきたいと思っております。

萩尾 つくづく勉強の足りなさを感じたので、もつと深刻な政治眼をもつたい。とにかくあらゆる方面の勉強をバリバリやつて自信をもつて人の前で話せる人間になる。更に地域の因習を打破するための社会的良心をそれをもつと深めていきたいと思っております。

松本 私はちやうど今、働らく婦人のために託児所作りをやっております。いろいろな壁にぶつかって悩んでいる時にこの会議に出て、解決方法をたくさん学びましたので、帰って早速実行にうつして、皆さんに、実現したというお便りをしたいと思っております。また埋もれた社会的良心というものを少しずつでも探して、そういう連帯性を組織化にもつていきたいと思っております。

大谷（リーダー） 特別オブザーバーの方に御意見をいただきましたのですが、田中さん最初に……。

田中（特オプ） 私の経験ですが、母が婦人会長をしていまして、非常に熱心に役員をしていたのですが、その時私は中学、高校の子どもでしたが、ものすごく抵抗を感じたのです。我妻先生のお話の、私生活を尊重するようにということですが、ほんとうに母としては一生懸命仕事をしている。そうしてそれを親身にやつていくということが、当時、わからないことはなかったのですが、非常に抵抗を感じて涙をボロボロこぼしながら学校に行っているという状態であつた。それをいくら話しても話し合えなかつたということがあるのです。それで父がその間に入つて話をしたり、話し合いをしたこともあります。そういう面をおかさん方は

中尾 私は、いわゆるサービス業についているものですから、四月から最低賃金というものが決まり約二三%増額では上りますが、給料を払うために料金を値上げ出来ないといつた、どうすることも出来ない状態です。婦人会から値上げ絶対反対という声がある。結局どこかにしわ寄せがいくけれども、どこでそれを解決したらいいか、小企業ですごく困っているのをどう脱皮していかまよいます。もつともつといろんな勉強をして、何か解決法が与えられたらと思います。

横田 婦人会の世話をしておりますから、自分をほつきりともつ婦人にやるようにみんなと勉強したいと思っております。

山田 私がこの会合に出られるようになったのは、私の所にある、『若葉会』『青葉会』『もみじ会』によつて育てられたためだつたのです。いろいろな会合での悩みとか意見がここで出たと同じように私の所でも出て、そこで私は、悩みをもち、希望をもちてきたわけですが、それが全部解決したとは思われないのですが、刺戟されたことはたしかですので、帰つたら私の属している『若葉会』で一しよにコロナころろけていくように漸次したいと思っております。

岡林 私はぬきさしなら人間関係の中でその苦しみから脱することのみに集中して仲間作りをして来たわけですが、この会議で多くのことを学びまして、われわれのグループの中でももう少し政治勉強もするし、市民としての連帯感をもつてめぐまれぬ仲間の人達にも、離れた土地ではありますが、隣りの人から、

気づかないということ、私は自分の経験から感ずるわけです。そういう面に対してほんとうに反省してもらいたい。もちろんそういうことはないと思いますが、子どもの立場からそういうことを一つ、何か加えてほしい。それを実感として感じてまいりましたので。

新沼（特オプ） 何らかの形で皆さんは組織とか、サークルとか、グループとか、に属していらつしやると思つて。それ自身社会的良心を育てる場だと思つて。したがつて社会的良心を育てなければならぬと思つて、一歩退ればそういう集団なり、組織なりの役割というものが反対の作用をするところもある。そういうふうな面を感じたことが一つ、もう一つは外に向かつてた時には非常に社会的良心を発揮し、勇気をもつて発言していくけれども、それが一歩家に向かつてた場合、自分のこととなると、行動として実現しにくいという矛盾、これは私も含めて、反省させられる。同時に私たちは農協婦人部の事務所を担当しておりますので、自分自身の家の中の、一人一人の行動に、どういうふうにして社会的良心をもち続けていかなければならぬかを根づかせていくことを組織活動の課題として考えていきたいと考えたのであります。

石井 私は、今年で四回、オブザーバーとして出たのでございます。そのたびに感じますことは、働く婦人の地域集会とか、母親会とこの会議がずいぶん違うということでございます。

私どもの開きます所では政治という問題に非常に関心が深まりまして、先生が講演なさいますけれども、政治の問題にすぐぶつたつてくるわけでございます。ところがこの会合に出ますと、政治

の問題があまり出てこない。今日もとくに政治に対してというところが出されておりました。その問題について御意見があまり高まりませんでした。又政治への波及もないわけで、この点はちよつと残念だと思えます。しかし、今皆さま方の、これからしよとするお考えの中に政治の勉強を今こそすべきだという御意見が出ましたことは、大へんに嬉しいと思つております。私どもはゴミの問題から、文化の問題から、平和の問題まで、全部政治につながると思ひますので、やはり政治を動かす大きな力に婦人なることが参政権を得ました私どもの責任と思ひますので、そういう点に勉強がなされることは必要と思ひます。

もう一つ、社会保障の勉強をしたいということは、大へんいい御意見だと思ひます。それは、私ども老人ホームなどに入るのが速成しがちなものがありますし、国からすでに与えられているいろいろな施設を私どもが利用する、使うのが当然であるのに、それをばねめるような気持ちもありますし、国の社会保障の内容そのものを知らないということもあるわけです。ですから、日本の社会制度がどんなところまでのびているのか、それが足りないのかという勉強と、もう一つは先ほど出ました、ゆりかごから墓場までといわれるイギリスの社会保障も一つ是非勉強していただきたいし、アメリカの社会保障も勉強していただきたい。それと一しよに社会主義国の社会保障、中国の社会保障も是非とも勉強していただきたいと思ひます。

大谷（リーダー） 大へんむづかしい、社会的良心という問題についてお話し合いをしたわけですが、お話し合いの中で時々問題のポイントをそれることがありましたけれども、とにかく皆さん方が実際に当面せられる問題がいろいろな角度から出されて、なぜそうなっているか、又どうしなければならぬかということ、卒直な意見を出していたことは大へんありがたいことです。いろいろな話し合いがあつたわけですが、私、社会的良心というものは一体どういふものかということを考えまして、皆さんのお話しを伺いながら自分の考えていることが一体正しいかどうかということを感じながら何つておつたわけですが、私の考えていた社会的良心の考え方は必ずしも間違つていなかつたという確信を得たわけでありました。それはどういふことかといふと、人間性を阻害するあらゆる現実の問題に対して怒りの心と申しますが、じつとしておれない気持ちをもちつてそれと対決し勝ちとらうという姿勢と申しますか、心の姿勢、これが社会的良心ではないかと思ひます。つまり激しい言葉で申しますと人間らしい社会を勝ちとるために戦ひ心闘争する心、これが社会的良心に他ならぬと思ひます。皆さん方は所感文にお書きになつたような、あゝいつた活動を最初から社会的良心を生かすための行動を意識してやられたのでなくて、やみがたい気持ちでおやりになつた。それが労働省の今度の婦人会議のテーマとして募集された場合に、その募集の方向をみて、自分たちのやつた活動が、社会的良心をいかす道であつた。自分なりにそれをいかせようとした努力は考えみると社会的良心をいかせようとしたことだらうということを確認されたことになると思ひます。ですから、あらゆる社会の隅々

萩尾 石井あや子先生、母親大会と、女教師と母親の会をもつていらつしやうするのですか。

石井（特オプ） 私だけでもつてゐるのではございません。労働組合の方々や、私どものような団体、いろいろな団体が一しよになつて、母親大会というのを地域にも中央にもつておりますし、又労働組合の方々が主になつてやつていらつしやる、働らく婦人の中央集会、も、私どもが参加しながら、職場で働いていらつしやる方々がどういふ悩みをもつてゐるかということを経営の婦人も学習いたしましたために、共にもつております。

母と女教師の会というのには、先生方とPTAのおかあさん方と一しよにやつていらつしやるので、その中に私どもの支部の者もはいつておりますが、私どもが主になつてやつてゐるのではございません。

事務局 最後に大谷先生から、二日間にわたりました私どもの部会のとまりまとめをしていただきます。

で、小さな社会的良心の灯がともつてゐるということを、ある意味では裏がきしてゐるだらうと思ひます。皆さんはそういう方々の代表としてここに出てこられた。ただこういう機会がないために集結された形で出ていないだけで、かくれた所で社会的良心をいかそうとして努力されてゐる方が非常にたくさんいらつしやる。そういうふうに私は感ずるのでございます。問題をほり下げてみますと、非常に複雑多岐であつて、あらわし方は違ひますけれども、それこそ家庭の中での人間関係それから地域の中での人間関係、それから国全体と申しますか、もつと広い社会全体としての人間関係の中にもあらわれてゐるいろいろな人間阻害的な関係は一体何にもとつかないことをつきつめてみますと結論が出ないにしても、問題点だけは出たと思ひます。それは最終的には、個人がどんなに社会的良心をいかしていこうとしても、いつでも壁にぶつかりぶつかりして進んでいかざるを得ないということ。そしてその壁が終局的におしつめていくと、政治の在り方という問題に帰結していくわけです。その政治の在り方というのを合言葉のような形でつかんではいけない。自分達の現実の生活の中で政治がどのような阻害条件をなしているかという問題としてつかんでいかなければいけないのではないかと存じます。それと同時に、人間そのものの考え方というのは、歴史の発展段階と申しますが、社会の発展段階によつて決められるといひますが、又、それに対応しながら形づけられてゐるわけで、原理的にいうとそういうことでありますが、逆に申しますと、社会を動かすものは政治と申しますけれども、結局人間なのです。人間が社会を作るわけであつて個々の人間が政治に対して、あるいは社会の在り方に対して主導的に動いてゐない限り、社会悪はなくなりません。そういう点からいへば、大へん大きな表現のようではありますが、皆さん方が今ま

でおやりになつた、社会的良心をいかそうとしてなされた努力というものは歴史をつくる一つの行為であつたのではないか。歴史というのは過去の事実だけではなくて、現実の中であるわけでございます。つまり皆さん方がここで話合いをなさっている、そのことが実は歴史を作る一つの行為であるといつてよらしいと思ひます。つまり過去の社会的な流れ、歴史的な流れはいわば歴史の軌跡である、軌跡というのは通つた足跡あとであつて、歴史というのは現実の生活に生きているわけですから歴史は人間が造つていかなければなりません。人間が主導的に造つていかなければなりません。その歴史を造る場合に、立派な歴史を造る社会的良心に導かれて造ることが大事であります。そのためには、千万といふとも我ゆかんという、いわゆる姿勢を確立することがなんといつても一番大切と思ひます。しかし主体制の確立は、個人では出来ないで、やつぱり仲間と手を組みながら確立してゆく以外ないのではないかと考えます。そういうまなこをもつてみた場合に、反人間的なものが一体なんであるかということをもつと深くどうさつする目が出来てくるのではないかと考えます。そういう姿勢なしには目の前のいるる動き、人間関係に、やはり流れられていつてしまふ。で、社会的良心をいかすためにはそういう意味からいふと、やはり一つのエネルギーをもたなければならぬのであります。そのエネルギーをいかすためには、やはり一人ではだめです。どうしても同じいき方をしようとする同志的結合が大切になつてくる。そのためには困難であつても、説得によつて、話し合いによつて仲間作りをするということがなんといつても大切だと思います。それから最後につけ加えておきたいこ

とは、社会的奉仕とか、あるいは慈善行為とかいつた、いわゆるあわれみの心にとつた行為には限界があることは非常にはつきりしているが、それにもかかわらず、これには意義がある。つまりそういう行為が累積されることによつてエネルギーを蓄積して政治を動かす力になり得るということも私も見落してはならない。いわばそういうものがあちらこちらに出ることによつて連鎖反応的に、社会的良心をいかす活動が生きてくるのではないか、私はそのテーマの最後の所に、社会的良心の連鎖反応を、という呼びかけを書いているのはそういうわけでありませう。つまりどんな小さいことでも、こんなことはというのであきらめないうで積極的に立ち向かうということが大切ではないかと思ひます。その積み重ねの上に社会的良心というものは育つていくのではなからうかと考えるのであります。いわば一つの星が天上に輝いている。これは一つ一つ皆さん方がおやりになつた社会的良心をいかそうとする星だと思ひますが、この星が炎となつて燃えるようなエネルギーを皆さん方の中でつちかつていたゞきたい。そして皆さん方が一つ一つの星を炎として燃え上がらせなければならぬという社会的良心をもつていらつしやる限りいつの日にか、燎原の火のように燃え上がると考え、それを期待したいと思ひます。私は悪しき協同体ということを申しました。つまりわかつておりながらもどうにもならないような自分たちの作つた人間関係の中で不幸を招くようなスクラムの組み方をしている。これはあらゆる所にあります。これはおしつぷされねばならないということでもあります。もう一つつけ加えたいことは、中尾さんがお金の値うちといふことを出していらつしやつた。つまりわれわれが人間的

な生活をしようとする場合、お金というものが人間性を阻害しているといふことをあらためて検討してみることがあるのじやないか、考へてみれば現在資本主義社会でありますからすべてお金がありさえすれば幸せになれるといふふうに錯覚されますし、事実お金がなかつたら不幸になります。お金に支配されることによつてほんとうの人間の生活を確立するために何が重要かということをお忘れられている面があると思ひます。つまり現実の経済の仕組みといふものはすべて物質的なお金の問題としてあらわれているわけですから、人間がお金によつて支配されているといつてよらしいと思ひます。これを、お金といふものはわれわれが幸せな生活を築くための道具である。人間がこの物質生活を支配するにはどうすればよしいか、という問題として見直してみることが大切だと思ひます。もちろんこういうふうに考へてみると、あらゆることに矛盾がはびこります。しかし矛盾であるからといつてすべてのもをきらめるべきではない。現実には非常に矛盾に満ちている。矛盾こそが現実で矛盾のない現実はありません。その矛盾を解決するためには、一体どうすればよしいかといふところに問題がひそんでいられると思ひます。矛盾の前にたじろいでしまつたら歴史の進展はありえない。より人間らしい社会の形成といふのはありえない。われわれは矛盾にとりまかれていますけれども、それが何にもとずか、皆さんも社会的良心の灯をともしようといふ形でいろいろの側面における矛盾をおつかみになつていられると思ひます。それを、ある矛盾の間に、矛盾に支配されながら考へるのではなくて、その矛盾を克服してゆくためにはどうすればよしいかと

の方法は、ある意味では、私はあの手の小手先のことで解決がつかないと思ひます。人間社会の歴史といふものを一定の方向に流れてゆくべき必然性をもつていられるべきであります。歴史の歯車は一定の方向にころがっていく。その歯車を一歩でも推進させる形で矛盾を解決していくことが大事だと思ひます。このことが社会的良心をいかす行為に他ならぬと考へるわけですから、つまりより人間らしい生活を確立する。人間性を阻害するものと戦つていくという行為こそがほんとうの意味での歴史の歯車を一歩でも前進させる行為である。そのためにはほんとうに勉強することが、私は大切だと思ひます。たゞし、これは本を読むだけでなく、本の勉強も必要であります。これは現実の生活にたいする形で、それに即した形で勉強が大切だと思ひます。それはある意味では、科学的なものの見方と一致するわけですから、人間の歴史といふのをふり返つてみますと、私は現在において非常に社会的矛盾がたふさんあるにもかかわらず、人間はそういうた人間性を阻害するものと戦いつつ今日まで来た、その足跡が人間の歴史だと、私は考へる。で、阻害要件をいくつかの類型にわけますと、先ず第一に人間という存在は、その生活環境では、自然によつて制約されております。たとえば北陸の今年の大雪などは、ここまで文化が発展しているのに、人間はこの前に現在のところ無力であります。地震に対しても無力であります。しかしとにかくこれまで人間が自然というものを克服して、自然の間にそびえております自然を、ある程度まで確保しながらいけるところまで来ていられるのは事実であります。そして又、社会的な制約といふものも

いつたわけでありませう。奴隷制の社会ではいりまでもなく一部の民族を除けば、奴隷といわれる者は半馬と同じような境涯にあつたわけであらう。それが封建制の社会になりました。一応奴隷制の社会にくらべて高い段階に達することになった。つまり一応人間として認められるということになりました。そうして現代社会になりましたと、一応法律的にはすべての人々は法の前に平等だといふところまで高まることになりました。それからもう一つは、経済的な制約であります。外的な人間性の損害であります。これはしかし、いろいろの階層がありますけれども、今の段階においてみますと、原始社会に生きていた人々が、とにかく自分の種族を養つていくためには、ほとんど全日をみんな働かなければならなかつた。それが現在では肉体労働、つまり生産をする人々は、社会の中の一部分であつて、しかも八時間労働制で、世界の人間が一応ある程度の生活が出来ることになった。それによつてわれわれはこれだけの文化を凝縮することが出来た。つまり生産力が高まつていくわけでありませう。それだけ人間は経済的な制約から解放されたと言へると思ひます。ただ貧しい人と、豊かな人があるといふ点に、非常に問題がある。その問題について皆さん方は社会的良心をゆり動かしております。そうして又もう一つの面がある。人間のうちなるものと申しますか、ものの考え方、やはり人間性を阻害させるものがあることも否定出来ないと思ひます。人間のものの考え方というのはその社会における現実によつて形づけられる。人間というのは、現実の、地球の上から遊離したところでものを考えるのではなくて、現実の動きの中で考えますから、社会的な矛盾がある以上は、自分たちのものの考え方の中にも矛盾がある。

第三部会

会議員

岩手	関	キヌ(無職)
宮城	蘇武	千賀(無職)
山形	大久保	貞子(無職)
福島	菅野	テフ(無職)
埼玉	志満津	悦子(ピアノ教師)
新潟	本間	静江(無職)
富山	安倍	のぶ(保険集金員)
福井	江守	しのぶ(電話交換手)
長野	若山	芳子(農家)
京都	田中	ふき子(農家)
奈良	鈴木	基子(無職)
和歌山	佐藤	文子(無職)
高知	立石	深子(無職)
佐賀	前田	カシ子(商売)
鹿児島	本重	瑞子(無職)

リーダー

小松 茂夫(学習院大学教授)

特別オブザーバー

西村 ツヤ子(全日本労働組合会議青婦対策委員)
春野 鶴子(主婦連合会)
町田 初子(日本キリスト教女子青年会)

盾がある。この自分の中にある矛盾との戦いなしにはある意味では外の社会的な矛盾というものと戦うことが出来ないのではないか。やはり自分自身の中にある矛盾というものが一体なんであるかというのを適確につかむことが一番大切ではないか。これが歴史を動かす力になつていくことを考えるわけでありませう。

(閉会)

第一日 四月一日 一・三〇/三・〇五

小松(リーダー) 僕はリードしないで、なるべく進言するんですね。では十分問題と問題提起ということでお話してみたいと思ひます。どのような行為が社会的な良心のあらわれとみなされていくか、これは皆様の所感文で考えてみたいと思ひます。たとえば子供の教育者としては、どうする場合のどういう行為がそれに該当するか、それは関さんや蘇武さんの所感文は、ほかの子供さんに対して、自分の子供と同様の扱いをする、同様の心くばりをする、そういうことの中に、社会的良心のあらわれとみられるような行為があるんじゃないかという御意見のように思ひます。それからまた鈴木さんの場合は、子供の人格形成に対して、母親として責任をとることは当然でありますけれども、その責任の重さを深く自覚して、そういう自覚に基づいて、子供に対していろいろ配慮するのが、社会的良心の行為じゃないか、こういう御意見のように思ひます。それから佐藤さんの場合ですと、不幸な子供を自分の子としてその母となる。これはなかなかむずかしいことだけれども、そういう行為をするところ、そのあらわれがみられるというふうにお考えになつていくんじゃないかと思ひます。それから、家庭の管理者としての場合は、大久保さんの御意見が当たると思ひます。が、現代の家庭生活に、非人間的な面がかなりみられるといつた場合、それを克服していく家庭生活のあり方を、より人間らしいものに近づけていくという行為、それがこれに該当するんじゃないかという御意見のように思ひます。それから近隣職場その他社会における倫理としては、菅野さんは地域社会の

再建の中にそういう現われをお考えになつてゐるようです。江守さんは、ともすれば情性的になりやすい職場生活から脱却していくことがそれに当たると、お考えになつてゐるように思ふのです。若山さんの場合、新しい社会連帯を形成していく、それが該当すると考えられてゐると思われまゝです。世論の形成者としての場合は、本間さんが自然食運動の問題、田中さんが積極的に政治的な公的な形成に参加する、立石さんが政治の貧困を克服していく、そういう行動の中に、社会的良心のあらわれをみられてゐるように、僕は思うのです。そのほかの方は、たとえば志満津さんは、良心の及ぶ範囲、力というものは、現代社会においては限られてゐる良心万能とはいえないんじゃないかといふような御意見のようによいと思いました。それから安倍さんの場合は、社会的な行為に積極的に踏み切つていく、その中で良心は体験し、開けるんじゃないか、そういう意味では、問題にたがふけれども、良心はもともと備わつてゐるものであるにしても、後天的に形成されるものであるにしても、その行為の中に出てくるんだ、育つてくるんだ、こういうような御意見とうかゞつたのです。前田さんは、ともすれば社会に責任を押しつけてしまつて、自分のなすべきものを忘れてしまふ。社会への安易な責任転嫁は許されない、そういう前提から個人の良心、社会的な良心を考えていこう。これは社会から個人に戻つていくところに、社会的な良心というものが出てくる。いわば出口みたいなものがあるんじゃないかというような御意見のように、受けとるのです。それから本重さんの場合は、良心の構造の分析で、良心は二つの側面がある、社会的と個人的との、それをつなぐものが常識、その三位一体の中で、良心は

いろいろ円満な働きをするんじゃないかというような御意見であつたようですが、このように、良心についての皆さんの大體のお考えに共通な特徴を二点だけ取り出してみますと、一つは、われわれ現に社会生活を行ない、社会の中に生きてゐるわけですから、一定の生き方がある。それに疑問を投げかける。簡単にいうと、社会と自家との間に、社会の側に投げかけた疑問が自家に返つてくる、疑問の往復運動の中で、社会的良心の問題が形成され、あるいは芽ばえてくるんじゃないか、と思へる。それから二番目としては、その自分の中に芽ばえてきた疑問が、大きな疑問に成長していく場合と、それから途中で枯れてしまふ場合と、あるわけですが、それでも社会的な行為が媒介になつてゐるんじゃないか、それからまた、疑問を解くためには、やつぱり行為が必要で、それがなければ解けない。疑問の成熟という意味、疑問の解決という意味では、一定の社会的行為というものがある、非常に大きな意味を持つてゐる。それが第二の特徴として考えられるように思ふ。そのように、社会的良心の問題とはどういふところで起こつてくるか、それがわれわれにとつて抜き差しならない問題になつていくには、どういふようなことをみるか、このように皆さんの所感文を通して、一応考えてみたのであります。

そこでそういう社会的良心とは何かが、次に問題になつてくると思ふのです。こゝに先天説と後天説という二つの説をあげておいたのですが、良心というものは、人間に生まれながらに備わつてゐる、これは先天説であります。それに対して、良心は、人間が社会生活を営む中で出てくるんであつて、社会生活に先

立つてあるものじゃない。あるいは親とか兄弟とか、学校の先生とかによつて、絶えず仕込まれ、その中で形成されてくるものだ、これが後天説です。これが倫理学の世界では、両方相譲らず昔から議論してゐるわけでありまゝです。先天説、後天説、どちらにもそれなりの論拠がありまして、学問的に考えていくと、非常に厄介なものです。しかし、社会的な良心とは何かということを考えないで、われわれ社会的な良心に基づく行為をすることはできない。しかし、学問的には非常に対立した意見が出てゐるが根本の問題は、われわれが良心の立場に立つてしようとするときに、非常に孤独感をおそわれる。ほかの人の意見とひどく違ふ、それでも自分では正しいと信じてそれに基づいて行為をしていく場合、良心の立場が問題になることが、しばしば起こつてくる。そういう意味で、良心の立場というものは、人がどう考えてゐるかを気にしてゐる成り立たない。孤独に耐えるという面がなきやいけないんです。それからもう一つ、人はどう思ふかと、自分だけはこの道を進むんだというのは、非常に立派ですけれども、他方では独善的になつていく、独善性の危険を避けなければいけないわけなんです。そういう二つのことが要求されると思う。良心の立場に立つとする限りにおいては、われわれに要求される条件のほうから、良心の問題を考えていくというふうにしたらどうだろうかと思ふ。

三番目に、社会的良心と社会的知性とはどのように開けあうかというテーマですが、社会的良心というものは、必ず行為の場において現われる、行為のない良心というのはナンセンスに近い。われわれが一定の行為をする場合、社会において行なう。そういう意味で行為は、働きかける人と働きかけるもの、働き

かける場所があつて成り立つ。簡単に言つたら、だれか何かに對して、だれかに對して、これこれのときに、これこれの場所あるいはこれこれの時点などを通じて働きかける。そこに行為というものが成り立つわけなんです。従つて、社会的良心に基づく行為をしようとする場合には、ただ自分の純な気持ちでやればそれで事が済むというものではない、必ずその行為というものは他者に対して影響を及ぼす。それからまた、行為は他者に対して一定の働きかけ、あるいは働きかけに基づく効果をねらつてゐるわけなんです。そういう意味で、相手は今何が問題になつてゐるか、その問題をどういふふうに対処すれば、最も効果的に処理できるかという、いわば客体や場についての認識が必要ですが、何がよいか、悪いかという判断だけでなく、どうすればどうなるかという判断、これが同時に伴つていかなければ、社会的良心に基づく行為というものはできない。その意味で、社会的良心は、同時に社会についての知性と結びついていなければならない。すなわち、社会的良心と社会的知性は不可分の関係になる。社会を知らない、人間の性質を知らない、男の心を知らず、女の心を知らず、家庭の性質を知らないで、もつと大きくいえば、政治の仕組みも知らないで、社会的な良心に基づく行為をしようと思つても不可能だ。こういうふうには考えられる。

今日の討議のテーマとしては、以上三つのことを申し上げてみたいと思ひます。まず最初第一のテーマから討論をするというふうにしたらいかがでしょうか。

本重、たとえば小さい子供たちが遊んでゐる中で、一人だけ仲間からのけ者にされて、教室に入らず門の蔭に並んでゐる。それ

を見ておとなたちは知らない顔をしていた。そうした場合に、その子供が悪いんじゃないかと、父親がたまにはじき者として社会からひんじやうくされている。おとなたちはその子供に責をかける、これは結局体面とか利害関係などがあつて、すなおにそういう行為をさせない。だから、そういうことを一番問題にしないでいいのは家庭の主婦じゃないかという主張をしたわけなんです。ということは、悪い意味ではあんまり家庭にひつ込み過ぎている。いい意味では首をきられる心配もなし、上役関係等の問題もありません。このフリーな立場を利用して、自分の良心で正しいと思うことを、社会的良心に結びつける行為をしたければならないんじゃないか。これから糸口が出来ますでしょうか。小松（リーダー） 人のお子さんに対して、自分の子のようにふるまうということは、従来のものの考え方としては、非常な困難があると思うのですよ。わが家にはわが家の家風があり、よそ様にはよその家風がある。だから一緒に比べられないことになる。極端な言い方をすれば、人の子も自分の子も一様に愛する社会の子だという、そこにくのには、我妻さんがおつしやつた、従来からの家族制度的なものの考え方、それを越えていかないと、実はできないんじゃないかというような気がするんですかね。

蘇武 いま本重さんから出されました子供の問題、小松先生の家族精神ですか、制度ですか、そういうものを打開しなければ、人の子も自分の子というような感じはしない、それは私も身にしみて経験していることですが、開会式で我妻先生からお話もありましたが、ああいうことを少し掘り下げて考えたいかがでしょうか。家族制度の発展的解消といいますが、それをしたけ

いう感じはしないんです。人の子を預つて、もの好きだとおつしやられる方もあるけれども、私はそういう気持ちが起こらない。これはどういうわけだろうと思うのですが、人間は人間同士の心で結ばれていくんだ。という信念のようなものが心の中にあるのです。よその子がいたずらをしていても、やつぱり私の子供のような感じがするので、そういうときには、いけないよと、自然に出るわけです。そういう気持ちをもち続けて、よその子供もおんなじように育てていきたいと思つています。

大久保 皆さん方、人の子も自分の子と同じにと、太へん立派なことをおつしやいましたけれども、私それはむずかしいんじゃないかと思ひます。こうした変わりつつある世の中で、個人の責任では子供を育てきれなくなつていくと思うのです。少なくとも悪いことを注意されましたら、お母さんがそのことを気にかけない程度に、社会的良心を持つていきたいものだと思います。

安倍 指導員をしておりますので、やはり子供のいろいろな相手を受けますが、どういふふうに言つたら相手を傷つけないように受け入れてくれるかと指導員同士が話し合ひしています。

関 子供が中学校になつてから、初めて非行少年を取り上げますけれども、それ以前のことだと考えています。中学生になつてから騒ぎ出したところで、そのときは、すでに親から心が離れていくわけです。ですから私たちは、ごく小さいときから親と子供の心の触れ合いを持つていく。事前の対策が必要じゃないかと思ひますね。それにはやつぱり組織を作るとか、母親を中心とした何かがあつていいんじゃないか、私のほうは現在いろいろやつておりますけれども。

れば、いま本重さんがお話になつたようなことは解決しないんじゃないかと思うのですが。

前田 私のほうでも非行少年、長欠児童が非常に多い地域もありますけれども、その付近の方々にはその家庭に入ることができないんです。そのままだらん顔、悪い者にはさわらないという主義でじつとしていっているんですから、もう少しそれを掘り下げて考えていただきたいと思ひます。

小松（リーダー） よそのお子さんに、僕でもちよつと手を出せませんね。まずいことをしていると、思つても言ひづらい。

前田 私所感文にそういうことを取り上げたので、簡単に話してみますと、人の子も自分の子と同じに思うような気持ちになるのは、一番にお母さん同士の交わり、心の触れ合いが大切じゃないかということを感じているんです。しつかり手をつないでいかなければ、人の子も自分の子という面までいかなんじやないでしようか。

佐藤 保護員をしております関係で、非行少年を扱つております。私の子供も七人育てましたが、いろいろなのがありました。ちよつと脱線しかけた子供もございました。そういつたいろいろの子を扱つてみますと、思ひえない子供とかお母さんがいないとか、そういう子供でいたら、心から愛して、その子は自分の子と同じようになつてくると思ひます。それはいろいろと条件がありますので、自分の子とおんなじにするのはむずかしいと思ひますが、条件によつてはそういうこともできると思ひます。

若山 私は自分の子供が二人いますけれども、保育園の子供を自分の手元にひき寄せてみたときに、ちよつとも人の子と

安倍 私のところは富山市に四、五キロぐらい離れております。母親クラブのようなものを作つて、毎月一回、子供が悪いほうにいかないように、そんな話を中心にしておりますけれども、その会に集まつてこないお母さんのほうに問題があるのに対して、どうしたらあのお母さん方を呼び出せるかということについて、いつも悩んでおります。

田中 私のほうは農村ですので、子供が学校に行く前に両親は野らに出でしてしまいます。子供たちが学校から帰る時刻にも、親は全然おりません。私たちが野らから戻りますと、子供たちは、年寄りたちの作つた御飯を食べかけているような状態で、ほとんど親が子供をみてやるということがないわけです。それで私たちの合言葉として「じつと見つめてにっこり」というのがあるんです。それはいろんな腹の立つこともたくさんございます。帰つてみたら家の中は散らかけほうだいのときもありますけれども、怒る前に子供の目を見て、にっこり笑つてやるということなんです。それだけでなごやかになる。ささいなことですが、そういうことから始まるんじゃないかと思ひます。

菅野 それから、自分の子供が注意されて腹を立てるようなお母さんにならないように、お母さんも余暇を作つて、それを利用して、自分の勉強をすることが大切だと思ひます。

蘇武 今のお話に、心から賛成いたします。私地方婦人会議をして参りましたが、結論として出たというよりも、大きな話題になりましたので、婦人をもつと勉強しなければならぬということでした。人に言われたことを気にかける、人の善意を無にするということも、婦人に教養がない、勉強が足りないということから出てくることも多いんじゃないかと思ひます。勉強

していくことは大事なことです。

関 御意見に賛成なんです。実際に私たちの無自覚から、子供の良心の芽を押えているんじゃないかと思ひます。子供が自分が正しくてもいじめられる。家へ帰ってお母さんに話すと、神様がちゃんと知っているからいいと言つて、正しいほうを押えるわけですけれども、いいことは子供に主張させて、その芽を伸ばさせるといふような方法に持つていくように、私たちが努力しなければならぬんじゃないかと思ひます。昔は、押えてい

マークされているような子供、いつも仲間はずれになっている子供もおりますけれども、その会にはまず先に来て、ふだんのことなんか考えないで楽しく参加します。このように親や先生や子供がみんな一緒になつて、地域の中でよくなるという努力をしている実例があります。

関 鹿児島の方がおつしやいましたけれども、私もよつと心配なのは、子供が親に言つても認めてもらえないために、ものを言わない子供になつた場合は不安だと思ひます。何でも親と話し合えるようになっていかなければいけないと思ひます。

本重 これだけではいけないという問題が、私たちの周囲にはとても多いですね。これをしたらどう思われるか、これはしてはいけませんという形で子供の教育をしていますけれども、じゃあ逆に、これならいいという規則があつても、いいことばかり悪いことはしていけないという規則があつても、いいことばかりではないと思ひます。今おつしやつた問題の芽をつぶさないことと同時に、いいことはこれから先、どんどん私たちが見つけていく無限の可能性みたいなものがあるんじゃないか。否定的な面だけに向いていく目を、逆の方向に向きかえてみたら

という氣もいたします。

本間 子供の問題に私も始終ぶつかっているのでございます。それで地域ぐるみで、しかも学校全体で、地域と学校とそれから社会の連帯で子供をよくしていくという計画を立てまして、地区ごとにしつかりした組織を持つて、子供たちと親と学校と、全部地区ごとに集まつて楽しい会合を毎月持ちます。その中には

小松(リーダー) いろいろ御意見があつたようですが、一つ伺いたいことは、自分の子供とおつしやる、その、自分の、というのはどういう意味なのかということ。自分の持ちものという意味なんですか、園から委託された子供、授かりもので、自分はそれに対して奉仕しなければいけない、たとえば子供の無限の可能性を引き出していく、その芽生えというものを押えないというような、子供に対して一つの畏敬の念、おそれというようなものがあるとか、自分の、というのを、皆さんはどう

ごらんになつてゐるか、伺いたいと思ひます。それからもう一つ、子供をよくするとおつしやるけれども、よいということの基準ですね。もし僕が子供としまして、地域の皆さん方が連合組織を作つてよくしてもらふと場合によつてはつらいと思うのですよ。のびのびと遊べなくなるということもあるんじゃないかと思ひます。この二点を討論をしていつたらどうでしょう。

本間 さつきのお話の場合は、遊ぶところがない地域ですから、親たちが、社会の責任で子供たちに楽しい場所を与えてやるということと、そういう会を毎月計画するようになつたわけですね。

小松(リーダー) 環境を作つて、どう遊ぶかということは規則しない……。

本間 勝手に遊んでいるのです。

蘇武 私どもの地域で考えている子供をよくするというのは、他人に迷惑をかけないということとを本分にしているわけです。

安倍 児童クラブと母親クラブとの連合でやつています。夏休みとか冬休みには子供が野ばなしになるものですから、子供たちを学校の講堂に集めたりして、レクリエーションをやつたり、子供たちが集まる機会を作つて、みんなで楽しく遊ぶようにしています。子供にあしるころしうというのでなくて、実際に何をしたいか聞きまして、それに協力してやつて、子供たちをよくするという意味でなくて、悪いほうにいかないように、みんなを守つていくようにしています。

小松(リーダー) 鈴木さん、あなたの所感文では、お子さんをお持ちになることに、非常に疑問を持たれていたのでしよう。

鈴木 逆戻りしますけれど、社会的良心というものは社会悪に対して反発するものではないと考える。社会悪とは一体なにか、それは社会制度や組織に対するもので、個人の力ではどうにもならないものだと思うのです。組織に対する社会的良心の働きは、やはり組織でもつて解決していかなければならないんじゃないか。それから、ヒューマニズムの問題、基本的人権の尊重の問題、それは子供を育てていく上に植えていきたい。基本的人権の問題で、生後一年四カ月の子供に、もう基本的人権の尊重をそろそろ始めていくつもりなんです。絶対にいけないことは徹底的に叱ります。泣きますし反抗もしますけれども、一度タブーにしたものは決して許さない。そのかわり子供が言おうとすることも、しようとすることも理解していこうと思ひます。とかくおとなは、子供に対して輕率に約束したり、子供が一生懸命に母親、父親に話しかけているのに、フワツと聞き流してしまふ。そういうことのないようにやつていこうじゃないかと、家族や小教のお友達と話合つたりしたんです。子供の上にも自分の上にも、そういうところから社会的良心を育てていきたいんです。

本重 お話を伺つて、私はその半分だという氣がしました。というのは、良心は組織の中でとかおつしやいましたね。生来持つてゐるものと、環境の中からは、両方で作られるならば、半分は情熱は注ぐけれども、あと半分は社会の責任だから、どうにもしようもないという氣持を持つていますけれども。

小松(リーダー) 江守さんはやがてお母さんになれる立場でしよう。

江守 親から育てられているほうの立場として、親というのは子

供を私物扱いにしているんじゃないかと思うのですよ。二十一になつてから定時制に入つたわけですが、それにはすごく反対されました。結婚がどうのこうのと、子供自身を生かそうとするよりも、自分の型にはめようとする人が多いんじゃないかと思うんです。不良化の問題が出ましたけれども、現在不良少年や非行少年が多いということは、自分のしたいことができな、学校を好まないのに、親によつて押しつけられて行く。その反抗心が不良青年とか非行少年の形となつて現われてくるのじゃないかと思うのです。ですから、今のお母さんたちは、子供の個性を伸ばす教育をしてほしいと思うのです。それは生存競争の激しい社会が、教育をそういう形にしているのかもしれないが、なんとか改善を要求します。

小松（リーダー） 志満津さんはどうですか。

志満津 情熱を持つて子供を育てる場合にも、結局その半分だという意見がありました。子供を理想的に育てていても、社会が悪かつたらなんにもならない。そこに今日の社会的良心をいかに意識があるのか、大切な発言だつたと思うのです。私まだ子供が小さいませんが、かわいがり方が間違っているんじゃないかと思うのです。たとえば、子供が悪いことをしても叱るのはかわいそう、かくしてしまふことが子供に対する愛情と思つていてる方がありませんか。それから、子供が道で十円のお金を拾つておまわりさんに届けようとする、親が、十円ばかりいいわというような態度をしてみたりする。皆さんにお伺いしたいのですが、子供の良心を育てることでは、大へんいい意見もあつたのですけれども、学校の成績に対して考えていたんですが、自分の子供の成績が他の子供と一緒によくなるほう

が満足か、それとも、よその子供よりも、自分の子供がよつとでもよくできたほうが、親としてやつぱりうれしいか、正直な気持ちを聞かせていただきたい。（笑聲）

菅野 その問題は、私の地域でも騒がれているんです。おそらく十人が十人、自分の子供さえ成績がよかつたらいいんじゃないか、ほんとうはクラス全体、学校全体のレベルが上げられたいんですけれども、こういう目まぐるしい時代ですから、お母さんたちは、ほかの者を敵おとしても、自分の子供が成績がよければいいというのが本音だと思います。

小松（リーダー） そこへいくと、良心はどこかへいつちやう。

（笑聲）

若山 志満津さんがおつしやつたように、愛情の偏見を非常に感じます。農村にいてしみじみ思うことは、ただかわいがりさえすればいいという前愛です。そういうお母さんが一ぱいいる。これはどうしたらいいかと日ごろ悩んでいるわけですが、結局私たちは自身勉強しなければ、子供をしつけていく力がない。かわいがり方の境、区別がわからないものが非常に多いと思います。

立石 主人の勤めが二年に一べんぐらいかわりますので、地域の方ともあまりお話をしないうちに次の場所にいきますから、他人の子供さんを考えているひまも気持ちもなかつたわけです。学校の先生も家の子には何も言うことがないと言つて下さるし、夫も温厚で、山の奥でしあわせに生活しているものですから、他人の不幸が目につかなかつたんです。ところが今度転動したところで、学校がとつても遠くて工務所の中学生を通わせるのに、通学費用がうんといるわけです。私は大へんと思わなかつた

と（笑聲）申しております。

江守 確かに勉強することはいいことです。だけど、ただ生存競争に打ち勝つただけ勉強するというと、そういう勉強のさせ方には反対です。その本質というものをやはり……。

菅野 私今年末子が高校の試験を受けたんです。ベビー・ブームのときの子供で、だれかが落ちなきや自分の子が入れないので、勉強しろとハツバをかけた。子供には、どの子供にも勉強しなさいと言つたわけですが、うちのほうの場合に、よその子供が病氣をして苦しんでいる、それで自分の子供が上になれるので喜ぶというお母さんがいるから恥づかしいので、勉強しろということとは悪くはない。

志満津 勉強することは悪いことだと思わない。ただ、結果の評価が適正にされているか、問題だと思います。評価の方法はペーパーテストの上に表われた結果です。入試はもちろんペーパーテストの上です。試験さえ受ければという教育、学校に入るのが目的、そのためにカンニングしても、悪い方法でも、またよその子供ができないように、何らかの阻害をしても、成績がよければ上がれるという評価のし方が一般にされている。親がなぜ子供を勉強させて学校に入れるのかと言え、有名大学校を出て、有名会社に入つて、いい収入を得る、それがお前の幸福だというふうに考えている。ペーパーの上で競争しないで、まわり道をしていいから、もつと経験を豊富にして……。

江守 そういう画一的な競争でなく、その人にあつた個性の上で競争するんです。理想主義といわれそうですけど、そういうふうなみんなの手をつないで、自分を伸ばすことにおいて競争できる方法。

たのですが、中には三百円ぐらいの通学費を出すのに、子供がミカンを市場に売りに行つて、まかなつている家庭もあると聞きました。初めて目ざめたわけですが、そういうことを考えているお母さんはたくさんいるけれども、こそこ話を合うだけで、大きなところへ出すだけの力がなかつたわけですが、私は少しひまもあるし、ちようどこの機会に全国の皆さんに考えていただければと思つて出て来ました。社会的良心ということはずかしくてはつきりわからないのですが、皆さんのお話を聞いて帰りました。地域の人たちと話し合うことができる。それだけでもしあわせだと思つていくわけです。

安倍 二年前、三年前でしたか、小児マヒの生ワクチンが輸入される前までは、小児マヒの注射が二千元から三千円ぐらい出していたとやつていたんです。お金のない人はできない。そういうときに、私たち母親が連帯で小児マヒワクチンの署名運動をしました。輸入が発売されたときには、皆さんが集りまして、よかつたね、よかつたねと言つた、その気持ちをいつも思い出します。自分の子供さえよけりやという気持ちでなく、一人でも多く不幸な方におけるというのが、社会的良心じゃないかと思うのですけれども。

田中 志満津さん、菅野さんの話に関連があるんですけれども、子供がよその子供を敵おしても成績が上位になる、それが恥づかしいことでしょうか。子供は勉強するの、親が仕事するのと同じように、課せられた一つの義務というか、仕事だと思ふのです。だから、卑怯なまねをしないで、正当な努力を重ねて勉強にせいしむんだつたら、一番、二番になることは当然だと思ふのです。私は子供に、全精力を傾けて命がけて勉強してくれ

鈴木 奈良地方会議でもそのことが大へん問題になりました、小
学校の間は非常にいい方向に進んでいます。グループ活動で、
できない子供のために、できる子が教えてやったり、みんな
練習をしてやったりしているのに、中学校に行つたら、とたん
に、君たちのまわりにいる者は全部ライバルだと、入学式に校
長先生に宣言されたり、また廊下に成績の比較をはり出したり、
学校教育も思わしくないというようですが、私は子供が
小さいからわからないけれども、学校教育なんか、どうなつて
いるのでしょうか。

佐藤 私どものほうは、高校で成績の悪い者は進学組に入れても
られないのです。成績が悪いと就職組へ入れといわれるもので
すから、自然勉強するようになりましただけでも、だれだれさ
んに負けないように、いい成績をとらなきゃいけないというよ
うな勉強のさせ方はいいじゃない。

大久保 うちの二番目の子供は、いわゆる有名高校に入る力はあ
つたんですけども、その子の好きな洋裁学校のほうに進め
たんです。そうしたら、あの子は力がないんだらう、あの高校へ
どうして入れないんだらうとか、いろいろ世間の批判的な
つて不愉快な経験がございします。そんなことを苦にしない強さ
を、母親は持つていなければならぬと思ひました。能力に
応じた学校を選ぶといつても、そういうことで無理をするんじや
ないかと思ひますので。

小松(リーダー) 学校の問題はまたしかるべきときにお話する
ことにして、子供の教育者としての立場から、社会的良心の問
題を考えると、最初のテーマについてもう少し発言ありま
せんか。

そんな形で、次から次に伝わっていくので、結局がまんして御
飯を炊くということにおちつきます。逆に、はつきりと、お母
さんすみませんが御飯炊いて下さいと言います。お母さんも自
分もおんなじ人間だという優越に立つて言つたときに、このあ
とのほうが新しい良心だと思ひます。結果的にはおんなじで
あつても、どの方法をとつていくか、家庭の管理者として嫁と
姑の問題を一つ一つ考へていくうちに、前向きな良心を養わ
すことへの道が開けていくのじゃないか、と考へておりますけ
れども。

本間 私農家ではございせんけれども、永沼の主婦の作文を読
みました、若いきたてのお嫁さんは、まだ牛や馬よりも劣
っているんじゃないやなからうか、牛は昼間は重労働させられても、
暗くなればワラのしいある小屋に入つて、寝たいときには寝
られるし、飼料も与えられるけれども、嫁は昼間もつらい労働
をして、おふろは最後、寝るのも最後になつて一日が終る。考
えさせられるというのがございしました。

小松(リーダー) 江守さん、そういう状況でどういう行為が社
会的良心に沿うか、たとえば忍従の道がいいのか、打破して
いく行為がいいか。

江守 私若い者として、すべて古い因習を取り除いて、自分たち
で作つていきたいと思ひますけれど。

小松(リーダー) 全部御破算にして……。こういう御意見に対
していかがですか。

若山 江守さんは、結局打破していくことなんです、打
破できないものがあるということです。どうしてかという、
農家の経営内容というものはつきりしつていゝものは当然そ

田中 子供を教育していく上に、社会的良心といひますか、カン
ニングは悪いことで、社会、学校においてはいけないとい
ふようなことを、親が責任をもつて小さいときからしつけてい
かなければならない。幼稚園に上がる前に、善悪の問題はつ
きりとしつけていかなければならないと思うのです。そうすれ
ば子供もいわゆる試験地獄であらうとも、どのようなことにな
ろうとも処していける子供になれると思ひます。よき社会人
になれる子供を作りたいと、常々そう思うのですが、そういうこ
とも社会的良心を育てることにつながつていゝと思ひます。

小松(リーダー) いろいろ伺つたんですが、教育問題は非常に
重要な問題ですから、あとのほうの問題としてとつておきたい
と思ひます。ここで一つ家庭の管理者という皆さん共通の問
題を一つ出しておきたいと思ひます。時間もありませんけれど
も、五分間だけ、共通の問題を出しましょう。大久保さん、い
かがですか。

大久保 私所感文にも書きましたけれども、農家の嫁と姑の事情
ですが、よくなつたといひますけれども、まだまだよくなつて
いない。また正面きつて争わなくても、時代だから仕方がない
と、お母さん方があきらめていたり、話してもだめだからおと
なしくするより方法がないというふうなお嫁さんもあると思ひ
ますので、皆さんのお考えをお聞きしたいと思ひます。

小松(リーダー) 本重さんもお苦勞されてますが、一つそ
このところを。

本重 嫁と姑の問題では、たとえば、嫁さんが、おなか痛いか
ら、お母さん今日は御飯炊いて下さいませんかという、それを
聞いていた人が、あすこのお嫁さんはお母さんに命令したとか、

れができない。そこに農家の悲しさというか、ひどさというも
のがあゝ。というの、一段歩作れば二十何万所得がある。二
十何万という所得は大きいけれども、それから肥料代やいろん
なものを全部引くと残るのは千二百円、二十何万が千二百円に
なるんです。私たちの労働というものは賃金は払われていない。
一日まづくらになるまで働いて、梨の袋をかけた、牛のお乳
をしぼつても、手間は貰えない、実際に農家では出せないわ
けです。出せば生活が成り立たない。そこに社会問題が起きて
くる。これは當農診断してみたときにわかつたんです。今ま
で姑が悪いから、主人が理解がないからと思つていたのですが、
経営上そうならざるを得ない、今の農家の問題はそこにある
んだということですけど、それをどうするか、私たちが解決で
きるかということです。

小松(リーダー) 二番目に農村の嫁の問題ということでもとめ
ておいてもよろしいですか、次の問題に移つていく前に……。

若山 その中で社会問題を取り上げていただきたいのです。
(午後三時五分 休憩)

(午後三時十五分 再開)
小松(リーダー) 三の近隣、職場その他社会における良心とし
ては、社会的良心に関する問題を出してみたいと思ひます。江
守さんが、これに対して所感文をお書きになつていゝので、あ
なたから話していただいせんか。

江守 私が書いたのは、立場を自覚するということなんです。
小松(リーダー) いやあ若山さんにやつていただきましうか。
皆野 所感文では即地の人間関係に触れたんです。ブライバシー

を大切に、団地のお母さんたちが手をつないで仲間づくりから始めて、明かるい地域社会を作っていきたいと思っております。

小松（リーダー） 江守さん、どうですか。

江守 職場のことを書いたんですが、私たちの職場は電話局なんです。合理化の先端を走っているが、新規採用がないんです。ほとんどがお母さんたちで、仕事の面ではベテラン中のベテランぞろいなんです。それで仕事をそんなにやっつけていてもそれが、何と表現したらいいのかな……。

小松（リーダー） 非常に消極的ですか。

江守 消極的というのか、社会に対して、自分のやっつけている仕事はどういう働きをしているかという自覚を持っていない。それから職場活動の点でも、家の仕事と職場の仕事、育児の問題、家事労働の問題が出てくるんです。自分の時間を見いだすためには、それらの問題を解決していかなければならない。実際現実に追われてしまつて、問題としてそれが出てくるとこまで、まだいってないんです。

小松（リーダー） 問題を回避するというか、そういう傾向が強いわけですか。

江守 結局婦人たちの自覚ということ、婦人たちの手で解決しなければならぬことなんですけど。

小松（リーダー） 若山さんも、これに関連した問題の所感文をお書きになつていなかったですか。

若山 地域社会、周囲を見まわしてみるとき、自分よりということに非常に反省した。自分がよくなると同時に人もよくなる。そういうことも大事じゃないかと、一応考えて書いてみたわけです。

保育所がほしいと、必要な方たちの間で起こつた話がほとんど伸びて、子供を預けて安心して働けるようにしなければと、みんなで力を合わせて婦人会提案でやりました。そうして四年間、中学の建設も終わった四年目に、保育所の予算もとれるようになり、すばらしい保育所ができました。これは初めから婦人会の力でやつたわけでございます。

小松（リーダー） 安倍さんはそういうことをおやりになる中で、自分の社会的な良心というものが広がつてきた、良心の体験もあつた。そういうふうな発表もございましたね。

蘇武 今の事例をお聞きしますと、自分だけのことを考えないでやるという、精神が元になつていっていると思います。いわゆる自分の子供さえよければ、家庭さえよければというような考え方は、社会的良心は生まれてこないと思います。そこが大事だと思います。

大久保 地域社会のしあわせということになりますと、とかく政治につながり、予算の関係もあつて、お金のかかることが多いのですが、そうそうお金のかかることばかりでできません。一番大切なのは人と人とのつながりですね。あたたかい雰囲気の中で暮らしたら、もつと愉快だろうと思います。

本重 私たちの会員は、人のことをまず考えてやっている。私どもの善意を少しでも出し合つて、少しでもいいほうにけるように、これが基礎にならなければいけないことは当然だと思つてます。そういう問題について、これから考えておきたいと思つています。

江守 賛成です。個人的良心はあつても、それを社会的良心にまで発展させることはできない、阻害するものがあると思つて

本重 個人的良心では正しいと思つたことも、それが受け入れられないならば、受け入れられるまではせつかちにならずにする。そのとき小教派であつたら、大多数の意見に従わなければならぬんじゃないかということを考えますけれども。

菅野 確かにそういうことはあります。ですから、時間をかけて長い目で見ることも大切だと思います。

佐藤 十年ばかり前のことですが、私たちの部落で伝染病が出たんです。婦人会で消毒しようということになりました。役場からお薬を配付してもらつて、役員が自分の部落の便所とか下水を消毒してまわつたわけです。ある家では喜んで下さいました。ある家では、汚ないお便所を人様に消毒されるのは迷惑だ、自分でするかららつこうですとおつしやる。それが翌年には、そういう家はほとんどなくなつて、便所がきれいになつたわけです。やつぱり他人がのぞくので掃除したりしたんです。今では婦人会が消毒するものと思つて、役場のほうでも予算に入れていますので、四月から九月一ぱい消毒しております。

安倍 私の場合は国道八号線が町の中央を走るようになって、住宅地として発展したんですが、ごみの捨て場に困つて、町はずれの窪地にだれかが捨てたのです。そこが小学校と二百メートルぐらいしか離れていないので、子供の通ることにたくさんハエが子供につきまわつて来まして。その年に婦人会でハエの撲滅運動をやりました。役場から消毒薬をもらつて、一年ほどよくやつたと思つたんですが、これは役場の仕事であるわけですが、その年から日本でも一、二というすばらしい中学校が建つことになつており、そのほうに予算をとられ、余裕がないということでした。それから幼稚園はありますが、

す。この阻害するものを、深くみつめていつて、一つずつ取り除いていくことによつて……。

岡 皆さんに方向づけしていただきたいと思つて、一例を上げたのです。私のほうは金のないことと、それから乳児死亡率日本一というありがたない不名誉な地域です。あるお母さんは五年の間に四人の子供を生んだのですが、四人ともクル病とか肺炎でなくなつております。福祉施設に訴えることもできませんし、都会地とずいぶん違つた格差があつて、悪いところはどこまでも取り残されていく社会もあるわけです。困つたことを訴えるすべがない。この問題をどうしたらいいんだろか、何かいい方法がありましたら教えていただきたい。やはり地方財政の貧困ということでしょうけれども、福祉施設など都会はよくなつていくのに、一方は取り残されている。そこにやりきれないものを感ずるのです。

小松（リーダー） 一応これは、本重さんと江守さんのおつしやつた社会的良心への発展、あるいは良心に基づく行動に、われわれが踏み切ろうとするときに、その踏み切るものを阻害するものは何か、こういうふうにしておきまして、世論の形成者として、本重さんのお考えを……。

本重 食品の自然色推進の運動を、主婦の立場でやっております。この運動は不良色素を使つた食品をなくしようということから始めまして、今度は色の薄い食品を食べましょう。ということになりました。許可された色素を使つたものでも、色の薄いものという運動ですが、消費者が無知のために、またいろいろの面から大へんやりにくいこともたくさんありましたが、だんだん皆さん考えて下さるようになり、果民運動としてこの運動を推

進したわけですが、中核は忙しい私たち家庭婦人でございます。本重 そのお話しは栄養学的にもずいぶん話題になりました。新潟の主婦がその運動を起こしたという事柄も。

本間 新潟の主婦が起こしたというよりも、主婦連合会や友の会等では、ずっと前から考え運動なさっておりましたが、新潟の場合は組織的にやる事ができなかったんじゃないかと思ひます。

本重 少数派でも絶対負けではないということ強調したいと思ひますね。

本間 やつぱり初めのうちは大へん抵抗を伴う運動でございます。運動の將づくりが使命であつたかと思ひますが、これは社会連帯運動なのでございます。色のつかないものを買うようにしようと思ひましても、お店から仕入先、それから製造元と全国的な流通機構があつて、新潟県で組織的な運動を一生懸命やつても、隣県から入ってくることもありまます。そんなわけで、みんなで考えていかなければうまくいかない運動であるということ、皆さんに知つていただきたいと思ひます。

小松(リーダー) 志満津さん、良心の力というのは割合限られてゐるものではないかというの、あなたの御意見のようだつたけれども。

志満津 社会的良心が、このごろ新聞記事になつてゐます。電車内の暴力なんかに端を発したのか、急にみんなが協力するようになった。昔のこととは、末端的な良心はそれで終わつてしまふので、良心的な行ないはしていても、自己満足に終わつたり、独善的になつてしまつたりすることがあるんじゃないかと思ひます。私最近越してきたばかりで環境がよくわからないので

本重 無関心であるという問題についてですけれども、生活に精

一ぱいで、人のことなんかまつておられないと個人主義に徹してゐる。そこまではないで、利己主義的な範囲でとどまつてゐる。この二つの面ではかなり違つてくると思ひます。たとえば未成年の少女が暴力団に連れて行かれてゐる。それを見てゐるお母さんたちは、言えばかえつてなぐられるというので見過ごしてゐる。あのおばさんたちが見てたのに、あのときなんとか言つてくれればと、女性に本来庇護してくれるものと、子供たちは女性に期待してゐる。なぜそこで言わないかという、自分の生活のために無関心になつてゐる層としてみえるけれども、おそらく無気力さのためにその良心をいかせない層です。良心に實というものは絶対あり得ないと思ひます。

前田 良心以前の問題ですが、私たちの身辺はほんとうにかわいそうな方々、経済的に恵まれない方ばかりで、一日のパンを得るために一生懸命働いて、良心なんか考える余裕もない人々が、ほとんどといつていくらいです。その方々をどうして教養を高め、良心を呼びさまして上げることが、一番大切じゃないかと思ひます。精神的な面でも何か与えて上げれば、少しは家庭的な生活がやれるようになるんじゃないかと思ひます。

田中 京都では、全然良心を考えるまでにいかない方たちは、それぞれ問題がありますけれども、私たちの農村では、自分の生活にたがつてゐるために利己主義になつて、みずから良心的に考えるということを放棄するんです。今度の選挙につながる問題ですが、社会的良心を働かさなければ、よりよい生活は得られないと思ひます。なんとかみんなが手をつなげるような状

すが、地域社会を知ることが必要です。みんなの生活が、その中で根についてゐるという感じがするんです。それが一番大切だと思ひます。この新しい土地に一生住むつもりでおりますので、この土地で何が一番必要かに目ざめなければならぬと思ひます。さつき社会的良心以前の問題というお話ありましたが、そこへくると人間性に目ざめなければならぬ。結局それは、農家のお嫁さんが、牛や馬に劣るような劣等感を持つてゐる。人権に對してさへまだ目ざめてない。それなくしては、社会的良心は、だいたひ先のことのように思われまます。

若山 この社会的良心、個人的良心もそうだけれども、それを行なおうとするには、農村においては、特に勇氣と自信とが絶対必要です。それには良心が、自分自身に形成されてゐない限りできない。私の村は山間僻地の中に数えられて、商店もなくお医者さんもない。そういう村でPTAの厚生部長をしましたけれども、子供の体力も学力も劣つてゐる。そういうことを先生たちから聞いたときに聞き流さないで、私たちの力でどうしたらいいのかを考えた、それも一つの良心だと思ひます。村の子供たちの体格が悪いのは食生活が悪い。お母さんたちの食生活の勉強が足りない、それで食改善の展示会をしようと決意したわけです。しかしそれを実行するには、非常に勇氣がいるわけです。やつてみると非常に仕事は多いわけです。実際にやつてみたときに、なるほどとうなずいてくれたお母さんたちも、若いくせに生意氣だという抵抗もでたわけです。そういうときに、自分は社会的良心による行為をしたんだという一つの誇りを胸の中において、しりごみをしたりするのはいけないと、自分に言い聞かせてゐるわけですけれども。

江守 皆さん方はとても自覚されてゐて、いろいろなクラブに所属されて、そのリーダーとなつてやつておられる方ばかりのようにお見受けするんですけれど、私どもの職場の仕事と、自分の勉強と、クラブ的な組織、そういうものと全然結びついていないんです。私自分のことを考えても、社会的良心に個々の婦人はまだ目ざめてゐない。しかし、そうした婦人たちが、個人的良心を持つてゐるんです。それを社会的良心にまで発展させることができない。それを阻害するものは何かという疑問があつたんですけれど、職場の婦人は家のことと仕事のことなど時間的な問題もあつて、わかつてゐないがら、はいつていけないということもあります。それから、昔からの考え方、女だてらにという風風があるんですね。それをどのようにして取り除いていくかという問題です。

菅野 社会悪を起こさないことが、消極的な社会的良心じゃないでしょうか、みんなして社会悪をなくすようにしていくこともそうだと思ひます。

大久保 自分も大事にするけれども、他人も同じようにするといふ人間尊重の気持、社会にはいろいろの矛盾もあるとは思ひますが、その中において、正しいもの、美しいものを貫いていくとする努力、それも社会的良心だと思ひます。

本重 選挙の問題に関連して、その中から社会的良心とは何かという問題を考へてみますと、知性の面で訴えていけば、良心は知性によつてで上がり、また、その良心は知性を作るといふ

ような形で還元されていくものではないかと考えますけれども、田中 知性によつて良心が作られるんじゃないかと、磨かれるんじゃないでしょうか。向上させることは知性によつてできるけれども、やはり人間の良心は生まれつき備わっていると思うのです。ある人はそんなものないと言いますけれど……。知性だけが作っていくものなら、知性のない人はたくさんあるんです。それはそれなりに、良心というものは認め合つていく、そういうふうな考えたら、広がっていくと思うのです。

本間 社会的良心をいかに育てていくかということですが、本来、私たちが持つていっているものであるならば、母がそれを育て生かすということになるんじゃないかと思うのです。また、自然に育つていくことがあると思いますので、そういう点で、明かるい生活をしていくことも、ひいては社会に対する良心というふうにも解釈したいと思うのですが。

佐藤 個人は、教養を身につけていくと同時に、人格形成が行なわれて、初めてできるんじゃないかと思うのです。

佐藤 個人的な良心でしたら、一人で本を読んでも、偉い人の講演を聞いてもできると思いますけれども、社会的良心というのは、絶対に一人ではできないと、私は思います。職場その他で起こったことに基づいて、勉強して、それで初めて社会の良心ができるんじゃないかと思いますが。

若山 良心を阻害するものは何かということについても、もうちよつと皆さんの御意見を掘り下げてもらいたいと思うのです。

小松(リーダー) その分析にいいよ……。本意 積極的良心と消極的良心と考えると、消極的良心は社会悪を發展させない。

の方がよく指導すると、その子供は本来のいい性質にかえるけれども、家に帰ると、また同じ状態で罪を繰り返す。それを根本的にかえていくのは政治じゃないか、それから物質的なものにつながつてくる。それはもう個人でなくて集団の力、そこに社会的良心をおきたいと思ひます。

本間 民主主義が、アメリカ式、ソ連的というふうに分かれていくみたいに、阻害するものも、前近代的な生活環境、農村のほうに非常に比重が大きいと思うのです。都会のほうはプライバシーを守ることが非常に強くなります。その社会の持つていいる阻害点を打破していくことじゃないかと思うのです。

小松(リーダー) どうも考えあぐんでいようですね。さつきの教育の問題、人の子供を自分の子供のようにというのが、教育の場になると、ちよつとあやしくなつてくる。あれでいきませんか、良心とは何かという問題。

鈴木 お聞きしたいんですけれども、子供が百点もらつてとても喜んで家へ帰つてきた。そうしたらお隣の子供さんたちもみんな百点だった。初めはすごく喜んでいい子だといつてほめたのに、みんな百点だというと、なんだ、みんな百点なのがつかりしちゃう。(笑)その百点の価値はちよつともかわらない。クラス全体がみんな百点だったらいことだと思ひの……。一番になれということ、絶対的な百点との価値の違い、それはお隣さんたちはどうお考えになるでしょうか。

小松(リーダー) いろんな問題がそれにかまつていっているんですね。日本ですと学歴が決定的なものをいうのですね。どの大学を出るか、その大学で成績がどうということ、その一生がきまつてしまふようなものです。こういうところに根本の問題が

小松(リーダー) 前向きさせる場合もある。

江守 良心ということ考えた場合に、やはりそこに個人的良心、社会的良心があつて、個人的良心とは消極的な良心ですね。それから、社会的良心というのは、常に社会に働きかけるという良心であると思います。またそれは常に勇氣と知性、そういうものが必要であると解しているんです。

立石 阻害するということに、農村などでは、女だてらに、ということがあるんじゃないでしょうか。

小松(リーダー) 女だてらに、というのはどういう意味ですか。男だつたらいいんじゃないでしょうか。

立石 女のくせにいろんな方面に積極的働いている。ああいうのを嫁にもらうなというふうなお年寄りがおられるんじゃないかと思うのです。

若山 女だてらにという言葉ですが、その抵抗の中心に立つような女の人は、一応敬遠されるわけです。しかし、そういう人がいないと、村なら村が伸びないわけです。そういう人こそ社会的良心を持つてい人だと思ひます。そこで、非常にむずかしい社会の中において、どうして私たちの社会的良心を生かしていくかという信念ですね。結局勇氣と自信が必要なんです。小松(リーダー) やはり社会的良心の一つは、いくら風当たりが強くてもがんばれということらしいですね。

鈴木 江守さんのお話に続けてなんですが、個人の力ではどうにもならないもの、それを集団的に盛り上げていつて解決する、それがまた社会的良心を育てていく方向になるんですね。これは人から聞いたスラム街の話ですが、六疊か四疊半に六人か七人生活していると、子供たちが性犯罪を起こす。それを保護司

あると思うのです。そちらのほうで考えていけば、やつぱり社会の仕組みの問題ということになる。すべての人間が語学者になり数学者になる必要はないんです。数学は特定の考え方なんですからね。かし一方においては語学ができないとばかりにできませんし、数学ができないと低能扱いをされる。数学も語学もできないと東大に入ることができません。問題はこういうことなんです。僕は、自分の子供の適性というものを見つけて、最も伸びるような教育環境に進めてやることが、子を持つ母親の務めじゃないかという押意見は、その通りだと思ひます。それができないというところに問題があると思ひます。この問題を解決するには、やつぱり根本から切りかえなければだめだと思ひます。これを解決するものはないだろうか、この点は僕もお手上げなんです。たとえば、人間の能力というのは、ある人は十ぐらいまでに早く伸びます。またある人は二十過ぎてから伸びるということもあります。ところが今の社会制度は、あとでどんなにその人が伸びる素質を持つていても、社会ではばまれちゃう。それは人によつて五十になつても伸びるかもしれない、六十になつて伸びるかもしれない、人間には常に可能性がある。それをつぶすような社会のあり方はおかしいと思ひます。そういう抽象的なことはなんぼでもいえるのですがね。当面どうすればいいかということになると、僕も見当がつきません。僕としては隣の子供が百点、その次の子も百点、それでがつかりしちゃう、これはなおしていくことはできるんじゃないかと思ひます。今の教育制度、総体評価、何番から何番まで五とか、ああいうふうになつていよう。あれが僕はおかしいと思ひます。何でも差別をつけていかなきゃ気が済

まないという教育のあり方、これをまず問題にすること
はできるんじゃないか。たとえば数学をとりますと、少数の扱
いは日本人のほとんどの人はできません。三百年前は小教は
少数の人しかできなかった。微積分は今日相当数の人によつて
扱われている。レベルが非常に高い、というふうに文化手段
といいますが、非常にたくさんの方が享受できる。ところがあ
いつは微積分ができないからバードとか、伸びないとか……。
これはもう少し皆さんのほうから伺いたいところです。

田中 私のほうの小学校は、長男の組が二組よりなくて、一学級
三十人に満たないんです。そんな学校です。校部に高校も一
つございますので、自然にそこに行けるような仕組みになつて
います。ですから人間性を磨くということに専念できるし、他
人を突きおとしてどうしようのと、そんなこと少しも考えなく
ても上級学校に進めます。

安倍 勉強のできない子供でも、それなりに一生懸命やらせるわ
けです。一人の子供は予備校に行きまして、二年目に高校を受
けたんですけれども、学校のことはできなくても、そのかわり
技術のことは一生懸命やります。その子に向くような仕事をさ
せればよくできるんじゃないかと思うのです。子供の能力以上
のものを望まなかつたところに、子供のしあわせがあつたんじ
やないかと思つております。

本間 何が社会的良心を麻痺させているんだろ、受験地獄も
ほんとうに大きな問題じゃないかと思うのですが、私どものま
わりを見ますと、義務教育の場である中学が予備校化している
ことがよくわかります。それと、小学校のときから、何らかの
手続きをとつて、よその学校へ入れる父兄を三人ばかりみてお

ります。……、社会教育主事がおつしやつたことですが、
子供自身が受験に集中して、友達を裏切ることば平気だとい
うのです。勉強していないような素振りをするために、家の人
おもしろいテレビの番組を見てもらつて、お友達に、あれは
おもしろかつた、また今晩も続きがあるというふうに言うそり
です。友達は、そうかと思つて結局見るでしよう。人を蹴落とさ
なければ自分が上がれない。友達同士でもそういうことがある
つて伺ひまして、これは大へんなことだと思つていらっしゃる
います。

立石 高知県は去年までは、高校全員入学だつたんですよ。試験
地獄といふことがほとんどなかつたわけですが、今年
落ちた生徒もあつたりして、問題になつたんです。高校全入以
前に、能力がありながら行けない子供さんが私のほうは多いん
です。山間にはね。また能力もないのに有名高校に、親がばく
大なお金で裏口から入れてついでにいけないで自殺する。また、
自分は能力があつて大学へも行きたい、勉強したいと思つてい
ても、就職組のほうに入つていく。そして勉強している子供を
見るとくやしくてたまらんとさういう子供さんのことも、
もうちよつと考へて上げてもらいたいと思つたんですけれども。

鈴木 私幼稚園に勤めておりますが、その町も教育の熱心なこ
ろで、お母さん方がとても教育熱心なんです。ただ、それが
少し間違つていっているんじゃないかと思うんです。というのは、越
境入学して、ほとんどが地元の中学に行かない。小学校のとき
から越境して、まる一時間もかかる大阪まで出る。それからま
たいくらかの時間がかかる。そうして思い通りの高等学校へ行
つて、思い通りの大学に行つて、いい就職をしているんですね。

そうすると、後輩たちのお母さんがまたその通りになつてしま
つて、地元の中学には中以下の経済的に大阪までやれない家庭
の子供だけ残つてしまう。すると学校自体が熱のないものにな
つて、進学率も悪くなつて、先生たちも熱心でないし、中学生
もだんだん程度が低くなつていくのです。それで今度私が自
分の子供を育てるとなるとそんな学校にやるのも困るし、やら
ないのも困る。今の間になんとかこれを食い止めなければ、と
とにかく地元の学校をよくするために努力して下さいとお願い
しているんです。

菅野 学校差をなくすような方法を……。高知県の場合はそうら
しいです。

立石 公立の高校はそうです。お金持は私立に行く。
菅野 何年前かに母親大会のときそういう悩みを聞いたんです。
しかも教育者の子供さんがみんな私立に行く。私立の有名校に
入れなければ中央の大学に行くことができないらしいのです。ね
そういう悩みが、全入の半面にあるということをお聞きされて驚
いたんです。公立の高校の学校差はないが私立と公立の学校差
があるつて。

立石 私一番疑問に思つたのは、先生方は一生懸命に全員入学さ
せようとしていられるけれども、その先生の子供さんは全部私立の
いい学校に行っているんです。(笑)そんなことつてあるだ
ろうかと思うのです。どうしてその全員入学の学校に入れない
のか……。

安倍 群馬ですか、その学校は通信簿もなければ、一人々々の
成績もないそうですが、それでよくできる子供さんが多いで
なる……。

若山 このごろ感じていることは農家の長男の問題です。前は農
家の長男は農家を継いだわけですが、最近では、それが当然と
いつていくらい農家を継がないようになってきたわけですね。
それで高校受けるにも子供の意に従つてというので、農家の長
男であつても普通高校、工業高校を受けないことになつて
きたので、農学校が二つあつたのが一つになつてしまつた。私
どもの県でも、それだけ農業の経営者というものはいなくな
つたんだというふうにとられるわけです。それだけならいいけ
れども、今度は親の考へがかわつてきて、頭のいいものは都会
に出してやれ、兄弟の中でも、一番成績の悪いのを農家に残そ
う、土ほじりは頭が悪くてでもできるからということに……。

小松(リーダー) 不作は村へというわけですね。(笑)
若山 結果的にはそういうふうになつていますね。農学校の廃止
論とか長男の問題を私は非常に心配しているんです。いくら農
家でも頭が悪ければだめだと思つたんです。優秀な子供を残した
いと思つたんです。

小松(リーダー) できがいいとか、学校というものをあんまり
過大視過小するんですね。それはある程度は意味がありますけれ
ども……。

若山 私もそう思うのですが、学校自体がそういうふうにして
るんですね。私は自分のベストを尽せばいいと子供に言い聞かせ
ているんです。で、すけど先生方は、これだけの点を取れなきゃ
あの学校は入れないと言つて、自分のクラスから落としたり大
へんだから先生だつて真剣になつています。

小松(リーダー) 教育問題になると、だいたい熱がはいりますね。
江守 結局学校の先生方が、これだけの成績をとらなければあ

学校に入れないというふうに考えるが、その学校の評価の仕方がおかしいんじゃないかと思うんです。先生方の教育がそういうふうになつてきたというのは、やはり自分たちの責任じゃないかと思うのですけれども。

小松(リーダー) 自分たちというのは生徒さん？

江守 生徒さんじゃなくて、そのお母さん。

大久保 社会的良心は、次の時代の子供から育てていかなければならないと思うのですけれども、とかく現代つ子というのは、何でも金でものを計算するとか、お母さん方もおつしやいますけれども、その原因を作っていることのひとつに、入学難な競争が激しいために、成績が上がれば何か買つてやるといふようなことを言うお母さんがあるもので、それが一つの原因になつているというふうなお話も聞きましたけれども、いかがでしょう。

小松(リーダー) いろいろなものが出ましたけれども、後ほど僕の意見を述べさせていただきますことにして、お忙しい中をお三方の特別オプザーバーにおいでいただきありがとうございますので、御意見、あるいは御感想を伺わしていただきたいと思ひます。

西村(特オプ) 教育問題について、ちよつと私の感じたことを申し上げたいと思ひます。有名校のことですが、その上にはいい会社へ入るために有名大学を受けなきゃならない、それが順々にきて幼稚園から有名校に入るといふ悪循環があるわけでございます。どうして有名校、有名大学、それから有名会社、そこへ入ろうとするのか、それをちよつと考えたいと思ひます。先ほど出ましたように、いい会社に入れば経済的に一生保証される。それから、それと同時にもう一つは、お母さんたちの社会に対する見え方もあろうかと思ひます。人間はみんな個性をい

道德の確立を、もつと真剣にみんな取り組まなければならぬと思ひます。また個人的な良心が社会的良心にまでなかなか広げられないという御意見がありました。組織の中で良心に目ざめて、小教派の中で推し広めていく努力、そこから社会的良心も育つていくんじゃないかと思ひます。マスコミの影響も大きいと思ひますが、常に反省して、よりよくあらためていく。そういうことが考えられるんじゃないかと思ひました。

小松(リーダー) 次に町田さんをお願いします。

町田(特オプ) 今日初めて皆さんの御意見を拝聴させていただきましたが、皆さん大へん勉強していらつしやいます。一番初めに出了ました子供の問題、小松先生のおつしやつた自分の子と、いろいろな問題について、私は、やはり子供も一つの人格、人間尊重の意味から、自分の子であつても、やはり社会の一員として、一人の人間として育てる。他人の子供も同様に一人の人間として尊重していくという考えで教育していくことが大事なことだと思ひました。それから、社会的良心について、消極的良心と前向き良心というものが出たようにございますが、これは世の中が、昔と違ひましてほんとうに複雑になつて参りまして、自分がいくら良心を持つていても、それを出さなければ、やつぱりうすもれてしまふ。たとえば、政治についても、教育の問題にしても、あるいはもつと大きな社会的の問題にしても、黙つていけばやはり大多数の意見が通つてしまふ。そういうときに、自分が発言しないということは、自分の良心に対する権利を放棄することになるんじゃないかと感じました。また、そうするには、やつぱり集團の力というものを盛り上げていかなければならぬんじゃないか。やはりこれは私たちがは

かして社会に貢献し合ひ、自分のしあわせを築くということが共通の願ひですが、今の社会の状況は、はずれていると思ひます。それで経済的問題とみえの問題を考へますと、経済的には、現実にはやはりよい会社は給料は高いし、中小企業にくはど格差がついてくるという問題があります。これをどうするか、これは労働組合としても一番の課題でございます。技術革新の世の中で機械化されて、経済的に成長を遂げておりますので、今は非常に格差が多いけれども、次第に薄くなる方向にいくということは見込めますが、組合としてもそういう方向に持つていくように努力しなければならぬわけですね。格差を縮めれば、そうすれば何も大きな会社になくても、普通の会社でもちゃんと生活が保証されることができるので、そういう点で解決が見いだされるわけです。それからみえといひますか、これは今仕事で肉体労働、現場労働と、それから事務、技術というふうに分かれております。大学で学べば事務、技術といひくわけですね。中卒、高校卒の場合は、現場労働といひくわけですね。その場合に、工場の中の仕事が非常に重労働で環境が悪いと、やはりそこへは行きたくないものがあるわけですね。そういう問題も、だんだんと経済成長の中で改善していかなければならない。今の経済的、社会的の格差、そういうものがこの悪循環につながつていふと思ひますので、今申しました点で努力することが必要で、それは、政治をよくすることと大切ですが、将来是正する一つのメドがあるんじゃないかと考へます。同時にものの考え方ですね、人を振り落としても自分だけいこうとする考え方をなおしていかなければならない。日本の経済成長に比べ、道德の向上が非常におくれているので、

んとうに勉強して、もつと体力を鍛へていかなければならぬと思ひます。私どもの団体では、二年前の秋にYWAの総合で、今後三年間、憲法の勉強しようといふことを決しました。憲法というものは大へんむずかしいもので、どこから取り組んでいいかわからないというので、方々で問題が起こりましたけれども、小さなグループで勉強いたしまして、憲法の勉強の手引きというふうなものを作つて全国各地に配りましたが、それが大へん反響を呼びました。住みよいこの社会を作つていくには、日本の平和憲法を学ばなければならぬというので、旧憲法と新憲法の違いを並べて問題点を出したもので、その勉強をしている最中でございます。私たちが社会的良心に沿つていくためには、もつとほんとうに勉強していかなくちゃならないというふうに感じました。

小松(リーダー) 春野さんをお願いします。

春野(特オプ) いろんな角度から社会的良心の問題を論じられて、勉強させていただきました。今年婦人少年局が、良心という問題を取り上げたことに敬服しているわけです。社会的にももちろんそうだし、人間として、ゆつくり考えるひまもなかつたし、ついほかに引きずられがちだったためにとんでもない社会習慣ができてつちるわけですが、そのときに良心という一番かんじんなところからやりなおしていこうという、大へんすばらしい建設的な問題を掲げられたと思ひます。

個人的良心、社会的良心とは一体何であるかという、だいたひむずかしい論点もあつたようにございますが、私なりにやさしく考えますと、良心というものはだれでも持つていふことだし、自分は喜びたい、自分が喜べたらその喜び、そのしあわせ

をはかのほうにも広げたい。これが社会的良心のやさしい考え方じやなかろうかと思うのです。破壊的な、建設的でないこと、不しあわせなこと、自分たちがいやだと思ふことが、家の中にもあつてほしくない。一歩家を出た世の中、共同生活の中にもあつてほしくない。それを一生懸命考えるがゆえに、勇気を持つていけないと思うのです。あるいは有毒な食品を自分は食べない。あわせて隣近所の奥さん方も食べないほうがいいという信念を持つためには、自分が勉強をしなければならぬ。勉強して勇気と信念を持つて、行動に移していこう。そうするうちに賛成されたり反対されたり、怒られたり叱られたり、自分の苦勞がなかなか報われないが、それによつて、さらに自分が向上する。人間形成に大へんプラスされる。そうして問題を整理してみたり、語り合つて肩を組んで前進してみよう。そういうことを交互に繰り返しながら、少しずつでも向上していくんじやないかというふうに思うのです。さつきお勉強のことで、お子さんが百点とつてきたが、隣近所のお子さんも百点なんだといつてがつかりされたというのですが、自分の子が百点を持つてきた。これは一つの喜びなんです。その喜びがほかの人にもあつたというときに、一緒に喜んで上げるといふ気持ちのゆとり、人間的な豊かな喜びではないか。自分たちが有名校に入りた、自分たちだけ平和な恵まれた生活をした。ほかの人がその域までくるとやつかんてくる。それは自分たちの喜びを一そうつまらなくしている。みんな百点でよかつたねという気持ちであれば、盛んに問題になつてゐる有名校の問題、越境入学の問題も、子供の個性々に応じた学校への進め方、そういうものがおのずから出てくるんじやないかと思ひます。それは組織に集中し

なければできないこともございます。教育とか、学校をたくさん作るとか、公平にお勉強ができるようにとか、都会と地方とのひどい格差もあります。そういうつらいところに生活なすつてゐる方々には、涙を感じますが、われわれが何人か立ち上がったからといつて、すぐその不幸を教ふことはできない。しかし、自分たちがしあわせになろうとすれば、また置き残された気の毒な方々のことを忘れちゃいけないという、この気持ちの反映は、必ず中央の政治にも、地方の政治にも反映する。かかることから一歩踏み出して、できることから勇気を持つてやつていくといふことじやないかしら。自分で考えさせられることのほうが多うございました。

小松(リリーダー) 最後に僕の感想を述べておきます。社会的良心は何かという問題、これは非常に厄介な問題ですが、疑問が生じてきたときに、それをゆるがせにしないのは、社会的良心というふうなものを育てようとするときの一つの条件です。その場合に、疑問を持ち得るような感覚をいつでも持つてゐるということ。このことは、おかしなことをおかしなところとして感じとるような感覚をにぶらせない、そういう感覚があるところに、社会的な良心が育つ最初の条件があるんじやないかと思ひます。それから、そういう疑問がだんだん大きくなつてきますと、そのうちにこわくなつてくるんです。ある段階までいくと目をそらしてしまいたくなる、逃げたくなる。何も自分だけそんなこと考えないでもいいじやないか、世の中の人みんなおもしろおかしく生きてゐるとき、なんでこんな疑問に自分がとりつかれるんだらうか。そのとき踏んばることが大事でしようね。社会的良心というものが、良心として自分の中に

形成され、ある程度ゆるぎのないものになるというのは、やはり一定の行爲というふうなものが、そこに入つてくるんじやないか。自分の中でうじうじしてゐるだけでは、良心は生まれてこないと思ふのです。その行爲に踏み切るところに、さつきおつしやつた知性の問題やいろんな問題がかかりあつてくるんじやないか、こういうふうな考えられる。要するに、われわれが鋭い良心の持ち主であるとするならば、どういふものが必要かといふことについて、以上三点だけ申し上げました。

(午後五時五分 閉会)

第三部会 二日目

十一日 一〇・〇〇〜一七・〇〇

小松（リーダー） 社会的良心、社会的知性の問題、それから社会的良心と社会的行為の問題、これを考えてみたいと思います。社会的良心と社会的知性という問題をぼくの一つの体験からお話してみたいと思います。太平洋戦争のなかの中日戦争の始まったときに、ぼくは中学の終わりから高等学校の学生だったんですが、朝鮮で生まれたので、中国における戦争については、内地の人より、ある程度実情を知っている、そんなところから、この戦争は名分のない戦争じゃないか。日清戦争とか日露戦争と比べるとですね。おかしいという気持ちが強かった。それからそのころ、なんでもかんでも国策ということをやっているんですが、父を通したりして、政府の状態を多少知っている。どういふ経過で国策ができてくるか知っているのでもうおかしな。ことに日米戦争の始まる前でも、どうやって中国戦争をおさめるかということが中心問題であつて、戦争を拡大していくというのは全然問題にならない、そういう状況だった。そこで日米戦争が起つたわけですね。そのときにこういう言葉が生まれたんです。『国家は道徳を超越する』。けれども、そういう名分のない戦争を指導している、政治責任をもたない政府によつて政治が指導されている。そこでぼくは兵隊として戦争に臨むわけですが、さらに自分に何人かの部下がある。その部下に対して死地に飛び込めという命令をしないやらない場合もある。これはどういふふうに考えたらいんだらうと、非常に悩んだわけですね。そこで天皇の問題とかなんかも考えた。そういう悩みの中で、道徳の根本に対しても疑問をもつたんです。しかし人間が生活していく以上、なにか心のささえというものがなければならぬし、そして是非善悪の判断とを、そのときそのとき

きのいいかげんなけじめをつけるのではなくて、ある程度根拠のあるけじめをつけていかなければならないということになる。そういうところで良心の問題にぶつかつてきたわけですね。追いつめられていつて、良心のようなものにぶつかると、というケースも一つのケースとしてあるんじゃないか、そのいきさつを見ていると、社会に関するある程度の事実認識というものがあつて、知性、あるいは社会というものの対する知的な態度がなければ、良心というものが出にくい。

ところがこういう問題が出てくるんです。そういう良心の問題が出てくると、正直いつてぼくは良心というものはやつかいだと思ふ。どうして良心がこんな自分を追い回すのだらう、簡単にいえば、良心よ、どうかへ行つてくれということですね。良心はぼくにとつては好ましいものではなくて、良心を放棄しかつた。ことに戦争に行くのが、どんどん日程に上つていく。そうしなければ心のはねは大きかつた。ぼくは良心の問題を中途半端な解決しかできなかったけれども、ぼくとしては国民あつての天皇だ、国民あつての政府、国民あつての軍だ、そういう立場から、自分なりに問題を考へて軍隊生活というものをやつてきたわけですね。しかしあとから考へてみると、考へて不徹底なものであつて、決してぼくに起つてきた良心の問題を解決したものじゃないと思ふ。

なぜ良心の問題がぼくに解決できなかったかというところ、それは道徳とは何か、法とは何か、国家とは何かというようなことについてつづこんで考へていくことが、避けたわけじゃないか。たけれどもできなかった。もう一つはやつぱり社会仕組みについてつまり現実認識に関して鋭いものをもつていなかった。知

性とは顕微鏡とか望遠鏡のようなもので、というと言ひ過ぎですが、見えなかつたものを見えるようにしてやんと筋立てていく働き、これが知性ですね。筋立ててものを考へていくという強い態度がぼくの中になつた。これがぼくをして良心の立場を不徹底にした、と考へられるわけですね。

こういう意味から、だれでも良心の立場に立つとするならば、そこに鋭い知性というものがなきやならないということが考へられる。

以上がぼくの知性と良心との関係についてのお話ですが、これを簡単にいうと、社会知らずでは社会的な良心は育たない、といえるんじゃないかと思ふんです。これを問題提起としては少しまずいんですが、どうでしょう、きのう出された教育、非行少年、家族制度、あるいは選挙等の諸問題の中で社会的良心と社会的知性の関係、これを討論してみたいかがでしよう。選挙のあり方がおかしい、選挙とは何か、やつぱり事実認識ですね。それがないと選挙に対するわれわれの社会的良心は芽生えても、一つの目算のついたものとしては成熟しない、心の中で流産してしまふ。同じことは教育問題についてもいえる。この問題に関しては、皆さんは、やはり良心を眠らしたいほうですね。教育問題を除けば、人のお子さんもお子さん、自分の子にやらなさいかん、と考へるし、またそれを実行に移すこともある程度できる。こと教育問題に関しては、良心も鈍つてしまふということが皆さんの話だつたと思ふんです。非行少年に関しても、やつぱりそういうものがあつたと思ふんです。一つ社会的良心と、社会的知性との関係について……。

本間 きのうの人の「と自分の子ということ、それから受験に関する

お話が非常にされましたが、よく考えてみたら、自分の子供が大切であるということが、人の子供が大切であるということになつて、それがまた社会の子供が大切である、ということになるんだと思つたんです。けつきよく自己意識が社会意識になり、それが社会全体へ向いていつて、社会的良心が発揮されることになる。新潟県の方、特別な血液型であるために手術があやふやなときに、日本人はもとより、外国人までも献血して、生命が助かつたというケースは、自分の生命は大切である。だから他人の生命も大切であるということがそこにあつたと思うんです。助かつたときは恵子さんや、お母さんはんもほんとうに国全体で嬉しかつた、ということを考えてみると、そんなことが考えられると思うんです。

それから私どもの新潟県の中頸城郡吉川町で農閑期になると、頸城社氏といつてお酒の仕込みにほうほうへ出かせぎに参りますので男手がなくなります。消防団はあるんですが、突進はなくなるわけですね。それで、自発的に婦人消防隊を組織して、大事があつたとき、まづ先にかけつけていつて消火に当る。これは自分のうちが火事を出しても困るけれども、ほかの人も困るからです。結局、社会的良心といふのは、社会的連帯を考へることから、その社会的連帯は社会意識から、社会意識はその中に自己意識が含まれていふと思うんです。社会的良心は自己意識が土台になつていふ、その自己意識を今度は社会的知性といふものにつなげた方がいい社会ができるのではないかと、つまり自分が大事であるということが土台になつていふんじゃないかという結論なんです。

小松(リーダー) 話すかですね。

前田 井の中の蛙のような生活をしていて、急にこんな場に出てきましたので、頭がいつぱいになつて少しづつ知性が頭の中に……。

志満津 皆さんがとてもしつぱな意見を持つていらつしやるので、心細くなつたんですが、皆さんのような方はよくわかつていふんですから、その必要はないけれども、私たちはこれからPRされなくてはいいけない立場です。きのうも会議が終わつて駅まで歩きながら群衆の波を見て、この中に何人社会的良心を持つていふ人がいるだろうか。こういう場だしやべつていふよりも、何も知らない人にPRといふか、浸透させることがいよいよ大事じゃないかということも考えたわけですね。どうしたら私たちのようにわかんない人たちに、社会的良心を目ざめさせることができるか、それを阻むものは何かということはどうか教えてください。という気持ちでいるんです。

小松(リーダー) 社会的良心といふのは、やつかいなものじゃないですか、ないほうがいいですよ、のんきに暮らせて……。

本間 社会的良心という問題が出されたので、応募のときによく考へてみたら、自分の仕事は社会的良心に関係のあることだと改めて知つたわけですね。ですからこの運動をいままですつていふも、たたい運動なんだ、自分もやろうと思つただけで、それが社会的良心ですつていふなんて考へたことは一度もなかつたように思ふんです。

安倍 私たちの二つの体験ですね、これもやつていふときは、いまおつしやるような社会的良心とか、そういうむずかしい言葉は知らずにやつていたんですが、でもそれによつて学んだことは、大学の講義を一年聞いて、薄つぺらなノートにまとめたよりも大切

話すね。社会的知性の側からはどうでしょう、それとの関係は。—— 本間さんいかがですか。

本間 自然色運動のことですが、最初に下の方で自然色運動をしていた方があつて、県でも運動しようということになつたんです。私もはそういうことを連絡協議会ができてから知つたわけですね。それまでは私は自然色といふものを知らなかつたので、関心がなかつた。ところがそこへ行きましたら、テキストを配られて、いやおうなしに二日間ばかり教育されて、まあこれはたいへんなことだ、自分だけじゃなくつて、帰つたらまづうちのまわりからいづしようにけんめいできるだけのことをやつていこう、知つていふことによつてやると言われましたけれども、もつと知ればもつとやるかもしれないと思つたわけですね。

小松(リーダー) 最初はあなたの付近だけのことをお考へになつていたけれども、だんだん禁止運動を上げていく過程で問題が全国的規模を持つていふことがわかつたわけですね。

本間 自分の家庭からでございますが、自分が組織の中に入ることによつて、組織を通じてやろうという自覚が生まれ、仲間をふやしていこうということになつたと思ふんです。

小松(リーダー) 前田さん、どうですか。

前田 私はだいたい家のことばかりしてありますので、いままでも良心とかそんなものは考へたこともなかつたんですが、今度初めてこゝろに、良心といふものはどんなものか——家に帰つたらみんなに、こういう勉強をしたといふことを少しづつお話ししていつて、社会に広めていつたらというふうな考へました。

小松(リーダー) 話す中に、自分の良心がだんだんしつかりしたものになつていくかもしれないね。話す場合にどういうふうな

なものだとわかつたわけですね。わざわざ社会的良心といふことを念頭におかなくても勉強して、その中から自分で得たものがあれば自然に良心といふものは出てくるんじゃないかと思ふんです。行動ですね。

本間 私はつねに良心の問題を考へていたところへ、このテーマが出されたので、いまのお話と食いつき方が逆の方向からいつていふんです。そういう意味でもしるいと思ひます。

江守 社会的良心と社会的知性の関係についていふと、私たちは社会的知性を現実から離れた理論で方向づけようとするんですね。そういう場合に社会的知性を持つた人、またいろいろと現実を知つておられる方と話しをすると、それは理想論だとビシヤツと押さえられてしまふ。すると、人間は理想を持つて生きていかなければならないと主張したくなるんですね。ですからそういう社会的知性を持つた人と、若い理想を持つた人とがもつと交流することによつて伸びていくんじゃないかと思ふんです。

鈴木 私は社会的知性と良心とは同じものだと思うんです。本質的には一つも変わりがない、社会的知性とは知識から得たものやなんか積もり積もつて知性になつていふ、認識が知性を目覚めさせて、その知性が良心を目覚めさせるものだと思ふんです。たとえば伊勢湾台風のことでも当時はマスコミでも盛んに取り上げて騒ぎましたけれども、いまではもうみんな忘れています。現在実際はとつてもひどい形で残つていふと思ふんですが、そこで生活して人たちのことなんか、すつかり忘れていふ、そういうことで認識を深めて知性を養ふことができるんじゃないかと思ふんです。

小松(リーダー) 知らぬが仏という言葉がありますけれども、知

らなければ良心だつて起つてこない場合だつてあるんですね。なまじ知つたばかりに良心のうすきを感じる、ということですね。けれども他方、知ることによつて薄つべからぬ良心から厚みのある良心に、自分の良心が成長することがあるんじゃないか。そこに知性と良心との関係が考えられるんじゃないかと思うんですね。蘇武 たしかにそうだと思います。知らなければ良心も目覚めてこないし、知ることによつていろんな知性もわいてくるし、そこから良心が目覚めてくるんじゃないかと考えます。

前に戻りますが、志満津さんのおつしやつたPRということですが、普通一般に社会的良心なんてことを言つてゐるかどうか。言葉は知らなくても、もちろん社会的良心を持つてゐらつしやる方も多分にあると思うんです。私なんかこの問題が出たときに、社会的良心というのは、こんなものかなというのを初めて知つたわけで、平林たい子さんが、労働省で出す婦人会議のテーマは非常に抽象的だ、労働省に電話をかけて、私はこのように考えるのだけれども、これでいいかとたしかめてみた、というふうなことを書いていました。世間一般の人にビツタリする言葉かどうか疑問に思います。そういうことを、たくさんの人にPRするということもなかなかむづかしい問題じゃないかと思うんです。

本重 私たち家庭の主婦は、子供を社会人としてつづいて育てるのは当然の義務だと思つていますが、自分の果たした義務に対して、私はこれで仕合わせだけれども、それだけで社会の中に自分が存在している価値があるかどうか、と考へていくところに社会的良心の問題が出てくるのではないか。私はほんとに子供のためにも夫のためにも、また広い社会のためにもやつてゐるのだということ、を、もちろん疑問を持ちつついぢやあせだと思ふ。しか

ていこうとする良心がすべて社会的良心だ、というふうなそのときの先生からお聞きしたんです。そういうふうな表現でおつしやられたほうがすつきりするんですけれども。

鈴木 良心はほんとに普遍的でしようか、モラルの問題になると絶対に普遍的じゃないですね。デモクラシーの国といわれているアメリカに、なんじ人を殺すな、という言葉がある、けれども最近クリスマス島で原爆の実験をやつていますが、あそこには現住民がいて、そのまわりの人たちが殺されたりひどいめにあつていても、それは人のうちに人らしいところがあるから、そういうふうなモラルはやつぱり普遍的じゃない。だから良心が普遍的じゃないといわれるんじゃないかと思うんです。全部とはいへませんがどこかで良心が変わつてきていると思うんです。

佐藤 お話を伺つてますと、ますますわからなくなりますが、良心をはかるものさしはありますか、なかなかむづかしいと思ふんです。私考えますのは、勉強して社会的知性を身につけたらば、していいとか、これは社会的良心に基づいた行為であると思ふことをまず行動に移すことじゃないかと思ふんです。

本重 本間さんのような形で社会になつていくという良心は、いい良心、新しい良心だと思ふんです。そうでない良心の生かし方も多分にあるわけでしょう。たとえば自分は不幸だという人がとつても多いと思ふんです。その不幸感から出発して宗教に入つていき、そこに自分よりも不幸な人がいた場合、その人たちはどこで、私はいいことをしたという形の良心という問題、これは本間さんのような良心とはだいぶ違つてくると思ふんです。本間 この良心の普遍性にたよつて戦争を避けたい、といつも思ふんです。ユネスコ憲章ですが、人の心に平和がある、そこに私た

し群衆の一人々々が、自分はそれなりにしあわせだという考えを持つていないから、やはり社会的良心として発展していかないんじゃないかと思ふんです。だからそれを阻害しているものを何かという、ハッキリいへば、個人、自分一人々々がしあわせでないからというふうにいへやしないかしらと思ふんです。

志満津 先生はさつき、追ひ詰められたときに良心の源になるとおつしやつたように思ふんですが、社会的良心をみんなが同じ基準で考へているかどうか問題だと思ふんです。宗教の問題にぶつかると思ふんです。その根本的な良心を判断するときには神に對して悪いと判断されるから悪いとか、いいとか、というふうに決める、そういうものがあるのはいいか悪いかわかりませんけれども、たとえば欧米だつたら、そういう宗教的な基準があつて良心の判断が、どこかで一致してゐるんじゃないかと思ふんです。日本の場合、おばあさんなんかよくそんなことすると神様のばちが当たるといいますが、みんなの考へてゐる神様が、てんでんばらばらでどこか根本的に食い違つてゐるものもあるんじゃないか、と思ふんですが。

小松(リーダー) ヤオロズの神々もあるように、ヤオロズの良心もあるんじゃないかということですね。

蘇武 それでいいんじゃないでしょうか。

本間 良心は共通的、普遍的なものじゃないかと思ふんです。たとえばアメリカの良心、日本の良心、新潟の良心、東京の良心とは同じものじゃないかと思ふんです。一本同じシンが通つてゐるとすれば、普遍性のあるものじゃないかと思ふんですが。

大久保 地方会議でもお話しが出たんですが、社会的良心というのは自分と自分以外の人間関係において生まれてくる、うまくやつちの願いをこめて、世界を破壊状態にしないように持つていきたいと願つてゐるわけですね。

小松(リーダー) 良心の問題が非常にむづかしいところに来たわけですね。鈴木さんがぶつちやつたからね。(笑)

鈴木 私たちが子供に残していけるものは、平和しかないと思つてゐます。私は子供に絶対に遺産を残してやるつもりはありませんが、平和な社会を残してやると、それだけが願ひです。そこを良心を持つていこうと思つてゐます。

小松(リーダー) この問題はきよりの最後にもう一度取り上げたいと思ひます。

もう少し具体的な教育の問題から考へてみましょうか、どうですか。

関 話がそれるかもしれませんが、選挙のことになつてゐるんです。知事選に關して、地方新聞にある党の党首が、幹事長を通じて、わが党の党員が当選したときは、岩手のために協力を惜しまない、というみやげ話にもつていつた。というような記事が出たんですが、そういうこと自体がスツキリした正しい良心でもつて政治が行なわれているかどうか疑問を持つわけですね。

小松(リーダー) その疑問はどういう形で起こるんでしょうね。関 やつぱり社会的良心が、政治的良心にまで発展していけば、すばらしいことじゃないかと考へるんですけれども。

若山 農民は比較的現実的のものを認めるんですね。けつぎよく先生がおつしやつたように、筋立ててものを考へていくということが、知性としたら教養がなくても、疑問にぶつたときには、知性というものが養われると思ふんです。たとえば、私の場合お乳をしぼつてゐるんですが、どうしてもいまの乳価では生

活は成り立たない、ということがハッキリ出てくるわけですよ。だからそれじゃ乳価の問題をどこへひっつけていつたらいいか、大きな資本家が押えていますから、なかなか私たちの声は通らないんです。けつきよく政治にたよるより以外ないと思う。そこに私たちの知性というものが目覚めるわけです。そういう知性に伴って社会的良心というものが私たちにも出てくると思うのです。勉強して自分たちの生活を筋立てて考えていくと、生活をよくするために、選挙をもつと真剣に考えなければいけないということとを最近になって初めてわかったわけですよ。でも公明選挙といわれていますが、果たして公明選挙がどういふことかということも実際にはみんなわかっていないんですね。そういうことを社会的良心の上に立つて勉強していこうじゃないか、というところまできているわけです。

関 やはり偏見的な政治は好ましくない、それで疑問を待つわけですよ。

安倍 いままで女はすべて男のえらい人にものを頼っていました、それではだめだ、どうしても自分たちの願いを聞いてもらうには、自分たちの代表を出して、ということ、私たちのほうでいま県議員に女の方を出して運動をしているわけです。

小松(リーダー) 是非善悪のけじめは自分が最終的に決める、それと同じように知性は自分が持つものですね。ほんとうかうそかということを経験的に決めるのは自分が決めるものです。あることをえらい人に頼むというのではなくて、政治の問題でもなんでも最終的には自分が判断する、そういう姿勢がなきゃいけない。関 自分がやろうと思うことを自分の代表を出してもらおうのてなければほんとうじゃない、それに困難があるけれども、その

小松(リーダー) 人間としての立場に敵するのはお風呂屋がいちばんいいということですか。(笑) 立石さん、僻地教育の問題でいろいろあるでしょう。

立石 たった三百円ぐらいの交通費の問題で、お母さん方がワイワイ騒いで、何回も何回も町のほうへ、その三百円よりもっと高い交通費を使ってお願ひに行つて、ようやつとかも得た交通費が、町のほうの財政が困難だから取りやめにするとか、出してもせいぜい四〇円しか出せないというんですね。私たちが町の財政では無理だというのはわかつているんです。それで県とか国が半額ぐらいでも負担してくれたら町のほうもハッキリした態度がとれるんじゃないかと思うんですが、その金を捻出するために国民の税金がそれだけ上がる、自分たちの税金が上がつては困るという反対の立場の人が大ぜいいるということに気がついたわけですよ。やつぱり社会的良心というものは地域によつては通じないというところもあるんじゃないでしょうか。

小松(リーダー) なまじ知性が良心を押さえつけているとわからなくなる、そのわからないというのをもう少し話してください。立石 皆さんのお話を聞いているうちに、私の言つてゐることは間違っているんじゃないかと思えてきたんです。

小松(リーダー) 間違っていないと思いますけどね。佐藤 いまのお話に關係しますけれども、私のほうも町が隣の村と合併して、中学が一枚になつたわけですよ。そうすると十二キロくらい遠くから来る子もおりますので、初めは自転車などで通つていたんですが、町当局がバスで通うようにしたんです。ところが一人千円ぐらいかかるのでたいへんなんですね。それで町のほうから、遠くのまうの子供にはバスをくらの補助があらうわけですよ。

困難に打ち勝つところにほんとうのものが出てくるんじゃないかと思うんです。

田中 社会というときには、家族とか部落とかを離れて、アメリカ人だろつと、イギリス人だろつと、それから皆さんも遠く離れてきておられるわけですが、みんな一國一城というものを捨てて、人間同士であるという立場から良心というものを考えていきたいと思ひます。さきほどのお話の原爆の実験で、そこに原住民がいるという問題も、人間として平和を考えるとときにはぶつかるわけですよ。私たちのほうでは戦争によつてはほんとうに被害をこうむつた人がないんです。京都は爆撃を受けまいし、農村でしたら戦争で太つた人が多いわけですよ。そういう人が、戦争に恐れはいのち、ということをしはしばしばいうわけですよ。戦争がどんなに恐しいといふことを切実にわかつていない。人間同士としていたわりのあつて生きていく、それがいちばん最低の良心だと思ひます。がそういう目覚めすらない人たちが大ぜいいるということを皆さんに考えていただきたいと思ひます。

鈴木 選挙とか政治に關するPRの形として、私の友だちの学生がやつてゐるのを紹介しますと、お風呂へ入つてゐるときはみんな何も考えてないし、何をしゃべつても黙つて聞いてくれるというんですね。それで銭湯にいくと一人カネをつかまえて、(笑)徹底的に、なぜ学生運動をしなきゃならないかとか、安保問題のときにはなぜこういうことを切実に考えなければならぬかといふことを話をするわけです。そうするとまわりの人も聞いてゐるというので、とにかく毎日やり続けてゐるというんです。その話を聞いて私は感激して何かそういう方法を考えたいと思つてゐるんです。

立石さんのほうのお話も、もう一度お母さんたちが運動を起こして、町からバス賃の補助を受けられるように、村会議員さんを動かかし、もし取れなかつたらそういうことに關心のある町長を出すような運動をするのが社会的良心じゃないかと思ひます。

小松(リーダー) 人のお子さんも自分の子供と同じように考えなきゃいけないわけでしょう。僻地の子供さんも都会の子供と同じように教育を受けられるように、それをじやまするような条件はやつぱり排除していかなければいけない。

若山 私はこういう話を聞いていると、ほんとうに嬉しくなるんですね。けれどもそれをこれから村へ帰つて、てんびんかついだり、牛を飼つたり、畑へ出ているおばさんたちに、どうやつて話したらいいかと思つと、嬉しいと同時に悩みを持つんです。私は昨年NHKの家計簿のときに入選して一回出てきてゐるんです。また今年続いてここへきたということで、なんかもすとい扱いをされてゐるわけです。新聞にも名前が出たので、女優みたいな名前だからいいんだろつ、運よく名前のいいところへ嫁に行つて、と、それくらいに思われてゐるんです。(笑) そういうおばさんたちに、社会的良心はこうだなんてことをどうやつて話したらいいか、婦人会の集りで話したつて馬耳東風ですよ。ほんとうに切なくなつて、嬉しいと同時に涙がでてくるような気がするんです。

鈴木 私も同意見です。そんなことはおうちのことと両立せんわなといふ考え方なんです。あんなところへ行く人は口ばかりで、家のことなんか何もやらん人だと思ひ込んでゐるんですね。やつぱり地域へ帰つてのPRには、なんとなく抵抗を感じて惜しくなつてゐるんです。

安倍 立石さんのお話ですが、けつきよく私らの出している税金がどう使われているかということに勉強するのが大事だと思ふんです。税金が上がって僻地の人でも平等に教育を受けられるような政治にしてみようのが価値ある使い方ですが、日の当たらぬところへしわ寄せになつてゐる。みんながそれぞれに感じて持つてゐるんですから、遠慮なしにおつしやつていいと思います。税金のことまで考えていたら何もやれないんじゃないかと思ふんです。税金の問題で地方財政法とか地方財政法の一部改正とか、理科教育振興法、そういうふうなものが出ていますが、私たちがは全く絵に書いた餅に等しいわけです。もちろん財政が貧困だということもあるでしょうが、そういうことでますます学力差も大きくなる、こういう問題を解決しないで学力テストとか、子供にしわ寄せが一度に行つてしまふ、これも親として涙が出るほどなんです。

それから教育の問題なんです。戦前は国民として訓練されてきたわけですが、戦後は社会人として横のつながりを深めたような教育をされて、しかも最近みんなの飛びつくようなスローガンで人づくりだとか、道徳教育ということが呼ばれていますが、上のほうからの押しつけで個人の意思を無視するような、そういう面があるんじゃないか。そういう個人的な良心が失なわれていくような懸念がある、という感じを持つてゐるんですが。

太久保 私の地域で中学校が統括して、小規模な中学校でしたのでそれを機会に合併して、中央に集めるということになつたんです。そのとき地域のお母さん方が子供の通学に不便になるから困るというわけです。八キロぐらい離れておりますので、お母さん方の気持ちもわかるんですが、小規模学校で、教科担当の先生もそろわ

ないとその人が世間でいろいろ苦労しているということになれば、ますますその傾向が強いわけです。はたの人が感動していると、なんとおめでたい人間だろう、と見たくなる。もう一つ別の言葉でいえば働きかけを受けた場合、われわれは窓を開き、一つの壁という形にして相手の働きかけをはじき返して、こうという動きをするものだと思う。一人々々の人間が、働きかけを受けた場合、壁になる傾向を持つてゐると思ふんです。

壁について、もう一つお話しをすると、人間が生活をする場合に、夫であれ、妻であれ、社会関係にはいるんじやないかがあるわけですが、これのしきたりが一つの動きにくいものになつてゐる。たとえば夫婦の関係にしても、一つの社会のしきたりとして、夫婦の関係があるわけですが、それは変えようと思つてもなかなか変えられない。たとえば若い人が結婚する場合を考えても、いろんな連中が出てきて、だれの結婚やらわからないものになつてしまふ。その中に社会関係の重たさがあると思ふんです。そういう動きにくいものの中で生きながら、働きかけを行なうというのが社会的行為です。だからこれはもともとよくいくなんて思つてゐるのがおめでたいのだ、うまくいつたら天祐助神だと思つたほうが社会的行為というのはやれるんじゃないかと思ひます。その中で社会的良心、社会的行為との関係を考える、良心に基づく行為は、損を承知でやる、動かしにくいということは百も承知でやる。しかも動かしただけは成功だと思つちやいない。これに相手も唯々諾々として動く場合は待たなきやならない。相手が独立の人間として成長していくまで……。それが社会的良心です。社会的良心に基づく行為は、ごく簡単なことから大事なことで、問題にしようとすれば、しんどいことです。——そこで

ないし教育効果が上がらないということから、私は中央に行くことは賛成だつたんです。ところがうちには在学する子供がいなかつたので、そういうことをいうと、自分の子供が行つてないからと非難されるのはいやで、住民大会にも行かなかつたんですが、なんか良心がとがめるような思いをしてゐるんです。そんなことがよくあるんじゃないでしょうか。人から何か思われるのはいやだから黙つていたほうが得だというふうな……。

小松（リーダー） いろいろ御意見もあるようですが、四の社会的良心と社会的行為との関係へ移りました。きのうからいままでだいたひ確認できたことは、われわれの良心といわれるものは、行為の中で確立されている。芽ばえはどこに出てるかわからなけれども、それが一つの良心として形づけられるのは行為の中だ、その場合社会というものは、われわれが働きかけをするときに、大なり小なり妨害であり、抵抗物だ、こういうことについてお話ししたいと思ひます。行為というのは相手に対して働きかけるわけなんです。こういうふうに出れば相手はこり出るだろう、このボタンを押せばこういうふうに出るだろう、というように相手を物として見ていくわけです。ところが社会的良心に基づく行為は相手を独立した人格として動いてもらわなきやならない、だから働きかけの行為に矛盾がある。これは働きかける立場から見ただけですが、働きかけを受けるほうから行為というものをみると、だいたひの人間は相手の出方を見るわけです。その際に働きかけられた場合その指示通り動くのはよほどどうかしているわけです。いちばんいい例は「私、あなた大好きなんです」ときたら、それで「私も好きよ」なんていうバカはないでしょう。相手の出方を見て、重りを下げて、自分を動かさるべく存在にしようとする。

一つ考えてみましょう。

関 私はPTAの社会活動をやつていますが、何を実行するにも、運営上、いろいろと壁にぶつかるわけです。たとえば理科設備とか、そういうものをやるにしても批判がありますし、何か事業を起こす場合、いつしようにけんめいやるわけですが、あるとき購買部の問題で、前には空ビン回収で四万とか五万とか、金をもらっていたんですが、文部省基準まで達するには、二百万以上の金が必要だし、恒久的な方法をとらなきやだめだということで、購買部をやるということに委員会できまつたわけです。ところが、いざ実行しようとしたら業者の反対という壁にぶつかった。発言した私が批判を受けたわけです。ところがそれが逆効果になつて、町から文部省基準の百パーセントに達するようなお金をいただくことに成功した、という場合もあります。いろいろそういう目にぶつかつてみなきや物事はなんにもできないということをつくづく感じたわけです。

小松（リーダー） ボタンの押しどころがよくて成功されたほうですね。

関 障害となつたのは、むしろ男の方です。女の方のほうがスツキリして、私はこれから女の人を代表に立てたいと思つてゐます。小松（リーダー） 田中さんは、なんかあれに囲まれてゐるという書き出しだつたですね。

田中 豊村というところは、自分の地域以外に目を向けるということがないんですね。ですから非常に視野が狭くて、考え方も固定してゐると思ふんです。そして自分自身で考えて下から盛り上げていくというところがなくて、上からおりてくるのを待つてゐるという多慮なんです。選挙のことでも、選挙の二、三の有力者が推

薦して、それが下へおりてくるわけです。するとみんな有無をいわずにそれに参加してしまう、もしもそのときに一言でも異議をはさめば、いろんなことがかかってくるんですね。私の場合、よそからそこへ嫁入りしたものですから、自分としての考えを、人の前でも言えますし、ちよつともこわくないという感じがあるんです。相手もそれを見抜いて、私に直接言わないで、それを子供や年寄りにかえる、私はそういうときに、男とか、女とか、またその男は、どこのあるじやから、ここのあるじやからという考えでなく、さらに、どこに生きていようと、同じ人間として生をうけたんだから、人間同士の話という立場から出発してもらいたいと思うんです。それは切実に感じます。

関 さきほどの業者の問題は、生活権を脅すことになりすから、そういうような問題を取り上げる場合は、やつぱり相手の身になつて考えてみなきや、私のやつたことが正しいとばかりはいえないわけです。私にとつては非常にいい勉強になつたと反省しているわけですね。

本重 私が書きましたのを申し上げますが、ソ連に行かないかというお話があつたんです。私をはじめ親族のものがみんな私に、赤くなるからよせ、というんです。それから妻が夫のかせいだ金を使つて外国へ行くとは何事か、と世間から攻撃を受けました。妻と夫は、お互い平等であるという考え方からいへば、それは排除できる。赤くなるという問題も、相手を恐れるための劣等感のはね返しだということもわかつています。ですから私は、そういうことはなんでもないから行つちやえと思つてがんばりました。そうしたら最後に夫が、「行くなら行け、そのかわり離婚だ」という、全然次元の違う問題をもつてこられた。私はそれまで、自

憫みが生まれてくると思うんですが、そこまで自分の良心を追い詰めて、最後まで余裕をもたせていくなら、私どももつと解放的でらくなる、純粹に生きられると思うんです。

本重 赤くなるとか、妻は夫に従うとか、これはすでに常識化されているでしょう。良識じやなくて、常識ですべての物事が運んでいくことに反腹したというか、異論をもち出したわけです。

本間 行くほうがいいという判断は、御自分だけでいいと思つたわけですね。

本重 そうですね、最終的には。

本間 人はいいと思わないわけですね。婦人会なんかでも、「いいんだ、いいんだ」という人がいると、「あなたがいいと思うだけです」という反論が出て、それで事がうまく運ばれていく、いいという判断をあなただけがなさっているようなところが、何かないでしょうか。

本重 良心は行為を伴わなきやならないという問題が昨日から出ておりますが、私がいかに良心があつても、それを行動に、実践活動として移し得なかつたところにある自分の欠陥を認めざるを得ない。古い良心と新しい良心といったような形で、どつちがいい悪いの問題じやないような気もしてくるような気がします。

安倍 いまは家庭の中の壁ですね。結局、自分一個の利害に結びつけてやるということは、良心に反したことですね。自分のやるうとして行ないが社会的にいいことで、それが自分にみな戻つてくることである。それはしつかりした信念と勇氣があつて、みんなを納得させるだけのものがあればいいと思うんです。私のところの地域でも、はじめは文句を言いましたが、一年半もやつているうちに、私も少しお手直ししましたよ、という氣持が

自分の良心に訴えて正しいと思うことを主張してきた。それは個人的良心の追求という形でやりましたけれども、でも家庭と社会とどつちが先かと考えていくと、またむずかしい問題になりまして、結局民主主義という立場にライトを当ててみると、少数意見が正しくても大多数に従わなきやならない。それが大衆運動の基本である多勢に無勢の私のほうが意見をまげなきやならないことになつて行く前の日になつてやめたという経験をもつておりますけれども、私が言いたいことは、赤くなるからとか、妻は夫に従うべきだから、という考え方自体を、行く行かないの前に話し合うべきだ、というようにすることも主張したんですが、そういう話もできずに、その場、やめてしまつた、そういう個人的良心と社会的良心と、ものすごくへだたつていた場合、一つの問題になると思ひます。

田中 御主人と意見が食い違つて、なんとか話し合いをつけようとしたけれども、どうしてもやめなければならなかつた理由はよくわかりません。けれども、出発の前日になつてやめたという事実は、社会的良心——社会という立場から考えたときには、多くの人に迷惑がかかるんじゃないか。もう少し早く決断をつけるべきじゃないでしょうか。そういうことも社会的良心につながつてくるんじゃないかと思うんです。

本重 個人的良心の立場をさきにとりますと、そこまでいかなきやわからなかつたということもいえると思うんです。

田中 社会の一員として暮しているときにそこまで個人的良心というものををつきつめていくことがはたしてよいか悪いかな。そういうことをつきつめていつたら、もつと自由に考えて、自由にふるまえて、らくに暮せるだろうと思うんですが、それができないから

だんだん出てきた。長い時間かけてやれば、自然のうちにみんなの心に芽生えてくるんじゃないか、それが社会的良心の大众的な芽生えじゃないかと思ひます。

小松(リリーダ) 壁の厚さは、ほとんど全国的な規模の厚さですね。ぼく自身の個人的な経験から言つと、松川事件は、ぼくの親戚のうちのそばで起こつていふんです。やつていふ人のおやじさんなんか、ぼくのうちに勤めていふ人です。ぼくはこの事件はおかしいなと思ひ、けれどもおかしいということとはなかなか言えないんです。検察側が無理してると言つと、赤だというわけです。

松川事件についていろいろ書いたりしましたが、それはこの七、八年です。その前は、あなたの出世の妨げになるとかなんかいう、下手すると刑事がやつてくるんですよ。それはやつぱり本重さんの氣持はよくわかるような氣がする。実際は皆さんがソ連にも中共にも自由に行つて、現場を見てくるんですよ。直接行けなかつたら、信頼できる代理人をやつて、ソ連がどうなつていふか、アメリカがどうなつていふか見てくる。たの意図じや、本重さんの決断は非常にうまいと思ひ、けれども、それをあえてやろうと思つと、すごい壁があるわけで、そういううんと厚い壁から比較的薄い壁まであるわけで、厚い壁についてもここで討論しましょう。しかしそれよりは薄いように見える壁についても考えてみたらどうでしょう。

本重 薄い壁としては嫉妬とか、そういう問題も入つてくるわけですね。婦人会あたりの問題はそういうことになるわけじやあございませぬか。

若山 私は農村にいたるだけに感じるわけですが、その壁を破るには、自分の後進だけでなく、家族にも及んでくるんですね。どうい

社会的良心に基づいた行為をすることに対して、いろんな抵抗がある。その抵抗を破るためには、ある程度うちものも、子供も部落から八分目で見られる場合もあるわけだ。でもそういう壁を破っていくべきかという疑問は感じます。進歩的な行為をするためにはやむを得ない壁がある、それを破っていく力を教えていただきたい。

小松（リーダー） 壁を破る力ですな。——大久保さんどうですか。山形の農村地区のお嫁さんのお話ですね、農村の嫁の問題、家族制度の問題……。

大久保 私は八年ぐらい保健連絡委員の仕事をしていて、二十才から三十五才までの百八十人の農村の若妻の産前産後の実態調査をしたことがあります。よく、いまの嫁は仕合わせになつたものだといいますが、それと、無記名の調査によつて出たことの間に、相当の開きがあるんです。調査項目は二十四に分かれ、睡眠時間、お昼休みの時間、産前の休み、産後の休み、夜は自由に過ごせるか、その他何か問題があつたら書いてくださいといふところに、自分の子供は自分の考えを入れて育てたい、それから夜だけでも自分の思うように自由にすごしたい、一日のうちわずか三十分ぐらいでもいいから、ゆつくり休む時間がほしい、というようなことをつたない字で書いているお嫁さんが多かつたんです。よくなつているとはいつても、正面切つて争わなくても、家庭の中にそういう空気が流れている。人間尊重とか、個人を認められないで、努力として暮しているのが実情のような気がしましたので、折にふれてそのお話をしますけれども、なかなか解決策がありませんので……。

小松（リーダー） 農村のお嫁さんは万年二等兵のようなものです

田中 いまの嫁はPTAにしてもよう出ていくし、大したもんや、ということをやよう聞くんですが、やつぱりお年寄りのほうがいばつてい

大久保 赤ちやんの離乳食の講習会なんかには、世間体がありますから、お嫁さんを出すことは出します。八〇%ぐらい来ますが、その講習会で習つたことを実際にうちでできる方は、十人いないんです。

若山 私は田中さんとはちよつと違つてい

小松（リーダー） 好きでもない人とですか。

若山 親同士でできた話なんです。私たちが話し合つたときには、すでに結婚の取り交わしがすんでいて、私は、ことわりにつたんです。世間体があるからということで、私も意思が弱かつたので、ズルズルとお嫁にきてしまつたんです。ところが農家の生活に入つてみて、こんな生活を死ぬまで続けていくのか、取り返しのつかないところへ来てしまつたという後悔が先に立つて、いまの自分をどうしたらよくなるかという考えが浮かばないくらいびつくりしちやつたわけなんです。いまの人だつたら一月でも二月でも、気が合わないからやめましよう、と別れることもできますが、私たちの時代にはそんなことはできませんから、いやだいやだと暮しているより、よくなる暮しにしよう、ということを考えて出したのが、一つのめどだつたんです。そのために、どういうふうにしてきたかという、主人に対して従順であることが、

ね。

田中 私は現実には農村のお嫁さんになつたわけなんです。ほんとうに牛や馬と同じで、結婚のときに、お母さんが一軒ずつつれて歩いてよろしくと頼むわけなんです。そのとき、なんて返事をなさるかという、このたびはよいお手間をもらいなさつて……というんです。牛や馬と同格なんです。それを聞いたとたん私は涙がこぼれました。いまでも結婚式なんか招かれて行く度に母に「きよりなんてあいきついたらいいですか」と聞きますと、「よいお手間をもらつて……」というんです。このごろ若い人はそんな考え方はなくなりましたけれども。

私は三年間つと日記をつけて、労働時間の統計をとつてみたら、八時間労働は一年で七月、八月の二ヵ月だけ、あとは十六時間から十八時間労働なんです。立ちどおしでする時間が全然ない、休むのでも、お母さんが「休もうか」と声をかけてくださつたらはじめてあせにでも腰をおろす、そういう生活が現実についているわけなんです。私どものところでは、四十過ぎては嫁という人がたくさんいます。さいふは年寄りがギユツと握つていて、一個の卵でもかつてに食べられない、お米一粒どうすることもできない。そんなところで、社会的良心をどうしよう、こうしようと思つち出しても、耳をかすひまもない。自分の子供を育てるにも、年寄りの発言が非常に強く、それをね返して、自分の意思で好きにやうに育てることはできないんです。着るものから、世間にはそんなの着ている人ないのに、かつこう悪いとか、色でも男色、女色と分かれてい

小松（リーダー） 老人専制の国ですね。

農村ではいもばん美しい行為だつたんです。それがひとつの個人的良心であるから、従順になる、理屈を言わない女になつて、とにかく自分の生活を見つめよう、ということとを二年ぐらいがまんしてやつたわけなんです。そのときに、ただ従順であつてはいけな

佐藤 島根県でも、手間をもちろむという感じで、みんなお嫁さんをもらっていたわけですね。最近では農家も耕種機なんか入って、らくになりましたし、ほとんどテレビやオートバイを持つてますね。冷蔵庫はそれほどありませんが、洗たく機はほとんど備わって、昔のお嫁さんとはだいぶ違っているように思います。ほんの結婚したてのお嫁さんは別ですが、三十代のお嫁さんが、ほとんど家庭を切り回して、おばあさんのほうが少々小さくなつて、不平を言つたり、グチを言つたり、という状態の家庭が多いようです。

本間 老人に対するいたわりのような形として、敬老会をこの婦人会でも積極的に取り上げていると思うんですが、年にたつた一回だけそういうものをおやりになるのじやなくて、老人に対する私たちの良心みたいなものを働かせること、たとえばお嫁さんたちに対する理解を深めるような学校をもつとか、老人自身が非常に生きていくことが楽しい、というようにすれば、お嫁さんはいじめる封建的な老人もだんだんなくなつていくんじゃないでしょうか。年中を通じて、老人に対する私たちの良心の向け方を考えたいかがでしょうか。

若山 利口になつたといつても、おしゆうとさんたちをしいたげるような、はき違えた利口というか、そういう嫁になりたくないと思うんですけれども、やつぱり知性の問題が大きく浮かひ上がるような気がします。

江守 壁の問題の一つとして、おしゆうとさんとお嫁さんは年代の相違からものの考え方が違つてくるのは当然だと思ひます。違つたもの同士が近づいていくには、話し合いが必要になつてきます。私たち、五、六年進つても少しズレがあるんです。若い人た

ちは現実をよく見ておられる人たちからその知性を受け取り、そして年配は私たちの理想というものを受けとめて、常に新鮮さを持ち続けるということが大切じやないかと思ひます。

田中 年寄りをいじめてやろうという悪意は全然ないのですが、私は、父とちやうど倍ぐらい年が違ふわけですね。五つや六つの違いだつたら、どこかみ合うところがあるんですが、倍も違つたら、全然平行線というか、山に登るのに、おしゆうとさんは裏側から、私はこつち側からという感じです。お互いに非常に良心的に暮しているけれども、やつぱり共通したものが生まれてこないということとは考えていかなければならない問題だと思ひます。前向きとかうしろ向きとか、いろんな形の良心というものをそれぞれにもたれているというのを考えると、同じ基本線の良心であるならば、なにが共通したものが見出せる、それに気がついたときから自分の生活を切り開いていくということに熱意を見出だしてやつていけるんじゃないかと思ひます。

それからマスコミも、盛んに農村のお嫁さんの不幸なことを報道する、同情しすぎて、かえつて立ち上がる機会がなくなつて思ひます。自分で立ち上がつて、嫁の地位を獲得して、こつちやつて一週間も東京へ出てこれるような立場をつくり上げた人間もあるんだということも報道していただきたい。

小松(リーダー) 手間から人間へとね。

田中 手間から人間へと発展する、その努力を惜しんではいけない。そのために手をつなぐことは大事だけれども、一人でやれることは一人でやるべきだと思ひます。はじめから、何もしないでいて、手をつなげるものじやない、ある程度、自分でやれることはやつて、というふうと思ひます。

鈴木 いまの、年寄りといふものはどこまでも平行線だ、裏道と表

道を登つていくようなものだといふお話でしたが、私のうちはそうじやないんです。私の祖父は、いま生きていけば九十五、六です。八十五で亡くなりましたが、その祖父がちつともズレがないんです。何の話をしてもよく理解してつてきます。どうしてかと考えると、やつぱり知性の問題じやないかと思ひます。若いときにうんと勉強しているんです。仕事の面でもありとあらゆることをやつて、それを一つもむだにしないで、自分の知性を磨き上げてきたから、いろんな社会の変化に応じていける頭になれたんです。ですから私も、若い人たちについていけるほどのものを自分自身が吸収してもつていかなきゃいけないと思ひます。小松(リーダー) このごろの若い人は、知的には年寄りですよ。

大学卒業しちやうと、もう知的な野心をもつてない人が多い。その意味では、あなたたちのほうが若返る可能性があると思ひます。知性というのは、だんだん若返ることができ、何も薬を使わな

いね。本重 若くして革新で、年取つて保守にならないのはおかしいというようにいわれているそうですが、年を取つていくから古い、若いから新しい、こういうことはいぢがいに言えないと思ひます。十代の世代とか、そういう分け方をしないで暮していかなきゃならないと思ひます。古いものは、この古さをどうして解決しようかという楽しさもありますし、古い人があるの、私たちもおもしろく生きているような気がします。一つの既成概念として、私たちがものを考えたり、人に対したりする、ということとは除いてみないやうそじやないかという気がします。

小松(リーダー) 本重さんのおつしやつたことは、午後引きつ

ぐことにして、オブザーバーの方に感想を述べていただきたいと思ひます。ミウロアの町田さんから一つ……。

町田(特オプ) 昨日に引き続き、皆さんの話を伺わせていただいて、私は東京でしか育つておりませんので、いろいろ参考になりまして、たいへん勉強になつたと喜んでおります。

老人の問題でございますが、話し合いということがどんなに大事か。それからお嫁さんがえらくなつて、老人が置き去りにされたような形も出ましたが、そうでなしに、老人たちも話せばわかるのだし、どんなにわからないお年寄りでも話すようにしてつて、ともに引き上げる努力をしたい、ということを感じました。

それから大なり小なり壁があつて、その壁を破つていくにもいろんな障害がありますけれども、人と話をする場合にただ人を物と思ひのではなくて、何か一つの共通点を見出だすということが非常に大切なんじゃないか、思想、立場の違う人でも、たつた一つの共通な話題でも見出だせば、話し合いのきつかけというものができていくんじゃないか。そんなようなことを感じました。

小松(リーダー) ありがとうございます。じや西村さんお願いします。

西村(特オプ) 新しい農村づくり、グループ活動、子供の教育について、御熱心な、実践を通じてのお話を伺つて、戦場に働くものとして参考になりました。人間同士尊重し合うことが基本だ、国家とか地域とか、いうものよりまずそれを確認したい、そこから出発したいというお話があつて、そのとおりでと思ひますが、現代の社会においては組織の力は大きなもので、それを通じて社会が前進していると思ひます。組織の中でいかに人間を生かすが、いちばんの課題じやないかと思ひます。

私は職場にありますが、組合にも、弱点はありますが、常に、なぜ組合を作ったか、個人が幸福になるためだ、という最初の目的に立ち返って考える。そのためには指導層のPRが大切だということもよく感じるわけです。

それから、非常に画一的な人間を企業が求めている。その中で人間としての抵抗はむずかしいわけですが、それに押し流されてしまつてはいけません。組織の中で人間の主張をしていかなければならない。それは農村地域の皆さん方と同じ課題だと思ふんです。さきほど京都の方、長野の方からお話が出ておりました。遅れた農村の中に入つても、まずまわりに信頼される人間になつて、そこから自分の意思を反映していつて、生活を改善していつたということは、私も非常に共鳴するんです。職場の中、労働組合の中でも同じことが要請されていると思います。それから良心の問題で、女性のほうが男子よりも鋭い批判眼をもっているというふうなお話でしたが、職場の中でも言えると思うんです。日本の場合、男子は一生一つの企業に勤めるのが一般でございす。企業からは出すと賃金も低くなる、そのため男子は批判をもつていても、それを実践にまでもつていけない弱さがあると思ふんです。その点、女性のほうが鋭い批判をもち、また行動に移しやすい立場にある。しかし女性の場合は、女性らしくないとお嫁にいけなくなるという社会的な因習のとりこにまづいてお嫁にうらみがあるわけです。女性の私たち自身鋭い目をもつて職場で地域で、みんなといつしよに手を取り合つて、よりよい社会をつくつていきたい、そのように感じます。

小松（リーダー） どうもありがとうございます。

いちおう午前中は最後の、社会的良心と社会的行為は、けつき

四月十一日

第三部会

（午後の部 I）

よく、こういうことになつたんじゃないかと思ふんです。良心に基づく行為というものは不屈の忍耐がまず必要だ、へこたれてはだめだ、まわりから信頼を受けるような実力をやしなわなきやだめだ、それから組織の問題でも、一人でやれることは一人でやる、だれか手をたたく相手がない間は動かないというのはまちがいだ。組織をつくつていくためには、こういうことを考える必要がある。自分のもつていっている悩みは決して自分一人だけのものではなく家族にも悩みがあるはずだ、悩みは共通だ、こういう考え方というものが基礎にならないと組織というものは作れない、そういう組織を通じて行為をするときには、われわれの行為というものは厚い壁もある程度破ることができんじゃないか。——ここで次の、良心を眠らせないためにはどうすればいいかという問題に続くために、組織と良心の相互関係について、組織はわれわれの、ともすれば眠ろうとする良心をさましてくれる、こういう機能をもつていられないか、しかし他方また組織は逆に良心を眠らせてしまふ、良心の成育をチェックする機能ももつていられないか。たとえれば教会は神に対する誠実な信仰を絶えず奮い立たせてくれる役割もしている、他方においては優性になりますと魂のない信仰も生み出す役割をしている。組織にはそういう二つの問題があるんじゃないか。そういうことで午後の問題をやらうと思います。

-178-

小松（リーダー） 午後の問題は、社会的良心を自覚めさせておくにはどうすればいいか、ということですが、極くの結論としては、良心は重荷で、われわれはなるべく放棄したい。またしよつちゆう良心が自覚めていたんじや身もたない、そういう面もあるんじゃないか。しかし他方、人間として生きていくためには、鋭い良心をもつていなきやいけない。その鋭い良心というものは、同時に鋭い知性というものを伴つていなければ、良心自体が非常にやせ細つた独善的なものになりやすい、こゝろこがいますので議論で、いちおう共通の意見になつております。それを前提とした上で、じや良心はどうしてかくもわれわれにとつてやつかないものなのか、また良心が眠り込むことはいけないとは思ひながら、気づかないうちにそちらを選んでしまふのはどうしてか、裏を返せばなぜ個人的良心が社会的良心までに発展していきにくいのか、こういう問題について、考えてみたいと思ひます。

いろんな問題が出ていますが、本重さんがいちばん最後に発言された、私の良心とあなたの良心と、共通にはかれるものさしがあるか、という議論がありましたね。佐藤さん、ひとつそこからいきましようか。

佐藤 私には良心というの、ここからが社会的良心とか、そうじゃないとかというものはさしはしないものと思ひます。個人的良心はありますけれども、社会的良心が普遍的であるとかどうか、その点はずりした線は引かれないと思ひます。

関 いわゆる個人的良心は、自分一人の、こういうことはしていいとかいいとかいうことははつきりわります。社会的良心は、何か相手がなければ、自分一人でははつきりしない。やはり組織とかグループとかがなければ、そういうことはないと思ひま

すけれども。

小松（リーダー） 具体的にはさつきの教育問題、これは良心にストツプを年じるわけでしょう、それから選挙の問題でも良心の立場を買こうとしても、要するに事情というようなものをがつちりとつかまないと、つっぱねるわけにいかない、そういうところからつい良心の立場というものを差し引きしてしまおうということにもなつて参りますね。

若山 さつき先生から女性に鋭い批判力をもちながら、社会的因習、周囲にとらわれるから、壁を破ることも、社会的良心をも貫くこともできないという御意見がありました。私もそう思います。というのは、私は里親になつてみて、こう思うんです。里親というのは人の子を預つて育てるわけです。そういう人が必要でありながら、里親になる人がないんですね。そのわけは、人の子と自分の子と差別を感じるわけですね。日本人は里親になる場合、自分の子というふうな位置づけで、籍を入れる問題も、自分が将来その子に見てもらうとか、血のつながり以上に考えて育てる、それでなければ人を見ない、という考えが強いと思うんです。だから里親になる人は、子供がない人になるといわれていますが、私は自分の子供がおりますのでみんな不思議がりますね。自分のむすことして育てて、大学でも出して、子供をお嫁さんにやつて、その男の子に見てもらふんですかと聞く人があるんです。私は一人の子供が社会人として一本立てる人になればいい、そういう判り切り方で預つていらっしゃるんです。

小松（リーダー） 田中さん、あなたは人間同士であるという立場からものを考えないやいけなとおつしやいました。若山さんのいまの御意備のように、人間同士という立場に還することはむ

されば、という気持ちになるのは、理想的ですけれども、実際にはむずかしいですね、そこに問題があるんじゃないでしょうか、我妻先生のお話の中に、社会的良心に基づく行為をする場合でも、個人のプライバシーは絶対侵してはいけません、限界がある、これは大切なことだとおつしやいましたね。それから二番目におつしやつたことですが、社会的良心に基づいて、団体行動して、そのために自分を犠牲にするということになるとみんながついてこないんじゃないか、そうすると社会的良心は普及しない、と。から回りしすぎないで、みんながやれる点から考える必要があるんじゃないかと思うんです。

田中 この間テレビで、千葉大の留学生の方が、日本人は個人的に接したらとても良心的でよい方が多い、ところが公衆となつて接したときには、日本人ほど冷たい人種は少ないと話していました。そういうところにもやつぱりいまの、人の子か自分の子かというところがからんでくると思うんです。私にもそういうものがある、社会までもち上がったときには、見て見ぬふりをするのが、あまりにも多過ぎると思うんです。

立石 いまの見て見ぬふり、というところから、私のお話した交通費なんかの問題で、僻地の子供がかわいそうだから、自分たちには関係のない問題でも、助けてやりたいという気持ちを、皆さんもつていらつしやるかどうかお聞かせ願えませんでしょうか。皆さんが、そういう問題は反対だ、関係ないとおつしやられたら、それはそれであきらめて……

若山 そういう問題は私たちもありますよ。たとえばこういうことがあつたんです。プラスバンドというか、中学生の音楽会で、町から来た子供たちはどんな楽器でもこなすのに、私のほうの学校

すかしいですね。そこへんのことをお考えになりませんでしたか。若山さんはたまたまそこへいかれたけれども、そこへいかないう人がいっぱいいる。血のつながりとか、あるいは血のつながりみだいなものがなきやだめだとか、人間というものをそういう狭い範囲の人しか認めていない。ほかは路傍の石でそこへんの石ころと同じです。ほんとうの意味の人間としての情愔を認めるのは血のつながりの範囲だ、というのが普通の考え方ですね。

田中 そういうふうな制限したら、非常に狭くなつてしまふ。そういう考え方をするからあつれきがおこるのだと思う。嫁しゅうという問題でも、私は、主人の親だから私にとつても親だ、という見方をしないんです。そうすれば、親だからこうしてあげねばならないとか、私は子として仕えなければならぬというふうな義務づけられたものが出てくると思うんです。そういうところにはどうしても無理が生じて、歪められてくるものになると思うんです。私はお母さんを自分の母や思うて仕えませんが、こうして同じところから暮すようになった、しかももう一つ女であるという共通点、それによつてつながっているということを見出したから、非常にうまくいっています。それを母にもそのままつづけたわけですから、どんな石でも磨かなければ宝石にならない、それが人間同士ということにつながつてくるんですけれども人間であつたら、磨いたる磨きがいのある素質というものがあつたということも考えられると思うんです。その磨き方、方法は、女の知性で見出だしていくそして相手にぶつつけていくのだと思うんです。

志満津 若山さんとその他の方のお話を伺つて思つたんですが、自分の子と他人の子と区別なくというのは、ほんとうにむずかしいですね。教育の問題でも、自分の子だけでなく、みんながよくで

の生徒は、手をあげて見ているだけです。それは楽器がないし、教えてくれる先生が、僻地へは来てくれないんです。そういうことに対して私は、立石さんと同じようなことを考えているんですが、通学費の問題だけじゃなくて、そういう設備の問題でも私たち山間地のものはたしかに損をしますね。

田中 立石さん、私はほんとうに全面的にあつてほしいという気持ちになります。それは義務教育なんですよ。当然受けらるべき教育に、その学校の設備がどうか、先生がどうか、という問題以前に学校へ通う、お金が千二百円かかるというんです。それはほんのすこい問題だと思ひます。それは母親としてみんながあと押ししなければならぬ、僻地だけの問題じゃないと思ひます。たとえば東京都市内に住んでいる方でも、自分の子供が義務教育を受けにくくするために、そんなお金があるということになつたら、どんな思いをなさるか、三百円ぐらいはわずかとはいえませんが、農村なんか月に三百円、子供のために余分のものがいるということはずいぶん負担です。それにはもう手をあげてあと押ししたい気持ちです。大いにがんばつてその運動を展開していただきたいと思ひます。

立石 おかげさまで勇気が出ました。

小松（リーダー） 前田さん、あなたのところも炭鉱地帯で、子供の問題としてどうですが、人の子や、ということではつたりかすことはいかんでしよう。

前田 ほんとに貧しい山間地です。それでお米屋をやつておられますけれども、夕方になると子供たちが米を一キロ借りにくるんですね。お金がなくて……。ほんとにかわいそうです。その子供を仕合わせにしてあげたらと、そればかり考えているんです。その良

心というものをどうやって自覚めさせるか、中には教育熱心で、子供たちをちゃんと高校までやっている方もおりますけれども、だいたいが生活保護を受けて、あすはあすのかげが吹く主義の生活をやっている人が多いんです。東京でも生活保護を受けている人たちが多分多いと思いますが、そういう人たちの知性をもっと引き上げてやりたいと常に考えているんです。

小松（リーダー） 生活保護を受けなきゃならない、それが保護法の適用を受けるかどうかわかりませんが、十人に一人の割合です。

鈴木 前田さんのお話に戻りますが、生活保護家庭の人々の意識の低さの中に、制度の悪さがあると思うんです。生活保護家庭では大人も子供も働く意欲を失なっている。それは一日に四十円しかもらえないというんですね、いなかだつたらもらいぶろすることでもできますが、都会の人ではおふろへもはいれない、おふろへ行ったり散歩をするために少し自分で働くと、どんなにわずかな収入でも、差し引かれてしまう、それでは働かないで楽しているほうがいいということになって、子供にも労働意欲を全然持たせないで大きくしてしまふ。悪循環だと思ふんです。

小松（リーダー） 生活保護の弊害というものを知らなければいけない。そうしないとわれわれの社会的良心は次第に片寄つたものになる、知性と良心が並行せにやいかんですね。

田中 私のほうは未解放部落の問題が起るんです。部落の人たちは非常に意識が低いんですね。いまこそ大学へ行く子供もおりますし、高校へもだいたい進学しますが、就職という問題にぶち当たつたときに非常に不利なんです。これはやっぱり社会的良心、連帯責任の問題が部落外の人たちにあると思うんです。どこに生まれようとも人生のスタートは平等でなければならぬのに、生

鈴木 奈良県は未解放部落の多いところですよ。一番問題なのが結婚の問題じゃないかと思いますが、安倍さんのところは、どうなっているでしょうか。

安倍 そこまではいっていません。私のほうは一人だけどうしてもそういう壁を破らなくてはならないという方が出て、相手の方はお医者さんですか、その村へうちの娘は嫁にやるといつて、先端的な方で行かれましたが、別にそのためにやな思ひをしておりません。とにかくそれだけ理解してきたようです。そこへ行くまでが問題ですね。なかなか昔の気持が抜けず、前はどうかだつたとか、そういう気持をすっかり植えつけた上で話したがるので、けれどもこのごろは少し抜けたような気がします。

小松（リーダー） 偏見と戦うのはたいへんです、人間の立場を微しようと思つても。

江守 私は世間というものがわからないので何も言えないんですけども、お聞きして感じてたんですが、社会的良心を行為に移したときは壁にぶつかる女の社会的良心を生かして育てることをはばんでいるものは、女性自身の自覚の足りなさや壁ということが大きな問題になると思うんです。

それについていろいろ問題が出されましたが、壁にぶつかつたときにどのように切り抜けてこられたか、それが一番知りたいわけです。職場の場合、労働条件の問題は、自分たちがその運動をやればよくなるということがわかつているんです。けれども結婚前の女性ですと、家のほうから、そういうことをやると、お嫁にもらい手がなくなるとか、赤的存在視されて、行動をばむんです。結婚した人は、時間的に余裕がないということが大きな問題になります。たとえば、託児所をつくることはいいことで

まれながらにしてハツキリと差別がつけられている、私は気の毒でたまらない気持ちになるんです。けれどもどういう形で手をくだしていけばいいのかわからないところ全然わからないんです。動けば、それが家とか自分の部落、地域というものがついて歩いて、みんなまざるくなくなる。自分の個人的良心と、社会的良心とが、そういうところでつながらないんですね。しいてつなければ、ほかの人にもまずい状態が起こつてくるというよりなことが引き起こされるんです。

小松（リーダー） ついつい自分の良心を眠り込ましてね。

田中 それで知らぬが仏で黙つていけばわからんということでも黙つてしまふ。けれども子供には知らしたくない。

安倍 未解放部落の問題は、私の地方でもぼつぼつ起きているわけです。工場などができますと、移転しなきゃならないので、一諸の村に入つてくるわけです。まわりの人がいやがるんですね。いまだいたいとれましたが、ものをもらつて食べないという極端なことまであつたのです。私は婦人会にいたんですが、私の班にそういう人がいるわけです。お母さんに集まつてもらつて、年寄りと交流をはかることにしたのです。

婦人会には若い人ばかり出るの、お年寄りには留守番をしていただくわけですから、その年寄りをだいにしない問題が残るということをお話のきつかけにして、お茶とおやつをつけて部落の年寄りを呼んだわけです。それから割合にうちとけるようになりしました。またお見舞とかお祝ひとか、御香典とか、平等に一人当たり三十円とか五十円とか決めてもつていくようにいたしました。だんだん壁がとれて、とてもスムーズにみんな中へ入れて一緒にやつております。

すけれども、なにかを犠牲にして取り組まないと、時間を見つけないとできない、そういう場合にどうしたらいいのかわからないことが私の一つの課題なんです。とにかく私の持つて帰りたいものは、自覚していない人たちと、それから自覚しながらも運動に取り組むことができない人たち、そういう人たちと手をつないで、みんなの仕合せのために、住みよい社会をつくらなければならぬ、そういうふうな活動に持つていくにはどうしたらいいかという事なんです。

菅野 壁にぶつかつた場合に、やつぱりだれかやらなきゃならないんですから、江守さん自身、仲間をつくつていくことが大切じゃないかと思ひます。

江守 確かに自分がやるんですよ。けれども孤立なんですね、いま話をしましよという、話し合う時間がないから出れないというんです。その人は確かに時間がないんですよ。ですからその時間のない中から時間を見つけていくためには、どういう方法をとつたらいいのかわからない。

安倍 それは江守さんが問題にぶつかつたときに、自分自身で考えられることじゃないかと思ひます。

鈴木 雑談の時間があるでしょう。私はそれをむだにしないつもりです。地域などで集まつて話しましよと言つてもなかなか集まらない、けれども立話しなんかするむだな時間が職場でもやはりあると思うんですが、そのむだ話する時間に、ここで議論しましよという、抵抗を感じますから、共通の話題から入つて、なんとなくそんな話に持つていく。そして地盤をつくつて、捨て石をうつて、その次のときに、またその次のときに、というふうに。若山 農村で、いいお嫁さんと、悪いお嫁さんとハツキリ出してみ

ますと、いいお嫁さんというのは、良心の鈍ったお嫁さんですね。会合に行つても、何に行つても、黙つて聞いている、そういう人のほうがもてるわけです。一方いろんな会合に出て、グループ活動をしたり、いろいろなことにつかつて悩みを持ち、疑問を持つてみんな話合つていくというような積極的なお嫁さんのほうには排撃される、そこに非常に農村のデリケートな問題があるわけですね。若い人たちはそういうことに関心を持つていっているんですね。お嫁さんの来手のない農村から、いい農村にしたいという意欲のある人たちは、そういう方たちに肩を持ちますが、ある程度手配で、たとえば婦人会長さんとか、そういう人は静かな人を求めるんです。

小松（リーダー） 思想穏健ですな。

鈴木 発言のない人のほうが温和なんです。そういう人はいいお嫁さんとする。けれども良心的に考えたら、いわゆる悪いお嫁さんのほうが、いいお嫁さんなんです。そういうときに摩擦が起る、そこに悩みがあるわけです。その場合、良心を眠らしても、そういうものに従つていくべきか、だれだつてうわさの種になりたくないし、悪言伝もされたくない。社会的良心を眠らせないためには自分を大事にしながら生きていくべきだということを考えますけれども、皆さんにそういうことを教えていただきたいと思ふんです。

蘇武 壁の破り方が問題になつていきますけれども、自分を取り巻く環境によつても違ふだろうし、あるいはその中の知性によつても違ふだろうと思ふんです。ですから江守さんの場合、こうやつて壁を破つたらいいじゃないかということは、どなたも申し上げられないんじゃないかと思ふんです。ここでいろいろなる例をお

よりないものだと思うんです。仲間も一本の葦に過ぎない、自分も一本の葦に過ぎないと考えてみるときに、それがまとまつて仲間になるのだけでも、たよりにはならない。たよりにするためには、たよりにするようにしなきゃならないけれども、たよりにしてはいけない。

小松（リーダー） それはよくわかる、満員電車で、みんながまたれかかつちや困るのですね。

本重 そういうことで、自分自身の正体を、不明にしておいていいんじゃないでしょうか。たとえば、これだけはやらなきゃならないというときにはほかのものは捨てる、それだけは絶対許せないというときには、ほかのものは許す、そういうふうな行き方をしなきゃできないんじゃないかと、考えています。

小松（リーダー） 譲れるものと譲れないものと、はつきりさせておくということですね。

本重 一つのことを成し遂げるためには、ほかのものは譲らなきゃならないということがあります。

（休憩）

菅野 それはいつの場合にも当然じゃないでしょうか。

小松（リーダー） ある意味で譲れるものと譲えないものとハッキリしていない。たとえば戦争なんかになると、ものすごい専制になつてプライバシーもなくなつてしまふ、そういうのはふだんからけじめをピシツとたてて、ここは譲れるがこれ以上は譲れないという一線を切つておかなければいけないと思ふんです。男女を問わずわれわれにはそれが非常に乏しい、そういう意味で本重さんの御意見はたいへん感銘深かつたわけです。絶対に譲れ

聞きになつて、それを自分のものにして破つていく、いいじゃないか、と考えます。このようにして壁を破つたからといって、それと同じようなやり方で、自分の場合にも破れるかどうか、も考えなければならぬと思ふますし、どこもみんな同じじゃないんじゃないか、とさつきからお話を聞いていて考えました。

田中 江守さんのお答えになるかどうかわかりませんが、参考にしたいだけだと思います。

京都で婦人会議がもたれたときに、職場の婦人として交換手の方が出ていて、職場の中の社会意識というものが低いというんですね。たいへん隘口が多くて、職場の中にも嫌しゅうとめ関係があつて、とてもおりにくいとおつしやつた、それに対して、もう少し社会意識を徹底させたいいいじゃないかというお話がありました。

話し合ひまじようと、呼びかけても、ことに農村の女は、家庭と職場がハッキリ切り離されているのは少ないんじゃないかと思ふんです。仕事せにやらんとか、子供がいるからとか、おかあは、そういう時間がないんです。農業は力を伴う仕事ですけれども、仕事をするとときには主人と同格でしています。家庭と職場がくつついていて、私も職場婦人や、そういう意識で主人にも、同僚やと思つてくださいと、話をするんです。家に帰つたら主人は主人、奥さんは奥さんです。農業をやつて、残りの時間はほかのことに伴う、そういうことが当然あつていいと思ふんです。

本重 江守さんに一言、無責任な言い方の方ですが、犠牲にする、したい、の問題で、私は自分を犠牲にするのがいやなように、人もおそろしいやでしようし、それから仲間というものもすごくた

ないもの、たとえば日本政府が何をやろうと、どういう圧力をかけてこようと譲れないもの、それが何かといわれたらちよつと返事に困りますが、しかしそれは持つていなければいけません。それがなくとも社会と自分というものの対立関係がキチツと出てこないですな。

良心は繰り返して言つていふように、重荷なんです。くだけた例ですが、ぼくは日本の学校制度にあまりお世話になつたとは思われないです。小学校から大学まで、実につまらないことばかり教えてくれた、ぼくは旧学校制度に反対なんです。その中で一高に入つたときに一つ教わつたことがあつた。それは図書館に行つたんです。するとものすごい勉強しているんです。むだ口なんかきく気持になれないんです。ぼくは陸上競技の選手をしていたんですが、練習すると疲れて勉強なんかしたくないんです。ところがそこへ行くと、シャランとするわけです。そういう良心もなにかシャランとさせてくれるような場所がないと、いくら個人で努めてみても無理じゃないかと思ふんです。そこで組織と良心、組織というのは良心を絶えず再生産しに、よりピチピチとした鋭い形でよみがえらせてくれる、こういう役割もするんじゃないか。皆さんが壁を破つた場合、必ず最初は、ともすればくじけようとする、その心をささえてくれたものがあると思ふんです。そのところを考へていただけないですかね。何が自分をささえてくれたか。

本間 婦人会活動なんかしていますと、女が女の足を引つ張つたりそのほかもの現象が出てきて、すつかりいやになるんです。ね。そういうものに負けてしまつて、もうやめようかな、というふうになりやすいと思ふんです。

それからさきほど人種的な偏見という話が出ましたが、戦争は、自分に危険がなくシヨとして見る場合、これほどおもしろいものはない、という言葉がありますが、そういう問題にぶつかつたときに、ほんとにそれは悪いことだな、といつていても、ひとのことになると違つてくる。自分だけで考えている場合と、自分のことになつた場合とは考え方が変わつてしまふもろさみたいなものが社会的良心を考えたときに出てくるのは正直な話じゃないかと思うんですが、そういうところになんかもうちよつと……

安倍 選挙の問題ですが、五年ほど前に町長選挙があつたとき、同じ村から、町長が二人立候補して、二つに割れたんです。結局私たちのところは落選したわけですが、今度町会議員選挙に當つて、女はいつも応援せい、といわれれば、ハイハイと大勢に引きずられていたんですが、今度は引きずり回されんように、婦人会は、自分たちの考えで入れましよう、と話し合つたんです。ところが落選された町長さんが、五人も推薦されたわけですよ。一人ならいいけれども、五人とはおかしいと言つたんです。自分のところにも推薦人になつてくれと言われたんですが、絶対に一人しか立てませんよと、ことわつたんです。一人で五人も六人も推薦人に立つのは、社会的良心からいつて、おかしいと思うんですが、どういうものでしょうか。

小松(リーダー) 安倍さんの場合は婦人会という組織をお持ちだつたから、自分の良心的な立場がくずれなかつたということでしょうね。家庭の主婦は、そうはいかんでしょう。

立石 私ら選挙のときに主人は動いてますので、組織があるわけですが、そこからだれを応援することになつたから、あなたの地域から五人ぐらいの票を取つてくれ、何票ぐらい取れるか報告し

な気持ちですけれども、婦人会でも推薦人になつて下さい、こっちも応援してくださいというときに、それを無抵抗に、受入れていたらどうなるか。個人的良心は見えないわけですから、応援は、するけれども、自分の一票だけはなつてほしいと思う人に入れる人には、この方を、と言いがら、自分の一票だけは進う人に入れる。そこにはやはり社会的良心という問題で悩むわけですから……

菅野 私は警察官の妻ですが、主人は人にも選挙のことで、どうのこうのと言つています。私も選挙違反になるなと思えば、ハッキリお断りします。どつちへもいいことをいつて、自分の一票を行使することはできません。入れられない方には、どんなに頼まれても最初からお断りします。

佐藤 私は町会議員選挙である奥さんから、主人を入れてくれと頼まれたんですが、ほかの方に決めているのでお断りしたところ、それがいへんなことになつたんです。というのは長男が就職するときにその奥さんが、私のことを共産党員だとかいつて投書したために就職できませんでした。そのとき選挙というものは恐しい、人から頼まれたらハイハイ、と言つたほうがいいかと思つたんですが、いろいろと考えてみますと奥につまらないと思つたんです。

鈴木 私の住んでいるところも一つの大字というものがあつて、一五〇名ぐらいのその大字から村会議員に、二人出します。その場合、ここからこまではだれ、ここからこまではだれと分けて持つてきて、それがいままでみんな当たり前でやつてきています。やらないものは変な目で見られるんです。村会議員の選挙のときに、夫は調剤師のグループをつくつていたので、

てくれというんですね。けれども私は選挙は個人々々の一票ですから、必ずしも主人と同じ人に入れるとは限らないと報告しておいてくださいと言つたんです。

子供の先生から、主人が立候補したから応援してくれと言われたら、私は、いいたい人が決まっていますから、悪いけど応援できませんと断りました。

小松(リーダー) 選挙の実態調査をやつてみると、お母さんはお父さんまかせというのが多いですね。選挙における独立宣言はやりにくいんじゃないですか、鈴木さん、いかがですか。

鈴木 選挙を御主人まかせというのには不思議だと思ふんです。うちなんか、べつにそんなこと言いません。政見については話し合いますけれども、だれを入れるか、そんなことはお互いに気にもしません。

小松(リーダー) 秘密の原則は百パーセント守られているわけですね。

田中 私のところは主人が後援会名簿にかつて私の名前を書いたもので、私は敢然と怒つたのです。主人はあやまりましたが、あやまつてくれるような主人はいいと思うんです。そんなことを言わない人がいっぱいあります。それを京都部会で話ししたら、一人の代議員が、そんなことを言い出したら、地域代表を国会へ出せないというんですね。個人の自由をある程度抑えても一致団結して、自分たちの代表を出さなきゃいけない、とがんばつた方があるんです。

小松(リーダー) そんなことをしなければ、地域がよくならないというところに疑問があると思いますね。

本重 私は兄が議員になつていたので、選挙という切実な、複雑

われわれの仲間から一人出そうじゃないかと、選挙運動を始めようとしたら、情熱がもれて、別の候補者の家と呼ばれたんです。夫は何事もあつたきのないようにやつていくたもので、うまく逃げるかと思つたら、自分たちが候補者を推した限りそれをやりたい、銘名の一票をだれに入れるかは家族の一人々々が決めることで、ぼくが知つたことじゃないと言いつたんです。そのあと候補者等とうまくいかないとはいえませんが、個人的な良心だけは守ることができました。

藤武 候補者は出るときは、皆さんの公僕だとかうまいことを並べますけれども、一年もすると、もう公僕であることを忘れるわけですね。私たち女性には半分以上の票を持つていますから、自覚してやらないと、あとで後悔するんじゃないかと思ひます。小松(リーダー) 公約が守られないのは、こちらの良心に足りないところがあるんじゃないですか。

若山 この前の村会議員の選挙のときに、スローガンがよかつたので、自発的にある村会議員を推したんです。ところが出てしまうと、公約を忘れた形なんです。それで女の人たちで、村会を見学しよう、と積極的に出たところ、情報が漏れて、きよは女の人に来るからうまくやろうといつていてというので、その日はやめた突然行こうといつてますが、まだ実行できないでいます。それで去年の選挙に、男の人はあてにならないから女の代表を出そうというので、その第一候補に私が推されたわけなんです。男の人たちの中にも推してやるといふ気分があるので、私も思い切つて立つ、ということになつたら、主人がカンカンに怒つて難癖をするというんです。それでベチャンとなつたんです。あのとき主人を説いて、女の代表として出ていたら、(笑) いまごろ村会議員

になつてバリバリやれたのに、やつぱり家庭というか、そういうものに負けたんだと思ふんです。今度推されたら出ます。(拍手)

小松(リーダー) 一人だけで出ちゃだめで、あなたの御主人にブ

レッシュヤーかけるような婦人団体を持つていないとね。

志満津 いまのお話もそうですが、社会的良心をはばむものの一つに夫があると思ふんです。

田中 ありますね。

大久保 選挙に関しては公務員ですから、夫も随分ではありません。自分の考えはしつかり持つておりますけれども、あまり表面に立つて表明しないことにしておりますので……

本間 選挙に関心を持つて調べてみたときに町会議員でありながら、一回も議事にあずからないで欠席をしている方が見つかったわけです。西蒲原郡の彌彦村では、女の人を三人立てて、青年団、婦人会が応援して、非常に公明な選挙をして、みんな当選したわけです。一人の議員では、良心的なことをやろうと思つてもうまくできないのが、三人いるものですから、これはいいと思つたら声を大にして、やりましよう、ということ自分で自分の良心的な代表が生かされているというのを聞いております。

田中 私のほうの県議なんか、公約なんて何もないんです。だれもそんなものを掲げてないので、あとで突つ込むわけにもいかんわけです。

小松(リーダー) 公約なしの投票ですか。

田中 そうです。部落のおえら方だけで決めるわけです。お前のところを出すなら、連う部落から出そうかというわけで、同じ部落からは絶対出さないように上で調整するんです。末端の、たとえば婦人会の支部長、副支部長の選挙に至るまで、それがついて回

公開質問状を出して、それを配布しようとしたら、検察庁からは言つてこないんですが、もし配布したら逮捕の用意あり、というんです。公職選挙法を説くできないようになっていっています。公開演説会を要求しても来ないですよ。

本間 個人の意思を重視して、お出になるわけだからいいじゃないですか。

小松(リーダー) 津々浦々でおやりになれば、出ざるを得なくなるでしょう。

本間 賛成しない人は出ないし、賛成くださる方は、出るという形にすれば、有権者もメモしたりする機会が与えられるんじゃないでしょうか。

小松(リーダー) やつたほうがいいですよ。東京はあまりやつていないので、たかをくくつて出てこないんです。

田中 そういうことをやれば政見といえないまでも、顔ぐらい見れると思うんですが、自分の地盤でないところから、あなたの意見を聞きたいからきてくださいといつても、候補者の耳に達する前に参謀のところまでにぎりつぶされてしまうんです。

小松(リーダー) 政見発表した人だけに投票しましょうというスローガンでやればいいですね。

安倍 私のほうでは青年団、婦人会主催で候補者に全部きてもらつて公約してもらいますが、婦人連、青年層から票を得たいものですから全部集まっています。

菅野 私たちの福島市でも婦人会が全部合同で、革新系と保守系の議員さんをお呼びしてお話を聞きます。決めるのは各自で決めるんですが、そういう勉強をして選挙に臨むわけです。

小松(リーダー) 選挙における社会的良心は組織がなければだめ

つていいます。だから選挙しなくてもいいんですね。部落長が投票用紙を出すときに名前が決まっています。それはいいうちとか、年金とかで決まつて、その人が果たして支部長として適当かどうか、という批判はなされない、それをするものは異端者です。公平に考えて、この人なら家庭的な事情もなにもいいから入れようと言つたら、自分がなりたいたいからあんなことを言うのだというんですね。そんななりたいたい人は立候補してはと提案したら、そんなことはもつてのほかで、ちゃんと三期ぐらい先まで決まつていっています。市会議員でも、立会演説会、個人演説会に行つても、政見も公約も聞かれないんです。「お願いします」とおつしやるだけです。後援会のおえらい方がワーワー言うばかりで、あとで突つ込もうと思つても、つかまえてどこかに行かなくて、そのくせ運動に参加しないものは村人でないように入れられるんです。逃げ道として主人は、好意的中立という言葉を考へ出して、運動はしないとかんはつていますが、知らぬ間に、副事務長に決められてしまつて、召集の電話を聞かずにびくびくしたわけなんです。それは返上できましたが、それだけでも、前の選挙よりましだと思ふんです。

小松(リーダー) 日本、広いですね。

鈴木 政見なんかだれもおつしやらない、一軒ずつ回つて、お願いします、このたび立候補しました、それだけで、何をやつてくださるんですかと聞いたなら、変な顔する、たいへんなやつやと思ふんです。

本間 婦人会で計画して、個人合同演説会で政見を聞くというよりなことはできないでしょうか。

小松(リーダー) ぼくは東京の第五区ですが、立候補者に対して

ですね。

蘇武 選挙なんかではやらないんですか。

小松(リーダー) やらないでもいいことになつていいます。大久保 村会では立会演説会をやらないことになつています。

本間 選挙管理委員会が中核になつて、選挙に対する啓蒙運動のための各地区を回つてやつていっています。その中に婦人の意識を高めるために女性講師を一人入れていっています。

婦人団体も率先して、明るい選挙を広報宣伝しているところもあるわけです。

本間 公開質問状を。婦人会でプリントにして出しますと、候補者自身が書けないから書いてくれ、といつて持つてくるんです。

そういうことになる何にもならないでしようか。

若山 村会議員選挙が四年ごとにあるんですが、正しい議員を選ぶには選挙の終わつたときから始まるのだ、と話し合つて、村政を聞く会、というのを持つたわけです。議員さんと、村長さんと呼ばれる人、と交渉したところが、そのときいろいろ村の問題がたたくさんあつて、いつたいていどういふことを聞きたいか、というので、村税の使い方、保育所の問題、教育費の問題といつたようなことを簡易書にして出したわけです。ちやうどそのときに住宅建設資金が村へたくさんきたんですが、公開しないで、実際それを扱っている人たちだけで貸付けたわけですね。それを聞いたので、りつばなうちのある人が、どうして職場を利用して安にお金を貰つ先に借りたか、と村長さんに私が言つたのです、そしたら役場へ呼ばれて、あんまりいじめないでください、まあお茶でも飲んでいつてください、というんです。おかしいなと思つて、すぐ飛び出してきたことがあるんですが、男の人はずるいので、女なんか

ごまかして、うまく話をそらしちゃはいじやないかという手を使うんですよ。

小松(リーダー) 少し話題を移していきませんか。選挙の問題で社会的良心を絶えず自覚めさせておくためには組織がなきゃいけない、今度は教育の問題があつたでしよう、せつかく三つぐらい問題が出たわけでしょう、何回でも繰り返して、その中で自分の良心を成長させていったらどうでしょう。教育の問題は政治の問題、選挙の問題、それ以外の要素もいろいろ入ってきますからね。

本間 何によらずマスコミの力が非常に大きいと思うんです。私たちの自然色運動の場合にも、初めは抵抗があつたんですが、地方新聞が初めから終わりまで応援してくださつた。

皆さんに、何によつてこの自然色運動を知りましたか、と聞きますと、たいてい『婦人生活』とか、『主婦の友』とか、『マイホーム』だとか『朝日新聞』だとか日報で見たとか言いなさるんですね。そういうものをよくお読みなりますか、と聞きますと、たいてい出ていけば読みますというんです。私たちはマスコミに期待するところが大きいし、またその意思を受けて非常によくなくていくんじやないかという気がするんです、何事 よらずでございませう。

小松(リーダー) マスコミはわれわれにいろいろなことを知らせてくれる、知ればなほどの感情が動いてきますね。そういう意味でマスコミが報道すべきものを報道しない、これだと困りますね。つんぼさじきにおくと……

本間 N H Kがこの問題を取上げてくださいましたらありがたいと思つております。

さんもらえらという方だから、そういうところへつまずきがあると思うんです。せめてもう五年定年が伸びるとか、または若い人でも能力があれば職場で伸びていけるというふうな社会機構に変わつていつたら、子供の教育の問題にも母親が神経をとがらして、入試地獄へ子供を追い込まなくてもすむように変わつてくるんじやないか、結局政治につながる根本的な問題があると思うんです。

関 教育の問題で、年令ということが出たんですが、人をけ落としてまでも出なきゃならない、何か日本のお国柄が人間の評価を学力で決める、社会へ出ても学閥といひますか、そんな傾向があつて、その人の能力とか行動とかは無視されがちなんですね。結局相当以上の地位につかれる人は、序列が初めから決まつている、官庁は特にそういう傾向がハッキリしているような感じがするんです、結局親として子供を学校へ入れなくちゃ将来いつまでも下積みでおくことになる、それが日本のお国柄なような気がするんですが。

菅野 関さんのおつしやるとおり、主人は二十六・七年になります、下つぱの公務員です。県庁のお役人をも、三十年も勤めた人が、中学しか出ていないために、せいぜい課長止まりです。それが最近は一流の大学を出た人が二十代で課長になつて、デンと坐つている、そういう実例があるものですから、やつぱり子供だけでも主人のような思いをさせたくない、できることなら人並みの学校へあげたい、そういう気持ちになつたんです。

太久保 この間新聞で見んですが、一流メーカーで、年功序列とか、学力だけでなく、職能給とかいうものを勧奨しているというんですが、現状はどうなんでしょう。

小松(リーダー) 社会的良心の目を鈍らせないためには、マスコミに協力してもらわなきゃいかん、そういう面がありますね。知るべきことはいつばいあるけれども、ぜんぜん知らしてくれないということになると困りますね。

志清津 教育の問題で、部会のおきにも結果的にできた社会悪を、あれもいけない、これもいけない、どうしようということをやつていても、次代をになう子供たちの教育が、お母さん方の気持がわからないから、気が重くなつてしまふんですが、こと教育に関しては、一歩待つてくれという状態である。いまのように幼稚園からお友だちをけ落とさないと、自分が伸びられないというふうな教育されると、社会的良心が育たないことになつてしまふ。

子供たちを隣人愛のないものに育ててしまふことはまずいので、ほかの子供たちの幸福とが一致するような方法で、何かいい解決方法がないか。特別オブザーバーの先生が、経済の仕組が問題だ、中小企業と大企業の賃金格差がなくなれば、自分の個性に合った、自分の好きなほうに行つても生活が保障されるんじやないか、というので、ひとつ解決の方法をいただいたような気がするんですが、そういう点取り上げていただきたいと思ひます。

小松(リーダー) 経済のあり方というものと結びついてくるわけですね。

田中 私は子供の教育と定年制ということは関連があると思うんです。男が五十五の働き盛りでやめなければならぬ、ところが高校へ行つてゐる子供がある方がたくさんあるんです。その子供は大学へやる頃は親は職がなくなつてゐるので、せめて上の子供は一流大学へ入れて、一流会社へ就職してもらわないと、足手まといになるのは困る。それは結局日本の賃金が、長く勤めればたく

江守 社会が生存競争をしているような機構だから、人をはねのけても自分の子供をそういう方向へ持つていかなきゃしょうがないと言つてしまえばそれまでなんです。それも理想論になつてしまひますが……

小松(リーダー) 理想論、大事ですよ。理想のない人生はないもの。

江守 私は定時制へ行つてゐるんですが、ここでは、生存競争というとはあまり考えません。入つてきた人は、ある程度プランクがあつたわけですが、自分がほんとに勉強したくなつて入つた人が多いんです。勉強は、そういう時にこそできるんじやないかと思ふんですが、教育の方法が、何かいま食い違つてゐるんじやないでしようか。

立石 ちよつと意味は違ふかもしれませんが、同じ高校卒業しても、会社に入るとき定時制高校出はハンディキャップがあるんじやないですか。

鈴木 最近正されつづあるんじやありませんか。

立石 高知県の山間部は定時制ばかりですが、せつかく働きながら学校を出ても、会社に入るときには、中学出と一請ぐらいにしてくれないんです。

江守 初めから定時制卒業生は入る資格がないというところもあるんです。けれども、そういうものにたらわれて、勉強をしていたのでは、それを破ることができなくなるんじやないかと思ふんです。私の場合は資格よりも自分が進歩し、内容を深めたいためで職業が決まつてゐるから安易な考えで勉強してゐられるのかしれません、勉強はあくまでも自分のものであつてほしいと思ふんです。

関 今鹿池田さんは、差別はしないというようなことをおっしゃっているようですが、定時制の場合、やはり普通高校と違つた、人間的豊富さ、そういうことでヘンデイをなくすという声も出てくるわけですが、朗報じやないかと私たち歓迎しております。

本間 江守さんのおっしゃったことに對して疑問があるんですが、男の人で将来家族をしようとして生活していきなかならない場合に、やはり同じことがいえるんじゃないでしょうか。

小松 江守さんのおっしゃったのは教育の本質の問題ですね。それはいえると思うんですが、江守さんの立場というのは正論だと思えます。本間さんのお出しになつたのは、エサを運んでこなきやならない。

本間 そういうあわれな彼はどうしたらいいでしょうか。(笑声)
関 確かに普通高校よりは学力の点からいつたら劣るんですけれども、採用する側はスタートだけは差別しないでいただきたいと思ふんです。スタートにおいて納得のいくようなやり方をしていただければ問題ないんじゃないかと思ひます。

若山 教育と人間性という問題をあわせて考えてみると、教育があるから必ずしもその人がいいということはいえないと思ふんです。私も女学校を卒業して会社へ勤めたことがあります、そのときに小学校しか出なくて、長く勤めていた人と、専門学校を出た若い男の人がいたんですが、若い人は職場の日は浅いけれども地位は上なんです。けれども私たちはみんな小学校しか出てない人を募つたわけです。というのは片方は何事につけても、おれは学校を出ているというのが頭にあつて見えてわかるんです。私は教育というのは、社会にも出てどうしてこんなじやまをするのかな、と疑問に思つたんです。

田中 中国の方が来たとき、ウサギと亀の話がされて、日本人は小さいときから、こういうことを子供に教えるそうだが、なぜここで眠つてはだめだと起してやらないのか、それが隣人愛じやないか。日本人はそういう人種だ、という人がありましたが。

小松(リーダー) 抜けがけ根性があるんですね。しかしそれは日本人だけじやないと思う。非常に貧しい状況にあれば、よりいっばいパンをたくさん食べたいし、より多く肉も食いたいという人間の気持を押えることはできない。そうすると、やつぱりよいポストへつきたい。ポストは限られていて、そこにすさまじい姿が出てくるわけですね。問題は、根本的にパンも肉も豊富になる、そういうことが大事だと思ふんです。心の持ちようだけで問題は片づかんと思う。そういう誘惑のない社会というものをつくつていかなきゃならない。人をけ落としたりするのには不愉快なことだ、これはよくわかつているわけです。しかしその不愉快なものに、ともすればなれちやつて、自分は押しのけてないと言ひながら、押しのけている。これでなんとかしのいでいるんですが、いよいよこういう暮らし方というのは近代人にとつては耐えられなくなつた、ここに人類の進歩があると思ふんです。問題はこういう形で、この押しつけるような、世の中のあり方を変えていくかということですね。教育の問題というのは、その点では政治の問題とか経済の問題と深い関係があるわけだけども……

佐藤 世の中のお母さんが、自分の子供を責任感のある、社会人としてつばな人として育て、会社なんか二流でも三流でもいいということになれば、解消すると思ひますけれども、これもなかなかむずかしい問題だと思ひます。

小松(リーダー) 企業格差はこわいんです。ぼくの友だちでも中

鈴木 学校を出たから人間性をなくすということは絶対ないと思ふんです。大きな問題にぶつかつたときに、どうしてもものを考えなかならない年代に、ものを考えることで過ごしてきた人は、やつぱりすぐれているんですね。ものの解決の仕方、やはり正しいほうへ思考力というか、そんなことで広がっている。ですから私は社会のことに感ぜられないで考える力を養われるという意味で、大学は大切だと思ひます。

小松(リーダー) 大学が普通教育になるべきですね。二十二、三までは考える、というふうにならないと、今後の社会をうまく維持していけないんじゃないか。

鈴木 早く社会へ出ると、考える力をなくしてしまふんですね。
小松(リーダー) 人間性というものと、教育の問題、ぼくは軍隊で苦しい目に会いましたが、そのとき大学出がりつばな行為をするかという、そうでもないんですね、そのところはむずかしい問題ですね。学校は、ことに大学は技術教育ですから、法学部がいちばんいい例です。法学部なんか学問をするように思つたら大間違ひで、官吏養成所、サラリーマン養成所です。

若山 学校を出ているから出ていないからということで、個人の教育と教養とに開きがでてくると思ふんですけれども、学校を出ていなくても教養のある人はいるわけですね。常日ごろの勉強というか、そういうふうなみんななるべきだと思ふんです。そういうふうにしていくにはどうしたらいいか、やつぱり良心の問題じやないかと思ふんです。

小松(リーダー) 他人をけ落としてでも生きていかなきゃならぬという世の中のあり方が、根本的には問題ですね。これをどんなふうにして変えていこうかということですね。

小企業へ進んで行つたのがありますが、ばたばた例れちやつて、その人の理想は挫折しているわけですね。昨今では格差が非常に大きくなつていて、中小企業の十年目ぐらゐの給料が初任給だという一流企業がたくさんあるんだから根本的には格差を絶えず広げていく社会のあり方というものの問題がある。

安倍 けつきよく経済の問題、生きるための問題ですね。私のところは国鉄に勤めていますが、スト権がないわけです。給料が少ないうことは優秀な人間が少なくなるということにつながると思ふんです。この間給料値上げの話が出たんですが、いくら上がるかと聞いたら、私鉄より少ないだろうというんですね。どうしたらもう少し上げてくれるか。おおぜいの生命を救う人たちを、もう少し待遇よくして、優秀な人間が集まるように、何か方法があるんじゃないか。そこらは政治の問題です。中小企業に勤める人も、大企業に勤める人も、安心して生活できればいいな、心配をする必要もないと思ふんです。ところがいなかでは、「われら社会党のものでも、国鉄のものでも、ストライキするのは大それたことだ」というんですね。ストライキするのを悪いと思つていふんです。

富山のある市では工場がつぶれて、十二月は買物の多いときなのに、いろいろのものが売れなかつた。いちばんストライキに反對するのが工場です。そこらへん政治意識があるかどうか、選挙に對する考えも高めなければ、私たちの生活も発展しない。みんな子供は学校へ上げたいし、経済的につながらぬ問題もあるので、なかなかむずかしい問題だと思ふんです。

関 ストライキが悪いというんじゃないですが、やはり自分で自分の首を締めるような結果になるというように出てくるわけ

です。ですからそういう行動を起こすためには、相当根本を見きわめて、結果にどういうふうになるかを考えないでやつた場合に、お互いに悲劇が出てくるんじゃないかと思っています。

安倍 自分の生活を守るためにね。

関 どういう結果が出てくるか、そこまで判断しなきゃ。国でやっている場合と、小さな会社とでは相違が出てくると思うんですが、小松（リーダー） そこらへん、利害関係の調整が大事ですね。

安倍 先生はどうお考えですか。

小松（リーダー） 魚屋さんとか八百屋さんは鮮度が問題になるでしょう。そのときにストをやると、鮮度が落ちることもあるかもしれない。そつちの鮮度のほうも考えなきゃならない。

それからもう一つ、お上にたてつくことはまちがいないか、という長い間のものの考え方があるんですよ。おかみにたてつくのはおかしいという考え、これは直していかなきゃならない。

少なくとも二つの問題があると思うんです。

ここにいるいる討論されましたが、今度地域へ帰ってから、そこには厚い壁が待っているだろうと思うんです。まず敷居をまたごとすると、頭をぶつつけるんじゃないかと思うんです。家の問題、家族制度の問題がありましたね。家の問題、農村における女性の地位の問題、これも一つ最後に取り上げてみませんか。

佐藤 いわゆる非行少年の問題ですが、もし皆さんの御近所で非行少年が出た場合、いわゆる社会的良心からいえば、あたたかい手をさしのべてやらなきゃいけないと思いますが、いかがでしょう。

前田 うちのあたり非行少年が出ていますが、お互い同士見て見ぬふりをして、だれも言う人がいない、ますます悪くなるので、子

に地域の組織づくりをやっているわけです。

菅野 本人が警察署で防犯の少年係をやっている関係で、教えられたり聞いたりしてやっていますが、補導員とか地域の民生員、それから小学校の先生とかを混じえた地域の懇談会を数多く持つて、そういう子供を持つて悩んでいるお母さんたちの声を聞くことはいへんいと思うんです。そういうお母さんは、ほかの人にも言えないで一人で悩んでいて、結局子供を取り返しのつかないことになってしまう例もたくさんあるんですから、悩みを聞いて助言をしてあげること大切だと思っています。

蘇武 私は非行少年に会ったこともありませんが、佐藤さんは保護司でございすね。保護司に協力するなにか婦人会があるんじゃないですか。

佐藤 協力団体は、更生保護婦人会、それはその地域の子供の問題なども見てやつたり、お母さんの援護をする会です。もう一つBBS、これは非行少年の友だちになる若い方の集まりです。勤めている方がほとんどで、二十にならない方が多いんです。それから島根大学の学生さんが非行少年の友だちになつて、遊んだりするわけです。こういう会を全国に広めたいと思っております。

蘇武 女はさわね神にたたりなしという気持ちを持っています、非行少年が出てると、その家庭やお母さんには同情しますが、自分が積極的な手をさしのべる段階になると、引つ込み思案となり勝ちです。

保護司の方を手伝う女の人たちをもっとたくさん募集するよう

供がほんとうにかわいそうです。放任主義みたいな感じがして

るんです。

佐藤 あそこの子と遊んではいけないというようなことを、知恵つ

けるお母さんはいませんか。
前田 あそこの子供にはなるべく近寄るなと、全部そんなものです。小松（リーダー） ほとくの中学時代の仲よしで、札つきがいたんですが、先生の言うことはぜんぜん矛盾している、悪い子を見ればよい子と遊びなさいと言いながら、よい子に対しては、あれと近づくなと言っている。それが世の中の親のやり方じゃないですか。

関 佐藤さんの答えるにどうかわかりませんが、私たちのほうには、千五百人の児童がいる小学校ですが、PTAで地域社会を十四地域に分けて組織的に指導していますが、小学校と中学校と、兄弟で非行少年が出たことがあつたんです。私たちは役員として、本人の将来を考えたりすると、どこまで明らかにしていいものか、悩んだわけです。公けにしたために秘密会議のようなものをもつたんですが、やはり根本は家庭の問題があるわけですね。母親の問題とか、学校から帰つてもカギがかかつて、うちの人がいないというふうなところの問題があるわけです。それから貧困ということもあつたんです。そういう場合は、学校と連絡をとつて、子供をみんなであたたく守つてやりましょう、というふうなことをやつたんです。私たちは、そこまでの以前からの行動をやらなきゃならないと思うんです。子供たちはお互いに影響し合つて成長していくのですから、うちよりも外の環境から影響を受ける場合が多いわけです。みんなの子供がよくなることによつて、自分の子もよくなるといわれますけれども、そういう考えのもと

安倍 民政指導員をしているので、相談をよく受けますが、子供とお母さんといつしよにきてもらっています。子供はしかられたときは反発しますが、お母さんが泣いているのを見ると、心配かけまいと思うんです。そういうときにはほんとに子供の良心が芽生えてくるんじゃないかと思うんです。そういうことで更生した子供がおりますが、それこそ長い時間からなければ直らない、逆戻りしそうなものをうまく導いていくのが私たちの仕事であり、お母さんの考えだと思っております。

蘇武 問題からはずれませんが、地方会議で、農村の方から頼まれたことを伺いたいんですが、最近農村では農作業の共同化をやっています、耕作面積が少ないから、自分だけで機械を入れることは経済にむずかしい、四、五人で共同して機械を入れたいと思つて呼びかけてみても、いろいろな利害関係がからまつて実現されないで悩んでいる。金国会議で、ほかの様子を聞いてくれないか、ということだつたので、もしそういうことがありましたら……

小松（リーダー） いまの問題は、つまりことをなすのは、一人でやるよりは力を合わしてやつたほうがいいが、その力を合わすにはどうすればいいかというところに問題が出てくる、協力の問題ですね。そこまで一般化して考えれば農村の人たちだけじゃなくて、都会の人でも考えられる問題になりますね。そういうことで一つ考えてみませんか。

田中 農村人の立場として私たちの地方は非常にそのことが問題になるんです。五反以下の百姓が、自分で耕耘機を買つてやつたのは算算が取れない、みんな共同とか、協業という形を考えるんですが、共同が耕耘機を購入しても、使いがいろいろなんです。機械に張り回されてしまう人もあるし、上手になす人もあるし、

あとの手入れもきれいにして大事にする人と、使いつばなしという人もあるし、それから田んぼの土地にも、山場でも、耕転機に重労働させねばならない人と、平たん地ばかり持っている人と、いろいろ条件が違ふものだから、やはり私の地方では機械の共同はみんなともいやがつて、一回そういう形をとつた人も、次々と解散されています。だいたい機械の保証期間は一年間なんです。一年間使つて、新しい機械を買いとぎに共同で使つた機械は、クズ鉄にしかないし、個人で持つていたのは下取りに取つてくれるんです。そういう点でも共同で買うのはみんな非常にいやがります。

農村の共同作業も利害関係がからみ自分の生活がそれにくつていて回るものですから、東北でもいろいろ共同作業の実験農場のようなものができてはつづれますね。人間は感情の動物なので、なかなか仲よくやつていけないんです。ある一定の資本を持ち寄つて、たとえばある人はお金を出すと、ある人は田んぼを提供する、たといふような形で、一つの農業企業体をこしらえて、収益を分配するというような形で、一つの農業企業体をこしらえて、収益を分配して月給をもらう、というやり方ならば成り立つかも知れません。それから一つの仕事だけの共同作業ということもできるんじゃないかと思うんです。その例として、私の部落で、新農村建設事業の資金をもらつて、製茶工場が建つたんです。部落十六戸のうち、九戸入つて、製茶だけは協業でやつている。茶園つくりも一つの計画を立ててやつているわけですね。かなりうまくいつて、製茶工場に今年は機械も一つすえまじし、少しづつ利益をあげていこうとす。

若山 いま私たちの村でも農業構造改善ということがだいふ問題になつていますが、反対論と賛成論と分かれていっているんです。

負担金が多過ぎて、三町歩ぐらい持つていっている人は百万円の金を出さなきゃならないという現実です。指定地域でも、国や県の補助金はほんの申しわけ程度ですから、百万の借金をして、新しい農業に切りかえても借金を返済しないうちに死んでしまうという心配から、パイロット地区を返上しています。私の地域では、いろいろの議論が出て、だんだん補助金の額もよけいになるだろうし、悪い点は改良されてくるだろうから早まつたことをしないで、模様を見ていようというのです。

若山 自分の村を見たときに、こういう傾向が非常に強くなつています。確かに農業で生きていくことはバカらしい、米の値段にしても、自分たちで決めて売ることができない、勤めている人はストライキで給料を上げることができませんが、私たちがそういうことを勝手にやると、自由化を引つ張り出されて、日本の米は高いから外国から安い米を入れる、といわれれば、グウの音も出ない、生かさず殺さずの政策だと言つていっているんです。百姓は利口にした、団体を強くしちやいかなと言つていっていると聞きますが、そういう中で若い人たちは不満を感じて、どんどん村を離れていく、ここ二、三年うちに長男はだんだん出て行つて年寄りや女だけ残るんじゃないかといわれていた、結局そうなりつつあるわけです。子供にそういうことはいけないとは、言えないことなので、時代の波に善処していくよりしかないと思うんです。農村に嫁のきてがないということは大事な問題だと思ふんですが、どうしたら農村がよくなるか、人間関係の問題、経済の問題というところにきているわけです。

江守 農村の改善の問題に結びついて職場の機械化の問題が出てくると思ふます。私たちの電話局は、ほんとうに機械化で、四

私たちの部落は百戸ですが、平均七反ぐらいの耕作面積になるわけです。その中で反対をする人は、池田政策というものは農民の首切りだ、農村の人口を半分に減らして、それで広い土地を持つた専業農家だけが残るようによつていっているのだ、といつていっているわけですね。もう一つは農村は人口が半分になつて、広い土地をみんなが持つて、それで果樹園、水田は水田、桑園は桑園というふうにして、徹底的に機械化しなければ、これからの農村は生きていけない、という考えで、いまだつちを選ぶかということになつていっているんですが、農民は、自分の財産だけは死んでも守るという所有欲が強いんですけれども、そういうものから抜け出して、ある程度大きいスケールのもので、やつていかなきゃいけないと考へていっているわけです。非常にむずかしい問題で、ここで結論を出すわけにいきませんし、必ずしも私たちの考へ方がいいといふこともわかりませんから、学者や政治家の意見も聞いてみるべきで、共同作業がいいからとか、協業的なのがいいからとかいつて、一挙に進めていくのもあさはかだと思ふんです。しつかり勉強して、ほんとうにこれから生きていく道をつかむことが大事だと思ひます。

太久保 農業構造改善は、私の地域は九割まで専業農家ですので、いち早くその問題に取り込んでいっているわけですが、ちやうど私の地域から五、六里離れた山形市の在で大学を卒業した人だけ五人で共同化をやつたそうですが、三年後のいま解散したという話です。理由は、女同士の間関係が災いしたということです。またちよつと離れたところでは、県か国かのパイロット地区に指定されたそうですが、地域民の五割までの賛成を得られないので、決行することができないそうです。そういうことになつた場合でも自己

十七年には現在六百八十八ある電話局が、六十になつてしまふ、七万五千人の交換手がいらなくなるといふんです。そういう現実問題にぶつかつたとき、私たちが職場における社会的良心は自分の仕事の社会に果たしている役割とを考へて、積極的に仕事をすることだと思ふんです。その社会的良心を鈍らせている原因として、合理化の問題が一つあるんです。結局自分たちが積極的にならなかつても、何年後にはいらなくなつてしまふという現実の問題ですね。合理化、機械化はどんなにしても避けることはできないんです。消費者の側に立てば、機械の合理化は便利なんです。しかし労働者の立場で考へたとき、合理化は、自分たちの生活を脅かす大きな原因になるんです。社会的良心を職場に生かす場合、合理化の問題にどう取り組んでいくかというのが、私たちの課題なんです。

小松(リーダー) ここに来た人は新しい社会を設計する人にならんとだめだな。そういうふうになつてわれわれの前進には、どえらい壁があるわけです。しかし厚い壁に少しづつ穴をあけて、くずしていくほかならないと思う。壁がなくなるまで、良心を寝かせておくわけにいかないですね。そこに問題があると思ふんです。大きな問題として良心が果たして普遍性を持つつかという問題もあるんですけれども、それから良心と神の問題、あるいは絶対者の問題、自分は絶対間違いないと思つてみても、お互いをささえてくれるものは良心じゃないわけですね。そうすると、何かによつて良心の立場というものはささえられなかならない、自分一個の考へと、一人よがりでは、良心の立場は成り立たないわけで、やはりそこに普遍性を要求せざるを得ない。だいたいわれわれが良心の立場というものに追い詰められていくときには、ある意味では罪

のモラルを感じている、こういうときに良心の問題が出てくる。しかしそのモラルは現在における支配的なモラルじゃない。そこでわれわれは良心の立場に立ちとうとするものの悩みが出てくる。さうあす、うまい成果を上げてしまおうというせつかな立場だつたら、良心は放棄したらい、そうでないといふ、不屈の気構えが要求されると思うんです。お話を伺っていると、非常によく工夫されていますね。田中さんの場合でも共同は非常にむずかしいけれども共同の可能な条件のもとにおいて、農村人と農村人と協力させることができる、こういう鋭い洞察のもとに良心の問題が残っておりますが、ここでひとまず休憩してはどうでしょう、ぜひともこれだけ聞いて欲しいと地域の方から言われたテーマはあります。

江守 今度学んだことをどういうふうな形で地域の人たちに伝えることができるか、さつきから悩んでいるんです。やたら突っ込んでいたら壁にぶつかる。

小松(リーダー) やはり場合によつては回り道しなきゃいけない、最短の道は近くないんです。ガラス戸にチヨウなどバタバタぶつかりますね、壁というのは目に見えないんです。一度ぶつかる、二度ぶつかる。しょうがない、わからないんだから、このときに退いて外側から巡回するほうが早いわけだ、急がばまわれ、これは古人の知恵だと思う。当たつて砕ける、はうまくな。

(休憩)

小松(リーダー) 最初に町田さんからひとつ御感想を……。批評

るが、それ待っていたらいつになるかわからない、やはり私も地域の奉仕に時間をささげるといふ、そういう運動ができたとしてもいいんじゃないかと考えました。

それから選挙のことでも皆さんはたいへんりっぱな考え方をもつていらつしやるのですが、まだまだいろんな問題があるように感じました。

もう一つマスコミの問題ですが、同じ問題でもときがたつと、問題の取り上げ方が違ってくるというところをつくづく感じますので、そういうところを正しく見ていつて、判断しなければいけないんじゃないか。

前に戻りますけれども、定時制の問題、新聞に定時制も同じように扱うというようなことが、ちよつと出ていたようですが、みんなが黙つていたらできないことで、そういう声を大にしていることによつて、打開の道が開けていくんじゃないかと思ひます。小松(リーダー) それではこれから論じ残した問題について、もう一底討論してみたいと思ひます。

傍聴の方から一つ問題が提起されております。「いままでのお話の中で、愛情という問題が具体的表現でなかったようですが、社会的良心の最初の基盤は、愛情というものだと思ひます。また次代を背負う子供は、生まれながらにして、もつている野性的愛情を知性的愛情に高め、通常の愛情にいくみ、成長させて、広げていくためにはどうしたらよいのか、具体的に考え合つてくださいますか、家庭で社会で」なるほどこれはここで論じられなかつたと思うんです。よく知性に対して「鋭い」という形容をします。それから良心には「優しい」という形容をします。が、優しい良心だけではうまくなないので、あたたかい愛情を持つ

でも問題提起でもけつこうです。

町田(特オプ) いろいろな問題が出ましたが、結局現在の社会では政治は政治、経済は経済、芸術は芸術、教育は教育というふうに分離している時代ではないといふことを非常に感じました。

一時代前には、道徳が個人的な内面的なものでよかつたけれども、現在では政治がいまままでのように狭い領域でやつていくだけでなく、あらゆる日常生活にまで浸透してきているといふことをつくづく感じさせられました。僻地の教育のことで、立石さんの交通費の問題は、地域社会に訴え、また組織にも訴えなければならぬと思ひますけれども、組織とか政治とかを持つている前に、私たちの善意で何かできることがないだろうかといふことを考えてみたいと思ひます。私は去年の夏、長野県に参りますとき、汽車の中で新潟県の僻地の校長先生にお目にかかつてお話をしているうちに、学校の教育の中で、どうしても本が足りなくて困っているといふことをお聞きしたので、子供たちも大きくなりいなくなつた百科事典なんか、さつそくお送りいたしました。たいへん喜んで、村をあげて感謝の手紙をいただきました。そのことをYWRAの中等部の生徒が、取り上げて運動をして、今年の二月に約百三十冊ばかり集めて村に送つて、その学校では子供たちが雪に包まれる期間を、本を読んで楽しんだ、というお便りをいただきました。これはほんの一例ですが、そういうところに人間の善意が、何かお役に立つのではないかといふことを考えました。

それからもう一つは、意識以前といふか、社会的良心を持つこともできない生活をしている人たち、こういう人たちも全般的に上げていかなきゃならない、社会福祉とかいろんな問題が出てく

ていないと、やつぱり近すぎがたい。あまり近すぎがたい人ばかりじゃ、世の中がたが苦しくてしょうがない。お互いに包み包まれる、あたたかい愛情がなきゃならない、これがなければ社会生活が寒くさくさとしたものだらうと思ひます。そういう意味で、あたたかい愛情、優しい良心、そんならもう一つ鋭い知性、それがどういふ関係になるだろうか、といふことですね。あるいは愛情と良心の問題、これはいかがでしょう。

佐藤 私は子供を育てたり、保護司として非行少年を扱っている経験から、非行少年を捕縛するのにまず最初から教へては決して成功しない、まず初めは手なずけるためにかわいがつてやらなきゃいけないわけです。

初めは何も言いません。ただその子の話を聞いて理解して、愛してやつて、追々に良心的なことを教へてやるという進め方、そういうことが先だと思ひます。

鈴木 私は小さい自分の子供に対して、愛と情と、ハッキリ区別していきなさいと思ひます。ほんとに小さい子は愛情の問題を教へてゆけませんが、遅にスズメのエサ台をこしらえておくとか、お花をいっしょに植えるとか、結局人間だけじゃなくて、すべてのものに愛情を持つていけるような子供に育てる。それからほんとうに子供を愛するといふことによつて子供も人を愛することを身につけるんじゃないか、徹底的に愛して、認めてやることによつて子供の情態を豊かにしていきたいと思ひます。

志津澤 私は最近いなかに出たんですが、いままでも都会的なところに住んでいたものだから、農村の子供のほうに教育的にも、いろいろかわいそうな境遇にあるふうに思われがちですけれども、ほんとうは都会の子供のほうがかわいそうな境遇の中で暮らして

ように思います。農村の子供は、自然に恵まれているのはすばらしいことだという気がするんです。都会の子供は花を植える土地もないし、タンポポを見ることもできない。川にはドジョウもいない、ホタルも飛んでこない、そういうところに住んでいる子供たちは自然に対して愛情を感じる機械がないですね。

都会の子供は競争のことばかり教えられて自然にはぐくまれるやさしさがないような気がします。農村の方はそういう点では恵まれているので感謝したほうがいいんじゃないかと思います。

若山 その点はあるかと思いますが、愛情には夫婦愛とか、兄弟愛とか、いろいろありますね。そういう愛情は、信頼し合ったところにはじめて生まれてくると思うんです。信頼がないところには愛情の結びつきがないというところは、はつきり言える私は里子を預つてみてしみじみ思つたんです。六才のときに預つたわけですが小さい子供でも、私たちに對して親としての信頼があるから、なついてくるし、こちらの人の子だとか自分の子だとかいつて差別しない。けれども、ただ頭をなでてやるという形の上の愛情でなくて、信頼感を与えてやることで初めて愛情が生まれてくる信頼感がなかったら、ほんとうの愛情じゃないということですね。

志満津 里子はどういうふうにして預つたんですか。

若山 集中豪雨の災害がきっかけです。人の不幸を見て、じつとしいられない気持ちがあつて、私がそういう話をしていたら、里のほうで喜んで里親の手続きを取つたわけです。ずいぶんいろんな角面から調査されました。環境がいいということが第一条件になつたと思うわけです。

鈴木 いなかの人はそういうよい環境に住みながら、自然を愛する

ことを知らないんですね。たとえば子供たちは蛙を取つてくると、平気で引きさいてやります。レンゲでもタンポポでも、平気でむしつて歩きます。それに対して大人も何も言わない、そういうことに無神経になつていっているんです。

立石 自然に恵まれているかわかりませんが、親たちも働く

ことでせいぜいつばいで、自然なんか見ているひまがないんです。私たちのほうに山村ですが、お母さんたちでも、ダム工事の土方をしてなるべくお金をたくさん取らないと子供を学校へやれないですね。ちよつとだけの田んぼを作つて、ちよつとした炭を焼いても値段がどんどん下がりますし、働くことでせいぜいつばい、自然というものを生かしていかれないんです。子供たちだつて朝五時ごろ起きて、六時半ごろやつと学校へ行く、帰りはまづくらになつていっている状態です。自然とかそういうことを言つていられるのは、恵まれた生活をしてる人たちのことだと思ひます。

本重 自然論争となるとやつぱり倒れていることによつて自然は美しい、大げさな言い方になりますけれども、たしかにそう思ひます。いなかがいいという……。

小松（リーダー） いいですか、いなかでは……よくないならよくない、あなたの気持ちをバツと言いなさい。

本重 自然というのは、人間が精いつばい生きるときはじめていいので、そういう生き方をしていない限りだめだ、はつきり言つてそうなんです。

愛情の問題に移りますけど、愛情というの厳しい愛情といつくしみあわれむものと二面があるでしょう。女性の場合は、毎日その子に仕事を与えて、それが片づくまで自分も食事をしていじきにつばな父親になるというくらいに仕合せに暮らしています。毎日主人の両親と顔合せていますから、両親から文句を言われるのが、私には身を切られるような思ひでしたが、主人がうまくカバーしてくれたのでできたので、どの場合にも当はまるとは思ひません。人間社会は一つの目的に對して登る道はいろいろあると思うんです。その中でも社会人として絶対歩いてはいけない以外なら肯定していい道があるということを知らなければならぬと思ひます。信念さえあれば、愛情さえあればやつていけるというのには過信じゃないか。そういう信じてやるべきに、第二の山口乙矢のような少年が生まれてくるんじゃないか。自分が悪い詰めたらどのような間違つたことでも正しく見えてくる。なせば成る、なせばならぬ何事も、という考え方は、全部がまちがいはないと言ひませんが、まちがつた方向に向かつていくんじゃないかということを経験から思ひました。

が飛び込んで助ける、とたんに子供のほつたをたたいたとしますね。第三者としては川に落ちたのにどうにもなくてよかつたのだつていつくしむことを望んでいる。遊んじやいけない川に遊んで落ちた、その前のほうを見ないで、後半だけを見ている。もし愛情の目的というものがあつたならば、それは人格を高めるものでなければならぬと思ひます。自然が美しいということも、自然を見ている人間が、人格を高めていくために自然があるというようにとらえないとききの自然論争はこの愛情に結びつかないと思ひます。

若山 立石さんのおつしやつたことに疑問を感じたんですが、私もさつき言つたように、手間として農家へ来たんですよ、だからお孫さんを飼つたときには、子供をおんぶしたまま、朝まで桑の中で寝るなんてことはしよつちゅうでした。

それからタバコなんか作ると夜はぜんぜん寝れない、トマトの青いのを都会へ出す場合、荷造りするたため二時間しか寝られないんです。そういうとき病氣になつて、急に一カ月入院するはめになつて、自分は働くロボットみたいだ、ということに気がついたんです。そういうことにおおつかなければ、自分の生活を楽しいものにしていかなきゃいけないという現実をつかめないんですね。一つの助言にぶつかつたときに、それは必ず打開していけると思う。生活を楽しくしていくという目をもつたときに自然を愛する気持ちも起ると思う。落穂を拾う気持ちですね。秋なんか、あのミレーの絵のようなああいうときは農家つていいなということを感じると思ひます。

田中 愛情の問題ですが、私は非行少年を預かなければならぬはめになつたんです。高校卒業前に面談を亡くしてからぐれ出し

たんです。学校に行くといつてよそに行つたり、マージャンやつたり、高校時代から酒、タバコをやるといつた調子で、私のほうの血縁なんです。幸い主人も協力してくれまして、私たちが夫婦で一年ぐらいたつたが、その間主人も一滴のお酒も飲まないで、毎日その子に仕事を与えて、それが片づくまで自分も食事をしていじきにつばな父親になるというくらいに仕合せに暮らしています。毎日主人の両親と顔合せていますから、両親から文句を言われるのが、私には身を切られるような思ひでしたが、主人がうまくカバーしてくれたのでできたので、どの場合にも当はまるとは思ひません。人間社会は一つの目的に對して登る道はいろいろあると思うんです。その中でも社会人として絶対歩いてはいけない以外なら肯定していい道があるということを知らなければならぬと思ひます。信念さえあれば、愛情さえあればやつていけるというのには過信じゃないか。そういう信じてやるべきに、第二の山口乙矢のような少年が生まれてくるんじゃないか。自分が悪い詰めたらどのような間違つたことでも正しく見えてくる。なせば成る、なせばならぬ何事も、という考え方は、全部がまちがいはないと言ひませんが、まちがつた方向に向かつていくんじゃないかということを経験から思ひました。

立石 高知県に大橋というところがあるんです。私のところからまだ山奥へ入るんですが、その保母さんに来てくれる人が、いくら広告してもないんです。志満津さん、もしあなたが資格があつたら来てくださいますか。

志満津 私は女学校の先生を希望してゐるんです。私としては行けるものならそういう辺地の教育に興味があるんです。ただ主人が東

京に勤めていますので、動くことはできませんが近くだったら行ってやってみようと思います。

立石 近くに住んでいたら山奥でも来てくださるというのも、社会的良心だろーと思うんです。私は子供が大きくなつたし、同じ高知県に住むからもし行けたら行きたいと思つて勉強して保母の試験を受けましたけれども、七科目のうち五科目しか通らないで保母の資格がもらえないんです。保母さんの学校を出た方はたくさんいらつしやいますけれども、新聞の広告が、きようは消えるか、明日は消えるかと思つて見えています、やはり出ているんです。

志満津 保母さんの資格がなくても……

立石 資格のある方じやないとだめなんです。四月になつたらだれか来るんだらうかなと思つて心配しているうちにこつちに来たんです。私だつたら住み込みでないと行けないし、主人の理解でもあつたらと思うんですが、子供もいますし、なかなか実現できないんです。

田中 資格のない人でもそこで実習期間という形で……

立石 有資格者二名と出ているんです。だれかははじめはいたんでしようが、その人がやめるかなんかしらなんでしょう。高知県は僻地が多くて、僻地の話ばかり持ち出してすまないと思ひますけど。小松(リーダー) あなたには僻地のことを話してもらうのに出

ていただいているんですから……

立石 私は満州で生まれて満州で育つて、引き揚げてきたものですから、そういういなかの人がかわいそうだと思ふんです。

本重 愛情と良心の問題で、たとえば非行少年とか、よめきだとか、そういう問題も愛情の問題の変形になっていますね。そう考えると資本主義社会の類處的な面だけでマスコミで強調しすぎて

いるようですね。非行少年の場合でも私たちが接触してみると、そうでない少年もあります。ですから非人間的な面だけが強調された場合には、逆の人間的な面を、愛をもつてさがして、なだめになつていくことが、愛情を社会的良心と結びつける生活態度じやないかというふうに考えます。

志満津 そういう点マスコミの責任は大きいと思うんです。こういう機会をえて良心の問題について盛り上がっているから、ひとつやろーじやないかと取り上げてくれると威力を発揮すると思うんです。雑誌なんか小さなことを尾ひれはひれつけて、悪い面ばかり書いているのがありますけど、もつといいことを取り上げて宣伝してくれると世の中にもいいことがあえるんじゃないかと思ひます。

本重 受け取り方の面で、そういうものを私たち一人々が受け止めていくような態度をとつたら、非行少年だからといって見向きもしない、親がならぬものだからといって子供も同じ扱い方をする、そういう下劣なことではなくていくんじやないかと思うんです。

小松(リーダー) マスコミというのは、事をおもしろおかしく取り上げての脚色しているわけですね。自然色運動をマスコミのほうでもやるとしたらどうか。ことに週刊誌なんかでやつたら問題ですね。

時間も参りましたようで社会的良心の問題について二日間におたつて討論したんですが、社会的良心はさきほどから繰り返して申し上げているように根拠のいることだということ、それからへこたれてはいけないということ、これは大事なことだと思ひます。もう一つは社会を知ること、これはたとえば私の吸つてい

るこのタバコは商品です。しかしこの商品の出てくるいきさつというものをわれわれが知ることによつてこの商品にこめられてい

る悲しみとか喜びというものを引き出すことはできます。引き出すには社会的知性がなきやならない。どこまでも知ろうとする徹底的な態度、それがなければわれわれの社会的な良心は狭い、や

せ細つたものになる、こういうふうに考えるんです。

ところで社会的良心というものは、これも繰り返して申し上げますが、非常に荷の重いものです。厚い壁にぶつかつた場合には、われわれの気持というものはしぼんでしまう。そのときにしぼみ切りにしてはならない。そうするにはどうすればいいか。一つは自分の直面している問題は自分だけの問題じやない、悩みは共通であり必ず友だちがいる。良心は良心を呼ぶという、非常によい言葉があつて、決して良心というものは孤立してはいない。相ともに良心の道を進んでいくという、そういう意味で、組織というものが、仲間といつしよに進んでいく、仏教で言う同行ですね。これがなければ、われわれ良心の立場を貫こうとしても、人間弱いわけです。良心の道というものは、ある意味では自分一人でも進んでいくという孤独に耐える強いものがなきやいけないけれども、しかし実際には友とともに相ともに進むということがないとまずい。こういうことも確認できたように思ひます。

皆さんお帰りになられてこうしてここでようやく呼びさまされた良心、そういう立場に立つて行為しようというときに、壁にぶつかつて、気持も沈むだろう。そのときはお互いに文通されたりして、そうして励まし合ふということ、これはわれわれの心の中にともされた良心の灯というものを、少なくとも消さないという最も

小松(リーダー)の手記では、このように思ひます。

午後五時〇五分 閉会

第四部会

会議員

北海道 岡口 露子(無職)
 茨城 岡山 初子(無職)
 千葉 篠崎 てい(無職)
 東京 阿久津 秀代(薬局)
 富山 川島 恵子(無職)
 岐阜 加藤 都子(無職)
 愛知 八島 千代(無職)
 兵庫 船木 つるあ(把柳業)
 和歌山 内田 充子(臨時教員)
 広島 村上 幸子(無職)
 山口 田辺 静子(無職)
 香川 谷本 ヘルミ(無職)
 愛媛 宮内 美代野(セールスウーマン)
 福岡 江崎 佐規(乳児院勤務)
 熊本 木村 ちずえ(公務員)

リーダー 渡辺 道子(弁護士)

特別オブザーバー

近藤 治子(全国地域婦人団体連絡協議会)
 竹井 二三子(日本生活協同組合連合会婦人部全国協議会)
 津田 敏子(全国漁協婦人部連絡協議会)

第一日目 十三、三〇～一七、〇〇

渡辺(リーダー) 私、これから私どもが取り上げていく問題を分けてみたのですが、初めに「社会的良心と私たちの生活」ということで問題を掘り下げてみたいと思います。「社会的良心」ということは、おそらくこの題を与えられた時に、だれもみんな大変むずかしいことだと思つたにちがいないと思います。私もずい分考えさせられたのですが、ここで言おうとしている「社会的良心」とは一体どういうものかということ、私たちの身近な具体的な例を話し合つていくうちに、こういうものじやないかというふうになり、つかんでみたいと思つたのです。そして、社会的良心とはこういうようなものであるということがわかつたならば、次に私たちの社会、日本の社会、私たちの地域、家庭の中に、社会的良心というものが生きているかどうか、育っているかどうか、もしも育っていないとしたら一体その原因はどこにあるのか、ということを知りたいと思つたと思います。

そういうふうに考えていきますとおそらく私たちは六百年近くも私たちの生活を支配してきた家族制度の問題に突き当たります。そこで、外国では社会的良心が非常に育つていいると思えるのに、日本ではどうして育つていないのか、その原因は一体どこにあるのか、どういう違いがあるのかということ、話し合つてみたいと思います。それから、私どもの周囲には社会的良心が弱いことから起こるいろんな問題があるわけです。そういうものを出し合つて考えていきますと、今度は次の第二の項目にひつかかってくるわけでございます。つまり、社会的良心が弱い、そういうようなものがどういふところから生まれてきているかというこ

ことをつかんだら、次に、「それでは一体社会的良心というものを育てるのはどういうような条件が必要なのか」ということを、私たち一人一人の問題として、家庭生活の問題として、それから社会の仕組みの問題として、そういうふうに考えていつたらどうかと思います。そういう必要の条件があるのなら、その必要の条件を作っていくために私たち婦人は何が一体できるだろうか、何をすべきなのかということ、それから、そういうことを、次の世代の子供たちの中に育てていくために一体どんなことができるか、何をしなければならぬか、私たち一人一人がよき社会人として生きるために国民として国を考えていく時にどういうふうにあるべきでないか、現実的にこの国を本當に福祉国家にするためには一体私たちは何をしたらよいのか、こういうふうな問題を広げて考えていつたらどうかと思います。これはあくまでも筋書ですから、皆さんとお話し合っている途中で、取り上げたい問題が出てきましたら、これにとらわれずに、皆さん御自身で筋書を作っていくていただきたいと思っています。社会的良心とは何ぞや々といつてもなかなかそれをつかむことはむずかしいので、皆さんが社会的良心ということについて少しでも考えさせられた具体的な事柄を出してみまして、一体その問題のどこに問題があつたのか、それからその問題点についてどう考えたか、どう解決しようと努力したかというようなことを、実例を上げて話していただくことにしましょう。

篠崎 私の家の前の道路は土地が低いので、雨が降りますと、水びたしになつてしまうのです。それで、その低い地域の人たちは自分で自分の畑の土を運んで補修しました。しかし、その時、私は、公道である限り各家庭がそういうふうにするということに不審を

抱いたわけですね。各家庭でリヤカーを持ち出して勝手に自分の土をとつて、そこだけはよくなりますけれども、そのしわ寄せで上にある宅地にどんどん水が流れていくようになるのです。私としては、その時には、社会的良心とか、広く社会のことを考えるとき、はつきりした意識はございませんでした。ただ、ふつと、このままではいけないのではないだろうかという疑問をもちまして、それから町の土木課に電話したわけです。それがきつかけとなつて、私の地区全体が感謝状をもらうような、道路の補修が進んでいつたわけですね。その時に、やつぱりこれは、ものに対してどうしたらよいのかというように考えることが大事なのではないかということを感じました。その場合、低い土地に住んでいる人が土を盛つたということ、ある意味では良心からだつたかもしれないけれども、それは必ずしも社会全体につながらない行為だつたのではないかと。そういうふうに各自が勝手にやるより、広く手をつないで道路をよくしようというふうなことで始めなければならぬのじゃないかと思いました。

岡山 今農家ではお嫁さんの問題やいろいろな因習的な問題で大変困つておられますので、いろいろに研究し考えまして、実は私たちがのような三十代、四十代のお母さんがグループを作りまして、その人たちが因習をなくすようにもつていこうという運動をしております。そして、私たちが五十代になつたらいろいろ矛盾したことをやめていこうじゃないかということで、そういう組織が茨城県の中に幾つかできております。どうぞ皆さん方もそういう運動に御協力下さい。

江崎 私は小児科の仕事をしておりますので、赤んぼが生まれる時から見ておりますが、今の二十代、三十代のお母さんは、十グラ

ム、二十グラムの体重を云々なさいますが、それよりもつと大事な問題があるんじゃないかと思ひます。それは他人に迷惑をかけるのか、そういう大事な母親のやらなければならぬしつけ、将来その子供が二十代、三十代になつて立派なお母さんになるために小さい時から本當に家庭でしつけなければならぬしつけをちゃんとしておいていただきたいということです。若いお母さんたちは、子どもさんを、生まれ落ちた時からそういうふう育てることによつて、将来立派な社会人になる基礎をつくつておいていただきたいとお願ひしたいのです。

川島 富山の分科会でもその話が出ました。富山というところはちよつと子供が大きくなると内職したりお勤めに出るんです。家が留守になりますから、おばあちゃん子になつたりして、富山にはずいぶん不良化が多いのです。なぜそういう不良化が起こるか、やつぱり子供をほつたらかして経済のみに走つて、子供の教育まで手が届かないということだと思ひますが、そういうことをどうお考えになりますか。

村上 私は、社会的良心というものは、今の社会では、むしろ個人にはマイナスになるようなことじやないか、目前の利益にならないようなことをすることじやないかと思ひます。具体的な例で言いますと、たとえば、私の家の方では下水が完備されてなかつたので、それを頼みに市議員の家に皆で行かなければならぬ。何となくそろそろ行つて行つてお願ひするんですけども、私は何か割り切れない気がするのです。これが票につながるんじゃないか、それで私だけ行くまいかと思ひますが、そこまででは踏み切れないわけです。そのとき私が、どうも一票を差上げる気にならなから行かないと言つたら、私の社会的良心は満足される

かもしれないけれども、私の地域社会での存在はマイナスになるし、また私の家の前がきれいにならなければ私の家のマイナスにもなるわけです。で、今の社会的良心というのは私たちの今の状態ではよほど勇気がない限り、踏み越えられないものじやないかということを感じます。むしろ私たちの目の利益や個人の利益に直接つながらないものが社会的良心だから、問題になつてくるんじゃないかと考えてみたんです。

渡辺(リーダー) 先ほど茨城の岡山さんが、今、三十代、四十代の自分たちが、五十くらいになつたら古いものをなくしていこうということでしたが、それでは今具体的にどういうことをしていますか。

岡山 いま、三十代、四十代のグループがありますが、お葬式の場合でもグループの方針に沿つていたします。私たちのところでは、家に不幸がありますと、七日の間近所の人が手ぶらで来てその家で御飯食べて帰る。お子さんはお弁当をもらつて帰る。皆さん無料のお手伝いをするわけですけれども、その家で御飯いただいた生活するんです。私たちはこのグループの会員になつていますから、そういうお葬式はしないことにしています。

渡辺(リーダー) そういう時にあつれきが起こりませんか。岡山 ずい分いろいろな問題が起こりまして、最初は何んぼだとか部落から押し出そうかという話もありましたが、部落中の人は何年かかつて、このグループを作つたわけですね。

渡辺(リーダー) そういうことはやはり嫁不足の問題にもつながつていく問題だと思ひますけれども、お嫁さんが農家に行きたがらないとか、若い人たちが農家を飛び出していく原因の一つに、経済問題や労働が過重だということのほかに、何か農家の生活が

いつでも自分の内心の問題として物事を考えるのじやなくて、世間体というものを気にしている、そこに非常に大きな原因があるんじゃないでしょうか。そうすると一体世間体を気にするということはどういふところからきているんでしょうか。

谷本 やはり習慣です。

渡辺 (リーダー) その習慣はどういうふうに生じてきたんでしょうか。

谷本 長い間かかって築き上げたものですね、家長の言うことは全部きかなければならないというふうな……。

岡山 もう一つ原因があると思うのです。農家は非常に血族のつながりが強いから、何か問題を起しますと、自分の家の名譽だけならいいけれども、その波紋が血のつながりをたどって非常に多く及びます。そういうものがやはり壁になつて大きく影響していると思います。

村上 世間体を気にするというのは、ある意味では虚栄心とか私利私欲人間のもつている改めなければならぬものが自分の中にあるんじゃないかと思うのです。結婚式の例にしても、自分の子供をほめてもらおうというものが昔からつながつてきているんです。なぜそういう習慣があるのか、というところまで掘り下げてみると、やはり人間の合理的でない面、そういう一つの弱さがずい分あるんじゃないでしょうか。だから、逆に、それを改め得る可能性があるとすることも言えるんじゃないでしょうか。

渡辺 (リーダー) そういう人間に個々の弱さというものが非常に強められて、組織のような形にまでなつて作り上げられたということ、そういうものの元は一体どこにあるんでしょうか。

田辺 百姓は生かさず殺さずという政治のあり方が長く続いたために、農民が自分たちだけで団結しなければならぬために、それ

でしょうか。

谷本 男の利益にならないから、出かけるということをいやが

るんです。

八島 男の人たちの理解がなければむずかしいと思います。

渡辺 (リーダー) どうして男の人たちは古いんでしょうか。

川島 女の人自体責任がないと思います。農家でも商家でもお嫁さんが家計をもたないという家はたくさんあります。それは、できないようにしてしまつていふんじゃないかと思ひます。

船木 もう一つほかに原因があるんです。それは兄弟が少なければいいんですが大勢いると、嫁さんに財布を早く渡してしまつて弟や妹が困るからです。私のよく知つていふ人で、よくもののわかるお婆さんですけれども、まだ自分の子供が四人もおるから何十年たつても財布は渡されぬと言つています。そういう人が農村には多いのです。その嫁さんに能力がないというわけではなくても、自分の子が育つて家を出るまでは絶対に渡さないという人が多いのです。

篠崎 やつぱりそれはお姑さんの考えによりますね。財布をだれが握つていても自分の子どもには何としかしてやらなければならぬのは親の義務です。長男の嫁がやつていても妹が結婚するといふ時は、それは正当な理由ですから、するだけのことはしなければならぬでしょう。お嫁さんがやつてとか、姑さんがやつていふからということはないと思うんですけれども、

渡辺 (リーダー) 農村問題として出ましたけれども、そういう問題が都会の生活にも同じような問題があると思ひます。

阿久津 家を中心にして考えた問題ですけれども、個人の良心は生かされないし、全体の社会的良心も生かされない、これは、家を

が積もり積もつていふところに出てきているんじゃないでしょうか。

篠崎 農家といふは因習ということがいわれていますけれどもそうじやなくて、たとえば私は次男坊と結婚いたしましたから伝統的な農家ではございません。そういうふうな農家、あるいは昔からの家から離れて家庭をもつと、割にむだなことは捨てて世間体なんから、ある程度簡単に抜けられるんです。今の農家にある因習というのは、私たちが少しづつ抜けてきたその残りがまだ農家だけに残つていふ状態ではないかと思ひます。

渡辺 (リーダー) 農家だけにそういうふうな強いものが残つていふというのは一体どういふことでしょうか。

篠崎 主婦の自覚と考へでどうにもなると思ひます。申し上げましたが、農家の主婦や主人の自覚が遅れているので未だに残つていふんじゃないかと思ひます。今になれば因習ですけれども、昔の時代には因習じやなくてそれが社会のあり方であつた。それが今も残つていふんだと思ひます。

谷本 戦前は女は子供を育てて家事だけして、ほとんど外に出てもうえませんでしたので、社会的なつながりが非常になかつたと思ひます。家庭の中にひつ込んで家長の言うことをきいておりました。ですから、家の中では何とかがつておりますが、一歩外に出るとあまり発言しません。かげ口はじやんじやん言つても人様の前では話さない。戦後、婦人会などへずい分出られるようになりまして、そこで話し合ひをするようになり、女の方がりこうになりましたが、これからもつと明るくなつてくるのじやないかと思ひます。

渡辺 (リーダー) 今のお話の、女の人をりこうにしない原因は何

中心にした考へ方をなくさない限りだめで、結局家族制度が問題じやないかと思ひます。今お話が出たように、あと四人の子供たちを教育しなければならぬということ、そういうところにとらわれないで、当然子供たちはこれから教育されていかなければならないということを長男が知り、嫁も知り、親たちもそれを納得して、心配のない環境を若い人たちが作つていく。そしてそういう因習を打ち破つていく以外に手がないのではないのでしょうか。勇気をもつてそれをするべきだと思ひます。

川島 それは一人ではなかなかやれませんね。

阿久津 家族の中での話し合ひがうまくいけばそれはできないということはないと思ひます。結局、財布を離すことに、年寄りの方に何か不安があるんじゃないですか。財産やその他いろいろな面で、だからそれを打ち破つていくには相当に勇気がいると思ひますけれども、家族の中の話し合ひで個々の家で問題を解決できることもあるんじゃないですか。

岡口 これは若い人たちの努力も足りないからつと強くなつて真心こめて尽したら、どんなお母さんでも自然とわかつてくると思ひます。

宮内 東京の阿久津さんのおつしやいました財布をとられることに對する不安というよりも、結局、女の人が置かれていた地位が家族内で低すぎたんです。何も立場がなかったから主婦が財布を握ることによつて權威を保つ心のよりどころがそこにあつたんじゃないでしょうか。だから新しい嫁に財布を渡したら自分の立場がなくなつちやうような現在の日本の家庭に問題があると思ひます。ですからもつと女の人が年とつた後の心のよりどころとなるような力をつけることが一番の先決問題じやないかと思ひます。

船木 私、これだけは皆さんに聞いていただきたいのですが、それは部落の差別の問題です。この部落問題を打ち破ろうとして市や県でも一生けんめいやっているし、母の会などでも映画を見せたりしてなくすようにしているんですが、その時は皆な同調したようなことを言っているんですけども、帰り道であんな映画を見せるからなおさら軽べつされると一人のお母さんが言うので。私はその部落の人たちについてでも勇気をもつて当たりなさいと言いますが、その人たちは、それはよくわかっていて、私たちが何百年一つの部落に同じこめられているので、子供を学校に出してどんなよいところに就職させても、ほかの人に、あの人は部落出だから、と言われただけで、その子は職を離れて帰ってくる。こういう話をお母さんが泣いて私たちにしてくれました。こういうことはどうしても婦人の手でそれを解放するように運動を起してやつてほしいと思います。

宮内 私、仕事の関係上各地を訪問しておりますが、その中で特殊部落というところを訪問したのですが、その時は私、そういう部落ということは知らなかったのです。後で聞きましてとてもやりきれない気がして、現在でもそんなことがあるのだということが不思議で、私はそういうことを一切かまわず月に二回必ず行っております。実際に私が行つてみて感じたことは、皆さんはほかばかりしいような誤解をなさっているということです。私は折にふれていろいろ話をするんですけども、結局昔から大人の方が受けつけてきた觀念が非常に強い。しかし、若い人たちはこの部落問題については私と同じ意見で、そんな差別という觀念は全然なく、それを問題にするということ自体が問題であると言っているくらいです。この問題は、年のいつた方には、それを打ち破ることは

す。少し休んでから、これをもつと廻り下げて考えてみることにいたします。

(休憩)

渡辺(リーダー) それでは、皆さんがご自分の住んでいらっしゃる地域でいろいろと社会に残っている問題に取り組んで、社会的良心というふうにはつきりとお気づきにならなかったかもしれせんけれども、社会的良心を生かしたような活動をしていらつしやるわけだし、これからはもういらつしやるうとしていくわけですから、そうすればまずその前に、社会のいろんな問題を私たちがしつかりとみて、そしてそのどこに社会の問題があるのか、どういふ問題があるのかということをはつきり知らなくてはいいけないと思います。そうすると、皆さんが家庭の中にずうつとい自分の生活から社会の問題に目を注ぐようになってくる。そして社会的な活動をするようになった自分自身の生活の変化というもののがわかつてくると思います。どういふ生活の変化から社会の問題に目を向けるようになったか、そのことを少しお出しになつてみて下さいませんか。また社会の問題に目を注ぐようになって実際の活動をしていくのにたやすく協力が得られたかどうかというところ、そういうことを少し話し合つてみましょう。

川島 私の家の前にちようど一メートルぐらいの川がありまして、ちようど私の家の前に鉄の柵がしてあるのです。そこにごみなんかひつかかるようになっていまして、みんなが流すものですから整理するのは私と決まっていたんです。私も自分ばかりやっているのはひどいし、とにかくごみを流さないようにして

できませんけれども、もうちよつと先になつて若い世代の方々が大人になつた時にはやがてそういうことは解消するんじゃないかと思つております。これは少し楽観しすぎているでしようか。

船木 でも現に若い人がそういうことを言っているんですよ。裁判所に勤めている子が隣り村の子に、あの子は部落出だからということと言つたというのです。そのお母さんは子供を一人前にして高校まで上げていい所に勤めたと喜んでいたので、これがほかのことでやめたんならしようがないとあきらめるけれど、涙ぐんで言われたんです。

渡辺(リーダー) さつき広島の方が、社会的良心というのは自分の損になること、得にならないこと、そういうことをやつていくこと、そんなところに社会的良心があるんじゃないかとおつしやつたこと、この部落差別の問題でも部落に味方するというところで自分の良心を貫いていくと損することがたくさんあるでしよう。そのところにあるあなたの問題にしている部落差別の問題と私たちがここで考えている社会的良心というもののつながりが合が出てくるわけですね。そこで、社会的良心はどういうものかということの一つの考え方がつかめたわけですね。部落問題は本当に大きい問題で、ここで結論は出ない問題ですけれども、また最後にどういふことを私たちはできるかというところで一緒に考えることにしましょう。

きようは初めですから皆さんからたくさん問題を出していただただけで、社会的良心というものをそのものずばりでつかむところまではいきませんでした。大体どんな問題をどういふふうにか考えていくと、社会的良心と結びついていくか、というようなことがおぼろげながら皆さんに感じられたんじゃないかと思いま

もらいたいということで、回覧板を回しました。それで今ではそのごみもだいぶ減りましたし、役場に協力いたしました。川島らにも現在やつております。

渡辺(リーダー) あなたがそういう問題に目を注ぐようになったのは、あなた自身の生活のどういふような変化からなんですか。

川島 きつかけは去年の地方婦人会議に出て、人のいろいろな話を聞いていましたら、とにかく口でいうだけではどうにもならない。みんなと協力しなければならぬということがわかりまして、それじゃ私にもできるんじゃないかということを考えてやりました。渡辺(リーダー) そうすると家庭の中からそういう会議に出かけていったというあなたの変化からなつたわけですね。

船木 私は自分たちの夫婦の努力で小さな家庭生活を営んで、これ一で親子だけで安易に暮らしていればいいものだと思つていたんですけれども、三年ほど前から子供会を引き受けるようになりました。よその子供たちとともに話したり語つたりするようになって、その背後につながる家庭と子供との関係というようなことの実際を知るようになってから、なんとかして子供会を通じて子供たちに何か奉仕をしたいという気持ちもとで、いろいろなことをするようになりました。

渡辺(リーダー) あなたは結婚なさつてからずうつとご家庭にいらつしやつて、そういう問題には目を注いでいらつしやらないかたわけですね。

船木 今まで自分たちが食べるだけがやつとして、小さい子供を大きくするのに一生懸命でして、そんな余裕はなかつたんですけれども、今子供も手離れましたし、みんな学校に上がるようになって、自分が子供のPTAの会合に出ていつて話し合いをするよ

うになつてから、やつぱり親というのは外に出て何かを目でみた
り、耳で聞いたりして、目学問、耳学問をするようになったし、
それによその子供の世話をしようになつて、そういうことがも
とでいろいろなことをするようになったのです。

内田 私はやはり結婚してからずうとうちにいたんですけれど、
昨年婦人会に出るようになりまして、それがきっかけでいろいろ
な活動をするようになりました。

村上 私、高等学校の国語の先生を四年間した経験があるんです。
そのために父兄というものをみておりまして、もちろんお母さん
方が多いのですが、自分の子第一主義なんです。私もいづれ家
庭にはいるだろうけれども、あのようには幅のない人間にはなりた
くないと思つていたんです。結婚と同時に学校をやめて、まあわ
かりやすい言葉でいへば底光りする人間に将来なりたいなという
夢があつたんですけれども、喪禮家などにはいますと雑用に追わ
れますし、いい意味でも悪い意味でも家というもののしほられる
わけです。それで私はやはり自分自身の人間形成のために外との
つながりをもちたいという気があつて、結婚してちやうど四年
半たつて外へいくらかでも出るようになりました。外へ出るよう
になつてから皆さんとお話することによつて、私が家の中で本
を読んでいたのでは得られなかつたものをかなり得たと思つてお
ります。そうしてみますと今度は、みんなでお話し合ひしている
だけではもの足りなくなつて、いくらかでも社会のお役に立
とうじやないかということで、私たちのグループが奉仕活動をする
ようになり、そのことを通じて、この席へ出てきたわけです。で
すから私としては、家庭から自分自身の心の広がりといひます
か、人間としての幅がもたらぐ外へ出てきたわけです。

窓口に働いております。ここにもまた、もつと大きな問題があ
りまして、自分の家庭内とか、自分の身のまわりの二、三人だけ
ではどうしても解決できないことがわかりました。その親の身に
しますと病気がなつて社会へ復帰する場合でも、どうしても社
会には偏見がありますので、どうかしてこの時こそ社会的良心に
訴えて偏見を改めて、その子供たち、あるいは全快して出ていく
人たちのためにどうかしてあげなければいけないということを
思つてはじめました。

渡辺(リーダー) あなたの場合は家族の方たちの協力が割に得ら
たわけですね。

宮内 私の場合は有権者として選挙する場合に、私は明るい社会に
なるようにと念じながら一票を投じてきたんですが、それは非常
に消極的なものでした。ただ自分一人のカラの中にとじこもつて
本心に小さな、ささやかな夢を心の中で育ててきたということだ
つたんです。その後、仕事につきましてセールスマンという職業
で各地を家庭訪問したりして、各地でいろいろ社会的な問題につ
ながることになりまして、同じ選挙をするのでも自分一人が
いいと思つた人にくつそり入れただけよりは、やつぱり大きく外
へ働きかけたほうがいいんじゃないかという気がしまして、昨年
の市長選挙のときには回旋車に私が進んで乗つてお願いしますと
いう調子だつたんです。それをさらに進めて同じ看板をかかげて
するなら一人でも多く自分に呼応する人を集めて、理想の世の中
を作るために一票でも多くとりたいたいと思うようになりました。そ
のあいだにそういう問題を一緒に考えあおうという方たちで一つ
の小さなグループができました。先ほど終りました地区選挙の
ときにも今度は回旋だけじゃつまらないから、こういう理想から

田辺 昭和三十一年に私の地域から地区の婦人会長さんが出ました。
その方が部落の啓蒙運動や地域の婦人活動のなかに生活改善の
グループがあるから、それにはいらなかつたかと思つてくれました。
それは食生活の改善でございまして、私も子供を二人かかえてお
りましたから、子供の生活の面で勉強させていただくのにもちよう
どいい機会だと思つてはいました。そうしたら、それが食生活
だけでなく、十一年続いているんですけれども、いろいろな広が
りをもつようになりまして、それから会合に進んで出ていくこと
が私の幅を広げることだと思ひまして、ちよつと子供が小さいの
で無理をしたけれども、いろいろなお役をさせていただきまして、
この席に出る、で成長させていただいたわけです。

木村 私は結婚する前五年間児童の療養施設に保母をしておりまし
た。その施設はライの施設で、未完成児童保育施設所というところ
なんです。結婚すると同時にやめましたけれども、その世話を
した子供たちが大きくなつて社会に就職して出ていつてからもや
つぱり相談ごとをもつてくるものですから、そのとき私が結婚す
るからといつて、もうあなたたちとお別れしなければならぬとい
はどうしても私にはいへませんし、それよりも自分が結婚しても
そういう子供たちとのつながりをもつていくのが一つの道ではな
いかと思ひまして、幸い主人もそのほうの関係の仕事にありまし
たので、しゆうとたちにもそのことの理解を求めたのです。そう
したら家族たちも喜んで承諾してくれましたので、今もつて速い
ところは二キロありますけれども、そういう青年たちがきてく
れます。その後、施設の仕事はかわりましたけれども、五年間の
あと、その子供たちの親が入院している病院のほうに転勤になり
まして、現在ではその子供たちの親の相談場所ともいうべき病院

支持しているということを表現できたらと思ひまして応援演説を
お引受けしてやりました。そういうところから社会的良心を生か
すためにはどうするかということを私が考えることになつたわけ
です。

矢島 私は結婚してからずつと家の中におりましたけれども、子供
も大きくなりましたから、「社会を明るくしましょう」という趣
旨の団体にはいりまして、はじめて何か世の中のためになるよう
なことをしようと思つたわけです。

岡口 私、小さいときからよくおばあさんに何か一つでもいいから
社会のためになるようなこと、人間として残るようなことをする
ようにといわれました。そしていつも心には思つていたんですけ
れども、自分の生活に追われて何にもできませんでした。ところが、
子供が大きくなつて私と子供とすごく議論したことがあるん
です。それはうちでいつも船を上に上げるときに、みんなに手伝
いにきてもらうんですが、しけたとき、うちの船とよりの船と
一緒にきたときがあるんです。うちのほうには大勢手伝いにきま
したが、となりのほうには手伝いが少ししかこなかつたんです。そ
うしたらうちの息子が学校から走つてきて、うちの船を手伝わ
ないで、となりの船を手伝っているの、ばかだつて私がいつた
んです。そうしたらうちの息子が、結局二つとも早く上に上がつた
ほうがいいんじゃないか、お母さんがうちの船だのとなりの船だの
というのはいふん根性がきたないつて、息子にしかれたんで
す。それで自分の考えがせまかつたことに気がついて、自分の息
子だけをよくするのではなくて、まわりの子供さんもお母さんと思
つてよくしてあげなければならぬと考へたわけです。それにお
ばあさんにいふれた言葉もこのことだと思つて、それからはいり

ました。

阿久津 私は終戦直前に満州へいざまして終戦になつて中共軍の捕虜生活をしていろいろ労働をさせられました。仕事の上での能力の差別はあるとしても人間としての差別はまったくありません。私が二十八年に日本に帰つてきて感じたことは、日本の婦人の地位の低さ、それから働きたくても子供をかかえていて、どうしても働くことができないという方がたくさんいるということです。やはり経済力を婦人がもたないかぎり男性と同じような地位に立つこともできない。そういう意味からまず女の人たちが働くような施設を作らなければならないのですが、今の日本では国が作つてくれるまで待つていてもだめだと感じたものですから、私設託児所を同志の人たちと作つて、そこで実際に活動しながら国家からの補助をもらつて保育所を作つたんです。今も地域のいろいろなそういう問題につくんでやつております。私には保育園に預ける子供もなかったし、内職をしなければならぬ条件にもなつたんですけれども、社会としてそれが必要なんだと思つたわけです。だから私の問題じゃないからしなくていいというのではなくて、みんなが幸せにならなければならぬし、女も男も同じようにこの社会に強く生きていかなければならぬというふうな立場からだと思います。私は零細な薬局を開いておりまして、激しい経済の動きの中で一日一日が戦いというほど激しい中で生活していきながら、それでもなおかつ地域の問題とつづいていこうというものは、ものすごくだといふ人もいます。けれども、一方には私と同じ考えをもつ人たちが大勢出ておりますし、その中で兄弟よりも親しい人が出てきて、私はそういう面では非常に恵まれています。一人では絶対にできない仕事でも大

勢の力を借りれば必ずできるという確信を何年かのあいだにもてるようになりまして、そういうことで私は現在も自分で自分の幅を広げようというようなことを考える余裕がないのかもしれない。

加藤 私の場合は、一にも二にもそのきつかけは主人で、結婚してから始めたことなのです。性格的に私も主人も正義派なんです。主人は精神科の医者で精神病院に住み込んでいましたので、新婚旅行から帰つてくるとすぐ私もその病院の中で患者さんたちと一緒に生活するようになりました。それは愛知県のある病院で、患者さんが五百人ぐらいいました。その病院は設備だけは厚生省の指定に従つて立てられているんですけど、中身はカラカラなんです。テレビでも何人に一台と指定されているのが何百人に一台しかないし、お風呂でも食事でも、たとえば一日百円規定のものが六十円ぐらいで決められていて、そういうことを主人がとても気にして、経営者にももたけて患者の待遇を改善してきました。その中間に精神科の施設の担当医師もやつていまして、私がおなかに子供があるときにある日精神科の施設へ連れていってくれたんです。それでその子供たちはパンツもはいてなくて、真冬でもちんちくりんのゆかたをきて、あまりにもかわいそうで、本当に胸がつまつてしまいました。それから私の所属しているグループへ呼びかけて、まず物質的な援助をはじめました。それから病院のほうで患者さんの職業指導をして、さしあたっては職業を紹介してあげたのですが、そういうことをやりすぎたものですから主人がクビになりました。今は岐阜県の小さな病院の院長をやつておりますけれども、将来は自分たちで精神科の方の職業紹介所をもちたいと思つております。私のうちではお手伝いさんが三人い

ますが、そのうち二人は患者さんの出身です。近所の人は、もしまちがいでもあつたらどうするかとはじめは心配していましたが、それとも、そのお手伝いさんたちも近頃はちよつと気分がよいかしといと自分で荷物をもつてまた病院にいつちやうんです。そこまで自分で判断できるようになれば、何も精神病があるからといつておそれることはないと思うのです。そういうことは患者さん自身に自覚させ、そしてせめて近所の人だけでも理解して協力してもらいたいと思つて努力した甲斐がありまして、今はほとんどへんな目でみる人はおりません。

篠崎 私、今皆さんのお話をうかがいながら考えたんですが、私なんかは莫然としていて、目を向けるようなことは、ドブがきたないから何とかしなければとか、そんなことで、はつきりした動機はよくわかりません。ですから私自身は別に感心していただくようなことがなんにもないのです。

岡山 私は子供が学校にはいるようになりまして、教育のことについて関心を持つようになったのですが、茨城県は教育予算が全国でうしろのほうから三番目で、九百人の児童のところに年間十五万円ぐらいしかないんだそうです。ですから校舎も古いし、いちはん困つたことは、にわか雨が降つても子供たちが傘を借りることができないのですから、ちよつと放射能の問題がやかましかつたところでしたから、急に雨になつたとき私はうちにある傘をたくさんもつて学校へかけつたんです。はじめは自分の子供だけの傘をもつていけばいいように思つたんですけども、子供たちを持つていけるあいだに、「私たちは自分のうちだけにいると、うちの子供の傘だけをもちつていけばいいと思つても、きてみるとそうじゃありませんね」というような話を、求合させたお母さ

ん方としたわけです。それがもとで五十人ほどのグループができまして、みんなが子供たちのために傘を作る運動を起したのですがそれがきっかけになつて、五十人のお母さん方がめざめたといふことは大変うれしいことでした。

谷本 父は満九十才で亡くなりましたが、長く民生委員をやつておりました。そんなわけで私も民生委員としていろいろな仕事をさせていたでいていけるあいだに、今の農村の人たちはもつと工夫して知識を高めていかなければならないといふことを自分自身が考えたわけです。それで農家を豊かにするのにとりしても経済力を高めなければならぬといふので、いろいろな副業に力を入れる必要があると思ひまして、ことしで三年になりますが、まだまだ皆さんの問題を残しておりますので、今後研究していこうと思つております。

江崎 私は施設で働いておりますが、今の時代、施設で働くものもみんな社会的良心を生かしていると思うのです。しかし、こういう職場では、労働省がせつかく私どものために婦人の労働基準を定めて下さつていても、厚生省の定めている最低基準で施設を運営しようと思ひますと、結局働くものの犠牲においてのみしかできないことになってしまいます。そういう条件のもとで仕事をしておりますと私たちも自分がかわいから、結局子供たちにはねかえりがいくわけです。私たちは、本当の人づくりの基礎は、赤ん坊が私たちのおなかにいるときからやらなければいけないと思つて、それを上司に訴え、一人でも二人でも人手をふやしてもらおうと思つても、これだけ厚生省から大蔵省につながる問題で、私ども末端のものがさわいにくくは解決しないわけです。そこへ、先ほどのお話のよき、あるグループの方たちが泰仕にきて下さいま

したけれども、その方たちが喜ばれようと思つてなさるほど私どもはうれしくなかつたのです。というのはその方たちと私たちの間につながりがなかつたからです。つながるためには、私どもも受け入れ体制を整えておいて、どつち側からも感謝されるような組織が育成されなければだめだと思ひました。それで、私どもとしてはこういうことをやつていただきたいということを前もつてはつきり奉仕して下さる方たちにお話して、仕事をやり始めたのです。そして、今は若いグループの方たちにたくさん来ていただいています。子供たちがいけばん幸せになるようにつとめております。私も職員は全部看護婦ばかりで、みんな相当勉強しておりますので、私たちの持つてゐる知識を若い方たちに教えることによつて私たちの感謝の気持ちを現わそうと思つています。

渡辺(リーダー) 今一通り皆さんにおうかがいしたわけですが、私ども、皆さんが社会的な活動をしていくときに、ご家庭の協力がたやすく得られましたか。

岡山 私はいまだ主人の仕事が夜遅かつたり、お姑さんのおりまじたり、また子供が幼かつたりいたしましたあいだは時間的余裕が得られないので、外に出ますと、婦人の会合は長くなりがちだものから、途中で帰るのですけれども、どうも家庭的にも外的にも気がねがありました。しかし、本当に一寸一寸でも、いいほうにもつていこうという気持ちを絶えずもつてゐるうちに、やがてぬい上がるんじゃないかと思ひながら二年ほど続けております。

渡辺(リーダー) 割に家庭の協力というものは、そんなに困難でなしに得られた方が多いようですね。それでは、皆さんがお仕

宮内 職業を通しての会合を持ちましたときによくそういう問題にぶつかります。それは結局、その問題について十分論じ合つていない。つまり結論が出ていないうちにあせつて結論を出そうとするから、そうなるんじゃないかと思ひます。

阿久津 今の理論の中間かと思ひますけれども、婦人会の人たちは非常に社会性に乏しいというのか、一般社会の問題に目を注がないわけですね。それで、その空気に押されてなんとはなしに賛成したような形になつても、あとで何かわからなくなつてしまふんだと思ひます。ですから、今、私がいけばん問題にしなければならぬのはそういう層だと思ひます。けれども、私たちの地域には最初婦人会というものがなかつたんです。それで本当にそれを必要とする人たちが集まつて、まず民生委員の仕事をやつたんですけれども、最初のうちは悪口をいわれたり、いじめられたりでしたが、長くやつてゐるあいだに理解してくれるようになり、しまいは町長まで一緒にきてくれるような形にまで発展したんです。ですから悪口をいわれても恐れずに本当に自分がやらなければならぬと思つたことをやりとおして理解していただくということが大事であつて、そういうことによつて、意識の低い人たちの社会とのつながりができていくんじゃないかと思ひます。

渡辺(リーダー) あとになつてくぐぐいうような人たちは問題を自分で考えない人たちということですね。

岡山 確かにそうですね。私もその方たちの本当の意識が足りなかつたのだと思ひますが、やはり自分もそれに参加しようと思つたら、徹底してその問題を考えるべきじゃなかつたかと思ひます。

渡辺(リーダー) そうすると一つ重要な問題を今出して下さつたと

事していくときに大変周囲の人たちから協力を得るのがむづかしかつたというような経験をなさつた方はいらつしやいませんか。岡口 何をやるのにも話をすると「お宅さんは案だからいいけれど、うちは食うに困るんだから何もできない」とすぐいふ人があるのです。これがいけばん困る點でした。

江崎 やりはじめれば割にスムーズにいくんですけれども、やるまでに上司との話し合いや同僚同士、また、外部のいろいろなグループとの話し合いに非常に時間がかかりました。

渡辺(リーダー) 何がいけばん問題でしたか。

江崎 個人的良心に忠実であるとか社会的良心に忠実でなくなる。ある場合に社会的良心と個人的良心がはつきりしない場合があるんです。たとえば公務員ですから、なるべく与えられた仕事をその時間内にやる、予算がたかさんといふように精いっぱいやればいいというふうな考えられがちですから、たとえばこういう会議に出ることも余分なことだと考えられがちなんです。そういうことと、役所というもののしぼられてゐるつらさがあります。たとへば、一般的に女の方たちの通弊で、大勢いるところで、賛成ですとか不賛成ですかと聞いてもあまり返事をしないので「それでは賛成です」といふのですね」といふとだまつていますから、いいのだらうと思つてはじめますと、そんなこといつたつて……というふうなことになるわけです。こういうことは、みんなで何かやるというふうな場合には、それがつまづきになるんじゃないかと思ひます。

渡辺(リーダー) 岡山さんの今のお話し賛成なのか、不賛成なのかはつきり返事をしないで、あとでガヤガヤという、そういうことの原因は一体どこにあるんでしょうか。

岡山 思ひます。自分で考えるつていうこと、それから阿久津さんがおつしやつたようにこういうことをしていかなければならぬんだ、せすにはいられないんだというふうな一つの信念ですね。そういうものをもつことなしには社会的活動はできない。その社会的活動をするその根底になる社会的良心というものも自分で本当にものを考えて、自分というものをもつていなければならぬんじゃないだろうか、ということ。その問題は明日の話し合いの課題にかかつてくるわけですから、みんなで話し合ひなり、あるいは自分でものを考えないようになつておいてもらいたいと思ひます。

川島 婦人会にはボスの人はいいて、そういう人に気がねするためには自分にはつきり思つてゐることをいひたいのです。そして人の前では言えないからかけにまわつてこそこというふうになるのです。ですから回覧板をまわして、とにかく名前を書かないでいいから、自分の思つてゐることを書いて下さいといつたら、自分の思つてゐることを書いてくれました。

加藤 私たちの地域でもそういうことがあります。たまに婦人会のさそいに応じて顔出しますと、政治家のヒモみたいな人がいましめて、そういう人が組織を引つづけていこうとするのですが、本当に引つづけていくだけの力がその人にならぬということが一つの原因だと思ひます。だから同じ世界の、同じ世代の人だけのグループを作ると比較的そういう弊害がないですね。

渡辺(リーダー) そこで問題になるのは、そういうボス的な存在の人に対して、もしも本当に自分の考えをちゃんともつていたら何かいえるはずじゃないでしょうか。そのいえないということは何が問題なんでしょう。

村上 今まであまり発言する機会が与えられなかったもので、発言する能力がないということじゃないでしょうか。だれでもいいということはあるんですが、それが言葉にかかわらない、言葉に変わったとしても、言うだけの勇気がない。今までの人たちが、社会習慣で女性を抑え目ということが美德であつたから、関心もあるし胸の中にはあるけれども、いえないという人たちがいると思います。だからそういう人たちにやはり発言するという習慣を作らなければいけないし、そのための自覚をもたなければならぬと思います。そうするとぶつぶついうのがいくらか解消できると思います。

渡辺(リーダー) ぶつぶついうことを解消するためには発言の機会を作るようにしなければならぬわけですね。いつまでもいいないでいるとボスの人が発言の機会を作らせない。そこで、発言の機会を作るためには勇気のある人が何人か集まつて、作るようにしなければならぬわけですね。しかし、そういう機会がないからといって待つていたんでは永久に機会は作れないわけですね。ここでもう一度自分にかえてみて、そして本当に自分が正しいと思つたら、とつ弁だろつと、まずい文章だろつと、聞いている人におかるのですから、そういう勇気をもつようにする、そういう自分との戦いというものがそこになければならぬわけですね。そういう自分との戦いを本気になつて女の人にさせなかつたものは何でしょうか。

田辺 農村には家の格というものがあつて、あの人は若いけれども家の格からいへば適当だからおまかせしようということがあるわけですね。けれども昔のことばかりいつていたんでは進歩しませんから、婦人会の世話役も家の格とか年令とかいわずに、順番ということにします。もし、順番でいけなければ、くじ引きにして、

くじにあたつた方が奥さんとか特別にそがしい方とかいうことで、出ていく場合には、お互いにかわりあつてでも、そういう機会を作つてやつていく。そして出た方が、いいことがうまく言えなくても、それはその人に備つたものだから、みんなで助け合つていきましようということ、ずうつと続けてきています。やつぱり順番で自分になつてくるんだという自覚をもつておりますと、割合いスムーズにいくもので、このやりかたは、私としてはよかつたと思います。

渡辺(リーダー) いま家の格というものが出ましたが、ずいぶん家族制度というものが単的に語られていたと思います。結局家族制度というもので、どんなにみんなが発言できないような人間にさせられ、そういう環境が作られてきたかというところは、皆さんがお解りなつて一人一人がそれによつて勉強なさつたり、またグループの問題として勉強なさつてみて、はつきりその実態をつかまないと、これを打ち破つていく戦いのやり方が出てこないわけですね。ですから家族制度というものの掘り下げを一生懸命にやつていかなければならぬと思うのです。それから皆さんが作文の中でずいぶん触れておりましたけれども、外国の場合と日本と比べて公衆道徳だの子供のしつけだのいろいろな面で非常に違うということ、たとえば子供が電車で乗つたらお母さんのぶんで席をとつていられるというようなことも、外国でしたらすわつてる男の子も立たせて年寄りに腰かけさせるわけですね。そういう違いというのはどこからきているのでしょうか。

八島 外国ではキリスト教があつて、小さいときから教えているんじゃないかと思うのです。

江崎 キリスト教では奉仕がいちばんですから、社会的良心を生か

すということと小さいときから他人に迷惑をかけないように教育されています。ですから私は小さい子を見てみると、日本のお母さんはもつと賢くなければならぬ、お母さんたちが賢くなれば将来の社会的奉仕がどうのこうのといつてもしやうがないと思うのです。そのためにそういうふうな家庭のあり方というものがいちはばん望ましいんじゃないかと思ひます。

木村 今宗教の問題が出ましたけれども日本で宗教といふと家の宗教みたいなものが感じられます。仏教にしても祖先伝来の家の宗教で個人の宗教ではない。これがキリスト教になりますと若い人たちでも教会に行く人が多いというふうな個人の宗教であるわけですね。何を選擇すると個人個人の自由で宗教というものは信仰してはじめて宗教といえると思ひます。そして、信仰する宗教がもう少し家庭生活の上でプラスになるところがあれば、電車の中で子供たちがそんな振舞をするともなくなつてくると思ひます。

村上 私は宗教というものはちよつと考えが違ふんですけれども、東洋の仏教というのはむしろ個人の安心立命ですか、そういうものを求めているので、それからキリスト教は社会というものの対する意識が強いので、その証拠にお寺は山の奥とか僻地にあつてキリスト教の教会は町の中心にできてそこから広がつた。だからやはり民衆とのつながりがキリスト教は強いんじゃないかと思ひます。それがやはりフロンティア精神に続く根本の考えじゃないかと思ひます。それともう一つ宗教のことではないのですが、きよりの講演の中で私、とても感銘を受けたんですけれども、今までは、やはり家を中心と考えていたので、社会的な活動に対する評価が非常に低かつたんじゃないかと思ひます。

渡辺(リーダー) 結局木村さんのおつしやつたことと同じだと思

うのですよ。仏教というのは個人の問題なんですけれども、今の状態の中では家の宗教のような性格をもつていられるのであなたのお話も、木村さんのお話も、どちらも本当のことだと思ひます。

岡口 仏教でもよくうちのおばあさんが、今の若い者は宗教心がなくなつたから奉仕する気持ちがなくなつたといふんです。何の宗教でも、根本においては、宗教を信じるものは奉仕をして、そのお返しをしてもらう気持は全然ないのではありませんか。

渡辺(リーダー) 宗教といつてもいろいろあるわけですね。ここで私たちが宗教の基礎がないという場合には、私たちは非常にさびしい。それで、宗教を選擇する場合、その人が何を信じるかは自由でなければならぬ。倫理性というものを非常に高く要求している宗教でなければならぬ。そういうものでなければ社会的良心ということを経験させていくような基礎にならないといふことです。大体これできちやうのお話し合いの予定のところまで来たわけですから、あしたはこれを発展させていつて、「社会的良心を育てるために必要な条件」ということについての問題を話し合つていきたいと思ひます。最後に特別オブザーバーの方にきよりの話し合いをお聞きになつたり、あるいはご自身でお考えになつたことなどをちよつと発言をしていただきましよう。地婦連の近藤さんからどうぞ。

近藤(特オブ) 皆さん方本當にいろいろな方面で直接ご苦心していらつしやることをうかがひまして、私は本當にいい勉強をさせていただきましました。きよりのテーマで社会的良心ということはどういうことであるかということをお話し出されましましたときに、私は本當にむずかしいテーマだと思ひまして、逆な方面から考えてみたかどうかと思ひました。非社会的良心というものを頭においた

ときに、朝からいろいろな気持ちがよくない行為が目についてきました。こうしたことから本心に社会的良心に反していると思うことを一人一人が考えて、グループで話し合っていたらよいのではないかと思つたわけでございます。それから農村についてのお話し合いは私は東京におりますもので、農村のなまの声をうかがいましてなるほどなと思ひましたけれども、それと同じような例が東京にむろんあります。私のごく身近な親戚で、嫁入り一年間ぐらゐは家計を渡されなかつたとか、もつてきたものについていろいろ議論をされてつらかつたというような話を聞きましたので、東京に出てこれて上つたらのことだけを知らんになりますと大変にいいようでありませうけれども、決して都合ばかりがいいわけではないということをお願いしたいと思います。それから子供のことからのしつけが大事だということが出ましたけれども、それは私も本心に同感でございます。皆さんのお話の中で富山の方から、鉄棚にかかつているごみを処理するために、近所の婦人会の方たちと手をつないでおやりになつたということ、また傘をもつて子供を迎えにいったときに、自分の子供一人がぬれて帰るんじゃないかと、やはり人の子もぬれて帰るんだというようなことが非常にいいグループをお作りになつたということなどうかがいます。まして、本心に婦人の団結は大きいものであると思ひました。それから私も地婦連でやつておりますことを二、三申し上げますが、昨年の暮有楽町でだれが一体町をよごすのか実態調査をいたしました。そうしたら、案外多かつたのがたばこの吸いがらでした。それで私たちの地区でも調査してみましたところ、やはりたばこの吸がらが一番多く捨てられております。それで、どうしてこれは駅とかバスの乗り場とかそういうところに吸がら入れを

設置することが必要ではないかというので、さつそく駅長に話しましたところ、一つのホームに大体六両の連結ではいるというので、六つの吸いがら入れがほしいということになり、少し経費がかかりすぎるなと思ひましたけれども、少し変わったものを作れば皆さんの目について利用していただけるものと思つて、会員の親せきのデザイン家の方に考えていただいて、真赤な色で塗つた吸がら入れを作り、町をきれいにししようという標語をつけてかけさせていただきました。そうしたら一流の新聞が取り上げてくれましたものですから、いつそう効果的で町をきれいにしようと思ひました。一つは、これはイヌの青空便所といひますか。私の住んでる練馬というところは、非常に飼主の方の公衆道徳がないために、イヌを散歩させてそつちこつちふんをさせているので、それに対しまして飼主の反省をうながそうということで、最初、わら半紙ぐらいの板に「イヌのフンは飼主で始末しよう」と裏通りの被書を書つているところにその看板をかけることにいたしました。そうしたらたまたま小学校の先生が一年の子供を連れて通りかかつたところ、その子供が「先生イヌという字の下はなんて書いてあるんですか」「飼主が始末しなさい」と書いてあるんだよ」と教えられました。「あ、それだつたらうちのお父さんにもお隣のおばさんにもいわなちやいけな、みんな知らん顔してそのまますばなしで帰つていゝ」ということで子供が親を教育したというようになりなりました。このように、私たちの地区でやつている運動は小さい子供でもわかるようにひらがなにしてあります。

渡辺(リーダー)　じや次に日本生活協同組合の竹井さんお願いします。

竹井(特オプ)　私が、皆さん方のいろいろな報告を聞いておどろきましたことは、皆さんが非常に理論をお持ちになつていて、しかも宙に浮いた理論でなくて、それを実際の活動の中に生かして実践していらつしやる方が非常に多いということです。もう皆さんは普通の主婦じゃなくて、何か一つの組織をもつたりつばな代表として出てきていらつしやるんじゃないかという感じを受けたわけでございます。私が共同組合にはいりました動機というのは、ちようど終戦の年に引き續いて子供を二人亡くしまして、私は人間の幸わせというのは自分の身のまわりだけにあるものだとどうふうに思つてきたわけでございます。そして子供も自分の考えどおりに一生懸命育てまして、ある程度子供の教育には自信をもつていました。ところが二十一年に三つと五つの子供を二人亡くしまして、私はそのとき人間の幸わせというのはどこにあるだろうとつくづく考えたのですが、いくら考えても結論が出ないのです。どんなに自分が一生懸命になつても、こんなに大きな不幸があつた。人間として幸わせを求める資格が私にはないのかというところ、決してそうは思わない。きつともつと大きなところに幸わせがあるんじゃないかと思ひました。そういうときにたまたま生活協同組合というのが町にできまして役員にならなかつたといわれて、生活協同組合の内容もよくわからなかつた、何か社会のお役にたちそうかどうかというのではいつたのが動機になりました。だんだん理論的に追求して今日に及んだわけでございます。理論とそれの裏付けといひますか、だれでも何か動機があつてそれぞれの形で社会活動にはいつていくもので、その活動を通じて理論の裏付けをするものですが、動機というものは、活動に入るのに大きな役割を提供しているんだということを私の経験を通じてしみじみ感じ

たわけでございます。私は今一七人の組織の中で活動しておりますが、子供の教育と、自分の生活と、家庭の処理と、それから社会的な活動の処理に苦しんでいますけれども、その中で去年PTAの会長も一年させていただきましたし、皆さんがやれとおつしやいますことはなんでもさせていたたいしております。その中でいまだ根が浅いということですが、私は今、指導的な地位におかれておりますが、全国に活動家を作りたいということと一生懸命なのですが、全国の本場に活動していらつしやる皆さんをみて本心に同志を得たといひますが、日本の民主主義もどういふところから伸びていくんだということを感ぜまして、非常に喜んでおる次第でございます。

渡辺(リーダー)　それでは次に津田さんをお願いいたします。

津田(特オプ)　漁婦連は漁師の婦人会で、私がこの婦人部にはいりましたのは九年ほど前になります。私和歌山の白浜で、観光地ですから、いつもきれいなお客さんをみて暮らしておりますので、われわれ漁家の主婦というものが非常にみじめだという感じを受けていたわけですが、しかし、自分の職業を卑下するようなことではどうにもならないので、どうにかして自分たちが立ちなおる方法はないかということをおもひつきました。組合に申し込んで婦人部結成いたしました。預金はできないし、寄附の金はもたないというような悪弊がありますので、いつもびいびいという暮しが多かつたんです。そこで私たち婦人部はどうにかして、こういう生活から切り抜けていきたいという願いと、自分たちも人なみな生活をしていきたいということで、まず、支払を少なくするためには購買会をつくり、それがきつかけとなつて、次々に六十一の組

合ができてまして、四年目には全国の連絡協議会ができたわけです。そして一昨年はじめて各種婦人団体の仲間入りをさせていただき、ました。今までは漁家の家庭では、収入が非常に不安定なもので、家計簿すらつけていない方が多かったので、まず家計簿をつけることから始めて、婦人の地位の向上というものをめざして活動しております。そして月給制にふみきつて計画性をもつて生活をしていくということをモットーにしております。今では零細な漁民という言葉をもうわれわれのほうから撤廃しようということまでいつております。それで先ほど、農家に嫁さんが少ないという問題が話し合われましたが、それはわれわれ漁家にもいえることであつて嫁、姑の問題、人間関係についてもいろいろ問題があり、研究いたしております。それで、きょうの皆さん方のお話は非常によい勉強になりましたことを申し上げたいと思います。

渡辺(リーダー) きょうは皆さんが社会的良心ということについていろいろな具体的な例を出していただいてその問題点について話し合つて、その問題についてどう考えたか、それをどう解決しようとするかということをお話ししました。で、そういうお話し合いの中から今度はそういう社会的な問題に自分ごとびとむようになつた心の变化、生活の変化などを掘り下げていつて、社会的良心というものを、そして良心を生かした社会的な活動というものはばばんでいるものは一体なんだろうかということを考えて、それは自分自身にも問題があるし、社会的な仕組みにも問題があるのではないかと、どこまでいつたわけです。それではあすは、さてそれならば、一体社会的良心を育てていくためにはどんな条件が必要なのか、ということをお話しあつていきたいと思つております。それではきょうはこれで終了します。

第四部会二日目

十一日 一〇、〇〇一七、〇〇

渡辺(リーダー) きょうは皆さんが社会的良心ということについて

考えさせられた具体的な例をあげてお話をしました。きょうはその中から問題を掘り下げていつて皆さんが実際に地域の問題や家庭での子供のしつけ、その他いろいろな活動の面において、それを何とかいい方にもつていきたいと思つて努力をしようとした時に、それは一人でもグループでもいいのですが、いろいろな問題にぶつかつて自分自身がこれでもいいのかと思つたこと、あるいはほかの人たちの態度をみて、あれでいいのかしらと考えさせられたことがあると思つたので、そういうようなことから問題を取り出して考えていきたいと思つた。どなたでも御自分の経験なさつたことを出して下さい。きょう茨城の岡山さんから婦人たちと一緒にいつたというお話が出ましたけれども……。

岡山 私の場合は大変さやかなことですが、仕事をするために資金が必要だったので、資金を得るためにぞうきんを作ること提案して、月に二枚ずつ作つていただきましたが、形とか縫い方とか大変さなことですが皆さんに十分お知らせして、その通りにおつていただくのは約二か月かかりました。なかなか一つのものをおつていただくには約二か月かかりました。なかなか一つの間と根拠と努力があるんだということを痛感しました。

渡辺(リーダー) 広島の方からきょう、婦人会などの中にボスの人がいてなかなか発言できないような雰囲気を作られていて、というふうな話が出ましたけれども、何かそういうことについて……。

村上 私たち主婦は家庭にいたことが美德のように考えられていたので、発言の場を与えられていなかった、したがつて場なれしが

たいことが私たちグループを進めていく上にずい分マイナスになつて出てきていると思います。やはり積極的に出て発言する場合自分の言いたいことを発言するという態度を作つていかなければいけないということを痛感しました。

渡辺（リーダー） どうやったらそういう態度を作つていけるでしょうか。

村上 女性の集まりの場合はなかなか雰囲気にしたらずムズにいくんじやないでしょうか。それには、私たちの家族的なごやかさの延長を外へもち出したらよいと思います。今までのやりかたでは、家庭と社会の隔りがあつたと思ふ。私たちが外に出た時に家庭でなごやかにいつているようにグループ作りをして、そのなごやかさというところからさらにもう一歩進むというふうにしていくのがいいのではないのでしょうか。

渡辺（リーダー） なごやかさという問題、そこに何か問題があるような気がしますが、何かお考えになることはありませんか。

谷本 やはり、なごやかさというものは家庭内から築いていつた

できると思います。私は家庭で食事のあとに家族会議をもつて、その司会にはお父さんがなる時も子供がなる時もありまして、その時々話題によつて司会をかえて思つたことをそのまま家族で話し合つています。部落では月に一回集まりますが、これは夫婦そろつてまいります。その場合、いろいろ問題が出る時もありま

すし、座談的なことに花をさかすこともありますけれども、なるべく座談する時間と、問題をなけて発言し合う時間と区別して、一時間くらいは発言の時間に当てています。これはもう三年になつておりますが、女の方が発言して下さるようになりました。

会の一員であるという自覚、そういう心がまえが大事じやないかと思ひます。

村上 結局社会的良心が日本で育つていないということは、日本人には連帯感がないということじやないでしょうか。連帯感をもつことがこのテーマの意味することではないかと思ひます。

渡辺（リーダー） 連帯感とは一体どうしたら自分のものとして育てていけるでしょうか。

村上 結局、よい家庭人はよい社会人にならなければいけないですけれども、今の日本では、よい家庭人が必ずしもよい社会人でないわけですね。それは結局自覚によるのだと思ひますが、よい家庭人がよい社会人になろうという努力が個人個人でなされたら、そこに連帯感が起こつてくるのではないのでしょうか。

加藤 今村上さんのおつしやつたことは自分の意識の内部的なものだと思ひますけれども、連帯感を育てるには、まずいろいろな人が集まるグループを作ることが、実行するのには一番手早い方法だと思ひます。それで、一か月に一度では忘れたところに顔を合わせる程度です。それから一か月に二度は顔を合わせるように私どもはしております。そうすると、家庭からつながつた連帯感というものを絶えず保てるのではないかと思ひます。それから、そのグループでしたことの経過や結果を絶えず必ず報告することです。谷本 私は都会と違つて田舎ですから、婦人会に入るにも本

渡辺（リーダー） おそらく広島の前上さんがおつしやつたなごやかさは今のお話の家族会議のような皆が平等の立場に立つて自分の意見を言えるような雰囲気から作られたなごやかさを意味していらしたと思ひますけれども、そうじやないなごやかさと称されているものもあるような気がしませんか。

江崎 話し合いの時に、相手の立場を考へていつも思ひやりのある

渡辺（リーダー） ということは相手を一人の人間としていつても考へていくということですか。

江崎 よく相手の立場を考へてみるということ、相手を尊重するわけです。

田辺 私のところは毎月集会をもつておりますけれども、なごやかさをつくるために最初レクリエーションを計画してお互いの共通の話題をもつてじようなんなんかをまじえて、それに三十分なり一時間なりを当てて、あとの話を自然に進められるようにしています。

渡辺（リーダー） 何か日本流にいうなごやかさということに問題をお感じになることはありますか。

篠崎 私は、なごやかさというのが何か事なかれ主義ということがその裏側にあるんじやないか、それではやはり進歩がないと思うのです。あるグループの一員が発言する場合、その発言が多少おかしいであつても、あるに私自身の攻撃であつても、発言するそのことが一つの進歩であるというふうに解釈して、発言して下さるのは大変ありがたいと考へております。このころでは皆さんがそれぞれ勝手な立場でなくて、だいたいなれてきて下さいました。

田辺 たしかに事なかれ主義のなごやかさもありますね。あたりさわりのないじようだんは言つても、少し深く突つ込んだところまで話し合うまでには、うちとけてないじように見られます。

岡山 やはりなごやかさを作り出すにはグループの集まり意識というものを皆が平等にもち合うことと、その会を一步でも前進させていくために、皆が本心に知り合うことが大事じやないかと思ひます。私のところでは、欠席なさつた方にはよく会の様子がわかるように毎月新聞を発行しまして皆さんに徹底させております。やはりグループの事業を行なう場合にはそういう心づかいが臨の力となる大切なことじやないかと思ひます。そういうことから初めて本心のなごやかさが出てくるんじやないでしょうか。

渡辺（リーダー） そうすると、なごやかさというものをよく私たちが不用意に使うんですけれども、このこと一つを取り上げてみてもずいぶん問題が出てくるわけです。皆がそこでもつて一人の人間として尊ばれているというような環境を作つておいて、そういうところから出てくるなごやかさというものが本当の意味でのなごやかさになるので、事なかれ主義のなごやかさというような場合が多いわけですね。それでは結局、グループ活動としても個人の活動としても私たちが社会的良心を生かせるようなものはなかなか出てこないのではないかと思ひます。そうしますと、一体社会的良心を育てるために、私たち一人一人がどういうような心がまえをもつたらいいかということを考へてみたいと思ひます。

内田 よく何か一つ問題が出てきますと、社会が悪いというふうに申しますが、社会というのは自分をのけた社会ではなくて自分も含めての社会であると思ひます。だから自分が社

社会人にもなり得ると思つて、会の仕事をしてみました。家庭で家族会議を開いて立派な子供をつくつておいたなら、人に迷惑をかけない子供になるんじゃないかと、ささいなことですが、小学校のけたの並べ方が生徒さんの方にはきちんとしておりましたけれども、婦人会の会合があつた時、校長先生に、あなた方は子供に負けているのじやありませんかと、言われたことがあります。その時に私は、はつとしました。お母さんがいいお母さんになつたならば子供の方もそれにつれていい子になつていくと思ひます。そのようにして少しずつ築いていつたらよい社会ができてくるという自信をもちました。

渡辺(リーダー) よい家庭人が必ずしもよい社会人でないとおつしやつたのですが、よい家庭人の「よい」というのはどういう意味なのか、そのところに問題があると思ひます。谷本さんが、本當の意味でよい家庭人だつたら、よい社会人になり得るといふ言葉でおつしやいましたが、その「よい」といふこと、一般的にさりげなく言つて「よい」といふことについてどうも考へてみる必要があると思ひます。

篠崎 きのうの、社会的良心と個人的良心という意味の話と同じではないかと思ひますけれども、個人的良心というのは本當の意味の良心ならばやつぱり社会的良心につながる、とにかくこれは本當のよい家庭人ならばよい社会人につながるじゃないかと思ひます。

八島 よい家庭人というのは民主的な各人の立場を尊重した家庭が本當のよい家庭じゃないですか。

篠崎 そうには違ひありませんが、そこまでもつていかなくても、いい家庭人があるわけです。現在の日本では、それが本當の意味

の民主的でなくても、本當にいい家庭、そう意識しなくてもお父さんとお母さんと子供の間に調和がとれて良識があつて、いい家庭があると思ひます。

八島 家長だけが自分が正しいのだと主張しない。お母さんならお母さんの立場、子供の立場を尊重するといふ家庭の雰囲気がある。そういうのが民主的ない家庭だと思ひます。

篠崎 そうなるわけです。そうならば必ず社会に出てもいい社会人としてやつていかれると思ひます。

加藤 そういふ抽象的なことでなく、たとえば具体的に、家でお父さんが子供を大切にしたり、お母さんの言うことをよく判断して尊重してくれたり、またお母さんを助けてくれたりしますが、外で電車の中なんかで、小さい子供を連れて一人はおんぶしてあるという方がいらしても、そういう時には自分もかつてそういうことで苦労したといふようなお母さんが席を譲つて下さる。すぐそばに男の方がいても、平氣な顔をしていらつしやるんです。そういう人たちが家では子供のおむつをかえたり奥さんの言うことをよくきいているのではないかと思ひます。

岡山 私は、岐阜の加藤さんのおつしやつた各家庭で人に迷惑をかけるような人間に作り上げていくといふこと、それが問題じゃないかと思ひます。人に迷惑をかけない人間になるという基本線がしつかりできていけば、いろんなところに應用できて、婦人会の集まりが悪いといふ場合でも、迷惑をかけないように、欠席する場合に進んで通知をするようになるのじやないかと思ひます。

田辺 私は個人的良心がしつかりしていれば、社会的良心は育つといふふうに考へております。たとえば、時間を守るということでも、自分が遅れていつた時は平氣でも、人が遅れてきたら何だか

心にひつかかるのです。ですから、人が時間を尊重すれば、自分も時間を尊重しなければならぬ。自分自身が個人的良心を發揮すれば、それが社会的良心に広がり考へております。

篠崎 先ほどの家庭ではいいお父さんだけれど、電車の中でよその奥さんには席を譲らないといふことになりますと、そのお父さんは本當に女や子供に対していいお父さんかどうかそこにつながるかと思ひます。

木村 家庭ではいいお父さんであつても社会に出ると、親切でないとか、また子供にしても、家では紙くすかごにを入れるようにしつていられては、公園に行くとそこを散らしてしまふといふようなことは、そういうことが本當に努力しなくてもできるような子供のところから長い間かかつてしつていかなければならぬのではないかと思ひます。

岡口 お母さんのほうがだめな場合もあるんです。家にいるととてもいいお母さんでも外に出ると自分のことだけ考へて、社会的にはもう反対のことをして帰つてくる。だからものの考へ方をお母さんから改めていかなければならぬのじやないかと思ひます。子供の方は学校でかえつていいこと教つてよくなつていくのに、お母さんがそういう態度をするために悪くなつていくという場合もあると思ひます。

宮内 いくら家のことをよくしても、現在の世の中に生きている以上社会につながつていけるんですから、家庭の中でよくしつていてもそのことが悪ければ、悪くなるんです。だから個人の生活が社会性の中で存在するといふ連帯感には家族に及ぶのじやないか思ひます。谷本 日本の家族の場合は小さい時から民主化ができていない、外国の場合には家族教育でしつづけられます。

が、日本の家庭教育では社会的良心の自覚が遅かつたように思ひます。今年こつういふ題を出していただいて、抑り下げて勉強させていたいただいてわかつてきたのです。やはり家族関係の民主化といふことが非常に大事だと思ひます。

渡辺(リーダー) そうしますと、個人の良心といふものが社会的良心に結びつくかどうかといふ問題、それは個人の良心がしつかりしていれば必ず社会的良心に結びつくといふふうに考へられる方と、それだけではなかなかそれは結びつかないといふ異論が出ましたけれども、もし結びつかないとすれば、個人の良心が社会的良心と結びつくためには、社会といふものにいつてもつながりをもつていける。社会に起こつていふ問題にいつても自分が目を開いていける。そういう態度をもつていかなければならぬかと思ひます。それから子供のしつづけの問題や、家庭ではいい夫であつても外に出るといふ社会人としての行動ができないといふような問題が出ました。それは、団体の問題とも関係してきますけれども、家庭でも、団体でも、中心にしつかりした播きのない人がいることだけで解決するのか、それにつながる一人一人がもつと考へなければならぬのじやないかといふふうに考へていくと、何か私たち婦人の一人一人が自分の生き方といふもののどこに生活の目的をもつて生きていくか、といふようなことに返つてくる。

だから、中心になる人が本當にその家族の一人一人を、会員の一人一人を育てていくといふ氣持を強くもつて、その人たちが育てていくことが必要だと思ひます。そして、どういふふうに育てるのかといふと、結局一人一人が本當に自分でものを考へていくといふような生き方ができるように育てていくことではないかと思ひます。今北海道の方からお母さんがしつかりしていかなくとも、

子供が学校でいいことを教わつてきているとおつしやいましたが、私たちが子供の時に受けた学校教育と今の教育とはどう変化しているか、というのを掘り下げていくことができると思います。それでは家庭の中で家族には親切なお父さんであつても社会的ないい行動がとれないというのはどういふところからきたんでしょいか。

田辺 それはわが家精神のなごりだと思ひます。今のお父さんたちが育つた時代には男の方は割合に家庭内で優遇されていたそのなごりが今残つてゐるのだと思ひます。たとえば電車の中でたばこを吸つてはいけなかつたと思ひます。たまたま吸ひます。それをとめるだけの勇気がないのもちろんいけないと思ひますけれども、今まで許されてきたからこのくらいのことなら許されるだろうというわがままがそれをさせるんじゃないかと思ひます。それが習性として残つてゐるんだと思ひます。

岡口 今までの教育が、國のためまず家を起すという小さな小さなワケに入つた教育だつたからなのじゃないでしょうか。だから同じ郷土の人たちとは大変仲よくして親切だけれども、遠つた知らない人には意地悪なことをする、学校が同じだつたといふことで大變大事にする、家に帰ると自分の家を大事にする。これは教育が間違つてゐたんじゃないでしょうか。

川島 それは社会にもつながつてゐますね。お勤めでも學問とかいろいろな形でそういうことが出てきてゐますね。そういう社会の仕組みを解消しなければ、下だけで解消してもだめなんじゃないかと思ひます。

岡山 社会の仕組みをかえていかなければというようなことは強く耳に残るんですけども、逆にわが家精神を取り除いていくといふ

う働きを自分の家の中からもやる。自分たちがやはりそういう努力が必要じゃないかと思ひます。

村上 男の人の横暴といふことはいろいろ影響してきておりますけれども、それを許した女性の側にも責任があると思ひます。家長とか何とかいふ前にお互いが人間であるというもう一つ下の意識のところから立てばそういうことは起こり得なかつたわけですが、でも、事実起こつたのですから、社会の仕組みもあるでしょうけれども、今このことに気がついたら私たちの力でそれだけの実績を上げていけばいいと思ひます。私の場合は主人が私とあまり年が違わなかつたため同じ時代の教育です。だから世間的な横暴といふことはあまりなく、お互いに話し合ひができてゐるよう思ひます。少し、代が違つた方はいつも主人主人で、御主人の代弁をして、何でも考えることは御主人にまかせてゐるので、御自分の考えは何ですかと聞きたい時があるんです。そういう意識が私たちを低くしてゐると思ひますので、そういう意識を上げていけばいいんじゃないかと思ひます。もの足りなさ、そういうものが逆に男の人にそういうものを許してゐるんじゃないかと思ひます。

木村 そういふことをこれからの家庭生活において若いお母さん方が今から成長する子供さんに対して、たとえば家庭内に女の子と男の子があつた場合にどちらか受難勉強してゐるような時に、家のお手伝いを男の子にも女の子にも平等にやつてもらふようにする。そういうような小さな事からでもやつて、子供が大きくなつた場合には少しでも今の男性より進歩したものになつてもらふようにしていくべきじゃないかと思ひます。

渡辺(リーダー) 今受験の問題が出ましたけれども、皆さんたとえば自分の子供だけがいい成績をとつて入学したらいいといふ

うに考えられる方はいないだろうと思ひます。実際に自分の子供の問題になつた場合果たしてそういう考えを貫けるかどうか、これはどうでしょうか。

船木 古い頭の女ですからどうしてもわが子のことはかり考える、正直な話、人の子供のことを考えることができるかどうか疑問に思ひますけれども……。

渡辺(リーダー) このことは社会的良心とどういふふうに結びつけていけばいいでしょうか。

岡口 うちの子供はそう勉強ができなかつたんですが、それでも高校に行けたんです。そして、うちの子よりできる子供が家が貧しいとか親が理解してくれないために高校に行けないのが本当にかわいそうで、そういう人たちを何とかして入れるにはどういふうにしたらいいか、皆さんから伺ひたいと思つてゐます。

渡辺(リーダー) その問題は社会の仕組みにかかつてゐるわけですから、少し考えてみましょう。何とか方法はありますか。

船木 その問題について私の方で話し合つたことがあるんですけども、勉強がよくできて上の方の学校に上がれないという時は育英資金があります。それは国家から出るものと聞いたんですが、その仕組みを知りたいのです。

篠崎 私の長女がそれをいだいて学校を卒業しました。学校の方にお願ひして、本当に資金が必要だといふ家庭の事情を調べていただくのです。そして、その子供の成績がどうやらやつていけそうだといふことであれば、出してくれるわけですね。

川島 育英資金の問題は、せつかくお金を出していただいて学校を出たら、約束どおり、それを返すこと、そういうこととつながつてゐるんじゃないかと思ひます。書が返してくれなければ、また

次の人を育英することができない。それが社会的良心とつながつて、どうすればそれを皆が借りたものは返すという気持ちになつてもらえるか、それを私たちは考えるべきだと思ひます。

渡辺(リーダー) 育英資金で國家の子供から出ているものは返さなければならぬのです。果たして篤志家が資金を出して育英資金制度を作つてゐるところもあつて、そういうのは返さなくてもいいのもあります。けれども、國家がお金を出してゐるのは返さなければならぬわけですね。

篠崎 これは場合によつて免除になることもありませんが、高校の分はお返ししなければならぬ。これはごくわずかつ返せばいいのですから、困る方にはそれをすすめてゐるんですけども、ただ問題はまだまだ人から金を借りてまで教育しなくてもよいと妙に意地をはる方があるのは残念です。私の場合そういうことでもしなければ学校へ出してやれなかつたものですから大変ありがたと思つております。ですから皆さんにもすすめて、自分が勉強したいなら、どんなで勉強なさつた方がいいと私は思つております。

岡口 学校に入つて勉強したいという子があつたので、そういう制度も調べてその家庭に行つて話ししましたが、親が子供の働くお金を目当てにしているのです、だめなんです。子供を土方にやると一か月に四万になるとか言われると、むりにすすめることもできません。

八島 そういふ働かなければ学校に行かないという人のために定時制高校がありますからそれを利用すればよいと思ひます。こういう卒業生も全日制の高校、大学の卒業生と同じように就職させるように大きな会社、求人側が目をあけてくれなければ困ります

が、私はもつと夜間の学校を充実していただきたいと思っています。

渡辺（リーダー） そのところでは一番問題になるのは北海道の岡口さんがおつしやつたように、本当に子供の希望をかなえてやれるように努力をしているかどうかという問題、家族の中でお母さんが子供の気持ちを本當にきくとつて何とかしてやろうと考えた場合には何か道が開けてくる可能性があるんじゃないかと。そんなことを考えますとやつぱりお母さんの役割が非常に大事なものですね。それで育英資金と子供の入学のことについて社会の仕組みのことを考えていつたけれども、それで解決できる問題でしょうか。というのは国家の育英資金というものは限度があるわけですから。各県で作っている場合も限度があります。

谷本 もう一つ解決しない問題として、高等学校の競争率が高い場合に、高等学校に行きたくても行けない子供がたくさんおられます。もう一つぐらい高等学校を作つていただいたらいと思ひますけれども、なかなか大きな問題で社会とつながりをもたなければ解決できないと思います。札幌の婦人会の方が皆なで手をつないで高校を一つ建てたそうだけれども、やつぱり婦人たちが團結してやつていつたら一つずつ道が開けていくんじゃないでしょうか。

宮内 高校に行けない原因には、高等学校が不足している場合と、能力があつても貧しい故に行けない場合と二つあると思います。貧しいが故に行けない場合は育英制度で何とか方法がありますけれども、子供の働くお金をあてにしている親をどのように引き上げるかという問題は、ここで論じ合つても仕方ない問題で、どうしても政治につながる問題だと思ひます。それから定時制高校の問題は、今ここで問題にするということは悪くはないけれども、その解決を求めることは、政治に突き当たる問題で、社会構造の

も、この次の世代のために話し合つて協力したということです。だから皆で、自分個人の利益のためでなく、将来のことを考えてやつたのだと思います。

内田 私の地方では、学校をふやすという大きな問題からでは取り組みにくいので、一人でも多く高校に入れるようにと、会員六十人ぐらいの婦人会で一人ずつ百二十円ぐらいの寄附を集めて、奨学金制度というふうなものを作つて、そういう身近な問題から解決していこうと思つております。

加藤 結局社会的良心をはぐくんできたための母親のあり方を考えてみますと、今までのお話の逆の場合があるわけです。お金が幾らあつても能力がなくて子供が学校をやがつてゐるのにむりに行かせる、そういう愛情のぶつつけ方を考えてみる時に、まだ母親が反省しなければならぬことがあると思ひます。私は子供が成長したら、コックさんでも何でも子供の進むままにして、その進んでいく道を助けるだけしようと思つて、今からちやんとそれだけの気持はもつてゐるんです。そういうことはまだまだ考えてもいないんじゃないかと思ひます。

川島 私、八十のお年寄に言われたんですが、このごろの母親は子供にすくく勉強ということを言つてゐる。ということはいい高校に出したいため子供に能力がなくても母親がそばについておやつをやつたり夜食を作つたりして、隣りの坊やに負けぢやならなというところで勉強させて子供をノイローゼにさせたり、悪い道に入れたりしているが、東京に行つたら皆さんにこれをどう思つてゐるか聞いてくれと言われたのです。こういう母親の態度はどこでも見られると思ひます。東大に行くために三年も四年も浪人させてゐる例もあると思ひますが、どうなんでしょうか。

仕組を改革していくという方面に向ける努力をするということぐらいで、ここでどうしたら子供が学校に行けるかということはなかなかむずかしいことだと思ひます。

渡辺（リーダー） 政治につながる大きな問題だからとおつしやいましたが、そういうものに私たちがグループの活動を通してどういうふうな考えで近づいていけるか、そのことがやつぱりこれから私たちが地域に帰つて社会的良心を生かして何かしようと思つた時に、すぐ突き当たつてくる問題ではないでしょうか。そうすば、ここで乏しい考えであつても、皆で考えを出し合つていくことがいいことであるし、また考えなければならぬことではないでしょうか。政治につながる問題だからといって投げつけてしまふのではなくて、その問題にどういうふうな私たちは近づいていけるか、そのことを考えていかなければならないと思ひます。

岡山 中学浪人が多くなるから、高校増設をしてほしいという運動を起したけれども、それが非常に弱いんです。なぜ弱いかというと、私の子供はもう三年たらないと高校に行かない、私の子供は縁がないというわけで、現在中学三年の親たちの力だけだからです。これは、目の前の自分の利益につながるなら私たちは社会の連帯感をもちにくいというところに問題があるんじゃないかと思ひます。また同時に運動を始める人がもつと大きな意圖を示して先々で皆のためになるといふ意識を広めるようにしなければならぬ。この二つの原因があるのじゃないかと思ひます。私は何とかしてそういうグループに入りたいと思つたんですが、後からは、門を開けてなかなか入れて下さらないのです。私はこの婦人の力を結集するというのが問題だと思ひますが。

岡口 札幌で聞いたのですが、今子供さんがない方も、卒業した方

八島 それは社会機構がそういう学園を非常に尊重するからだと思います。これはやはりお母さんたちが自覚するのも必要だけれども、そういう受け入れ側の考え方も何とかしななければならぬと思ひますが、どうしたら変えられるか私にはまだわからないのです。

岡口 職業とか収入のたくさんある人とか差別つけるのがよくないんじゃないでしょうか。平等に考えていたら、大学もよいところを出したらよい職業につくというふうなことはなくなります。

八島 本當はそうだけれども、今の世の中はそういうふうになつていないんです。

岡口 私、教師ですけれども、貧しくて正しいことをしたら、ちつとも恥しいと思つておりません。私は誇りに思つております。

八島 皆さんが岡口さんみたいと思つていければいいのですけれども……。

岡山 私も北海道にいましたから北海道の気風はよくわかりますが、北海道は非常にのびのびとしていて岡口さんのような考え方をする方が非常に生まれやすいのです。そういうムードを九州まで広げていつたらすばらしい社会ができるんじゃないかと思ひます。

村上 私は「福祉国家」という本を読みましたら、イギリスの社会制度は日本のように年功序列型で一度いいところに入つたら、そのまゝ年がたてば上がつていくという仕組みでなくて、中学を出た人も職業教育で勉強したい人はできるように道が十分開けていゑるということ、これはすばらしいことだと思つたんです。私たちが日本が福祉国家たらんとしてモデルにしたのがイギリスじゃないかと思ひますが、勉強すれば、そういうことを私たち平凡な主婦が知らされる機会が与えられているんですから、大いに勉強し

て、私たちの声を結集していったら、いつの日にかよい社会にすることができるとは言えないか。あれは政治の問題である、私たちの手の届かない問題だと言わずに、自覚することが実現することにつながっていくんじゃないかと考えました。

渡辺（リーダー） いろいろな国にはいろいろな角度から見方があ
るわけですね。社会保険が非常に発達した国にもまた違った面で欠
点もあるかもしれない。そういうことを一つ一つ勉強していって、
それでは一体どうしようもないき方のところが私たち日本の社会
にあてはめることができるか、そういうことを学んでいくことが
大事でしょうね。

そうすると皆さんは憲法をお読みになったことがありますか。
憲法は私たちの生活にまるで縁遠いみたいに見えていて私たちに
密接な関係をもっているものなんです。第一に私たちの家庭生活
が変わつてこの会議へ四日間もお家をあけて出ていらつしやれる
ようになったのは憲法が民主的な日本にならなければならぬとい
うことを宣言してくれたからです。新しい民法が作られて男女
平等だといつてくれたので私たちが自由に話ができるようになった。
今、皆が何となくお金持、貧乏人という区別なしに勉強し
たいと思う人は自由に勉強できるような社会になつていないなら
ば、そういう社会を作る責任が国家にあるということを憲法二十
五条が宣言しているわけです。そうすると憲法は私たちに身近な
ものですから、もしも読んだことのない方があつたらすぐ読んで
下さい。

それではそういう福祉国家というものをどうやって作るのか
ということ、それはあとの方で、私たちは何をしなければならな
いかということを考えるとどこまで皆で触れていきたいと思います。

思います。

宮内 私ら選挙のたびに公明選挙ということで非常に失望させら
れたけれども、相当運動もしたつもりです。町全体としても運動
しましたが、結果は前と同じだったというようなことがあつて、
こんなこと今度は考えるのやめようと思つてもそうはいかないの
で、皆様の中に公明選挙をなさつて成果を上げた方がありまし
たら、その方法をお聞きしたいと思います。

川島 成果でないんですけれども、今度の県議の選挙に三十二歳の
人が出たんです。そうしたら町のボス的存在の方が五、六人寄り
まして、公約をきめて、その候補者に押しつけるのです。その人
は革新系ですから自分の公約もそういうものにしたんですけれ
ども、五、六人の人たちが保守的な政敵の公約を作つてしまつて、
これでいかなければお前に票を入れないというので、仕方なしに
その人は黙って出たい一心でどうも割り切れぬ割り切れぬと言
いながらもその政敵のスローガンをかかげてやつています。田
舎にはまだまだこういうことがありますよ。

篠崎 これは田舎にいくほどそういうことがございまして、本当に
政策とか、その人の実力なんかよりも、とにかく県議とか地方で
そういうものに出ようとすると人はかよそ限られた、あらゆる意味
の實力のある方が出る、えらいから出る、それだけでその人が何
をひつぎで出てくれるのかわからない。それで私たちが婦人会で、
選挙管理委員会の方にお願ひして勉強をしたのです。何を教えて
下さるかと思つたら、必ず選挙して下さい、棄権しないで下さい、
これしか教えてくれません。私はその時それではいけないでしょ
うと言いましたら、一票でも多く入れて下さい、そうでないと投
票率に關係してくるからと、それだけ言つて帰つてしまふんです。

すけれども、社会の仕組みというものを考える時にやっぱり目安
をそのところにおいて考えていくことが必要なんです。皆が幸
せになればよい社会の仕組みを作つていかなければならない。学
問だけの問題ではなくて経済的な問題がからんでくる。それから
私立学校の問題もある。そういういろいろな問題を一体どういふ
うに考えていつたらいいか。それは私たちの問題として考えなけ
ればならないと思います。それでは、社会の仕組みを一步一歩よ
くしていくために、私たちがすぐできることは何でしょうか。
岡口 私たちのもつていえる選挙権を大いに有効に使つたらいいんじ
やないでしょうか。

渡辺（リーダー） 皆さんは選挙のとき、地域の問題に結びついてい
るいろいろなことを考えてもらう人たちの選挙するわけです。そ
ういう選挙のことについて考えてみましょう。何か問題をお出し
になつて下さい。

岡山 私どものところではまだ因習ががんにがらめて困るんです。
いわゆる「出たい人より出したい人」というのがあつとも実行
されてない。ことに地方選挙の時にはそういう人を出すことを
徹底させたいと思うのですけれども……。

渡辺（リーダー） 何か婦人会でそういうようなことで活動してお
りますか。

岡山 公明選挙と關係して是非この方に出ていただきたいと思いま
すけれども、出るとあとでひどい目に合うからと、何か裏の方で
策して結局その方が出るのを断念するというような場面が時々
あつて、結局前と同じような方がまた出ていらつしやるわけ
です。それではなかなか社会機構をかえる、地域の問題を真剣に考
えていただくことはできないんじゃないか、こんなふうに

田舎では本心とまじりかたです。選挙にすぐにも、紙を組ん
で行つて、一人で離れてくると、あれはあやしいとか言われる。
そういう仕組みががんにがらめとなつていふんです。選挙で、果
たして本当に國のためになる政治家が出て、國のために政治をし
ているのか本心に考えます。

川島 そういうことで私グループを集めて話したら、父ちゃんがあ
の人の入れると言つた、と言ふんです。で、私たちが十人くらい集
まつて会をやつていたら、ある候補の關係の人が来まして、何し
ているんだと聞くんです。そして、じつと見て出ていきました
けれども、何かそういう圧迫がありますね。

加藤 そういう選挙の問題、婦人の問題に社会的良心を結びつけな
ければならないと思ひますけれども、そういう場合、婦人会とか
いうものが公明選挙運動に立たなければならぬ、当然指導的な
婦人会が変な候補者のひもになつてしまつたり、そういう性格を
帯びてきたらおかしいことだと思ひますけれども、先に票読みし
ていて何々郡はだれにということがきまつていて、その中から一
人が二人違う人を入れた人が出た場合、当然その人を擁護しなけ
ればならないグループとか団体か、その人を迫害する立場にまわ
つていふということがありますので、私それだけは阻止してい
たきたいと思ひます。

谷本 選挙は、婦人はまだ日が浅いのでまだ各人の知識が少ないわ
けですから、私は現在においては婦人団体で選挙の目的を勉強し
たり、演説会に行つたり、その人の考えを新聞やラジオ、テレビ、
また公民館に行つたりして知識を得ることが最初じゃない
かと思ひます。私は選挙がよくなれば政治もよくなる、またそう
していききたいと思つております。

村上 結局、投票する時はだれも見えてないわけですから、私なんかだれはばかるところなく自分の思う人に投票します。主人と投票の前の話はしますけれども、だれにしようということはしませんし、これは完全に私のものです。田舎の人はなぜ自分一人だけで書く投票にまで気がおしななければならないか、ちよつとわからないような感じがします。

岡山 衆議院議員のような大きな選挙のときはいいのですが、県会議員とか市会議員とありてきますと、どこのだれはだれに入れるべきだとか、この部落は何票なくちやならないというようなことになつてゐるんです。

村上 その通り出るんですか。

岡山 私の方は、だれそれほどの地区で何票、ここで何票、だれはこうと、開票前にわかるんです。

岡口 村会とか村長さんの選挙の場合は自由で、夫妻でけんかしてそれを入れれたとかいう話もききましたが、だんだん大きくなつていくとだれがいいのかわからないために、ほかの人の言ひなりに入れたりするんです。もう少し新聞でも見るようにしたらいいのですけれども……。

渡辺(リーダー) そういう選挙のいろんな問題がたくさんあつて、選挙民の意識の低さ、義理にしばられやすい気持、合理的にものを考えるより義理人情を教えられてきた問題、そういうことがないようになつていくことがやはり社会的良心を生かしていくことになつていくわけですね。それでは一体こういうものとうやつて戦つて、自分たち自身の意識と周囲のそういう古さとの戦いを進めていったらいいか、何を一体私たちはやつていったらいいか、それを午後具体的に考えていきたいと思います。(休憩)

渡辺(リーダー) それでは、いよいよ今までお話ししてきたこと

を実際の私たちの生活に生かしていく問題を取り上げていきたいと思ひます。まず次の世代を育てるために私たちは何ができるか、何をなすべきなのかということを考えてみたいと思ひます。今までのお話し合いの中で、次の世代を育てるためにという私たちの心もちや、それについての問題がだいぶ出ておりましたけれども、ここで、まよめの意味も入れて、それから実際に私たちができることを主眼にお話をしていきたいと思ひます。きのうのお話し合いの中から茨城の岡山さんが学校に子供を迎えにいったときの傘の問題が出てきましたね。ああいうことからあなた自身が感じたこと、お話し下さい。

岡山 私のところの学校は非常に転入者も多いと同時にまた出ていく子供も多いのですから、私をはじめ子供を学校に連れていったときも感じたんですけれども、非常にまとまりが少ない。雨の日にありますと学校に備えつけの傘がないのですからみんなで放射能の雨をあびながら帰るんです。私は習慣で子供に傘を届けに行きますと、それで、自分の子供だけがその傘にはいることになるんです。それはそれでかまわないんですけれども、自分だけいいことしてゐるのじゃないか、そんな感じにうたれたわけですね。それで家にあるぼろ傘を持っていって傘のない子供さんにそれをお貸ししてました。ある日、私と同じように学校へ子供の傘を持ってきたお母さんに、その話をして、自分のうちにある傘にはかきりがあると申し上げたんです。そうしたら、そういう気持をもつてゐる人を一人でも多く集めようじゃないか、ということになつて、一人から二人、二人から四人というふうに集まり

まして約五十人の人を集めて、私たちそれで資金を作つてこうもりを買つたんですけれども、なんといひますか、私たちがそういう行動をしたということは、子供たちが傘をさしたときにお母さん方がこうして手をつなぐんだから、私たち子供もよく手をつなげば何かできるんじゃないかというふうに、子供たちが受けとめてくれて非常に喜んで傘をさしていく。子供がいきいきしてきた。これは私流の解釈ですが、そんな感じを受けたんです。

田辺 私のところは農村ですから、今おつしやるように転入学の問題は少ないのです。それで、傘を一本ずつ小学校に上がるときにみんな安く買ひまして、常備しておきますので、雨のときにはそれをさして帰ります。それでちよつと雨靴の用意が足りなかつたりするときには、ご近所の方と雨靴を四足なり五足なりまとめてもつていくようにしております。いまのところそんな程度の段階でございます。

渡辺(リーダー) 福岡の江崎さんはお子さんを扱つていらつしやるからたくさんいろいろなことにお感じになつてゐるんじゃないかと思ひますけれども……。

江崎 私の施設は零歳から二歳までのごく小さい子供です。いわゆる家庭の味を知らない子供ばかりなんですけれども、私はその保健所のほうに勤務しておりますから、本当に恵まれたお母さんたちとお子さまと、つい比較をするわけでございます。ですからお母さんたちが、本当に子供の小さいときから、あれほど十グラム、二十グラムという栄養に気をつけるほど、社会的訓練を注意して下されば、どんなに住みよい次の世界ができるんじゃないかと思ひます。でも、今のところお母さんたちは栄養なんかに対する注意ばかりで、そういう面が少し足りないと思ひます。

加藤 非常に末端的な細かいことなんですけれども、そういうところから出発していかねばならないと思ひますので、私はいつも感じるんですけれども、どこの行楽地へいつてもごみがある。私の家に遊びにくる近所の子供がチョコレートやお菓子を食べてもその紙を、中の身だけ口に入れてあとのものをその場にぽつと捨てるんです。ですから私はうちの子供は一歳ですけれども、私は本当にそれだけは気をつけて、紙くずとかへ入れるなりエプロンのポケットに入れるよう訓練してありますので、そういうことはしないです。よその子でもうちへ遊びに来て、私のそばにいらるときはそういうことをさせないわけです。ああいうことは習慣づけるということが母親の義務だと思ひます。そうすると公園へ行こうが桜をみないことが捨てられないような気持になつてしまふわけですね。そういう点からまず注意していきたいと思ひます。

岡山 やはり私はやつてみて気がついたんですけれども、お母さん方のそういう協同の社会的連帯感ですね、そうしたことをみんなて話し合うということは非常にやさしいことなんですけれども、実際にやつてみるということが本当に身になることだということをしみじみ感じました。私のところでも資金を作るために毎月雑布を二枚ずつ作りました。月に百枚の予約をとりましたので、必ず百枚できないと困るわけです。そこで、善意の箱というものを作つて自分のもつてきたものを人に知られずこの中に入れることにしたんです。それで、もし足りない困るから私は十枚ずつもつていくんです。そうしますと、やはりそういう気持の人が非常にふえてきてまして百五十枚を突破したことがございます。私は、こうしてやつていくうちにみんなの中に連帯感が育つていくということを感じました。

谷本 私には子供の日はいいなから、いつもおすしを作つたりするのですけれども、子供さんを本当に喜ばすということと同時に、また集団生活にもなれさせるということを考えて子供たちのために海水浴をしようということになつたんですけれども、経費をどうしようかということになりまして、毎月五十円ずつ集めて夏休みに、昨年はじめて親も一緒に海水浴にまいりました。子供は本当に喜んで、こんな楽しい海水浴したことはないというのです。それで、私たちは、人がいいことをするときには喜んでそれに協力しなければならぬということをしみじみ感じました。八島 私がはじめたときには無関心の関心と申しますか、たとえば非常に生活に恵まれない人とか、それから身体障害者の方がせつかく自立しようと思つてゐるのに、こちらからいらぬおせつかいをしていようと、おからぬところを助けてあげるといふことにしたいと思つたのです。

木村 私の家庭にそういう子供さんが出はいてゐるのですが、本当に八島さんがおつしやつたとおりました。と申しますのは、施設におります子供で、どうしても肉身のいる家庭にもどつていかれない子供がいるわけなんです。そういう子供たちには、学校を終えて社会に出てほしいの場所というものが無いから、婦人がそういう場所を作つてあげなければならぬと思うのです。今では婦人会とか婦人学級などで、よく福祉的なことを勉強なさつて、養老施設とか子供の施設とかと見學なさいます。それが単にそういう一日の行動だけじゃなくて、里親になるというふうなことの一つの事前の問題として、真心のかよいあつた、人間的に人類を平等に愛するといふんです。自分は忙がしいと思はれない生活でも、そういう子供たちのために何かしてあげたいという心

持ちがとくに婦人らしいと思ひます。

加藤 その場合、もちろん家庭の理解が必要ですね。私の場合は幸い姑もとてもよく理解してくれまして、その子供たちも心配なく出はいておられます。

八島 今の木村さんのお話とつながると思ひますけれども、愛知県婦人会で問題になつたことです。一つの小さなグループの方々が何か社会的に役に立つことをやりたいと思つて、僻地の学校の先生方に、何か私たちもお役に立ちたいからといつて義書を出されたんです。そうしたらその先生方が、まあ私たちは私たちがやるからそういうご援助はいたしたいといつて拒みきつてしまつたことがあるんです。そういうことは今の若い世代としては普通でしようかとおつしやるんですけれども、人の好意は 直に受けるべきでしようか、どうでしょうか。

江崎 私、施設におりますものとして皆さんにぜひお聞きしたいと思ふのは、皆さん方がこういうことをしたいといつて手をさしのべた場合に、施設側に快く受け入れられてゐるか、あるいはどういう受け入れ方をされてゐるかということです。

村上 私たちのグループは最初は何となく集まつておしやりだけしてゐたんですけれども、それでもはゆきづまつてしまつたので、何か社会とのつながりをもつていこうのでいろいろ現代つ子とかテーマをあげて話をしたんですけれども、それでもまだものたりなくて結局実践面の活動をしなくてはならないことに気がついたので、けれども、それから実践にかかると半年以上かかりました。というのは、やりだしてすぐやめるようでは何にもならないとか、また会員の中で目を外に叩けるよりも集まつて話し合うことを先にやらなければならぬという人もあつたり、社会に働きかける

こと、そのものに抵抗を感じるらしい人もあつたりしたからです。それで、やつと最近になつて乳児院に私ともう一人のひとと二人でいつたんです。実際に行つてみると問題は切実だつたんです。たとえばおむつを洗う洗濯機は水がぼたぼたもつて下で洗面器で受けてゐる。そしておむつもあまりにもひどいものなんです。お話を聞きましたら、よそからいただいた毛糸の古いもので、それを使ふまで使つた上で、使えなくなつたら十センチ角か二十センチ角ぐらい切つて、それをつなぎ合わせてまた毛布のように作りかえて使つてゐるというのです。現実には想像以上にきびしかつたんです。それでどんなことでもいからせむお手伝いさせて下さいといつたんです。私たち、新聞社のほうのグループだものから新聞社で取り上げてくださつて、私たちが奉仕にいくんだというのを伝えて下さいましたら、とても反響がありました。遠くでいていない人たちは、子供が大きくなつて使えなくなつたものをもつていつて下さいといつてきたんです。これは一つの方法さえ考えればおむつに力がいふん使えらんじやないか、私たちが心の中で思つてゐる形にならなければだめなんだ、それから今の時代はマスコミが大きく作用してゐるんだから、それをただ受け身の形で受けてゐるだけでなく、マスコミの中でも指導性を發揮してもらつて、そういうものと私たちの力をうまく結びあはせたいと思ひます。

加藤 江崎さんにおうかがいがしたいんですけれども、きのう外部のかたがせつかく好意をよせて下さいますのに、不必要だといつてお断りになつた理由を先に説明していただきたいんですけれども……

江崎 私ども公立でございますので、いろいろな制約があるもので、たとえば外部からいらつしやつて赤ちゃんをだくお母さんがいるのですけれども、乳児の場合箱入りがありますので、外部からの病源に対しては非常に弱いんです。ですからともかくいけばいいんだらうということではせむお手伝いしてゐる人などがぞろぞろいらつしやると、私たちはとても困るんです。私たちの例ですと、いつもおむつを会社に出して消毒するのを使つておきますのに、まあなんでもつていけばいいだらうということでは使ひ古して修繕しなくては使えないようなおむつをもつてこられる方もいるわけなんです。それからただもう子供をいじりにきたという感じの方、かわいそうだからという方、そういう方が割合多いんじゃないかと思ひます。

八島 私たちも先ごろの台風のときに経験したんですが、たとえば各地からいろいろな物資をもらいましたけれども、ボタンがきちれてゐるものやら、いろいろまあぼろ寸前のものが非常にあるんです。そういうものはせつかくですけれども使用することができないわけですね。ですからこれからはそういう施設にもつていく場合なんかもぜひ自分でもまだ着られるもの、そういうものをいただきたいと思います。その点はみんなが自覚しなければいけないと思ひます。

宮内 そのことと同じことで、新聞にのつておりましたけれども、私たちは廃品回収業者じゃないということが書いてありました。結局今江崎さんがおつしやいましたように受け入れる側が拒否するといふのは、私たちがそこへ働きかける場合に社会の責任として少しでもよくしていこうという気持が欠けてゐるからで、上から下を見おろす 慈善的な気持があるからだと思います。

田辺 災害の場合に私はうちにあるものを全部はしてもつていったんです。そして駅まで行きましてらどうしてもそれが個人宛でないものでしたら、どこへ送つていいかわからないので、駅でお願ひしますといつたら、私も聞いておりませんということなんです。こつちでせつかくしらえましたものをどこへもつていいかわからないんです。そういうことが末端まで徹底しないわけです。すぐに送らなければと思つても送れるようなちやんとした経路ができていないんですね。

篠崎 私ふだんから考えているんですけれども、これは一つ何かそういうものを扱う機関をつくつておいて、ふだんから、うちではいらないけれどもまだ役に立つというものを、その機関に届けておいて、どこかで災害が起つた場合すぐさーつといくような仕組みがあつたらいいと思います。そうすれば何か災害でもあつたら善意がすぐそこに届くと思います。

阿久津 これは拒否した経験です。私も昭和二十八年に引揚者として帰つてまいりして、すぐ私設託児所を作つたんです。そして全国的に保育園を作ろうというところで保育ユニットというクラブを作つたのですが、くれるほうの立場になると、あわれんでくれるような感じを受けるんですね。それが私たちとしてはいいやでしたので、さかんに論じることがあるんです。例をもつて行くにしても、そういう同情してあげるとか犠牲になつてあげるとか、奉仕してあげるとかのような気持は、ぜひ施設にいくときにはとつてもらいたいと思うのです。

加藤 それからこういうことがあるんです。たとえば九州のほうに災害が起きたときなんかは割合早く物資にしろ見舞金にしろ集まるんです。ところが自分の土地のことは却つてゆき届かない。い

ざ自分たちが台風で、水をかぶつたという場合にあつたためばかりでというふうな事柄がたぐさんあるから、地域のこととは地城で片づける。そのためのたくわえというものが必要ですね。

宮内 先ほどの問題ですけれども、善意銀行というのがたいい各地にあると思いますけれども、あれはどうなんですか。

谷本 私たちもときどき利用しておりますけれども、事故がないときにはつい忘れがちですから、こういうことは一人一人ではなくて、やはり組織をもつた婦人会のようなものが常に気をつけていて、災害にそなえる用意をしておくべきだと思います。

岡山 いまいろいろ災害のときのことが出ましたけれども、私も自分でやつてみて気がついたんですが、速くのことを心配するよりもやはり足元をしつかりみつめて、各人がそうやつていしずえを作つたら、私は千葉の篠崎さんのおつしやつたようなものが必ずできるんじゃないかと思うのです。

宮内 本心にそれは同感です。私はこの社会的良心について最初考えたときに、結局はみんなが幸わねになること、自分たちが住んでいる地域社会が幸わねになるように努力すること自体が社会的良心であり、また私たちのしなければならぬことであると考へたわけです。ですから私たちのまわりから一人でも不幸な人がいなくなるように何にかこう困つたこと、矛盾があつたらそれを見逃さないで幸わねになるように努力していく、こういう風をみんながおもちになつたらそういう小さな一つ一つのブロッコがより集まつて、結局社会全体が幸わねになるんじゃないかと思ひます。

岡口 私たちは大きなことは何にもできないんですけれども、部落でだれか火事にあつたりすると、みんなであつた一枚もつてい

ていつたり米をもつていつてあげたり、そしてうちを建てるときも旦那さんたちが協力して木がないときは村の木を寄付してもらつたりして村の人たち全体で作つてあげるようにしております。

渡辺(リーダー) いろいろなことが出ましたけれども、次に考えようと思つていました「良き社会人として生きるために」というようなこととあれてまいりましたけれども、「次の世代を育成するため」ということについて、これは非常に婦人としては大切なことですから、もう少し詳しく話し合つてみましょう。さつき愛知の八島さんから「無関心の関心」という言葉が出ましたけれども非常にそれはいい言葉だと思ひます。子供に對する場合には無関心の関心ということ、八島さんがお出しになつた身体障害者の方、それから知恵のおくれた人などにあれていくときに、本當に気づかれないようにしてなんでもしてあげるといふことですね。その無関心の関心をやつていこうというその根底にあるものはなんですか。

村上 それは人間尊重ということ、結局はヒューマニズムということになるんじゃないでしょうか、だから区別をつけない。同じ人間なんだというヒューマニズムの立場につながっていくんじゃないでしょうか。

岡山 やはり人間尊重と同じかもしれないんですけれども、私は深い人間愛じゃないかと思ひます。私もあなたも同じ人間だという気持が底にあると、非常に行動がやさしくなるんじゃないかと思ひます。

渡辺(リーダー) そういうような気持をどうやつて子供に伝えていきましようか。子供がそういうふうな気持をもつようにするには、どういふふうにしたら育てられるでしょうか。

岡口 私はいつも子供に、顔でも手でもいろいろ障害を受けた方でも、みんな生まれてくるときはちやんとした形で生まれたと思つても、その本人の意志でなくて、こういうふうになるんだから、もしおまえがそうなたときのことを考へて、いたわつてあげなさいと私はいつております。そのいたわり方も、大きくなつて一人立ちしていけるようにする、気の毒だから車に乗せてあげるといふことでなくて、足が悪かつたら普通の人と同じように歩けるように少しでも訓練してあげるようないたわり方をしてあげなさい、というようにです。

岡山 これは実例でございますけれども、うちの子供の上級生に小児マヒで足の鉄の棒をはめたお子さんがいます。お母さんが入学のときからずつとついてきて、お掃除のとき、子供にしほつたお雑巾を渡すと、子供はそれで机の上をふくんです。子供の体が不自由だからといって、お母さんが全部やつてあげるといふことはやはり無関心だと思ひます。私はこのお母さんのやり方が、今のお話の無関心の関心に通じるのじやないか、足が悪いといふことを子供に意識させないで仕事をさせているといふことは尊い行いじやないかと思ひます。

渡辺(リーダー) いい実例ですね。そうするとお母さん自身がそういうふうな相手の人の人格を尊んでいく、そういう考え方にしつかり立つていなければ次の世代を育てるといふことはとてもできない、というのが皆さんの結論ですね。それは本當にそのとおりだと思ひます。学校の問題、たとえば子供の入学試験のような場合でも、お母さん方はそういう態度がとれるでしょうか。

岡口 生徒が修学旅行にいくときお小遣いの額をきめたんです。それは父兄が集まつてきめたんですけれども、おまえだけこつそり

もつていけというなど、実際に守つたのは二、三名の子供だけだったんです。子供たちはしつかりしているんですけれども、お母さんたちのためにぶちこわされてしまうことは悲しいことなんです。

内田 私のところでも修学旅行に行くのに、貧富の差が激しいものでございますから親の負担にならないようにといつて服装をトレパンをはいていくようにつて決めたんです。そうしたらそのときは賛成しておいて、あとでそんな服装をさせて行かせたくないという話が出まして、そのために三べんも回へんもよつて話し合いをしたんです。結局そのときは、いちばんはじめに決めた服装で行つたんですけれども……。

田辺 私のほうでは旅行に行けない子供さんのために、PTAの会費の中から予算が組んであります。けれども、いまでは市の予算で出しているようです。お小遣いももちろん規制しまして、それ以上またせるお母さんは、今は私どもの地域では全然いません。給木 修学旅行に行くのにPTAの会費などから出してもらうと、やつぱりその子の気持ちに負担がかかるから、人に知られないように行かせようというので、子供預金があるんです。学校の先生が一括して納めているのですが、その利子をそれに当てる仕組みになつています。制服も全部同じ上つぱりをきめて、下は古いブラウスでも何でもいという事で、子供たちは大喜びで同じ服装で修学旅行に行くようになりました。

村上 結局観念的にはわかつていても、いざ自分の子供のことになるとわからないということ、私は高等学校の先生をしているときに感じたのです。子供たちは一つの団体の生活をしていて、そこに一つの社会というものがあります。しかし母親は、そういう

子供に対して自分のうちの子ということに接していくんです。子供たちは子供たちの社会の中でつばに団体生活をしているんだという自覚が母親にないということを感じまして、私が受けもつていた高校の二年生の中に、小児マヒで口が自由にきけない子がいたんです。私は国語でしたから、あえて読ませました。聞くのもつらいんです。本人も一生懸命になつて読んでいます。クラスの子もその子が読むあいだは一生懸命聞くんなんです。その子供が一年前に遠足にいつて山をのぼりきつたときは、クラス全体がかん声をあげて、その子をだきかかえるようにして喜びあつたんです。一人の足の悪い子供がここまでのはつたということで、実に感動的な場面なんです。そういうふうな子供の世界にも秩序があるのに、母親といふのはえてして家庭というカラをもつたまま子供たちの世界にはいつく。むしろ母親に自覚がほしいなということ

を私は体験から感じました。

阿久津 そのお子さんが修学旅行に行けない場合に、その団体生活の中で、その子供はどういうふうにかえるでしようか。

村上 子供というのは案外お互いいたわりあつて、行けない子供は、小学校の場合はわからないんですけれども、いたわりあつていふところなんです。高校生の場合はたつたら、うちはこうなんだといふふうに自分でわかつていふところなんです。それを母親が案外ていさいをつくらつたりして、子供に劣等感をうえつけるのはむしろ母親の側じやないかと思ひます。

阿久津 自分の体験から考えても今のお話は、私の長男が中学にいつていたころはまだ経済的に恵まれていなかつたんですけれども、やつぱり親の立場で学校だけはいいところへやつたほうがいいという事で、ちよつと離れたところの学校にやつたんです。でも

身なりまで整えてやるのができなかったのです。そのことに對して、私も、子供も全然劣等感をもつてなかつたんですが、あるとき先生に、もう少しきれいにしてよとして下さいと注意されたんです。実際は経済的に買つてやれなかつたのですが、そうはいえなくて、お風呂は毎日たくさんですけれども、はいらないんですよ、とうそをいつちやつたんです。そういう生活を経て現在になつておりますけれども、子供は全然卑屈にもなつていないんです。うちの子は背が高くないので、薬局しておりますから背が高くなる薬を注射してあげようといふと、しなくてもいいというんです。生きることに對して真実に生きるという私自身の影響が案外子供にあつたようです、それとクラスの人たちもよかつたんだと思ひます。

村上 母親のせまい心が障害だと思ひますね。PTAにいらつしやつても、うちの子がつてい、これがガンだろつと思ひます。宮内 結局母親の一人よがりから子供のほうに正しくつて、親のほうに間違つていふことがよくありますね。特殊学級なども、本当はそういう学級に入るほうがいいけれども、親があんな学級に入れたらかわいそうだと勝手に決めてしまふ、子供のことをよく考えてみればそういう結果にはならないと思ひますけれども……。

加藤 今、皆さんのおつしやつたことは、子供と母親との接触のあいだの問題じやないかと思ひます。広島市の村上さんのおつしやつたように、高校生や中学生にはそれだけの年齢にふさわしい知性とか教養とか批判力、また、その世代に共通した自信もあると思ひますが、そういうものを全然もたない幼児とか小学生はまつたく、左手で母親がごはんを食べればその子も左手でごはんを食

べるといふように母親の影響を受けると思ひますけれども、そういう場合には、どういふふうな接触してはぐくんていつたらいいでしようか。

岡口 うちの子供が六つ、とき、庭をはく習慣をつけたんです。そのとき、いつも自分が庭ばかりはいていつてつまらないと一回いつたんです。そのとき、お母さんもそれじやお母さんの仕事やめるかといつたら、考えこんで、ぼくが庭をはかなければ、お母さんもごはんたかなかつたら、ぼくもおなかがすいてくる、そうすると父さんも働かないし、魚もとらなくなるし……。そういうふうにかへることで、小さい子供も社会的にいくらかしこまれていくんじゃないでしようか。

田辺 私のほうでは線路のところにごみを捨ててはいけないというたて札がたつていふのに、それがいつのまにかなくなつて、また、ごみが捨ててあるんです。それで、たて札をたてても効果がないからお花を植えてみましようといふことで、花を子供と一緒に掘つて、子供にバケツをもたせて一緒に植えたんです。そのとき、ごみ捨て場になつてきたないからお花を植えてやりましようねといつたんです。中学にはいる子供もいつてきて側にある池の水を飲んできてかてくれました。そういうふうな親がすればやつぱり子供も自然に習うんじゃないかと思ひます。そういうふうにしなしたら、うちの子だけじやなくて近所の遊んでいた子供がみんな手伝つてくれました。

薄田(リーダー) 皆さんの中からお母さんとして、自分自身に對する反省をしなければならぬという問題がずいぶん強く出ていましたけれども、それじやそういう母親のわが子だけというせまい氣持からどうやつて抜け出して、もつと広い氣持で社会とつな

がつていけるようにもつていけるでしょうか。

谷本 それはやはりいろいろな婦人会でお話し合いをして、いろいろな方が経験された知識を自分にもつけさせてもらつて勉強していったらいいと思います。それには主人や家族の理解を求めるようにすることも大事だし、それから、これは婦人自身の教養を高めるためですから、家庭を整え、経済面も豊かにするように努力しつつ、そういう会に出られるようにすることが大切だと思います。

岡口 私は自分の子供をよくするには友だちがよくなければなりませんので、友だちがうちへ遊びに来たときや、またその親ごさんたちもいろいろ話し合つて、注意しあつていったらいいんじゃないかと思つております。

岡山 私は雑布作りのことに関連しまして、自分のうちでもお母さんが雑布を作つていて、すると子供が隣のうちにいつて、おとなりでも作つていて、またその隣にいつて、そこでもお母さんが作つていて、ということ、子供たちは、お母さんたちが雑布を作つていてのは、みんな自分たちの傘を買うためなんだ、だからお母さんに作つてもらつた傘を大事にしなければならぬ、とこゝろで申しました。そこにお母さん自身の行動が子供の心の中に反映して、大事にしなければならぬ、という言葉になつてきたんだと思ひまして、これは尊いことだと思ひました。

渡辺（リーダー） 実際に自分で自分のせまい心をなくそうという戦いは本当に大変な戦いですね。それで、やつぱり最後のところは自分の生き方の問題になつていくと思ひます。どういふふうによつて生きていくか、どういふ生活の目的をもつていくかということを考えながら自分自身と戦つていく。また、い

大切な血をあげたら損だというふうな気持ちの人もあるでしょうから、市のほうからも少し強制的にPRしてほしいと思ひますね。

渡辺（リーダー） 何かそういうことを働きかけて、向こうから取りに向いてくれるようになさつたところはありますせんか。みんなの希望や意見を伝えて、近所へずうつとまるる予定を作つてもらつて、しまつちゆうきてもらえたいですね。

田辺 健康診断には月に二回ぐらいきますから、そういうときにもつていつてもらえたいですね。

渡辺（リーダー） やつぱりそれは、あなたの方のほうから働きかけなければだめですね。健康な血を納めるということとはとてもありがたいことですからね。それから、さつきの角膜炎の話も、目のみえない方の半分ぐらいの方は角膜を移植すれば目があく可能性があるということですから、とてもいいことですし、それも一つの方法ですね。

加藤 今の、血液のこと、たまたま私のうちは病院ですから、二百人近く入院患者がいると一か月のうち二、三回突発的な手術があることがあるわけですね。そういう場合に血液銀行から間に合わない場合に、私たちグループの人はみんな登録して、いつでも役立てるようになっているのです。近所の農家の奥さん方が、私たちみたいに金もないし、地位もないし、教養もないしというふうな人はせめて血ぐらひしか社会に役に立てられないからといって、皆さんをそのことに對しては大切な問題だということがわかつていて協力してくださつています。私の場合は二か月にいっぺん献血しているわけです。

渡辺（リーダー） 先ほど個人的に非常にいい家庭人であつたら、いい社会的な活動ができる人になれるのじゃないかという問題が

いろいろな会にも出て、自分で話し合いの中から学んでいく。本當にこれは苦しい戦いですが、どうしても私たちがしていかなければならぬことです。そして今お話し合いの中に出ていたけれども、お母さん自身がそうやつて一生懸命に生きているという態度が自然に子供に感じとられていくんじゃないかと思ひます。だからお母さんが二枚舌使つたら本當に子供はお母さんを出尊敬しなくなるし、どんな損な立場におかれても本當のことを出していく努力、子供の前にはつきりといえるお母さんであつたら、子供もお母さんの気持を吸んでいつてくれるんじゃないかと思ひます。そういう戦いをしよつちゆうしていくことがやつぱり、次の世代を育てていくいろいろな具体的なことの本當になることじゃないかと思ひます。皆さんの話し合いの中から何かそんなことが考えられたのです。そういうふうな戦いの中から、私たちは自分の身近なところから何とかして明るい社会にしていこうというお声がかさつき出ていましたけれども、それではそういうことを実現するために何をしたらいいか、また、何ができるでしょうか。

岡口 まず、いちばん先に簡単にできると思ひますことは、時間を正確に守つて人に迷惑をかけないようにすること、それから目の悪い方に角膜をあげる、ああいうことは自分たちでお金もかからないし、死ぬときにやることです。それから、そういうことなんかないことじゃないでしょうか。

田辺 それに似たようなことで、血液銀行というものがありませんが、田舎にはなかなかそういうものに参加する機会がありません。わざわざ山口市の日赤病院まで行くのですが、一人で行くより地域の皆さんに呼びかけて、と思ひますけれども、汽車賃を使つて、

でましたけれども、その「よき」というのは一体どういう内容をもつていけるのでしょうか。

谷本 私、其の民主主義というのはどういふものかということばかり廻り下けて考えたことはございせんけれども、人に迷惑をかけないこと、そして人に喜ばれることをする、本當に家庭でもそういうふうないつたならば、これが自然に社会になつていくんじゃないかというふうな私自身は考へております。

渡辺（リーダー） それでは角度を変えて、先ほど社会生活やなんか、何かお役に立ちたいということをもみんなが考えた場合に、社会施設にとつては迷惑のような援助のしかたもあるというふうなことが出ましたね。それから、みんなが何か地域の活動をなさつたときに、自分たちが善意でやつたことがからかわれたり、あるいは全然違つた結果を生み出したという経験をなさつたことがあるんじゃないかと思ひますけれども、そうすると、そこで私たちが社会的な活動をしていくために必要なのはなんでしょう。村上 私たちが何かするときに、いつもお互いに戒めあつていて、とは、あわれみでなくて、あくまでも社会正義ということですね。大きな正義感から出たもの、これを私たちは強調して、また絶対に必要なことだと思つております。

渡辺（リーダー） その社会正義感から出たことであつても実際に活動した場合に、何か自分の思つていたことと違ふようなことが生まれてくる場合がありますね。

加藤 それは善意でも客観性がなければそういう結果を生むと思ひます。

田辺 少数の人でもそれが正しいと思つて下さる方があれば、その方たちの力をもとにして婦人のねばり強さを発揮しなければいけ

ないんじゃないかと思ひます。あの人たちがあいつているからやめておこうというような信念のなさではないかと思ひます。

私は、地域に運動場がなかったのを、草の生えている湿地帯で役に立たない土地を子供の運動場にしてほしいということを一年ぐらいかつて土地の所有者にお願いしましたけれども、これはおやじの代からの土地だからということではなかなかスムーズにいきませんでした。けれども、何年も何年も時間をかけてお願いしましたら動いてくれて、今では立派なものができて、すみからすみまで金網もはつて下さいました。やつぱり婦人のねばり強さというところを長所としても続けなければならないと思ひます。

渡辺(リーダー) そのねばり強さを何に向かつて出したらいいかということ、みんなが社会的な問題を社会的な活動をするときに、やはり何をしたらいいかということを考えるでしょう。その目標をはつきり、つかみとるためには何が必要ですか。

岡口 すぐ目前のことばかりみないで遠い将来をよくみきわめる目をもつだけの婦人の教養も必要だと思ひます。

渡辺(リーダー) 将来をみるということの、もつと前提になること、つまり、将来を見通すためには現在何が必要ですか。

八島 自分の力を第一に判断して、自分のできる立場でものをやるということですね。

渡辺(リーダー) そうすると、その対象にあな自身ができる力はないですか。

八島 それは結局あらゆる面で、経済的にも時間的にも家庭の主婦としてできる限界というものがあつたと思ひます。それをよく判断していろいろな面に援助の手を向けるという冷静さがほしいと思ひます。

必要だと思ひます。それで聞いた内容と自分たちが思つていいることがそこで共通の場といひますか、マツチしなければ働きかけられないわけで、自分たちが勝手に社会的良心だと思つてやつてももちかけられた先が迷惑するようではなんにもならないんですから、私はまず相手の話を聞くことが第一だと思ひます。

阿久津 私は自分たちのまわりでいけば必要だと思ひることにくむことが必要だと思ひます。

渡辺(リーダー) そうすると自分の地域で何が問題なのかということをも本心に知るといふことですね。ご意見が出たように、自分は社会的良心を生かしてやつたことなのに見当はずれなことになつてしまふというようないことが起こるのを防ぐことができるわけですね。本心に問題がどこにあるのかということを取組んでいくこと、それが前提の条件として必要ですね。それから、社会的活動をするときの心の態度として、客観的な条件として自分がとりくんでいこうとする、それは一体どこに問題があるのでしょうか。

篠崎 私はうかがつておりますと、みんな本心にいいことですね。でも、たとえば乳児院に奉仕する、おむつがきたないからきれいなものをさしあげるといふようなことは、もちろん異論をさしはさむ余地はないんですけども、ただ小さいグループが小さいところをやつていふ。もつとほかは何かあるんじゃないかと思ひます。どうにもならないようなおむつをしていふ子供がいる、同じ子供でありながらそういうような施設の予算が足りなくて困つていふところの問題があると思ひますけれど、それは少し大きな問題になりますから、今はやめるとしても小さい力で同情的にそれに尽くしてあげていふのはしょうがないんじゃないかと思ひます。

渡辺(リーダー) 自分の側の問題ですね。それでは、その問題を私たちが問題にしていくなかに、どういふ態度でやつたらいいですか。

田辺 社会を明るくつていふことを、常に考えて心の底にもつていけば、何か自分しなければならぬということになつていふんじゃないかと思ひます。

川島 もちろん個人個人がそういう気持をもつて、それをみんなで話し合つたり、みんなの話を聞いたりして、グループ活動なり団体行動に移していくべきだと思ひます。それにはずいぶん勇気がいりますが、そういうことが社会的良心につながるんじゃないかと思ひます。

渡辺(リーダー) 勇気を出す前に何か必要じゃないでしょうか。

宮内 広島の村上さんが、あわれみでなく正義感であるといひましたけれども、私はその上にもう一つ、「社会の責任である」といふ前提が必要だと思ひます。対象者に対して常に社会の責任として、義務的な気持で働きかけるということが第一じゃないでしょうか。

渡辺(リーダー) その働きかけるときに自己の側のほかに何かが必要じゃないですか。

谷本 私は何か社会的な活動をする場合に、その行動がプラスになるかどうかということをまず考えるべきだと思ひます。

渡辺(リーダー) そうすると、プラスするかしらないかということ

を考えると、何を知つていなければならぬせんか。

谷本 一つの社会的活動をする場合には、まずその周囲の方々の了解をうることが非常に大事だと思ひます。

加藤 その場合、自分たちの考えを話すよりも、第一に聞くことが

江崎 それもおろかいいしたかつたんです。ですからどうして施設が恵まれないのか、そのもとをたずねていけば結局お金がない。どうしてこういう施設にお金が出せないのか、その根本を婦人たちのグループの力で動かせば、とても大きな力になると思ひます。しかし、やつぱり、きたないところを実際に見なければそういうことがわからないんですから、ぜひ見にきていただきたいと思ひます。

村上 私たちみんなやりましようという心の準備はあるんですけども、そういう大きい社会の中でみつめ方というものを私たちがはともすると忘れがちになつたので、そこがいちばん大事なですね。私たちが実際にやつていふようなささやかな善意では、ことがはこんでいかなければ、それが初步の段階で、次には大きな目でいかなければならぬと思ひます。結局みんなの思つていふことは同じところへいつたんじゃないでしょうか。

岡口 もう少し婦人たちが法律を勉強して、そういう面から議員たちの尻を太いたたいやになければいけないといつてつくづく思ひました。

木村 だからと言つて、これが政治や予算の問題で一朝一夕に解決できるものではありませんから、やつぱり私たちの善意が社会的良心になつて、少しでもプラスになることがあれば、本心にねばり強くやらなければいけないと思ひます。

渡辺(リーダー) そうすると、自分たちがやらなければならぬと思ひ社会的問題と取り組んでいくためには、広い意味での勉強が必要なのですね。それから一つのことを実践したら必ずみんなが話し合つて反省をし合つて、また新たな問題と取り組んでいく、勉強の足りなかつたところはまた勉強していくといふふう

していかねければならないと思います。では、日本生活協同組合の武井さん、何か私たちがよりよき社会を築いていくためにどんなことをしたらいいかということの参考になることがございまして、一音おしやつていただけませんか。

武井(特オプ) 私たちの団体で今取り組んでいる問題は、私たちの消費生活を豊かにするために、全国的に家計簿集計活動ということをやっています。これは一つの窓口ですけれども、それが非常に婦人考えさせる、自分の生活を自分の知識で見つめていくという態度が家計だけでなく、いろいろな面に発展していく、活動が多角的にできていくわけです。家計簿をつけるということは自分自身の参考になることですし、また、一年間毎日書き続けるということがどんなに困難かということがわかって、それを克服していく力が出てきたわけです。

皆さんの話し合いの中で、教育面で非常に感じたのは、子供を教育することは非常に大切だということをお聞きが、おしやつていますが、どういうふうな子供を教育することが教育であるかという点で少し弱かったような気がしたので、私は教育というのは社会教育も学校教育も含めて人からものを教えられることでは絶対にはずれているんです。自分たちが自分で学びとつていくといいますが、本当にそうだと思うなければ教育の成果はあがらない、そのためには話し合いの場を作ったりして、自分自身が学びとるのが教育である、これは死ぬまで続くものであると思います。子供のしつけの場合は、私は、子供がしたいこと、どうしても子供にさせなければならぬことと二つあると思います。そのしたいことは放つておいてもだれでもしますけれども、したくなくともしなくてはならない仕事をちゃんとできる人間に育て

わけです。こういうかたたちのために特殊学校とか肢体不自由児の施設とかいうようなものが皆の力でもっとたくさんできるようになってほしいと思います。

それから選挙のことが午前中に出了ましたが、それについて一言申し上げます。私の所属している婦人会ができました時、「特定の党や人を支持しない」ということとつた規約をつくりました。ところが、八年前に私がPTAの副会長をしてた時に、その会長が都会議員に立たれまして、本当に情に於いては涙びないんですけれども、副会長の私がその応援をしますと学校全体がそのかたを推すというようにとられても仕方がない。その学校はそのかた一人の世話になつていっているのじやないの、一人のお世話をすればほかの方にも頼まれるということとで困ると思ひまして、私は冷血動物だと言われるくらい一度も陣中見舞もせず、ノー・タッチでまいました。婦人会長になりましたもそれをずっと続けて、会員が個人としてなすることは一向に差しつかえないけれども、私自身は婦人会の代表者となつておりますから私の名前は一切使わないようにしていただいております。

渡辺(リーダー) 先ほど千葉の篠崎さんから地域で社会的良心を生かした活動をして、それだけではないのではないかというふうな気がするというお話が来ましたけれども、その地域活動からそれを広げて、結びつけていかなければならないものがあるわけですね。それで私たちが福祉国家というものを一体どうやって作つていったらいいかという問題まで広げて考えていきたいと思ひますけれども、篠崎さんどういふふうにお考えですか。

篠崎 選挙の問題ですけれども、本當に出したい人とか、本當に自分はいい政治をやるからといって立つ人は見当たらないような気

ていくということが子供の教育の根本であると思います。それができ上がつていいたら社会人として非常にはつきりした意識ももつようになると思います。それから今までの話し合いの中で、教育は理論や方法や理屈でなくて、そのお母さんの人生観があり、いわゆる胸で感じる教育、幼児教育も学校教育もそういうものが必要だと思います。それから子供が入学試験に落ちたとか何かに失敗したという時に、落胆している子供の心を抱擁してあげられるようなお母さんなつていただきたいと思ひます。

つぎに社会保障の問題ですが私は、社会保障というものも、衰れぬの気持ちで施すのでなくて、自分たちの責任においてやらなければならぬ一つの大切な側面であるという考え方に立つて、具体的活動をじっくり続けていければ、世の中全体がよくなつていくのではないかと考えております。

近藤 昨日、北海道で公立学校にはいれないから私立の学校を受けさせようと思つたら費用がかかるので学校にやれない、それで非常に子供が悲しんだというふうなことを伺いましたが、きよりの話し合いの中に育英資金のことが出てまいりましたので安心いたしました。けれども、何も学校に行くこと自体が子供の成長の方法というわけではないのですから、子供さんと話し合つて、何か現実な職業におつけになることもできたんじゃないか、と感じました。

それから身体障害者のことでもいろいろお話しがありましたけれども、この問題はやはり村上さんが母親に自覚がないとおしやいましたように、私もお母さんがそういう肢体不自由児とか精神児というものを認めたがる傾向があるのじやないかと思うのです。そうすると、その子供はいつまでたつても社会に出てこれない

さえてきます。ですから、その福祉という言葉を選挙のたびに公約されても、やつぱり貧しい人がいてどうにもならない。これは私たちが少しづつよくしていかなければならないということもわかつていますけれども、選挙というものは、私たちが勉強しようと思つても、選挙管理委員会の方でさえ、選挙は棄権せず投票してくれとだけしか教えてくれないのです。

渡辺(リーダー) どうやって勉強に取り組んでいったらいいでしょうか。

谷本 私は年をとつて養老院に行くようになると思ひながらつたんですけれども、こんな時代になつて、現在その必要を感じつつあるわけです。それで嫁と姑の問題も婦人会などで取り上げますが、もう親もいないし、主人も死んで、私はどこへ行こうかという相談をときどき受けるのです。そうすると養老院も本當に必要なと思ひわけです。ところが本當に最近私たちの地域にも養老院ができたんですが、これは、喜んでいいことかどうかわからないのです。いの一番にだれが入るかなどと首ついているのです。皆やがて、われわれみたいな年をとつていくんですが、養老院というものを、社会的良心をもつ皆さん方と考えていきたいと思ひます。即合にも養老院の必要が生まれつつあるんです。本當にお恥ずかしいんですけれども……。

渡辺(リーダー) これは、「お恥ずかしいこと」なのでしょいか。船木 今の社会制度からすれば、田舎でも養老院は私は必要だと思ひます。子供の世話になるということ自体が今の時代には無理だということとをこの間も話し合つたんです。本當にこの物価の高い世の中で親と子が一緒にいて、それを養うだけの収入が子供に得られるかということとは問題になつてきつつあります。親が子供を

育てるのは、まいだたねです。仕方がない、義務として当たり前です。戦前は子供が親を見るのは義務でしたけれども、今の考え方は違ってきています。やつぱり親自身の自覚も必要で、養老院は田舎にでもどしどし建てていってほしいと思います。

篠崎 その養老院に一番縁が深いのですから申し上げるんですが、養老院というものの概念が当然改められなければならないと思います。経済的に困つてたれ死にするような人をしようがないから拾つていくようなものではなく、お金を持つていてもいなくても、よりどころとして、そういう施設は必要だと思っています。自分の子供の生活を見ておきますと、長男は子供を二人もつておられますから、その上、親を二人養つてくれといつてもできない相談です。年金制度が曲りなりにも出発しましたから、何とか将来は親子そろつてなごやかに話し合えるような施設風景が見られるようになるというのが理想だと思います。必ずしも年寄りだけを別にするという形ではなくてできるのじやないかと思つております。そういうものでしたら、養老院は賛成でございます。

宮内 今の養老院は雄辯的な考え方をもっているんじゃないでしょうか。

木村 いくつかテレビで見ましたが、田舎の単純な人たちが見ると、養老院とはあんなものだと思ひ込んでしまうようなものでした。そういう觀念を取り除くためには、もう少し養老院自体が福祉的な恵まれたものになることです。そして、私たちもつと話し合つたり、養老院を見学したりして、養老院とは世捨人の行くところだというような考え方を改めていかなければならないと思ひます。

篠崎 若い方たちがそういう考えをもつていらつしやることは、私

子供と別居しているんですけれども、田舎の人は、長男がかいしようなしで養老院に行かなければならないというのは恥ずかしいというふうに思つてゐるのです。

渡辺(リーダー) それは田舎だけでなく都会でも同じなんです。だから、やはり今のような過渡期には、私たちはそういう自分自身の意識と戦わなければならないわけですね。だから、皆で小説やドラマなどの例をとりながら、この方が幸福なんじやないかというように話し合ひを続けていく必要があると思ひます。

宮内 あまり今の養老院の状況が貧弱すぎる、だから、恥ずかしいというような考えが出るんです。

渡辺(リーダー) どうして本当にいい養老院が國家の力で立たないのか、ということも勉強していただきたいと思ひます。

それから選挙を何とかしていいものにしていかなければならないということが出まして、まず選挙のことを勉強しなければいけないとおつしやいましたけれども、どういふ問題と取り組んでいつたらいいか、そういうことをお考えになつた方がありませんか。

岡口 公約したことを必ず実行してくれる人であるかどうか、いつでも議会の発言などをよく気をつけている必要があると思ひます。

船木 私は候補者の公約といつても、実行しやすい公約としにくい公約とあるから、それを見分ける力を養うために話し合うことに婦人が重点をおいたらどうかと思ひます。

渡辺(リーダー) 実現ができるような公約をしているか、実現できないような公約を、票をかせぐための目的で掲げているかどうか、ということを見分けられるようにする勉強ですね。そこで、どういふふうにして勉強したらいいんでしょう。さつき千葉の篠崎さんが、選挙管理委員会の人え頼んでもただ投票に来てくれ、

たち老人には大変力強いことだと思ひます。養老院ということではなくて老人クラブのようなものが私たちの理想です。そこをこまめて押し込められているという形ではちよつと賛成できないんです。若い方もひとつよろしく願ひします。

八島 養老院はもちろん大事ですけども、これからだんだん生活も複雑になつてきてそんなに大きな家というのはいくらもありません。その場合両親一老人が非常に窮屈に暮らしますから、老人アパートというふうな、一時でもいいからそこでのんびりできるような施設を是非作つてほしいと思ひます。

渡辺(リーダー) そういうものを作つてゐる地域がございますよ。それは婦人の手で実現することができると思ひます。さつきの谷本さんの考え方は家族制度的な考えで、長男が財産相続してめんどろ見るのが当たりまえという考えで長い間きましたから、なかなか急に考えを改めるのはむずかしいですけれども、やつぱり子供がどう考えるかということですね。子供は親とは別の人格をもつた一人の人間で、このことを、兵庫の船木さんがおもしろい言葉で表現なさいましたけれども、この人間を一人の社会人として育てていく、それは親としての喜ばしい責任だと思ひます。育てることとどれくらい親が成長させられるか、というふうな考えで社会に送り出したなら、今度は親は親としての生活をしていくということですね。そうすると、養老院に行つても、どこに行つても同じですよ。そういう考え方に立つていくようにしなければいけないと思ひます。

谷本 先生のおつしやるような考えは一部の人はあるかもしれないけれども、まだまだぬけきれません。これをどういふふうにしたらいいか皆さん方に教えていただきたいのです。私たちはもう

棄権するなと言つただけとおつしやいましたが……。

岡山 私たちは衆議院や市会などを見学したりして、常に政治と切り離しては生活を考えていることができないのだということを、いつもグループで話し合つてゐるのです。ですから選挙の場合でも、政治がどういふふうな私たちの身近にあるんだということを、だれともなく言い出すわけです。それで、結局、私たちが出したい人をもつと出せるようなところまでつていかなければいけないんじゃないかと話し合つてゐるのです。

渡辺(リーダー) 出したい人を出せない原因はどこにあるのですか。

岡口 あまりお金がかかりすぎるからではないでしょうか。

渡辺(リーダー) そうするとお金がかからないようにするためにどういふふうにしていつたらいいか。

岡口 皆が目を見張って、お金がかかる人を選挙しないで、人物を見て選挙して下さればいいんですけれども、田舎なんかでは費用をたくさんかけた人を選挙する傾向があるんです。ですからお金をかけて当選する、当選するとまたお金をかける、というふうにして、ますますお金がかかってくるのじやないでしょうか。

渡辺(リーダー) そうするとお金をたくさん使えば当選するといふようなことは一体どういふところから生まれてくるのですか。

宮内 やつぱり選挙民の意識の不足からだと思ひます。公明選挙運動というのは選挙期間中によくやりますが、それを期間中だけでなく日常のPRとかいろいろな方法によつて、選挙民の意識に深く食い込んでいくように、日常生活に密着に結びつくように教育する機会が与えられることが必要だと思ひます。

加藤 私この間NHKに行つた時に、岐阜県政の実況放送をしてい

たんです。そして、県会議員が議事を進めているところを写し出して、一人一人ずつカメラがまわつてきましたら、私の投票した人が寝ていたんです。その人はカメラが自分のところにまわってきたことに気がついてあわてて上を向くんですね。県会が開かれている時に一月に一度くらい、議会の様子をマスコミで必ず取上げて、選挙民に接触させる、そういう努力がマス・コミの中にはいいと思います。

渡辺（リーダー）　そうすると、選挙民の意識の問題は皆で考えなければならぬけれども、選挙制度そのもののどこに一体欠陥があるかということを知るために、客観的に選挙制度そのものとも取り組んで勉強していかなければならないと思うのです。選挙制度のどこに欠陥があるということがわかつたら、それを改めることもできるわけです。また、福祉国家を作っていく前提としても選挙が考えられるわけで、皆さんが仕合わせになれるような政治をしてくれる人を出すためには、どうしても選挙に私たちがどどん力を出していかなければならないと思います。そして社会保険がイギリスのように、一掃りかごから落場までというふうに国家の力でできた場合でも、なお何か足りないものが出てくるんじゃないかと思うのです。そういう足りないものを補っていくのは、やはり婦人の力を集めたグループとか婦人会などの自発的な活動であると思います。その自発的活動は、本当に社会のために自分はこれを当然のこととして行なうのだという考え方に立つてなされるもので、福祉国家を実現していくにも努力していかなければならないのではないかと思います。今年の課題はむずかしい課題でしたけれども、私たちが社会的良心とは何であるか、社会的良心を生かすために一体自分は何をしていったらいいのか

ということを真剣に考えることによつて、十分私たちは育つたのではないかと思います。やがて皆さんが各地域地域にお帰りのこと、その地域の方々と、また、いろいろ真剣に話し合われることと思ひますが、いつでも私たちが心がけていなければならぬことは、決して皆が自分と同じような考えにある人ではないということです。このことを含んでおかないと失望したり、押しつけたりすることになると思ひますので、話し合う場合には、自分はどういうふうになるかを考えなければならぬか、というふうにもつていくことが大切だと思います。そして、自分と同じ考えをもっている人が集まつたグループを発展させていくと同時に、考えの違う人も含んだグループに育てていかなければならないと思うのです。どうしてもかという、同じ考えの人ばかりが寄つて話し合いをしてもいつも同じ結果が出てきて、時には違った方向に走つていく場合もあり得るからです。けれども、もし違う意見の人がいて、一緒に話し合い、考え合つていったら、そのとき初めて本当の活動に発展していくのではないかと思います。そのことを含みながら各地域で活動していただきたいと思ひます。どうも御苦労までございました。

（閉会）